

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈全文〉 八丈方言調査報告書：
消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子, 松浦, 年男, 金田, 章宏, 平子, 達也, ペラール, トマ, ローレンス, ウエイン, 茂手木, 清, 林, 薫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002399



消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 八丈方言調査報告書



木部暢子 [編]

2013年10月

はじめに

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年10月にスタートしました。2010年度からは毎年1回、共同研究者や若手研究者が1カ所に集まって共同で調査を行う合同調査を実施しています。これまで、4回の合同調査を行いました。それは、次のとおりです。

第1回合同調査 鹿児島県喜界島方言調査（2010年9月）

第2回合同調査 沖縄県宮古方言調査（2011年9月）

第3回合同調査 東京都八丈方言調査（2012年9月）

第4回合同調査 鹿児島県与論方言・沖永良部方言調査（2012年12月）

本書は、このうち、第3回合同調査 東京都八丈方言調査の調査報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。暑いなか、また、お忙しいなか、公民館まで足を運んでくださり、親切に八丈のことばを教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。また、佐藤誠教育長をはじめとして、教育委員会のみなさんには、調査の準備から、調査の実施、調査の報告会「島ことば調査のつどい」に至るまで、大変お世話になりました。特に、教育委員の茂手木清氏、林薫氏には、地元の方々のご紹介や日程調整などで、お世話をおかけしました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、八丈のことば全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、八丈のことばの研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただけると幸いに存じます。また、国立国語研究所ホームページの「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」のページで、本書のPDF版を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2013年10月9日

国立国語研究所 木部 暢子

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 八丈方言調査報告書

目 次

はじめに

1. プロジェクトの概要	1
2. 調査の概要	3
3. 八丈方言の概要	
八丈方言の音韻（松浦年男）	9
八丈方言における新たな変化と揺れをめぐって（金田章宏）	31
八丈方言の語彙—1950年調査との比較—（木部暢子）	39
八丈語の古さと新しさ（平子 達也・トマ ペラール）	47
4. 八丈方言の特徴	
ママをたずねて三千里—八丈方言の系統的位置について— （ローレンス・ウエイン）	71
八丈町の「八丈方言」継承の取り組み（茂手木清）	77
八丈語と八丈島の歴史（林薫）	89
5. 八丈方言調査データ	
八丈方言基礎語彙データ（音声記号表記）	97
八丈方言基礎語彙データ（かな表記）	126
八丈方言文法項目データ（音声記号表記）	159
八丈方言文法項目データ（かな表記）	193
八丈方言基礎語彙 共通語索引	229
八丈方言文法項目 一覧	237
6. 「八丈・島ことば調査のつどい」講演記録	239
7. 八丈方言調査に関する新聞報道	253

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年にスタートした。プロジェクトの目的は以下のとおりである。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

(国立国語研究所ホームページより)

2 研究方法

消滅危機方言の調査は緊急を要する。そのため、フィールド調査に実績を持つ国内外の研究者を組織化し、調査研究を効率的に進める必要がある。また、質の高いデータを残すために、これまで、必ずしも統一的でなかった方言（言語）の調査方法や記述方法に統一性を持たせる必要がある。さらに、将来の方言（言語）研究を担う若手研究者の育成も必要である。以上を踏まえて、本プロジェクトでは次の2種類の調査をベースとして研究を進めている。

- (1) 共同研究者が各自のフィールドで行う各地点調査研究
- (2) 共同研究者が一同に会して行う合同調査研究

(1) はそれぞれの共同研究者がそれぞれのフィールドで行う調査研究で、共同研究者はその成果をプロジェクトの共同研究発表会で発表し、自分の調査研究を発展させるきっかけとしている（共同研究発表会では、若手研究者の研究を支援するために、共同研究者以外の若手研究者が発表を行うこともある）。

(2) は調査地点を定め、その地点の音声・アクセント・文法・基礎語彙・談話等を総合的に記述する調査である。この調査には、共同研究者だけでなくポスドク、学振特別研究員、大学院生といった若手研究者も参加し、参加者が共同で調査・データ整理・報告書の作成を行っている。

これまで、

鹿児島県喜界島方言調査（2010 年 9 月）、沖縄県宮古方言調査（2011 年 9 月）、
東京都八丈方言調査（2012 年 9 月）、鹿児島県与論方言・沖永良部方言調査（2012 年 12 月）
の 4 回の調査を行った。

3 共同研究者

本プロジェクトの構成員は、以下のとおりである（2013年10月1日現在）。

研究代表者：木部暢子（国立国語研究所）

共同研究員：五十嵐陽介（広島大学大学院）、井上文子（国立国語研究所）、ウエイン・ローレンス（オークランド大学）、上野善道（国立国語研究所客員教授）、大西拓一郎（国立国語研究所）、荻野千砂子（大分大学）、金田章宏（千葉大学）、狩俣繁久（琉球大学/国立国語研究所客員）、久保智之（九州大学）、窪菌晴夫（国立国語研究所）、熊谷康雄（国立国語研究所）、クリス・デイビス（琉球大学）、小林隆（東北大学大学院）、重野裕美（広島経済大学）、下地賀代子（沖縄国際大学）、下地理則（九州大学）、田窪行則（京都大学/国立国語研究所客員教授）、竹田晃子（国立国語研究所）、ダニエル・ロング（首都大学東京）、トマ・ペラル（フランス国立科学研究所）、中島由美（一橋大学）、仲原穰（琉球大学）、西岡敏（沖縄国際大学）、新田哲夫（金沢大学）、日高水穂（関西大学）、ブガエワ・アンナ（国立国語研究所）、又吉里美（岡山大学）、町博光（広島大学大学院）、松浦年男（北星学園大学）、松本泰丈（別府大学）、松森晶子（日本女子大学）、三井はるみ（国立国語研究所）（五十音順）

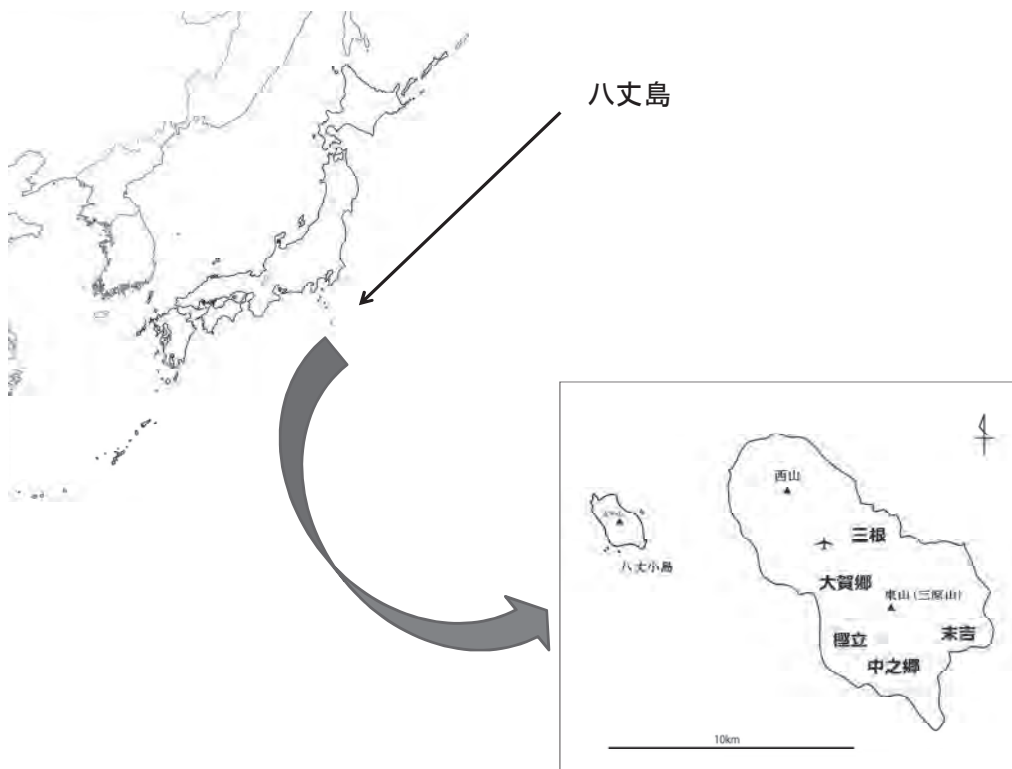
プロジェクト研究員：小川晋史（プロジェクト PD）、乙武 香里（プロジェクト PD）、三樹 陽介（プロジェクト非常勤研究員）

調査の概要

1 八丈島の概要

八丈島は、東京の南方海上287キロメートルに位置し、面積69.52平方キロメートルのひょうたん型をした島である。富士火山帯に属する火山島であり、南東部に三原山（標高700.9メートル）と北西部に八丈富士（標高854.3メートル）の2つの山がそびえている。

人口は 8,231人（平成22年現在）、主な産業は農業（花、観葉植物栽培、焼酎、くさや加工）、沿岸漁業、伝統的工芸品の黄八丈織、観光業などである。（八丈町ホームページ <http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gaiyo/gaiyou.html>（2010年10月1日）を参照した）。



2 調査の概要

2. 1 調査日程，調査地点，調査内容，調査担当者

調査は2013年9月6日～9月8日に行った。調査地点と調査内容，調査担当者は以下のとおりである。

日時	地区名	調査内容	調査担当者
9月6日(木) 午前	末吉	基礎語彙 a	上野, 大槻, 町, 仲原
		基礎語彙 b	ローレンス, 久保菫, 松浦, 川瀬,
		文法 (前半)	金田, 平子, ペラール, 山田
		文法 (後半)	狩俣, 下地, 徳永, 中澤
	中之郷	基礎語彙 a	上野, 大槻, 仲原, 町
		基礎語彙 b	川瀬, 久保菫, 松浦, ローレンス
		文法 (前半)	金田, 平子, ペラール, 山田
		文法 (後半)	狩俣, 徳永, 下地, 中澤
9月7日(金) 午前	三根	基礎語彙 a	川瀬, 平子, 松浦, ローレンス
		基礎語彙 b	中澤, ペラール, 町, 小川
		文法 (前半)	大槻, 金田, 狩俣, 徳永
		文法 (後半)	久保菫, 下地, 仲原, 山田, 金田, 大槻
	大賀郷	基礎語彙 a	川瀬, 平子, ローレンス, ペラール
		基礎語彙 b	中澤, 町, 松浦, 小川
		文法 (前半)	大槻, 金田, 狩俣, 徳永
		文法 (後半)	久保菫, 下地, 仲原, 山田, 金田, 大槻
9月8日(土) 午前	檜立	基礎語彙 a	大槻, 木部, 松浦, ローレンス
		基礎語彙 b	仲原, 中澤, 平子, 小川
		文法 (前半)	久保菫, 町, 川瀬, ペラール, 金田
		文法 (後半)	狩俣, 徳永, 金田

2. 2 調査者

共同研究員：上野善道（国立国語研究所客員教授），金田章宏（千葉大学），狩俣繁久（琉球大学），川瀬卓（弘前大学），下地賀代子（沖縄国際大学），Thomas Pellard（フランス国立科学研究所），仲原穰（琉球大学非常勤講師），町博光（広島大学大学院），松浦年男（北星学園大学），Wayne Lawrence（Auckland大学）

日本学術振興会PD，大学院生：大槻知世（東京大学大学院生），久保菫愛（九州大学大学院生），中澤光平（東京大学大学院生），平子達也（京都大学大学院生），山田真寛（京都大学・日本学術振興会PD）

スタッフ：木部暢子（代表，国立国語研究所），小川晋史（国立国語研究所プロジェクトPD），盛思超（同非常勤研究員），徳永晶子（同非常勤研究員）

2. 3 話者

話者は以下の方々である（敬称略）。

末吉	浅沼幸光, 浅沼道一, 沖山國子, 沖山慶孝, 沖山尚昭, 沖山東一, 沖山みと子, 菊池すま子, 玉置邦光
中之郷	大澤ちづ子, 大野鏡子, 金田哲哉, 川上清福, 菊池吉扶, 小坂武宏, 福田栄子, 山下芙美子
三根	大澤幸一, 大沢孝子, 沖山彰, 沖山操, 奥山エキ子, 金川津屋子, 川上絢子, 喜田孝, 佐々木逸郎, 持丸のり子, 吉森豊美
大賀郷	新井功明, 奥山明和, 奥山和則, 奥山日出和, 河野洋一, 菊池國仁, 菊池幸子, 菊池寛, 菊池百合子
檜立	伊勢崎富治, 磯崎巧, 佐々木豊茂, 笹本和邦, 笹本久美代, 菅原安世, 矢田美津, 山下保孝

謝辞

お忙しい中、調査に協力してくださった話者の方々に深く感謝申し上げます。また、教育委員会関係者の方々にも大変、お世話になりました。特に、教育長の佐藤 誠氏、教育課課長の福田高峰氏、教育課生涯学習係長の菊池 良治氏、教育委員の茂手木清氏、林薫氏には、準備段階からお世話になりました。深く感謝申し上げます。

3 60年前の八丈島の言語調査

国立国語研究所は、今から約60年前の1949（昭和24）年に八丈島の言語調査を実施している。国立国語研究所が創設されたのが1948（昭和23）年だから、八丈島の調査は、研究所が最初に行った地域言語の調査ということになる。当時、日本語の研究は日本語史の研究が主流で、現代日本語を対象とした研究はあまり行われていなかった。そのような中、国立国語研究所は、その時々生きた日本語の実態を科学的に解明することを目的の一つと掲げ、その実現のために、チームを組んで調査研究を行う共同研究体制をしいた。

では、なぜ、最初の調査地点として八丈島が選ばれたのだろうか。調査報告書『八丈方言の言語調査』（1950）には、次の4点があげられている。

- (i) 八丈島は、この調査のおもな目的——共通語を話す度合を決定する要因を調べること——を達するのに適した地点であると考えられる。つまり、八丈島は社会的条件が比較的単純であり、その上、島だけで独立の生活体をなしているのので、この種の調査をはじめておこなうのにはきわめて扱いやすい地点であると考えられる。
- (ii) 八丈島固有の言語は、共通語とかなり違った言語であるから、共通語を話す度合を見ることは比較的たやすいと考えられる。
- (iii) 八丈島固有の言語は、従来の報告によると、かなり特殊な構造をもち、その系統もまだ不明として残されている。
- (iv) 八丈島の言語については、幸に、江戸時代からの報告が比較的多いので、八丈島の言語を歴史的に研究することも不可能ではない。（『八丈方言の言語調査』3頁）

次に、この時の調査の概要を簡単に紹介しておこう。詳細については、国立国語研究所(1950)『八丈方言の言語調査』(http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170001 でPDFを公開している)を参照されたい。

調査の日程

- 1949年6月28日（火）17時，月島から八丈島へ船で向かう。
6月29日（水）13時，大賀郷村八重根港に上陸。支庁，警察署，大賀郷役場へ挨拶。
6月30日（木）5カ村の役場を訪問。調査の打合せ。
7月 1日（金）大賀郷の調査実施。
7月 2日（土）三根の調査実施。
7月 3日（日）檜立，中之郷の調査実施。
7月 4日（月）中之郷，末吉の調査実施。
7月 5日（火）大賀郷，三根の調査実施。
7月 6日（水）「円翁交語」「音韻取調書」「口語取調書」を借用し，筆写する。
7月 7日（木）～7月10日（日）3グループ（大賀郷三根グループ，中之郷檜立グループ，末吉グループ）に分かれて調査。
7月11日（月）支庁，警察署，大賀郷役場，南海タイムス，富士中学校，大賀郷小学校へ挨拶廻り。18時，八重根港から出港。
7月12日（火）6時，月島上陸。

調査項目

- 共通語を話す度合に影響を及ぼすと考えられる，個人の社会環境
- 同じく，個人の行き来の状況
- 他村の言語と共通語とに対する態度および意見
- ある場面において共通語を使うか非共通語を使うか
- 言語構造的特徴について，共通語で反応するか非共通語で反応するか，ならびに5カ村の言語はいかに違うか
- 外来者との初対面の際に話す共通語の，調査者による判定

言語調査

◇ハシ（橋）とハシ（箸）の区別，◇大根（灰，大工），◇来年，◇俵，◇かわら，◇あわもち，◇てぬぐい（すいか），◇草履（ざる），◇うぐいす，◇先生，◇ろうそく，◇かえる，◇数字の数え方，◇苗植え，◇ていねい（命令，衛生），◇こごえる，◇しかる，◇歩く（歩かない），◇仲間にしてくれ（仲間にする（入れる）），◇くも（虫），◇額，◇末っ子，◇西南風，◇そてつ，◇死んだ（人）（遊んだ（時）），◇急いで（来た），◇遠いか，◇（もし）行くな，◇（さあ）行こう（勧誘），◇（山の）上に（ある）（場所），◇（山の）上へ（行った）（方向），◇赤いけれど，◇下駄を（はく），◇ここへ（来い）

調査参加者

大間知篤（班長，国立国語研究所職員），柴田武（国立国語研究所職員），飯豊毅一（同），北村甫（同），石川咲子（同），島崎稔（同），山之内るり（同），青木千代吉（長野県派遣研究生），丸山文行（統計数理研究所職員）

八丈方言の概要

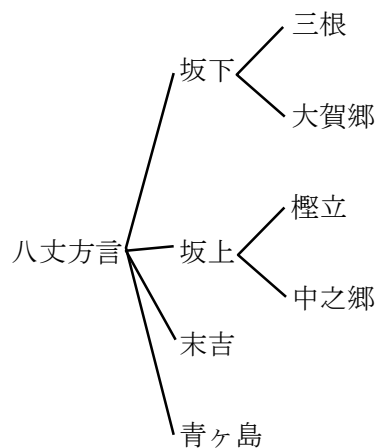
八丈方言の音韻

松浦 年男

1 はじめに

八丈方言は5つの集落（旧5ヶ村）それぞれに言語的特徴があり，特に，三根，大賀郷からなる坂下と，檜立，中之郷からなる坂上，そして末吉と青ヶ島が単独で異なるグループに属する（金田 2001）。

(1) 八丈方言の分類



本章では2012年9月に行った八丈方言の調査データに基づき，青ヶ島を除く各地域について，その音韻，音声的特徴を概観する。特に，標準日本語との対応関係を見て行く。

用例の表記は調査票に記載された簡易音声表記を用いるが，誤解が生じないであろう範囲において改変を加えた。また，古形とされたものについても掲載している。なお，基本的にある単語に現れた語形は全て記載したが，語種による違いや極めて小さな音声的違いと判断したものなど一部は省略した。詳しくは巻末の調査データ一覧を参照されたい。

八丈方言の音韻，音声については国立国語研究所(1950)，馬瀬(1961)，金田(2001)をはじめ多くの研究者により検討がなされている。これらの結果との異同についても考察を加える必要はあるが，それは別の機会に譲ることにして，本章では基本的に調査データにのみ基づいた考察を行う。

2 母音

この節ではまず短母音について概観し，母音連続や長母音に見られる方言間対応について検討する。

2.1 広母音

広母音は/a/の1種類で、平唇前舌広母音[a]である。標準日本語の/a/に対応している。

表1：母音/a/

項目番号	H-325	H-047	H-229	H-350	H-363
単語	油	踵	田	穴	綱
三根	abura	akke:~akkei	tabara	ana	tsuna
大賀郷	abura	kakato	tabara	ana	tsuna
檜立	abura	kakato	tabara	ana	tsuna
中之郷	abura	akki:	tabara	ana~doma	tsuna
末吉	abura	akke:	tabara	ana	tsuna~na:

2.2 半狭母音

半狭母音は/e/と/o/の2種類で、平唇前舌半狭母音[e]と円唇後舌半狭母音[o]である。標準日本語の/e/, /o/に対応している。

表2：母音/e/

項目番号	H-076	H-147	H-053	H-284	H-315
単語	枝	雄山羊	涙	着物	酒
三根	eda	jagime	menada	hebira	sake
大賀郷	eda	jagime	menada	hebera ~kimono	sake
檜立	eda	jagime	menada	hebera ~madara ~kimono	sake
中之郷	eda~jeda	jagime	mɛnada	hebera	sake
末吉	eda	jagime	menada	hebira	sake

表3：母音/o/

項目番号	H-135	H-029	H-294	H-357	H-502
単語	魚	腰	緒	井戸	一人
三根	jo	koçi	oba	ido	tori
大賀郷	jo	koçi	hanao	ido	tori
檜立	jo	koçi	hanao	ido	çitori~tori
中之郷	jɔ~ijo	koçi	o~hanao	ido	çitori
末吉	jo~sakana	koçi	hanawo~hanao	ido	çitori~çtori

2.3 狭母音

狭母音は/i/と/u/の2種類で、[i]は平唇前舌狭母音[i]である。一方、/u/は厳密には平唇中舌狭母

音であるが、[u]や[ɯ]を用いている。標準日本語の/i/, /u/に対応している。無声子音が前後する環境では無声化が起こりやすいという点についても標準日本語と同様である。表4、表5に例を示す。

表4：母音/i/

項目番号	H-034	H-055	H-143	H-414	H-232
単語	肘	息	ヒトデ	網	肉
三根	çi ^d zi~çizi	iki	çitode	ami	niku
大賀郷	çi ^d zi~çidzi	iki	çitode	ami	niku
檜立	çizi	iki	çtode	ami	niku
中之郷	çidzi	iki	çitode	ami	niku
末吉	çizi~çidzi	iki	çitode	ami~jo:ami	niku

表5：母音/u/

項目番号	H-283	H-297	H-015	H-038	H-052
単語	夢	裏	歯	指	ほくろ
三根	jume	ura	nukaba	jubi~ibi	kɯsube
大賀郷	jume	ura	nukaba~ha	jubi~ibi	hokuro
檜立	jume	ura	nukaba	jubi	kɯsube
中之郷	jume	ura	nukaba~ɸŭa	jubi~ibi	hokuro
末吉	jume	ura~oçiro	nukaba~ha	jubi	hokuro

2.4 長母音，二重母音

2.4.1 長母音

/u:/, /a:/, /i:/はいずれも短母音の持続時間が長くなったもので、標準日本語の/u:/, /a:/, /i:/にそれぞれ対応している。

表6：/u:/, /a:/, /i:/

項目番号	H-072	H-097	H-461	H-458	H-457
単語	灸	胡瓜	夫婦	祖母	祖父
三根	k'u:	k'u:ri	ɸu:ɸu	ba:tçan~bamba	dzi:tçan
大賀郷	ok'u:	k'u:ri	ɸu:ɸu	ba:tçan	dzi:tçan
檜立	k'u:	k'u:ri	ɸu:ɸu	oba:tçan	odzi:tçan
中之郷	k'u:	k'u:ri	ɸu:ɸu	ba:tçan~babba	dzi:tçan
末吉	ok'u:	k'u:ri	ɸu:ɸu	ba:tçan~bamba	dzi:tçan

中世日本語のオ段開音に対応する音は[o:]で現れるが、オ段合音に対応する音は坂下では[ei]や[e:]，坂上，末吉では[i:]で現れる。

表 7 : /o:/, /e:/

項目番号	H-311	H-316	H-256	H-257
単語	砂糖	麴	今日	昨日
三根	sato:	ko:dʒi	kei	kinei
大賀郷	sato:	ko:ʒi	ke:	kine:
檜立	sato:	ko:dʒi	ki:	kini:
中之郷	sato:	ko:dʒi	ki:~k'o:	kini:~kine: ~kin'o:
末吉	sato:	ko:dʒi~ko:ʒi	ki:	kini:

2. 4. 2 標準日本語の/ira/, /iwa/, /awa/に対応する音

標準日本語の/ira/や/iwa/という音連鎖には[ja]が対応している¹。表 8 に挙げたものの他にも、大賀郷において「白飯」を[ɕameci]としていた。ただし、これは比較的古い語彙においてみられる対応で、「菰」のように新しい語彙はどの集落でも[nira]となっている。

表 8 : 標準日本語の/ira/, /iwa/に対応する音

項目番号	H-005	H-168	H-175	H-356
単語	白髪	虱	鶏	庭
三根	ɕaga	ɕamme	n ¹ attorime	n ¹ a:
大賀郷	ɕaga~ɕiraga	ɕamme ~ɕamme	n ¹ attorime	n ¹ a:
檜立	ɕaga	ɕamme	n ¹ attorime	n ¹ a:
中之郷	ɕoaga	ɕamme	n ¹ attorime	n ¹ a:
末吉	ɕaga~ɕiraga	ɕamme	n ¹ attorime	n ¹ a:

標準日本語の/awa/には坂下では[o:]が対応するが、坂上や末吉では[a:]や[ɥa]が対応する。ただし、同じ/kawa/でも「川」では上記の対応を見せるものの、「皮」ではそれを見せない。

表 9 : 標準日本語の/awa/に対応する音

項目番号	H-361	H-425	H-195	H-051
単語	縄	俵	川	皮
三根	no:	to:ra	kawa~ko:	kawa
大賀郷	nawa	tawara~to:ra	kawa~ko:	kawa
檜立	nawa~nɥa	tɥara~tawara	kawa	kawa
中之郷	noa~n ¹ a:	tawara~dzukku	ka:~kawa~ka:ra	kawa
末吉	na:	ta:ra	ta:da	kawa

¹ ただし、「庭」は[n¹a:]という長母音になっている。「鶏」では[n¹a:tori]ではなく[n¹attori]と重音節になっていることから、[n¹a:ttori]という超重音節を避けたものと解釈できる。

2.4.3 標準日本語の/ae/, /ai/に対応する音

標準日本語の/ae/には坂下（三根，大賀郷）及び末吉では[e:]が，坂上（檜立，中之郷）では[ja:]が対応している。ただし，「前」は坂上において[m^ha:]とはならず[mae]である。

表 10：標準日本語/ae/に対応する音

項目番号	H-164	H-162	H-485	H-083	H-243
単語	蠅	蛙	名	苗	前
三根	he:me	kaerume ~k ^h a:rume	na~name:	ne:~nae	me:
大賀郷	he:me	kaerume	namae~name:	ne:	me:~mae
檜立	ça:me	kaerume ~k ^h a:rume ~k ^h a:rome	namae	n ^h a:~nae	mae
中之郷	ça:me	k ^h a:rume	nam ^h a:	n ^h ia	mae
末吉	he:me	kaerume	name:	ne:~nae	me:

次に，標準日本語の/ai/も坂下（三根，大賀郷）及び末吉では[e:]が，坂上では[ja:]が対応している。標準日本語の/wai/に対応する音として，[wja]という音連鎖が出てくる点は興味深い。

表 11：標準日本語/ai/に対応する音

項目番号	H-265	H-375	H-486	H-017	H-008
単語	来年	たらい	お祝い	口蓋（あご）	額
三根	rainen	tarai~tare:	juwe:	otoge: ~otogei	çite:
大賀郷	rainen~de:nen	tarai~tare:	juwe~oiwai	otoge:	çite:
檜立	r ^h a:nen ~dza:nen ~rainen	tar ^h a:	iwai	otog ^h a:~ago	çt̚a:~çit̚a:
中之郷	r ^h a:nen ~dza:nen	tar ^h a:	juwja: ~juwai ~oiwai	otog ^h ia~ago	çit̚ea
末吉	de:nen	tare:	juwe:~jue:	otoge:~ago	çite:

一方，「貝」や「櫓（船のカイ）」のように，上記の対応を見せず，どの集落も[kai]で実現したような単語もある。「貝」に関しては標準語をそのまま発話したと見るべきだろう。なぜなら，「貝殻」に対して[ke:go:]と[k^ha:go:]といった形式が，トコブシに対して[k^ha:gome]といった形式が対応し，また，貝の総称がないと答えた話者もいるからである。

表 12：標準日本語/kai/に対応する音

項目番号	H-131	H-413	(H-131)
単語	貝	カイ	貝殻類
三根	kai	kai	ke:go:
大賀郷	kai	kai	NR
檜立	kai	kai	ke:go: k'a:gome (トコ ブシ)
中之郷	kai	kai	k'a:go:
末吉	kai	kai	NR

上記の他にも、坂上、末吉では[e:]、坂下では[ja:]が対応する単語として「桑（の葉）」がある。この語は坂上、末吉では[kabe:]、坂下では[kab'a:]ないしは[kab'ia]であった。

2.4.4 標準日本語の/oe/, /oi/に対応する音

標準日本語の/oe/は中之郷では[i:]が対応している。また、/oi/は坂下では[oi]が対応していたが、坂上、末吉では[ui]ないしは[i:]が対応している。ただし、「甥」の場合、どの方言でも[oi]で実現した。また、「おととい」に関してはオトツイに由来している可能性がある。この場合、標準日本語で対応する音は/oi/ではなく/ui/ということになる。2.4.5 節でも指摘しているように、標準日本語の/ui/は坂上、末吉では[i:]も見られ、これと並行的である。

表 13：標準日本語の/oe/, /oi/に対応する音

項目番号	H-054	H-258	H-465
単語	声	おととい	甥
三根	koe~koi	ototoi	oi
大賀郷	koe	ototoi~utsutse:	oi~meijo:ɕi
檜立	koe	utɕitɕi:~ototsui	oikko
中之郷	ki:	utɕitɕi(:)~ototoi	oi~meijo:ɕi
末吉	koe	utɕitɕi:~ototoi	oi

2.4.5 標準日本語の/ui/, /uo/, /ue/, /io/に対応する音

標準日本語の/ui/は坂下では[ui]だが、坂上、末吉ではそれに加えて[i:]も見られた。標準日本語の/uo/は地域に関係なく[u:]で対応している。

表 14：標準日本語の/ui/, /uo/に対応する音

項目番号	H-306	H-424	H-299	H-139
単語	雑炊	篩（ふるい）	手ぬぐい	鯉
三根	zousui	φurui	tenege: ~tenugei	katsu:
大賀郷	dzo:sui	φurui	tenege: ~tenugui	katsu:
檜立	ɕo:ɕi:~ɕo:sei	NR	tenegi: ~tenugui	katsu:~katsuo
中之郷	dzo:ɕi:	φuri:~φurui	tenegi: ~tenugui	katsu:
末吉	dzo:ɕi:	φuri:~φurui	tenegi:	katsu:~katsuo

標準日本語の/io/に対応する音は、坂上、末吉では[jo]や[ijo]といった形で現れた。/ue/は、坂上、末吉では[ue]のほかに[we]も見られた。

表 15：標準日本語の/io/, /ue/に対応する音

項目番号	H-309	H-328	H-247
単語	塩	匂い	上
三根	ɕio	nioi	ue
大賀郷	ɕio	nioi	ue
檜立	ɕio~ɕo	nioi	ue~we:
中之郷	ɕio~ɕo	nijoi~nioi	ue~ weɕda~wenda
末吉	ɕo	nijoi~nioi	ue~uwe~ve

2.4.6 /ao/, /ei/

標準日本語の/ao/や/ei/にはそのまま[ao], [ei]が対応している。

表 16：標準日本語の/ao/, /ei/に対応する音

項目番号	H-403	H-465
単語	竿	姪
三根	sao	mei
大賀郷	sao	mei~meijo:ɕi
檜立	sao	meikko
中之郷	sao	meikko ~me:jo:ɕi
末吉	sawo~sao	mei

2.5 対格形に関わる交替

対格形は名詞の語末の音により様々な形式で現れた。以下では調査票に記録されていた対格形を地域ごとにまとめる。なお、名詞語末の母音を網羅的にするために、一部を文法調査のデータより補い、データに#を付す。

まず、三根では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /a/の場合は[o:], /o/の場合は[ou]または[o:], /u/の場合は[u:]になった。

表 17：三根における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-087	糲	momi	mom ^ɰ o
H-057	唾	tsuba	tsubo:
H-067	怪我	kega	kego:
H-076	枝	eda	edo:
H-080	草	kusa	kuso:
H-235	坂	saka	sako:
H-423	竈	kago	#kagou
			#kago:
H-356	荷	nimotsu	#nimotsu:

大賀郷では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /e/の場合は[e:]または[eo], /a/の場合は[o:]または[a:], /o/の場合は[o:], /u/の場合は[u:]で現れた。

表 18：大賀郷における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-233	道	mitçi	#mitço
H-520	これ	kore	koreo
H-521	それ	sore	sore:
H-522	あれ	ure	ure:
H-514	だれ	dare	dare:
H-067	怪我	kega	kego:
H-222	泡	awa	ao:
H-080	草	kusa	kusa:
H-515	どこ	doko	doko:
H-524	そこ	soko	soko:
H-311	砂糖	sato:	sato:
H-525	あそこ	uku	uku:
H-304	粥	okaju	oke:o ²

檜立では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo(:)], /a/の場合は[a:], /o/の場合は[o:], /u/の場合は[u:]で現れた。

表 19：檜立における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-331	ご飯	meçi	meço
H-365	荷	ni	n ^h o:
H-302	茶	tça	tça:
H-135	魚	jo	jo:
H-301	湯	ju	ju:

中之郷では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /e/の場合は[i:], /a/の場合は[e:], /o/の場合は[o-wo], [ou], [o:], /u/の場合は[u:]または[uo]で現れた。

² H-304「粥」の交替については*okaju+o>*okai+o>oke:o と推測される

表 20：中之郷における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-518	なに	ani	an ¹ o
H-393	筆	ϕude	ϕudi:
H-520	これ	kore	kori:
H-521	それ	sore	sori:
H-540	真似	mame	mami:
H-522	あれ	ura	ure:
			#kago-wo
H-423	籠	kago	#kagou
			#kago:
H-193	水	midzu	#midzu:
			#midzuo

末吉では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /e/の場合は[i:]または[ja], /a/の場合は[ajo:], /o/の場合は[o:], /u/の場合は[u:]で現れた。

表 21：末吉における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-394	神	kami	kam ¹ o
H-402	箒	ho:ki	ho:k ¹ o
H-518	なに	ani	an ¹ o
H-522	あれ	ure	uri: ³
H-283	夢	jume	jumi:
H-393	筆	ϕude	ϕudzi:
H-514	だれ	dare	dari:
H-516	どれ	dore	dori:
H-520	これ	kore	kori:
H-521	それ	sore	sori:
H-540	真似	mame	mami:
H-255	傍	soba	sobajo:
H-515	どこ	doko	doko:
H-541	うそ	oso	oso:
H-193	水	mizu	#mizu:

³ 別の話者で「あれ」の対格形として[ur¹a]も記録されていたが、これは ure+wa に由来する可能性がある。そう考えると末吉で標準日本語の/iwa/が[ja:]に対応することと整合性がとれる。

集落による違いを表 22 にまとめる。5 つの母音のうち、集落による差が小さいのは /i/, /o/, /u/ で、名詞語末が /i/ の場合は [jo], /o/ の場合は [o:], /u/ の場合は [u:] で現れた。一方、名詞語末母音が /e/, /a/ の場合は集落による差が大きい。名詞語末母音 /e/ の場合には文法調査も含めてデータが揃わなかったので詳細は分からない。

表 22：集落による対格形の違い

名詞語末母音	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/i/	jo	#jo	jo(:)	jo	jo
/e/	---	e:(eo)	---	i:	i:
/a/	o:	o:~a:	a:	e:	ajo:
/o/	#ou~o:	o:	o:	#o:~ou~o-wo	o:
/u/	#u:	u:	u:	#u:~uo	#u:

2.6 母音体系

以上の結果をまとめる。

(2) 母音体系

- a. 短母音 [i, e, a, o, u (ɯ)]
- b. 長母音 [i:, e:, a:, o:, u: (ɯ:)]

標準語の母音連続と八丈方言の音対応をまとめる。

表 23：集落による標準語との対応関係 (V:)

標準日本語	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/i:/	i:	i:	i:	i:	i:
/e:/	---	---	---	---	---
/a:/	a:	a:	a:	a:	a:
/o:/ (開音)	o:	o:	o:	o:	o:
/o:/ (合音)	ei	e:	i:	i:~e:~jo:	i:
/u:/	u:	u:	u:	u:	u:

表 24：集落による標準語との対応関係 (VCV)

標準日本語	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/ira/	ja	ja	ja	ja	ja
/iwa/	ja	ja	ja	ja	ja
/awa/	o:	o:	ɯa~awa	a:	a:

表 25：集落による標準語との対応関係（VV）

標準日本語	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/io/	io	io	io～jo	io～jo	jo
/ei/	ei	ei	ei	ei	ei
/ai/	e:	e:	ja	ja:	e:
/ae/	e:	e:	ja:	ja:	e:
/ao/	ao	ao	ao	ao	ao
/oi/	oi	oi	oi	oi	oi
/oe/	oe～oi	oe	oe	i:	oe
/ui/	ui	ui	i:	i:	i:
/ue/	ue	ue	ue～we:	ue～we	ue～uwe～ue
/uo/	u:	u:	u:	u:	u:

3 音節頭の子音

本節では音節頭の子音について、その分布をまとめる。

3.1 破裂音

破裂音は無声，有声合わせて 6 種類あった。両唇破裂音は[p, b]の 2 種類で，標準日本語の/p, b/にはほぼ対応している。[b]は分布上の制限が見られないのに対して，ほとんどの[p]は促音もしくは撥音の後ろにのみ現れる（そのため語頭に現れることはない）という制限が見られる点も共通している⁴。ただし，例外的なものとして，「囲炉裏端」[dʒiropuɽɕi]（末吉），H-417「鋤」[puraɔ]（中之郷）がある。

表 26：両唇破裂音

項目番号	H-075	H-326	H-038	H-057	H-140
単語	葉	天ぷら	指	唾	飛魚
三根	happa	tempura	jubi～ibi	tsubaki～tsuba	tobijo
大賀郷	happa	tempura	jubi～ibi	tsubaki～tsuba	tobijo～tobi
檜立	happa	tempura	jubi	tsubaki～tsuba	tobi
中之郷	happa	tempura	jubi～ibi	tsubaki～tsuba	tobijo
末吉	happa	tempura	jubi～ibi	tsubaki～tsuba	tobijo

歯茎破裂音は[t, d]の 2 種類で，それぞれ標準日本語の/t, d/に対応している。

⁴ もちろんこれは調査票が和語，漢語がほとんどであったことに由来するものであろう。

⁵ 調査項目 H-348「いろり」の関連語として出ている。

表 27：歯茎破裂音

項目番号	H-022	H-114	H-271	H-053	H-517
単語	肩	竹	朝	涙	なぜ
三根	kata~ke:na	take	tommetei	menada ~nameda	ande~adde
大賀郷	kata~ke:na	take	tommete ~asa	menada	ande
檜立	kata~ke:na	take	tommete	menada ~namida	ande:
中之郷	kata	take	tommete	menada	ande
末吉	kata~ke:na	take	tommete	menada ~namida	ande

軟口蓋破裂音は[k, g]の 2 種類あった。それぞれ標準日本語の/k, g/に対応している。

表 28：軟口蓋破裂音

項目番号	H-019	H-121	H-352	H-292	H-419
単語	毛	ミカン	クギ	下駄	鎌
三根	kebeço ~kebiço	mikan	kugi	geta~pukkuri	magama
大賀郷	ke~kebuço	mikan	kugi	geta~bokkuri	magama
檜立	ke~kebiçi	mikan	kugi	geta~açida	magama
中之郷	ki	mikan	kugi	geta~bokkuri	magama
末吉	ke	mikan	kugi	geta	magama

破擦音は[ts, dz]の 2 種類である。それぞれ標準日本語の/ts, z/に対応している。[ts, dz]は母音/i/の前では口蓋化した[tɕ, dʑ]で現れる。いわゆる四つ仮名の区別はなく、語中では摩擦音[z, ʑ]と自由変異の関係にある点も共通している⁶。

⁶ Maekawa (2010)が指摘するように、標準日本語の[z]と[dz]は完全な自由変異というよりも、むしろ子音の調音への時間配分の問題である。八丈方言についても同様の分析ができる可能性は高いが、本稿ではこれ以上の分析は行わず、指摘にとどめる。

表 29 : 破擦音

項目番号	H-003	H-370	H-206	H-209	H-228
単語	旋毛 (つむじ)	鉢	風	地震	溝
三根	tsumu ^d ɰi ～tsumuɰi	hatɕi	ka ^d ze～kaze	^d ɰiɕin	miɰo
大賀郷	tsumudɰi ～tsumuɰi	hatɕi	kadze～kaze	dɰiɕin	miɰo
檜立	tsūmuɰi	hatɕinamme	kaze	dɰiɕin	mizoma
中之郷	tsumudɰi ～tsumuɰi ～uzu	hatɕi	kadze～kaze	dɰiɕin	midɰo～ɕida ～miɰo
末吉	tsumudɰi	hatɕi	kaze	ɰiɕin～dɰiɕin	midzo

なお、標準日本語の和語、漢語には見られない[tse]や[tso]が一部の語彙で見られた。ただしこれらの分布は極めて限定的であり、地域も限られる。これらがどの程度規則的に見られるかは改めて検討する必要がある⁷。

表 30 : [tse], [tso]

項目番号	H-172	H-258
単語	とんぼ	一昨日
三根	hettɕome～hettɕome	ototoi
大賀郷	tombome	utsutse:
檜立	tombome	ototsui / utɕitɕi:
中之郷	hettɕome	utɕitɕi(:)～ototoi
末吉	tombome	utɕitɕi:～ototoi

また、一部の歯茎破裂音で、後ろに*i*, *u*が続く場合に破擦音にならず[dia]で現れることがあった。ただしこれは通方言的な特徴というわけではなく、中之郷の話者に限られた。しかし、中之郷に有声破擦音素がないなどといった音韻体系の問題ではない。実際、「肘」などは中之郷でも[ɕiɕi]が現れることから、おそらく形態音韻論的な過程での違いを反映しているのだろう。

⁷ 馬瀬(1961: 112)では各地点で[tso]や[tsa]が見られるとしていたが、今回の調査データでは地域的にも限定的であった。

表 31 : [dʲa]

項目番号	H-100	H-475
単語	大根	大工
三根	de:ko~dʒa:ko	de:ku
大賀郷	de:ko	de:ku~daiku
檜立	dʒa:ko	daiku
中之郷	dʲa·kon	dʲa:ku~de:ku
末吉	de:ko	de:ku~daiku

3.2 摩擦音

標準日本語のハ行に対応するものとして、[ɸ, ɕ, h]の3種類がある。標準日本語と同じく、以下の分布をしている。

(3) /h/の分布

/h/

→[ɕ]/_i

→[ɸ]/_u

→[h]/その他

表 32 : 摩擦音[ɸ, ɕ, h]

項目番号	H-004	H-018	H-025	H-327	H-334
単語	雲脂 (ふけ)	髭	腹	灰	昼食
三根	ɸuke	ɕige~hege	hara	he:	hirumeɕi ~ɕoura
大賀郷	ɸuke	ɕige~hege ~ho:ɕige	hara~ɕara	hai~he:	ɕo:ra
檜立	ɸke	ɕige	hara	hai~ɕa:	ɕiruge ~ɕirumeɕi
中之郷	ɸuke	ɕige	ɸarɔ̃a	ɕa:	ɕo:ra
末吉	ɸuke	ɕige	hara	he:	ɕo:ra

歯茎摩擦音として[s, z]の2種類があり、標準日本語の/s, z/に対応している。また、[z]は語中において破擦音[dz]と自由変異の関係にある。

表 33：摩擦音[s, z]

項目番号	H-056	H-080	H-468	H-034
単語	咳	草	家族	肘
三根	seki	kusa~kuso	kazoku ~çote:	çi ^d zi~çizi
大賀郷	seki	kusa	kazoku	çi ^d zi~çizi
檜立	seki	kusa	kadzoku	çizi
中之郷	çiki~seki	kusa	kazoku~kan ¹ a:	çidzi
末吉	seki	kusa	nakama ~kazoku	çizi~çidzi

3.3 共鳴音

鼻音は[m, n]の2種類があり，標準日本語の/m, n/に対応している。

表 34：鼻音[m, n]

項目番号	H-006	H-007	H-050	H-319	H-365
単語	目	眉	骨	糠	荷
三根	manako	mamige~mami	hone	nuka	ni~nimotsu
大賀郷	manako	majuge~mami ~mamige ~me:ge	hone	nuka	nimotsu
檜立	manako	majuge ~mamige	hone	nuka	ni
中之郷	manako	maju~majuge ~mamige	hone	nuka	ni:~ni
末吉	manako	maju~majuge ~mami	hone	nuka	ni

流音は[r]の1種類があり，標準日本語の/r/に対応している。従来，/r/は語頭には立たず，/d/になるとされてきた（馬瀬 1961: 114）。実際，表 11「来年」では語頭が[d]で実現している地域もあった。しかし，今回の調査データではこのような傾向はほとんど見られず，標準日本語の/r/は[r]で実現していた。

表 35：流音[r]

項目番号	H-297	H-514	H-507	H-087	H-424
単語	裏	だれ	六人	瓜	篩
三根	ura	dare～dai	rokunin	uri	φurui～mi
大賀郷	ura	dare～dai	rokunin	uri	φurui～mi
檜立	ura	dai	rokunin	uri	φurui～φuri:
中之郷	ura	dare	rokunin	uri	φurui～φuri:
末吉	ura	dare	rokunin	uri	φurui～φuri:

接近音は[j, w]の2種類があり、それぞれ標準日本語の/j, w/に対応している。ただし、[w]に関して一部の語彙で[e]が後続しうる点が標準日本語と異なる（表 11「お祝い」、表 15「上」参照）。

表 36：接近音[j, w]

項目番号	H-415	H-204	H-264	H-051	H-479
単語	槍	露	横	皮	私たち
三根	jari	tsuju	joko	kawa	waiça:～waira: ～waira
大賀郷	jari～tsukimbo:	tsuju	joko	kawa	warera～waira
檜立	jari	tsuju	joko	kawa	ware:ça:～waiça:
中之郷	jari～mori	tsuju	joko	kawa	wareñça: ～warentça:
末吉	jari～mori ～tsukimbo:	tsuju～jotsuju	joko	kawa	warentçe:～arentçe:

3.4 子音体系

音節頭に現れた子音を以下にまとめる（口蓋化したものは除く）。

表 37：子音体系

		両唇音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
阻害音	破裂音	p b	t d		k g	
	破擦音		ts dz			
	摩擦音	φ	s z	ç		h
共鳴音	鼻音	m	n			
	はじき音		r			
	接近音	w		j		

4 音節

調査の中で確認された音節の種類は、以下のとおりである。

- (1) C(S)V /se/ ([se] 背丈 H-49) , /ke/ ([ke] 毛 H-19) , /ha/ ([ha] 歯 H-15)
 /cja/ ([tɕa] 茶 H-302) , /cjo/ ([hettɕogo] へそ H-028)
- (2) C(S)VV /sei/ ([sei] 背丈 H-49) , /'oi/ ([oi] 甥 H-465) ,
 /sjoa/ ([ɕoãga] 白髪 H-005)
- (3) C(S)VQ /naQ/ ([nappa] 菜 H-99) , /baQ/ ([battame] バッタ H-173)
 /sjoQ/ ([ɕoppakia] しょっぱい H-310) , /heQ/ ([hessogo] へそ H-028)
- (4) C(S)VN /ten/ ([tempura] 天ぷら H-326) , /nin/ ([ninniku] にんにく H-320)
 /mjaN/ ([omianɕa:] あなたたち H-481) , /cjaN/ ([to:tean] 父 H-450)
- (5) C(S)VR /seR/ ([se:] 背丈 H-49) , /koR/ ([ko:ɕzi] 麴 H-111)
 /njaR/ ([nia:] 庭 H-356) , /mjaR/ ([omia:wa] お前は 文法 43) ,
- (6) C(S)VVR /kũaR/ ([kũa:] 皮 H-51) , /soaR/ ([josoɑ:suru] 相互扶助 H-490)

この他に次のような音節が予想されるが、今回の調査の中では該当単語が存在しなかった。調査語彙を増やせば、今後、これらの音節が確認される可能性がある。

- (7) C(S)VVQ 未確認
- (8) C(S)VVN 未確認
- (9) C(S)VRN 未確認

5 音節末の子音

音節末に子音が現れる例として、促音（重子音）と撥音を採り上げる。

5.1 促音

5.1.1 音韻分布

無声促音として[pp, tt, kk, tts]がある。

表 38：無声促音

項目番号	H-099	H-173	H-341	H-028	H-494
単語	菜	バッタ	台所	臍（へそ）	三つ
三根	nappa	battame	kokkuba	hettçogo	mittsu
大賀郷	nappa	battame	kokkuba ~okatte	heso	mittsu
檜立	nappa	battame	kokkuba ~otema ~daidokoro	hettçogo	mittsu
中之郷	nappa	battame	kokkuba	hettçogo	mittsu
末吉	nappa	battame	kokkuba ~kokuba	hessogo~heso	mittsu

地域によって有声促音が見られた。有声促音は[bb, dd]の 2 種類で、[gg]は末吉の[çiggeta]の 1 例のみであった。また、有声促音が他の地域や話者においては [mb]や[nd]に対応するなどの特徴が見られた。

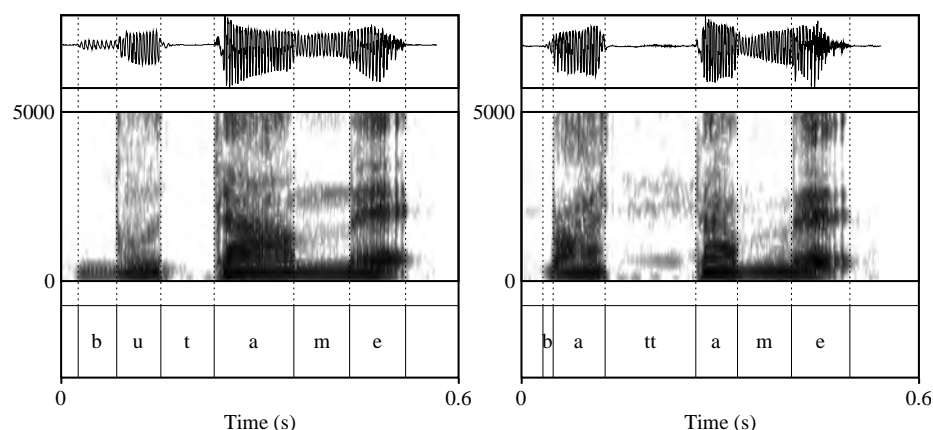
表 39：有声促音

項目番号	H-030	H-274	H-458	H-517	H-059
単語	尻	夜	祖母	なぜ	涎
三根	çimbeta	joru	ba:tçan ~bamba	ande~adde	jondare
大賀郷	çimbeta	joru~jombe	babba ~oba:san	ande~adde	jondare
檜立	çirippeta ~çibbeta	jobbe	oba:tçan	ande:	joddare ~jodare
中之郷	çibbeta	jobbe	(o)ba:tçan ~babba	ande	jodare ~joddare
末吉	çiggeta~çiri	joru~jobbe ~jombe	ba:tçan ~bamba ~umma	ande	jondare ~jodare

5.1.2 音声実現

日本語の促音の音響的特徴としては、持続時間を第一に挙げることができる。八丈方言においても同じで、促音（重子音）の狭窄部分の持続時間は非促音（単子音）の狭窄部分に比べ長く実現していた。たとえば、図1の/t/と/tt/の持続時間はそれぞれ80msec.と135msec.であった。

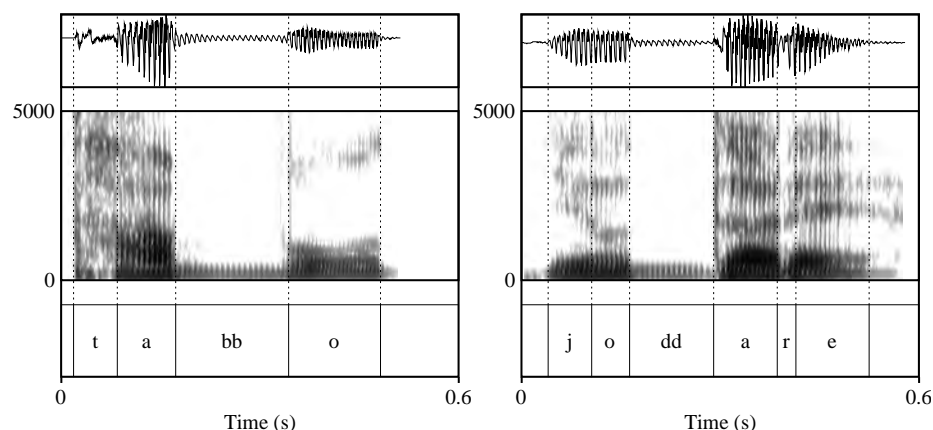
図1：/butame/（豚；左）と/battame/（バッタ；右）の音声波形とスペクトログラム



次に有声促音の音声実現について検討する。日本語東京方言では、有声促音は外来語に限られ、音声的にも半無声（half-devoicing）になる（Kawahara 2006）。一方、天草本渡方言では有声促音は完全有声で実現する（松浦 2012）。

八丈方言では集落間でも個人間でも差が見られた。まず、檜立では有声促音は完全有声で実現した。

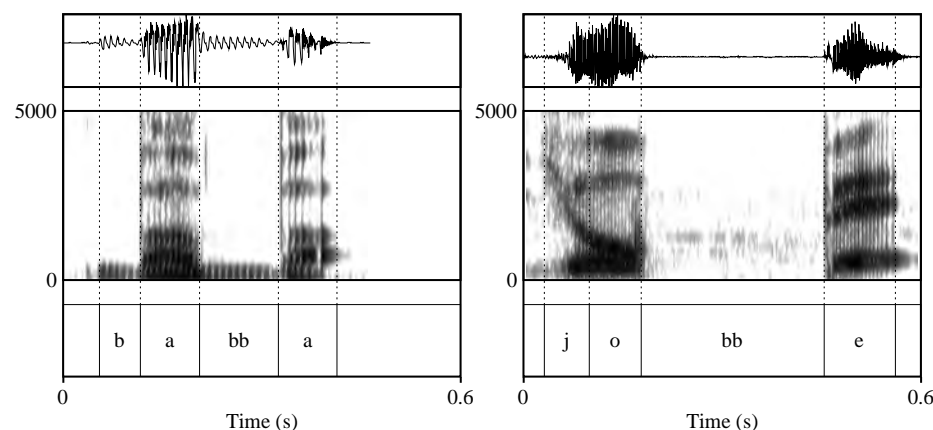
図2：檜立における/tabbo/（手；左）と/joddare/（よだれ；右）の音声波形とスペクトログラム



一方、中之郷では個人間で差が見られた。ある話者は檜立と同様、狭窄部分も完全有声で実現している（図3左）。ところが別の話者では、狭窄部分はほぼ無声となって実現している（図3

右)⁸。

図 3：中之郷における/babba/（祖母；左）と/jobbe/（夜；右）の音声波形とスペクトログラム



5.2 撥音

音節末の鼻音（撥音）として[m, n, ŋ]などが見られた。語末（発話末）では[n]や[ŋ]で現れた。

表 40：撥音の分布

項目番号	H-326	H-342	H-064	H-320	H-095
単語	天ぷら	天井	たんこぶ	にんにく	さつまいも
三根	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
大賀郷	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
檜立	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
					~satsuma
中之郷	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
					~kaŋço~dziki:
末吉	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	satsuma
					~kaŋço:

6 アクセント

馬瀬(1961)などで指摘されているように、八丈方言では弁別的なアクセントを確認することはできない。調査データを見る限り、単独でのピッチパターンは第1モーラが高、第2モーラ以降が低となるものが多く見られた。

参考文献

金田 章宏 (2001)『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院。

⁸ 無声となる話者は/bb/の閉鎖部分がかなり長いということも影響しているかもしれないが、九州方言での研究では長さや声帯振動に関係性が見られなかったことから慎重を期すべきである。

Kawahara, Shigeto (2006) “A faithfulness ranking projected from a perceptibility scale: The case of [+voice] in Japanese.” *Language*, 82, 536–574.

国立国語研究所 (1950) 『八丈島の言語調査』

Maekawa, Kikuo (2010) “Coarticulatory reinterpretation of allophonic variation: Corpus-based analysis of /z/ in spontaneous Japanese.” *Journal of Phonetics*, 38(3), 360-374.

馬瀬 良雄 (1961) 「八丈島方言の音韻分析」 『国語学』 43 (『日本列島方言叢書』 7に再録。引用もこれより行う) .

松浦 年男 (2012) 「有声阻害重子音の音声実現における地域差に関する予備的分析」 『日本音声学会第26回全国大会』

八丈方言における新たな変化と揺れをめぐって

金田 章宏

はじめに

2012年9月6日～9日の4日間にわたり、国立国語研究所「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」プロジェクト(プロジェクトリーダー；木部暢子)による八丈方言調査が東京都八丈町でおこなわれた。この調査は、2010年の奄美喜界島方言調査、2011年の宮古方言調査につづくもので、八丈方言調査につづいて2012年の12月はじめには奄美の与論島方言と沖永良部島方言の調査が実施された。

今回の八丈方言調査では基礎語彙調査と文法調査がおこなわれたが、本発表ではそのうちの文法調査¹の結果から、この方言における新たな変化やさまざまな揺れを中心にとりあげる。

なお、以下の説明のなかの方言表記は例文の一部もふくめて簡易音声表記とするが、例文自体の表記は調査票のままとする。(調査者の提出した調査票を第三者が入力したものをそのまま使用した。したがって、調査者の記入ミス、および入力者の入力ミスが存在する可能性はある。)例文の頭の数字は調査票の例文番号、末尾は地区名と調査者2～4名の頭文字である。また、地区名のあとに該当箇所の伝統方言形をイタリック体(斜体)でしめした。

本稿では、「標準語」を話しことばに対する規範的な書きことばと位置づけ、話しことばのなかでより規範的なものとして「共通語」を使用する。単に共通語といえば標準語に近似した日本共通語であり、そこまでの規範性はないにしても、たとえば沖縄県内でおおよそ理解可能な沖縄共通語(首里・那覇方言)があり、その下層には、さらに規範性は希薄になるが八重山地方の八重山共通語(石垣四箇字方言)がある、というような階層性もみられる。たとえば八重山の西表島祖納^{いりおもて そない}の話者は、とくにメディアの影響もあって沖縄共通語をおおよそ理解し、また八重山共通語の知識もある程度あるが、沖縄本島や石垣島の人びとのほとんどは、祖納の方言を理解できない。八丈方言にそこまでの階層性はみられないが、後述する坂下地区のほうがおそらく、坂上地区よりも互いに対する影響力は大きいだろう。

1. リ形強変化動詞過去形のタリ形化

上代中央語の動詞アスペクト形式のうち、リ形(ノメリ)とタリ形(ノミタリ、ミタリ)については、強変化動詞ではその両方が、弱変化動詞ではタリ形のみが使用されたが、中古になるとリ形は消滅し、すべてタリ形になって現代語の過去形シタに連続していく。

一方、この方言ではタリ形への一本化が中央語に千年ほども遅れて、まさにいま起ころうとしている。すなわち、この方言では強変化動詞過去形がリ形(「行った。」ikara < *ikaro-wa < *ikiaro-wa)、弱変化動詞がタリ形(「見た。」mitara < *mitaro-wa < *mitearo-wa)であられるのが基本であったが、そこへ新たに強変化動詞のタリ形 iqtara があられるようになったというものである。こうした現象がいまになって起こっていること自体、この方言の文法的な古さをしめ

¹文法班の話者の数は、三根地区6人、大賀郷地区4人、檜立地区4人、中之郷地区4人、末吉地区3人の計21人。

すものであるが、さらに、強変化動詞がこれまで基本的にリ形のみだったことに注目するなら、強変化動詞にリ形とタリ形が混在する上代中央語よりも古い姿を保っていた可能性さえ指摘できる。

この新たな変化については、金田 2012²などでもとりあげたが、そこで例としてあげたのは^{かしらて}檳立地区の 1950 年代生まれの女性 1 名のものと^{おおかごう}大賀郷小学校の方言劇の台本からのものだけだった。八丈島は人口の集中する^{さかした}坂下地区(^{みつね}三根, ^{さかうえ}大賀郷)と、三原山の中腹に分散する^{なかのこう}坂上地区(^{すえよし}中之郷, 末吉)に大きくわかれるが、今回の調査により、末吉以外の全地区でこの語形の使用が確認された。傾向としては、坂下の三根と大賀郷、坂上では大賀郷寄りの檳立で多く観察された。

32 kono uwagiwa konome: okinawade nisen ende {katto:za/ kattara:} (この上着はこのまえ沖縄で二千円で買った。) 三根 KO (*kao:zja/kawara*)

53 備考; 「なった」 nattouza (去年いところが中学の先生になった。) 三根 KO (*naro:zja*)

65 juwe:no tokinja bammamade odottara (お祝いのときにはばあさんまでおどった。) 三根 KO (*odorara*)

50 mo: kamo(:)monowa minna kande {fimattara / fimatta(jo:) / fimo:rara:} (もう食べられるものは全部食べた。) 大賀郷 YK (*sjimo:rara*。なお, *kamo:monowa* は「食べたものは」の意味。)

58 wagaeno dannawa(no:) takedeno: kagoó {tsukurara / tsukuttarodara(作っている) / tsukuttara / tsukuttarowa(作っている)} (夫は竹でかごをつくった。) 大賀郷 YK (*cukurara*)

69 ka:tʃan wa misege: kaimononi {ito:dʒa: / ittara: / ikara: / ittadʒa:} (かあさんは市場へ買物に行った。) 大賀郷 YK (*iko:zja/ikara/iko:zja*。 *ito:dʒa:* は *itto:dʒa:* か)

70 mitʃide (no:) gakkono sense:ni {attara: / awara: / ao:dʒa} (道で学校の先生に会った。) 大賀郷 YK (*awara*)

31 nimotsuga omokente ɸutaride {mottara / moto: dara} (荷物が重かったので、二人でもった。) 大賀郷 KT (*motara*)

82 sakkimade nonde aro:ga dokoge: ittefimatto: (あの人、さっきまでここで「飲んでいただけ」どこに行ったかな、といった意味で、「ノンドログ(あるいは、ノマツトログ、ノマラツトログ)」といいますか。) 大賀郷 KT (*iqte sjimo:ro:*)

53 kjonen itokoga ɬeu:gakuno sense:ni nattara (去年いところが中学の先生になった。) 檳立 KP (*narara*)

58 uteino ɕitowa takede kago:{ tsukurara/ tsukuttara} (夫は竹でかごをつくった。) 檳立 KP (*cukurara*)

69 okkatɕaŋwa miseni kaimononi {ikara/ ittara} (かあさんは市場へ買物に行った。) 檳立 KP (*ikara*)

70 miteide gakkono sense:ni {awara/ attara} (道で学校の先生に会った。) 檳立 KP (*awara*)

70 mitʃide gakkono sense:ni {butsukwatte / butsukwattara} (道で学校の先生に会った。) 檳立 KT (*bucuko:rara*)

32 kono hebirawa kono mja: okinawade nisenɛnde {kattara/ kattekitara} (この上着はこのまえ沖縄で二千円で買った。) 中之郷 YT (*kawara*)

² 「八丈方言における新たな変化と上代語」『言語研究』142 号 2012.9 pp.119-142

2. 動詞活用型動詞否定形の形容詞活用型化

共通語の動詞否定形は形容詞型の活用をするが、この方言では形容詞非過去形が上代東国方言の流れを受け継ぐ e 連体形(akake「赤い」、nake「ない」)をもとにした、「赤い。」akakja<*akake-wa, 「ない。」nakja~naqkja<*nake-wa であるのに対して、動詞の否定非過去形は、動詞とおなじ o 連体形をもとにした nomi(N)naka<*nomi-nako-wa のような活用をする。動詞の o 連体形も同様に上代東国方言の流れを受け継ぐものであるが、そこに共通語の影響を受けた形容詞型の新たな動詞否定形が発生している。

これには段階があり、~**naka** を形容詞的に拗音化して、jomiNnakja(読まない。)にするだけのものから、形容詞 nakja(ない。)よりも一般的な(おそらく新しい)促音のはいった語形 naqkja(ない。)にあわせて促音を挿入し nomiNnaqkja にしたり、動詞型の o 連体形ではなく、形容詞型の e 連体形で jomiNnakedara のようなノダ形をつくったり、jomanakja のように動詞語根の母音も共通語的な a にしたり、さらには語尾を共通語的に~nakaqta にするものまである。その一方で、否定ズがズになる以前の要素をふくむ可能性のある nomiNzjarara(大賀郷), jomiNzjarara(檜立)のように、とくに坂下で一般的な語形である jomiNnakarara よりもさらに古い語形も併用されている。

なお、nomi(N)naka の撥音 N はのちの挿入によるもので、坂上であらわれにくく、坂下であらわれやすい。

62 warewa kino: jimbun o {jominna(**k**)ja / jominnakedara / jominnakarara} jominnaka / jominnakodara (おれはきのうは新聞をよまなかった。) 大賀郷 YK (jomiNnaka/jomiNnakodara. jominna(**k**)ja は jominnak(**j**)a のあやまりか)

76 今でも使う。nomindzarara / nominnakkja (きのうはだれも「飲まなかったよ。」といった意味で、「ノミンジャララ」といいますか。) 大賀郷 YK (nomiNnaka, ただしこれは非過去形)

45 sakese: areba anjimo irinnakkja (酒さえあればなにもいらぬ。) 大賀郷 KO (iriNnaka)

45 sake{ga/gase:} areba anjimo {irinnaka(いらぬ)/irinnakkja(強い表現)}.(酒さえあればなにもいらぬ。) 大賀郷 NS (iriNnaka)

62 wara: kini:wa jimbuno {jominnakarara/ jominakatta} (おれはきのうは新聞をよまなかった。) 檜立 KT (jomiNnakarara)

62 warewa kino: eimbun {jominndzarara/ jominnakarara/ jomanakja} (おれはきのうは新聞をよまなかった。) 檜立 KP (jomiNnaka, ただしこれは非過去形)

49 {ara / wara} {satumanja:jowa / kammonja:jowa} {tabenakja / kaminakja}. (おれはさつまいもなんか食べないぞ。) 中之郷 SN (tabenaka/kaminaka)

77 kinnakatta /kinnakarare /minnakarara (「来なかった、見なかった」は、キンジャララ、ミンジャララですか。) 中之郷 KT (kiNnakarara. つぎの kinnakarare はコン強調形の結びのかたちであり、コン強調辞とともに使用される。)

3. 動詞の o 連体形関係

共通語などでは動詞の「連体形」と「終止形」が同音になっているが、この方言では「終止形」にふたつの意味がある。ひとつは「連体形」に終助辞がついて文末で使用される nomo-wa という

う「終止形」で、この終助辞はこの語形にとって義務的である。もうひとつは、「旧終止形」ともいべきもので、単独では使用されずに推量形 *nomu-nou-wa* などにのみあらわれる *nomu* である。もともとは連体非過去形 *nomo* と終止非過去形 *nomu* の対立があったと思われるが、現代方言では *nomu* は特定の語形の内部にのみ存在する。

以下の連体非過去形の例では連体形のみが～*u* になり、第2～第4例の終止形のほうは～*o-wa* のままだが、つぎの終止非過去形の例では終止形が～*u-wa*, ～*u-zja* であらわれ、さいごの「ノダ」形でも～*o-dara*, ～*o-do:zja* となるところが～*u-dara*, ～*u-do:zja* になっている。

・連体非過去形

50 *mo: kameru monowa ze:nbu kamara:* (もう食べられるものは全部食べた。) 三根 YK (*kamero*)

64 *ameno furu çiniwa ba:tʃanwa jede terebibakkari {mita:rowajo / mita:rowa:}* (雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。) 三根 YK (*huro*)

64 {*amega furu tokiwa / ameno çinja*} *ba:sanwa jede terebi bakkari mitarowa* (雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。) 大賀郷 KT (*huro*)

64 *ameno furuci wa ba:tʃanwa ede terebibakkari {mitarowajo / mitearowa}* (雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。) 中之郷 KT (*huro hiwa*)

50 *hara taberareru monoɔwa minna tabetara.* (もう食べられるものは全部食べた。) 中之郷 SN (*taberarero*)

・終止非過去形

34 *magowa manzu:jo ko:bedake kamuwa* (孫はまんじゅうを皮だけ食べる。) 大賀郷 KO (*kamowa*)

3 *o: ʃoge:wa waga ikuwa* (うん、畑へはおれがいく。) 大賀郷 KO (*ikowa*)

16 *wa:, itoko-no ʃuton-ga jane-no we-ni hositaru ʒa.* (いとこの布団がやねの上にはしてある。) 中之郷 KH (*hosjitearozja*)

18 *macciro dʷa tori-ga sorʷa tondjaru ʒa:* (真っ白な鳥が空を飛んでいる。) 中之郷 KH (*toNdearozja*)

23 *mago-ga kjonon-kara kuni-ni aru ʒa.* (孫が去年から東京にいる。) 中之郷 KH (*arozja*)

34 *mago wa man ʒu:jo ka:be dake kamuwa* (孫はまんじゅうを皮だけ食べる。) 末吉 KPYH (*kamowa*)

・「ノダ」形

47 *sono mizu:wa nomuna. nomuda:ba kono mizu: nome* (その水はのむな。のむならこの水をのめ。) 三根 KO (*nomoda:ba*)

68 *ifaga keto: kusuri o nomeba {naorudo:dʒa: / naoruno:wa}* (医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。) 大賀郷 YK (*naorodo:zja*)

27 *o:saka kara to:kjo:madeno kifatʃinwa {ikurado: / ikura surudo:}* (大阪から東京までの汽車賃はいくらだろうか。) 大賀郷 KT (*sodo:~sjodo:*)

44 *saki:wa komekara tsukuru doā ʒa.* (酒は米からつくる。) 中之郷 KH (*cukurodoazja*)

4. 疑問詞+ka

共通語では疑問詞の有無と述語形式のあいだに呼応的な関係はないが、この方言では疑問詞のある WH 疑問文では述語が「連体形」になり(anjo nomo? なにを飲む?), 疑問詞のない YN 疑問文ではそれが「連体形」+終助辞 ka (sakei nomoka? 酒を飲む?)になる。新たな傾向として、疑問詞の有無にかかわらず、述語が「連体形」+終助辞 ka であらわれる。伝統方言形ではすべて ka は不要である。

48 ande ome:wa {kamin'no:/ kaminno:'**ka**}. (なぜおまえはたべないのか。) 三根 NS

48 ande omaewa {tabenno:'**ka** / kaminno:'(**ka**)}? (なぜおまえはたべないのか。) 大賀郷 YK

48 adde {omiwa / omja:wa(目上の人)} {kaminno**aka**: / aganno:'**ka** / agan no**aka**:} agari? (なぜおまえはたべないのか。) 檜立 KT (筆者注: さいごの agari は意味不明)

48 ande omja:wa {kaminai / kamin**akoka**}. (なぜおまえはたべないのか。) 中之郷 KT

5. 疑問詞引用句

YN 疑問文の述語は「連体形」+終助辞 ka であり(sakei nomoka? 酒を飲む?), WH 疑問文の述語は「連体形」のみである(anjo nomo? なにを飲む?)。しかし、WH 疑問文を ka 引用句にいれるばあい、ka のまえは~o 連体形ではなく~u 終止形で、anjo cukuruka kaNge:te (なにを作るか考えて)のようになる。新たな傾向としてその混用がみられる。

43 sake:wa {dogan-jatte/ doganeite} **tsukuroka** ome:wa citta:'ru:. (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 三根 NS (*cukuruka*)

43 saki:wa adan'fite **tsukuroka** omiwa obi:taro: (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 檜立 KT (*cukuruka*)

6. 形容詞語彙の動詞代用

八丈方言で「知っている／知らない」は動詞ではなく、形容詞語彙の sjo(q)kja (知っている)／sjoku na(q)kja (知らない) が使用される。この語彙は古代語の形容詞シロシ(白し、著し)に由来し、方言形の連体形*sjiroke>sjoke に終助辞 wa が融合してできているが、ここに共通語の「知っている」がシッテアルのかたちで入り込んできたものである(この方言のイルは「居る」ではなく「座る」の意味で、人にもものにもアルを使用する)。ただし、3 例目以下では形容詞語彙も併用されている。なお、この調査ではこの語形は坂下地区にのみあらわれている。

41 ome:wa kono jono name:o citta:'roka:. (おまえはこの魚の名まえを知っているか。) 三根 NS (*sjokeka*)

43 sake:wa {dogan-jatte/ doganeite} **tsukuroka** ome:wa citta:'ru:. (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 三根 NS (*sjokeka*)

43 sakewa adanjatte tsukurudaro:no: , ome:wa {fitto:'**dzaro**ka / foko:'dzaro:ka} (酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう?) 三根 YK (*sjokuozjaroka*)

35 hakono nakaniwa mandzu:ga ikutsu aroka{fittaroka / jokeka} (箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。) 大賀郷 KT (*sjokeka*)

41 omaewa kono sakanano namaeo {jokeka / jittaroka} (おまえはこの魚の名まえを知っているか。) 大賀郷 KT (*sjokeka*)

43 sakewa dogan {jite / jatte} tsukuruka omaewa {jittaroka / jokeka} (酒はどうやってつくるか おまえは知っているだろう?) 大賀郷 KT (*sjokeka*)

7. 弱変化動詞過去形の強変化動詞化?

この現象は1でみたのとは逆に、弱変化動詞の過去形が～タラではなく、強変化的な～ララとなっているもので、これまで確認されていなかったものである。こうした変化はこの方言の大きな変化の流れに逆行しているようにみえる(再確認が必要か)。ただし、同一地区の同一話者にのみあらわれているので、孤立的な現象とみてよいかもしれない。あるいは、「調査」という状況のなかで生じた過剰な「方言回帰」という可能性もないとはいえないか。

なお、強変化動詞の～ララは東北方言のシタッタ形(＝タリタリ形)に対応するアリアリ形で、現在から切りはなされた(アオリスト的な)過去をあらわす。八丈方言ほどではないが、東北方言で存在動詞イルのタリ形＝過去形(イダ)がアクチュアルな現在テンスをあらわし、シタ形(＝タリ形)、シタッタ形というふたつの過去形をもつことも、タリ形がまだ過去テンス形式になりきっていないことのあらわれである。

58 wage:nowa tookede kago: kose:rara (夫は竹でかごをつくった。) 大賀郷 KT (*kose:tara*)

60 saburo:wa djiro:ni bo:de {bunnaguraretarā / bunnagurarerara} (三郎は次郎に棒でなぐられた。) 大賀郷 KT (*buNnaguraretarā*)

61 djiro:wa dji:tʃanni {so:garetara / so:garerara} (次郎はじいさんにしかられた。) 大賀郷 KT (*so:garetara*)

おわりに

以上、八丈方言にあらわれたいくつかの新たな現象を取りあげた。全体をみると坂上の末吉地区の例がきわめて少なかった、つまり、末吉地区には新たな現象が少なかったということになるのだが、その理由として、今回の話者の数がほかの地区よりも少なく、調査班も末吉以外が4班なのに対して2班で、結果として資料の数自体が少なかったことがあげられる。それに加えて、つぎのようなことも考えられるだろう。

坂上と坂下を結ぶ大坂トンネルは明治期に開通したもので、それ以前は三根から三原山の周囲を大坂トンネル方向とは逆の時計回りで末吉に行くか、三原山のなかをとおって末吉に行くかが主たるルートだった。したがって、その当時は檜立がもっとも奥まった地域であり、それゆえに民話「人捨て穴」の舞台とされたのも檜立と大賀郷のあいだの伊郷名(大坂トンネルの檜立寄り)というところだった。このように、伝統方言では大まかにいって坂下～末吉～中之郷・檜立のように連続していたものが、大坂トンネルの開通後は坂上地区の入り口が檜立になったため、それ以降、坂下から発信される方言の新たな変化も、乗り合いバスのルートと同様に檜立・中之郷を経由して末吉へ、という流れに変わってしまったのである。

今回のデータはけっしてじゅうぶんな量とはいえないが、いずれにしても、島の中心部である坂下地区に新たな語形が多くみられ、坂下からもっとも離れた末吉にそれがわずかしきみられなかった点は、周囲分布的な解釈を許容するだろう。坂上地区のなかでも、伝統方言としてはより

古い状態を保っていた檜立・中之郷のうち、大賀郷に近い檜立に新たな語形が比較的多くみられた点も、二次的な周囲分布として、大坂トンネル開通後の坂下からの直接の影響とみることができそうである。

しかし、共通語の影響を受けた新たな語形はまだ古いタイプの語形と共存していて、語形交替の途上にある。したがって、方言の継承・再活性化のためには、方言使用者に語形の新旧を認識して自覚的に使用してもらうことで、より古いタイプの語形の延命(～継承)をはかることはまだじゅうぶんに可能であると考ええる。

八丈方言の語彙

－1950年調査との比較－

木部 暢子

1 1950年の語彙調査

1950年の国立国語研究所「八丈島の言語調査」では、八丈方言の語彙に関して、2つの調査が実施されている。一つは、八丈島に関する各種の文献から八丈島方言に関する単語を抜き出し、語彙集としてまとめるという調査、もう一つは、大田南畝（1748－1823）著「一話一言」所載の「八丈方言」の語彙207語の追跡調査である。

まず、八丈関係の文献に現れる単語調査では、建武2（1335）年の「八丈年代記」から昭和23（1948）年の「八丈方言の研究」（北条忠雄）にわたる47の文献を対象として調査が行われ、それらの中から約4700語の八丈方言の単語が集められている。元資料となった47の文献は、それぞれ成立年代や成立の背景を異にし、方言語彙の収録態度や表記法もまちまちで、集められたデータも様々な性質のものが混在しているが、江戸時代から昭和にかけての八丈島方言の語彙の状況をまとめた分量で把握することができるデータとして、貴重なものである。これらは『八丈島の言語調査』（1950）の巻末に90頁にわたって紹介されている。

次に、「一話一言」の語彙の追跡調査について。「一話一言」は大田南畝の著作であるが、その中の「八丈方言」の部分は、「八丈島俗通志」から転載したものだという（原典の著者、作成年代は不明という）。1950年の調査では、「一話一言」収録語210語のうちの207語について、各村4名ずつ（70代以上、50～60代、30～40代、10～20代の各1名）に、それらの語を現在も使うか、使わないかを記入してもらうという調査を実施している。各集落、207語の調査結果は、『八丈島の言語調査』の218－260頁に掲載されているので、詳しくはそれを参照されたい。全体的な傾向としては、207語のうち163語（78.8%）が島のどこかで使用されている、逆に言うと、「一話一言」から1950年の調査までの150年の間に約20%の語彙が使用されなくなったという結果が出ている。

2 2012年の基礎語彙調査

1950年の調査結果を受けて、今度は2012年の調査までの60年間に語彙がどのくらい変化したかを見てみることにしよう。ただし、2012年の調査は、基礎語彙550語についての調査が目的で、「一話一言」の追跡調査を行ったわけではない。したがって、比較の対象となる語は、2012年調査の基礎語彙調査項目と「一話一言」所載語彙に共通する単語、54語だけである。また、2012年の調査では、「一話一言」の語形を示し、それを使うかどうかを尋ねるという調査方法をとっていない。もし、このような聞き方をしたとしたら、あるいは「一話一言」と同じ語形がもっと出てきたかもしれない。この点で「一話一言」、1950年調査の結果、2012年調査の結果の3者を単純に比較することはできないが、この60年間の変化のおおまかな傾向はつかめるのではないかなと思う。

それを示したのが、以下の表である。

表では左から3列目に「一話一言」の語形を、その右の列に八丈の各集落の語形をあげている。八丈の各集落の語形の欄は、上段と下段に分けてあり、上段に1950年調査の結果を、下段に2012年の調査の結果を記入している。表の記号の読み方は以下のとおりである。

凡例

- ：「一話一言」と同じ語形を使う。
- ：多少ちがった語形を使う。
- ×：別の語を使う。
- △：聞いたことはあるが使わない。

上段：1950年調査の結果。「一話一言」に掲載されている語が使用されているかどうかを上記の記号で示したもの。○と●の二つの記号が入っている欄は、集落内で使用語形に年齢差があることを表す。（『八丈島の言語調査』223～234頁より引用）

下段：2012年調査の結果。「一話一言」に掲載されている語が使用されているかどうかを上記の記号で示したもの。また、調査で得られた具体的な語形を記号の後にあげておく。

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
H-030	尻	シンゲタ	●	○	●	○	●○
			●シンベタ	●シンベタ	●シッベタ, ×オシリ, シリ ッベタ, シッペ タ	●シッベタ	●シッゲタ, × シリ
H-053	涙	メナタ	●	●	●○	○●	●○
			○メナダ, ナ ミダ(新)	○メナダ	○メナダ, × ナミダ	○メナダ	○メナダ, ナミダ
H-135	魚	ヨ	○	○	○	○	○
			○ヨ	○ヨ	○ヨ	●イヨ, イヨ, ×サカナ	○ヨ, サカナ
H-145	雄牛	ソウメ	●	●	●	○	●
			×ウシメ	●ゾクメ	×ウシメ	×ウシメ	×ウシメ
H-145	雌牛	バメ	○	○	○	○	○
			○バメ	○バメ	○バメ	×ウシメ	×ウシメ
H-145	老牛	ゾク	×	○●	●○	●○	●
			●ゾクメ, ゴ ック, ゴックメ (雄牛)	○ゾク, ゴクメ	●ゾック, ゴ ォックメ(雄牛)	×ウシメ	×ウシメ
H-145	子牛	ヲシヨ, コ コメ	●○	○	●	●○	●○
			×チョンコメ	×	×チョンコメ	×ウシメ	×チョンコメ
H-152	猫	カワフク ロ, 常々 はネツコメ	×	×	×	×	×
			×ネツコメ	×ネコ, ネツコ メ	×ネツコメ, コ ネツコ(子猫)	×ネツコメ	×ネツコメ

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
		といふ					
H-158	蜘蛛	クボナ	×	×	○	×	×
			×クモメ, トンヂャルメ (蜘蛛の一種)	×トンヂャルメ, トージンヅアル, トージンヂャル	×クモ	×テンゴ [°] メ	×テンゴメ,
H-160	蝶々	ヒイル	×	●	○	○	○
			×チョーチョメ, ヘッチョメ	×チョーチョ, チョーチョーメ	×チョーチョ, チョーチョメ	×チョーチョ	×チョーチョメ, チョーチョ
H-170	蚕	コナ	○	○	○	○	○
			○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ(尊敬語)
H-171	カマキリ	ベ ^レ メ	×	×	○	×	○
			×カマキリ	×カマキリ	×カマキル	×ゲンビーメ	×カマキリ(ーメは付かない)
H-172	トンボ	ヘツ, ソメ	×	○	●○	●○	●
			×トンボメ	●ヘッチョメ, ヘツオメ	×トンボ, トンボメ	●ヘッチョメ	×トンボ, トンボメ
H-177	雀	ツ ^レ メ	●○	●	●○	○	●○
			×スヅメ ^レ スズメ	×ス, ツメ, スズメ	×スズメ ^レ スイ	×スヅメ	×スヅメ, スズメ
H-178	鳩	シャートメ	●	○●	○	○	●
			●ショートメ(古), ×ハットメ, ハトメ, ハト	×ハトメ	×ハトメ	×ハトメ	×ハトメ
H-192	火	ヒノヒボ	×	○	○	○	○
			×ヒ	×ヒ	×ヒ	×ヒ	×ヒ
H-217	洞窟	トウフ	×	×	×	×	×
			×ドークツ, ホコラ, ホラ	×トーラ(小さいもの, 俵も, トーラ), ホラ	×ドークツ, ホラアナ, トーラ ^レ ドーラ(木のうろ)	×ホラ [?] アナ	×ホラ, ドークツ
H-236	頂上	トンツムリ	●	●	●	●○	●○
			●トンツベ(低い山), ×テッペン	●トンツベ, ×テッペン	●トンツイブラ(低いところの ^レ), ×テッペン	×テッペン	●トンブ, ●トンツブリ(古), ×チョーゾー(新)
H-245	跡	コカウテ	×	×	×	●○	×
			×アト, アシアト	×アト	×アト	×アト	×アト
H-271	朝	トンメテ	○	○	○	○	○

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
			○トンメテ (古), ×アサ	○トンメテイ	○トンメテ(早 朝。強調して 言うとトーンメ テ), ×アサ	○トンメテ(8 時頃まで), ×アサ	○トンメテ
H-273	夕方	ヤアヨウ	● × ユー ガ タ, クレガタ (古)	● ×クレーガタ	● ×ユーガタ, クレヤ	●○ × ユー ガ タ, クレ ヤ (日が落ちる 頃), クレガ タ, ヨンベ (タベ)	● ×ユーガタ, ク レー(古), クレイ エー
H-276	暇	ヨマ	○ ×ヒマ	● ×ヒマ	●○ ×ヒマ(「合間」 はヨマ)	○ ×ヒマ, ○ヨ マ(合間), ヨ マシ.キ	○ ×ヒマ(「合間」 は○ヨマ)
H-284	着物	ヘヒラ	● ● ヘ ベ ラ (古), ×キモ ノ	● ●ヘビラ	● ●ヘベラ, × マダラ, ×キ モノ	●○ ●ヘベラ, × マダラ(よ そ行き)	● ○ヘビラ
H-288	帯	ヨヒ	× ×オビ	× ×オビ	● ×オビ	● ×オビ	× ×オビ
H-334	昼食	ヒヨウ	● ●ヒョーラ	●○ ●ヒョウラ, × ヒルメシ	● ×ヒルゲ(古), ヒルメシ(新)	●○ ●ヒョーラ	●○ ●ヒョーラ
H-419	鎌	マカマ	● ○マガマ	●○ ○マガマ	● ×カマ, ×ヒラ テガ(草刈り道 具)	●○ ○マガマ, ×カマ	● ○マガマ
H-423	籠	タカタラ	● ×カゴ	● ×カゴ, ×ヅ アル	● ×イメンゴ(小 さい背負う籠)	● ×カゴ, ×イ メミゴ, ヌメ ムゴ(里芋洗 いに使うかご)	× ×カゴ, ×イメ ミゴ(里芋洗 いに使用)
H-431	長男	タロウ	× ×チョーナ ン, チョウナ ンメ	● ×チョーナ ン, ボーヤ, △タロー(使わ ないが知って いる)	○ ×チョーナン	○ ×チョーナ ン	○ ×チョーナン
H-432	二男	ジロウ	× ×ヂナン, ヂナンメ	●○ ●ヂョウメ, × ヂナン	● ×ヂナン	○ ×ヂナン	○ ×ヂナン
H-433	三男	サボウ	×	○	○	○	○

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
			× サ ン ナ ン, サンナン メ	○サボウ	×サンナン	×サンナン	×サンナン
H-434	四男	シヨウ	×	○	○	○	○
			×ヨンナン	○ショウ, ×ヨ ンナン	×ヨンナン	×ヨナン	×ヨンナン
H-435	五男	ゴロウ	×	○	○	○	○
			×ゴナン	○ゴロウ, × ゴナン	×ゴナン	×ゴナン	×ゴナン
H-436	六男	ロクロウ	×	○	○●	○	○
			×ロクナン	○ロクロウ, × ロクナン	×ロクナン	×ロクナン	×ロクナン
H-437	七男	ヒッテウ	×	○	×	○	○
			×シチナン	×シチナン	×シチナン	×シチナン	×シチナン
H-438	八男	ハッテウ	×	○	×	○	○
			×ハチナン	×ハチナン	×ハチナン	×ハチナン	×ハチナン
H-441	長女	ニヨコ	×	○	○	○	○
			× チョー ジ ョ, チョーヂ ヨメ	○ニヨコ, ニヨ コメ, ×チョー ヂョ	×チョーヂョ	×チョージョ	△ニヨコメ(古), ×チョヂョ〜チョ ージョ,
H-442	二女	ナカ	×	○	○	○	○
			×ヂジョ, チ ヂヨメ	×ヂヂョ, △ ナカ(聞いた ことがある), テゴメ(?)	×ヂーチョ	×ヂジョ	×ヂヂョ, ニジョ
H-443	三女	テコ	×	●	●	●	●
			×サンヂョ, サンヂヨメ	×サンヂョ	×サンヂョ	×サンヂョ	×サンヂョ
H-444	四女	クス	×	○	○	○	○
			×ヨンヂョ, ヨンヂヨメ	×ヨンヂョ, △ クス(聞いたこ とがある)	×ヨンヂョ	×ヨンヂョ	×ヨンヂョ
H-445	五女	チイロウ	×	●	●	×	×
			×ゴジョ	×ゴヂョ	×ゴヂョ	×ゴジョ	×ゴヂョ〜ゴジ ョ
H-446	六女	アッパ	×	×	●	●	○
			×ロクジョ	×ロクヂョ	×ロクヂョ	×ロクジョ	×ロクヂョ〜ロク ジョ
H-450	父	テテ	×	×	○	○	○
			× オトー サ ン, トーチャ ン(古), オヤ ヂ	△テテオヤ, ×オット, オヤ ジ, トーチャン	×オトーチャ ン, オトチャン	△テテ(古), ×オトーチャ ン, オヤジ	× オトー チャ ン, トーチャン, トッチャン(古)

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
H-450	父	トㇰウ,	×	○	×	×	○
			×	△トㇰウ(古)	×	×	×
H-451	母	ハア	×	●	●	×	○
			×	△ホー(古)	×	△ホツワ(古)	×
H-451	母	カㇰア	×	●	○	×	○
			×オカーサン, カーチャン(古), オフクロ	×オッカ, カーチャン, ホー(古)	×オカーチャン, オカチャン	×オカーチャン, オフクロ	×オカーチャン, カーチャン, オッカ(古)
H-452	兄	アセイ	×	●	●	○	●
			×オニーサン, アンチャン(古)	×アニ, アンチャン(「年上, 目上の人」はアセイ)	×オニーチャン, アンチャン, △アセイは聞いたことあり	×アンチャン, アニキ	△アシー(古), ×アンチャン, ニーチャン
H-453	姉	アネイ	×	○	○●	○	●
			×オネーサン, ネーチャン(古)	×ネーチャン, ネイヤ, ネイチャン(「年上の女性」は, インネ)	×オネーチャン, アンド	×ネーチャン(呼ぶときは○○(名前)ニーチャン)	×ネーチャン,
H-454	弟	ゼイ	×	×	×	×	×
			×オトート, シタノ, キョーデー	×オトウト	×オトウト	×オトート	×オトート
H-457	祖父	ヲㇰジ	×	×	×	○	○
			×オジーサン~, オヂーチャン, デーチャン	×ヂーチャン, デーサン, オウサマ(古)	×オヂーチャン, オーサマ(古), オーチャマ	×ヂーチャン, オヂーチャン, オーサマ(古)	×ヂーチャン
H-465	姪	メイ, ヨウシ	○	○	○	○	●
			○メイ, ○メイヨーシ	○メイ	●メイッコ	○メーヨーシ(甥と合わせて), ●メイッコ	○メイ
H-542	小さい	ネツコヒ	○	○●	●○	○	○
			●ネツコケ, ネツコキヤ	○ネツコイ, ●ネツコキヤ	×チツチャケ, チツチャキヤー	○ネツコイ(子供, ねずみ), チンゴイ(芋)	●ネツコキヤ, ネーコケ(連体)
H-543	大きい	ボㇰイ	●○	○	○	○	●○
			●ボーケ, ×コーキヤ	○ボウイ, ボウイー, ●ボウ	●ボーキヤー, ×デカキ	○ボーイ, ×デッカイ	●ボーキヤ, ボーケ(連体)

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
				キャ(「大きいもの」はボウケモノ)	ヤ, デッカキャー		
H-544	低い	ミジヤイ	○ ×ヒクキャ	○ ●ミヂカイ, ミヂカキャ(キャで終わると「ーよ」のニュアンス。)	○ ×ヒクキャー	○ ×ヒ.クイ	●○ ●ミジヤキャ(古, 床が低い), ×ネッコキャ(背が低い), ×ヒクキャ(床が低い)
H-549	寒い	コゴヘル	● ●カゲール	○ ●コゲイル(コゲイロヒ寒い日)	● ×サムキャー	○ ●コギール	● ●コギール(「凍える」かも?), ×サムキャ

3 60年の変化

先に述べたように, 「一話一言」, 1950年調査の結果, 2012年調査の結果の3者を単純に比較することはできないが, 2012年の調査で「一話一言」や1950年調査と同じ, あるいは類似の語形が回答された項目に関しては, この60年間の間にほとんど変化が起きなかったと考えてよい。そのような語は, 次のようなものである。以下には, 2012年調査で回答された語形とその使用地域を示した。ただし, それ以外の地域でも聞き方によっては, その語形が回答される可能性がある。

「一話一言」	〈2012年調査の語形と使用地域〉
・シンゲタ「尻」	シンベタ(大賀郷・三根), シッベタ(檜立・中之郷), シッゲタ(末吉)
・メナタ「涙」	メナダ(各集落)
・ヨ「魚」	ヨ(大賀郷・三根・檜立・末吉), イヨ(中之郷)
・ゾク「老牛」	ゾック, ズォック(大賀郷・三根・檜立)
・コナ「蚕」	コナサマ(各集落)
・トンツムリ「頂上」	トンツベ(大賀郷・三根), トンツィブラ(檜立), トンツブリ(末吉)
・トンメテ「朝」	トンメテ(各集落)
・ヘヒラ「着物」	ヘベラ(大賀郷・檜立・中之郷), ヘビラ(三根・末吉)
・ナカマ「鎌」	ナガマ(大賀郷・三根・中之郷・末吉)
・ネツコヒ「小さい」	ネッコケ, ネッコイ, ネッコキャ(大賀郷・三根・中之郷・末吉)
・ボライ「大きい」	ボーケ, ボウイ, ボーキャ(各集落)
・コゴヘル「寒い」	カゲール(大賀郷), コゲイル(三根), コギール(中之郷・末吉)

逆に, 2012年の調査で「一話一言」と同じ語形が出にくかったのは, 「長男, 次男, ……」, 「長女, 次女, ……」, 「父, 母」, 「兄, 姉」, 「弟」といった親族に関することばである。「父, 母, 兄, 姉」に関しては, 2012年の調査では名称ではなく呼称としての回答である。「一

話一言」の「父，母，兄，姉」が親族名称なのか親族呼称なのか，はっきりしないが，親族名称・親族呼称は，他の方言でも変化しやすい傾向があり（木部近刊），おそらく，八丈方言でも呼称，名称ともに変化が早かったのではないかと思われる。

文献

木部暢子（近刊）『じゃつで方言はおもしろとか』岩波書店

国立国語研究所(1950)『八丈方言の言語調査』

（PDFの公開サイト http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170001）

八丈語の古さと新しさ¹

平子 達也・トマ ペラール

1 はじめに

八丈語は、東京都八丈町（八丈島）と青ヶ島村（青ヶ島）で使用される言語である。本稿では、このうち 2012 年 9 月の合同調査（以下、本調査）で調査を行った八丈島にある 5 集落の方言のみを扱う。以下、八丈語といった場合、それは八丈島で話される諸方言の総称である。

八丈語と日本語本土諸方言および琉球諸語との関係は必ずしも明らかではない。本稿の主たる目的は、従来から指摘のあった八丈語の「古さ」と「新しさ」について今一度整理をしておし、現代の八丈語が歴史的には複数の層が重なり合って形成されたことを示すことにある。データは主に本調査によって得られたものを用いる。

以下、表記については調査報告書や先行研究にあるものはそのまま引用し、通常「」内に東京方言の形で（漢字仮名交じりで）その意味を記す。現段階では十分な形態素分析ができていないが、形態素境界を示す場合にはハイフンを用いる。なお、文献資料や方言のデータの出典については本稿末尾を参照。

2 先行研究²

八丈語と本土日本語諸方言および古代日本語（上代東国方言含む）や琉球諸語との関係に言及のある研究のうち、特に本稿に関わると考えられるものを中心にまとめておく。なお、ここにいる上代東国方言とは、『萬葉集』の巻 14 および巻 20 にある東歌・防人歌と呼ばれる歌謡に反映される当時の東日本に分布していたと考えられる言語のことである。

2. 1 Dikins and Satow (1878)

八丈語の文法記述で最も古いものである。その中に、八丈語による「ウイデ祝い」の話のローマ字書きとその英訳、音声・文法の解説があるという。八丈語の形容詞連体形 *-ke* が『萬葉集』の東歌・防人歌にも見られるものことはその後も多くの研究者によって指摘されてきているが、はじめてその事実を指摘したという点で、この Dikins and Satow の研究は評価されるべきものである。

¹ 本稿は、主に 2013 年 9 月 9 日に八丈町保険福祉センターで行われた国立国語研究所セミナー・第 6 回八丈方言講座『八丈・島ことば調査のつどい』（主催：国立国語研究所・八丈町教育委員会）で筆者ペラールおよび平子が行った講演内容をもとにしている。

² 本節の執筆にあたっては、金田(2001; 2012 など)の記述を参考にした。

2. 2 北条忠雄 (1948 など)

北条 (1948) は、八丈語の動詞連体形が -o で終わることおよび既に述べた形容詞連体形 -ke について、それらが上代東国方言にも見られる特徴であることを指摘した。さらにそれが単なる中央語の方言的「訛」ではなく、古形の保存であると主張した他、名詞や代名詞など上代東国方言と八丈語との関係性を積極的にとりあげる。

その後、主に上代東国方言に関する研究である北条 (1966) や、琉球語に関する歴史的考察を中心とした北条 (1977) の中で、上代東国方言と琉球諸語との比較も試みている。北条は、「上代の東国語の成立以前に八丈島方言はすでに成立していた」と推論し (北条 1948b: 88)、また、上代東国方言のいくつかの特徴が「国語 (筆者注: 日本語本土諸方言) と琉球語とが分岐する以前の日本語の姿である」 (北条 1977: 150) と考える。つまり、ここから推して測るに北条は、日本語本土諸方言と琉球諸語との共通の祖語 (日琉祖語) に対立する、その姉妹言語 (の末裔) として八丈語を位置付けているのである。管見の限り、北条自身は八丈語と琉球諸語との関係には直接言及していない。しかし、八丈語を日本本土諸方言および琉球諸語と対立する一言語としてとらえ、それら三者の歴史的関係について、間接的・部分的であれ自らの見解を示した最初の実証者は北条だと思われる。

いま一つ北条の主張の中で重要なのは、八丈語が単に上代東国方言に見られる形式を保存しているだけでなく、そこに中近世の中央方言の影響や八丈語固有の特徴が見られることを指摘していることである。これは服部らによって改めて強調されるところでもある。

2. 3 服部四郎 (1968 など)

服部は、「八丈島方言は東歌東国方言の系統をひく非日本祖語的方言が現在の (日本祖語系の) 本州東部方言の同化的影響を著しく受けつつ成立したもので、まだいくたの非日本祖語的特徴を保存している」とした (服部 1968: 93)。

ここでいう「日本祖語」とは現代の近畿方言と琉球諸語との共通の祖語と概ね同じだと考えてよい。既に服部 (1959: 89) では、東国方言が日本祖語と分岐したのは、近畿方言と琉球諸語とが分岐した年代より古いという仮説を提出している。服部 (1976: 26) では、その日本祖語と上代東国方言および八丈語の共通の祖語として「日本曾祖語」なるものを想定している。ただし、同じ服部 (1976: 29) では「奈良朝東国方言、同中央方言、琉球方言の三者は、日本祖語からそれぞれ別々の方向に変化発達したもの」と述べている。なお、服部は「三者が同時に分岐した確証はない」とし、三者が分かれ出た「日本祖語」には相当の年代的な幅を想定しなくてはいけない、としている。

仮に服部が考えたように上代東国方言・同中央方言・琉球諸語の三者が日本祖語からそれぞれ分岐したものとするならば、中央方言と琉球諸語とに、八丈語や上代東国方言に見られない共通の改新が見られるはずである。しかし、服部自身はそれを示しておらず、説得力に欠ける。八丈語と琉球諸語、本土諸方言との系統的關係については、なおよく考えるべきであろう。

さて、服部は予てより「東歌・防人歌の東国方言」の残存的特徴を含む非日本祖語的特徴を現代の東日本の諸方言に見出すことを目指してきたといい（服部 1968: 93）、1967年7月に八丈島樫立にて現地調査を行っている。

服部は、北条らによって既に指摘のあった形容詞連体形の語尾-keや動詞連体形-oを、八丈語の「非日本祖語的特徴」とした。さらに、動詞の「過去の終止形」に見られる接尾辞[-(t)ara]（「行った」[ikara]、「起きた」[okitara]など）について、それが非日本祖語的特徴の残存である可能性を指摘している。この形式については、それが伝統的な方言では単純な過去ではなく結果状態を表す形式であったという指摘が金田 (2001; 2012)にある。

2. 4 金田章宏

金田章宏の一連の研究によって、八丈語の記述的研究は大きく進展した。その膨大な量のテキストと記述からは八丈語と上代東国方言や中央方言との関連について多くの示唆を得ることができる。直近の研究としては、強変化動詞の過去・完了の形式（例「飲んだ」）が、ノモーからノンドーという形式に移行しているという八丈語における最近の変化を記述し、それが中央方言で上代から中古にかけて起こったノメリからノミタリという形式への移行と並行的な現象であることを指摘した金田 (2012)がある。

2. 5 その他：八丈語の方言学的位置づけに関する先行研究

東條 (1934)は、八丈語を「関東方言」の「伊豆諸島方言」の一つに位置付けている。しかし、以下に見るとおり、明らかに八丈語は現代の関東方言とは大きく異なる特徴を有しており、単にその地理的位置から「関東方言」の一つとするわけにはいかない。その後、金田一 (1955)が八丈語を東日本方言の中の「東部」「北部」に対立する一方言とするという考えを示すが、これも八丈語の特異性からすれば十分ではないだろう。ただし、金田一 (1955: 215)では既に「八丈島の方言は、語頭に著しい特色を有し、特色の幾つかは、全国の他のすべての方言に対して対立する」と明言している点は注目に値する。

平山 (1958)は、八丈語を東部・西部・九州と並ぶ大区画の一つとして位置づけた。これは方言学史上大きなことで、後の金田一 (1967)や上村 (1971)などもこの方言区画に基本的に従っている。

柴田 (1961[1978])は、八丈語にあるいくつかの語彙について、それらが琉球諸語も含めた日本語のどの方言と一致するかどうかという点から、八丈語がどの方言とどの程度近いのかということ考察している。柴田は、八丈語が東部方言とよく一致する一方で、西部方言や九州方言さらには琉球諸語とも共通する性格があること、東部方言の古い層をよく保持している可能性を指摘している。全体として柴田は、平山らのように東部・西部・九州とならぶ大方言として八丈語を位置付けることに対して慎重な姿勢を示している。

後に述べるように八丈語には古い層と新しい層が混在しており、その方言学的位置づけを明確にするのは非常に困難である。このような困難に自覚的であるにせよ、そうでないにせよ、総じ

て上記の方言学的研究は「共通の改新」を基準とした系統的な位置づけに対する考察を欠いており、方法論上の大きな問題をはらんでいると言わざるを得ない。

3 八丈語の古さ（１） 八丈語と上代日本語（東国方言含む）との比較

以下、今回の合同調査で得られたデータから、八丈語の「古さ」と「新しさ」を示す諸特徴をあげ、その史的解釈を示す。

3. 1 八丈語に見られる上代東国方言の特徴の残存

既に指摘したように上代東国方言には動詞連体形 *-o* や形容詞連体形 *-ke* の例がいくつか見られる³。

- (1) 可美都氣努 伊可抱乃祢呂余 布路与伎能 遊吉須宜可提奴 伊毛賀伊敵乃安多里
「上毛野伊香保の嶺ろに 降ろ雪の 行き過ぎかてぬ 妹が家のあたり」(『萬葉集』 14:3423)
- (2) 比登乃兒乃 可奈思家之太波 波麻渚抒里 安奈由牟古麻能 乎之家口母奈思
「人の児の 愛しけ時は 浜渚鳥 足悩む駒の 惜しけくもなし」(『萬葉集』 14: 3533)

八丈語の例を本調査のデータからあげる。() 内は当該の形式が観察された集落名。

- (3) ame-no ɸuro-çi-nja terebi bakkasi mitjarowa
「雨の降る日には (ばあさんは家で) テレビばかり見ている」(中之郷)
- (4) uno me no bo:ke iro no eiroke otoko-wa dare {dakana:/ daro:}
「あの目の大きい、色の白い男は誰だろう」(末吉)

八丈語では、この動詞連体形や形容詞連体形に終助詞 *-wa* がつき、前の連体形と融合をした形式 (もしくは終助詞 *ɸa* のついた形式) が文末形式として用いられる (金田 2012: 124, 132)。

- (5) wage:-no ɕito-wa take-de kago: tsukurara
「夫は竹で籠を作った」(大賀郷)
- (6) jo-jori niku-no ho:-ga takakja
「魚より肉の方が高い」(末吉)

³ 北琉球諸語にも **-o* と再建される連体形の形跡が見られることは、服部 (1976: 28-29) や Pellard (2008: 141-143) にも指摘されるところである。服部は、これを以て八丈語 (東国方言)、琉球諸語および中央方言の三者を「日本祖語からそれぞれ別々の方向に変化発達したもの」と考えた (服部 *ibid.*)。

(5)の *tsukurara* は注目すべき形式である。動詞「作る」*tsukur-*に補助動詞「あり」*ar-*が続いた形式の連体形として *tsukuraro* がある。それに終助詞-*wa* がつづいた形式が *tsukurara* で、その意味としては、現在の結果の状態を表すものである（金田 2012: 125。本稿 2. 3 節も参照）。上代東国方言に(7)のような例があり、(5)の *tsukurara*(← *tsukuraro-wa*)もまた上代東国方言の形式を保存しているものと考えられる。

- (7) 安乎楊木能 波良路⁴可波刀尔 奈乎麻都等 西美度波久未受 多知度奈良須母
「青柳の 張らろ川門に 汝を待つと 清水は汲まず 立処平すも」(『萬葉集』 14:3546)

上代東国方言との関連から言えば以下の例に見られる推量形、現代標準語「だろう」にあたる形式も注目したい。(8), (9)はいずれも「医者がくれた薬を飲めば治るだろう」という意味である。

- (8) *ifa-ga keto: kusurjo nomeba naoru-no: (-wa)* (三根)
(9) *isja-kara muroa kususurjo {nome-ba / noma-ba} naoru-nu: (-wa)* (檜立)

金田 (2012: 131)によれば、この(*naoru-nu: (-wa)*)⁵【三根】、(*naoru-nu: (-wa)*)【檜立】という形式は、上代東国方言に見られる推量の助動詞ナムの連体形ナモに遡ると考えられるという(**namo* > *nawo* > *nowo* > *nou*)。以下に東歌から例をひく。

- (10) 可美都氣努 乎度能多抒里我 可波治尔毛 兒良波安奈美奈毛 比等里能未思弓
「上毛野 乎度の多抒里が 川路にも 児らは逢はなも 独りのみして」(『萬葉集』 14: 3405)

以上、既に先行研究によって指摘されてきたことばかりではあるが、これらのことから八丈語が東歌・防人歌に反映されている上代東国方言特有の諸特徴を保持していると言える。

⁴ 金田 (ibid.: 125)など先行研究でも指摘されるように、この東国方言の形式に対応する上代中央方言の形式はハレル(ハレリの連体形)で、それは動詞連用形「ハリ」に補助動詞「アリ」が続いたものと考えられている。実は、上代中央方言の共時態においては、例えば《張りあり》や《咲きあり》という非融合形は実証されない。少なくとも文献上は《咲けり》(サケ_甲リ)という融合形があるのみである。ただし、この所謂「リ完了形」を「動詞連用形+アリ」とすることは、「詒」オクレリ《上上平上》・「除愈」アサレリ《上上平上》(以上『図書寮本類聚名義抄』からの例)などの平安時代資料にある声点表記から支持される(早田 1997: 42 なども参照)。

⁵ 古くは三根では *nou* であった(金田 2001: 194 など)が、本調査のデータからは *ou* と *oo* の区別は既に失われつつあると見られる。

3. 2 上代中央方言との共通点

八丈語の古さは上代東国方言との共通点（動詞連体形や形容詞連体形）から語られることが多いが、実際には上代中央方言との共通点も多くある。ここでは中央方言において中古・中世以降には見られなくなった諸現象で八丈語に残存しているものを取り上げる。

3. 2. 1 人称代名詞

八丈語では、一人称代名詞では *ware* などとともに *are* が用いられることがある。

(11) *ara ki:-wa isogaçi-kja*

「おれは今日は忙しい」（中之郷）

(12) *warja ke:-wa isogaçi-kja* （大賀郷）

一人称のア系は、上代では中央方言に限らず東国方言でも散見されるが、中古以降はほとんど文献資料に例がない。『日本国語大辞典』で「アレ」を検索すると、最も新しい例が大鏡（12世紀前半）の例である。以下には、『古事記』（712年）から上代語の例をひく。

(13) ・・（前略）・・多和夜賀比那袁 麻迦牟登波 阿礼波須礼抒 ・・（後略）・・

「・・・手弱腕を 枕かむとは我はすれど・・・」（『古事記』）

この一人称ア系の代名詞については、琉球諸語にも対応する代名詞が存在するという⁶。琉球諸語では例えば沖縄古語で「あん」、沖縄語今帰仁与那嶺方言 *aga*（「我々の」）、宮古語大神方言・与那国語 *anu*⁷、宮古語多良間方言・伊良部方言 *aN* という形式が見られる。一人称ア系の代名詞は、上代語中央方言および東国方言（八丈語）そして琉球諸語が分派する以前の段階に遡ると考えられる。

八丈語の二人称代名詞には *ome:*（後述）などとともに *nare* がある。金田 (2001: 71-74)によれば、*nare* という形式は主に口論や喧嘩の場面で用いられるが、現代ではあまり使われらないという。

(14) *nare-wa jama-ge: ike*

「お前が畑へ行け」（大賀郷）

⁶ 上代東国方言特有の一人称代名詞「和奴・和努」に対応する形式が琉球諸語に散見されるが（岡前 *wan*, 与那国 *banu* など）、それは上代東国方言の末裔と考えられる八丈語には未だ見いだされない。

⁷ 南琉球宮古語大神方言に「俺は」が *ara:* という形式で現れる。基本形は *anu* であり、これは不規則的な形式だが、この大神方言 *ara:* という形式と八丈語の *are* / *ara* との関係は不明である。

nare も上代の中央・東国両方言に例がある。しかし、中央方言では中古以降急速にそれは失われたと見える。以下に『日本書紀』（720 年）と『源氏物語』（11 世紀初頭）から中央方言の例を、『萬葉集』東歌から上代東国方言の例をひく。

(15) ・・(前略)・・於夜那斯爾 奈礼奈理鶏迷夜

「・・・親無しに 汝生りけめや」（『日本書紀』推古紀 104）

(16) 恋ひわぶる 人のかたみと 手なれば なれよ何とて なく音なるらむ（『源氏物語』若菜下）

(17) 許乃河泊余 安佐菜安良布兒 奈礼毛安礼毛・・・(後略)・・・

「この川に 朝菜洗ふ兒 汝も吾も・・・」（『萬葉集』14:3440）

八丈語の nare が口論・喧嘩の場面に多く用いられ、基本的に対等もしくは目下のものにしか使われないというのは、上代・中古における二人称代名詞ナ（レ）が対等の相手や目下のもの・動物に対して用いられていたことを引き継いでいると言えよう。しかし、上代語の「ナ」には一人称の用例もある (Whitman 1999 も参照)。また、北琉球諸語では、対応する形式が尊敬の代名詞として用いられ、南琉球では、再帰代名詞や話者指示的代名詞として用いられる。これらの「ナ（レ）」（に対応する諸形式）が、琉球語・八丈語の共通の祖語に遡るものだとすると、その各語派・各方言での消長・意味変化などは興味のある問題である。

表 1 二人称の「ナ（レ）」

	二人称	再帰・話者指示
奄美（喜界島）・上嘉鉄	na'mi	
奄美（大島）・大和浜	nan	
奄美（加計呂麻）・諸鈍	nam	
奄美・与論	na'ni	
沖縄古語	なあ	
沖縄・与那嶺	na:	
沖縄・首里	na:	
宮古・大神		nara
八重山・石垣		nara
八重山・竹富		na:(rə)

3. 2. 2 係結び

上代以降のいわゆる「古典語」における一特徴である係結びが八丈語に残存している。本調査で観察された例をあげる。

- (18) so-no hanaçi-wa(sa) jome-ni dake-ka kikase tare-ga

「その話は妻にだけ聞かせた」(中之郷)

- (19) u-no çito-ga-ka honto'-no kanemotei dare.

「あの人こそ本当の金持ちだ」(大賀郷)

- (19') u-no çito-ga honto'-no kanemotei dara. (同上)

両例とも助詞-kaに呼応して、文末の動詞が-[r]eで終わる「已然形」になっている。助詞-kaがない場合、文末の動詞は連体形+終助詞(-ro+wa)の形式などで現れる[=19']。この-kaは、金田(2001: 184)などによれば、古典語の係助詞コソに遡るといえる。『日本書紀』歌謡から上代語の例、源氏物語から中古語の例をひく。

- (20) 彌致爾阿賦耶 鳴之慮能古 阿母爾舉曾 枳舉曳儒阿羅每

「道に闘ふや尾代の子母にこそ聞こえずあらめ」(『日本書紀』雄略紀82)

- (21) なみなみの人ならばこそあららかにもひきかなぐらめ (『源氏物語』帚木)

疑問文などで助詞-kaが現れた場合、それに呼応する形で、上代東国方言の助動詞ナムに遡る形式-no:や-nu:が義務的に現れる(金田2001: 195)という記述もあるが、そういった現象は本調査の範囲ではほとんど観察されなかったようである。ただし、以下の例があった。

- (22) sake'-wa adan ji-te tsukuru-ka nare-wa fōkan-no:-ja

「酒はどうやって作るか、お前は知っているか」(大賀郷)

金田(2001: 195)から、助詞-kaに対して-nouで終わる典型的な例をあげておく。

- (23) dokoN-ka cjoucukaN-nou

「どこに置いたろうか」

この-kaは、前述した已然形に由来する形式を結びの形式として要求する助詞-kaとは由来が異なり、古典語における係助詞「カ」に遡ると考えられている(金田2001: 195)。

3. 2. 3 その他：過去の「キ」と存在詞

本調査では、一部の話者から「(むかしよくあのひと) 飲んだっけなあ」という場合に「ノマツチガー」という言い方をすることがある、という回答を得た。これは、上代・中古における所謂過去の助動詞「キ」を用いた「ノミアリシ」に遡る形式であると考えられる(金田 2012: 126 など)。中央方言では鎌倉時代以降この「キ」は衰退し、過去を表す形式としては「-タル (<-テ+アル)」および、その後代の変化形である「-タ」が発達する。

現代の八丈語でも、この「キ」に遡る諸形式は既にあまり使われなくなっているようで、本調査でも調査例文に対する答えとしては得られず、こちらから「「ノマツチガー」と言いますか?」というような質問をしなければ引き出せなかった。また、「飲んだとき」という意味で「ノマツチトキ」という言い方をする話者は本調査の範囲ではおらず、既に消えつつある表現だと考えられる。このことについては、上記で指摘した金田(2012)に詳しい記述がある。

また、人や動物のような有生物の存在を「アル」で表現する。中央方言では、18 世紀以降になると次第に有生物の存在を「イル」で表すように変化していく。これもまた八丈語に残る「古さ」の一端と言えよう(金水 2006 も参照)。

4 八丈語の古さ(2) 八丈語と琉球諸語との比較

北条(1966)以来、八丈語と琉球諸語との比較というのは、間接・直接問わずまとまった形ではなされていない。現段階では未だ両言語の記述が十分でなく、比較するだけの材料がないかもしれないが、ここでは八丈語と琉球諸語との共通点を若干指摘しておきたい。

4. 1 語彙

4. 1. 1 「一」

本土諸方言においては管見の限り「一つ」と「一人」で「一(ひと)」の部分が互いに異なる発音になることはない。しかし、八丈語では「一つ」は *tetsu*、「一人」は *tori* であって(三根)、接尾辞「つ」の前かそうでないかで両者の形式が異なる。琉球諸語においても八丈語と同様である(服部 1976: 30-32; 1979: 111-113. なお、Pellard 2008: 143 の Table 6 も参考になる)。

表2 「一つ」と「つ」の前以外の「一」

	「一つ」	「一」(「つ」の前以外)
上代日本語	ヒ _甲 ト _乙 ツ	ヒ _甲 ト _乙
中古日本語	ヒトツ(ヒテツ)	ヒト-
奄美(喜界島)・上嘉鉄	tʰi-tu	tsʰu-
奄美(大島)・大和浜	tʰi:-tsi	teʰu-

奄美（加計呂麻）・諸鈍	tʰi-t	teʷu-
奄美（徳之島）・岡前	tʰi:-tei	tʰeu-
奄美・与論	ti:-tei	teu-
沖縄古語	ふてつ	ひと
沖縄・伊江島	tʰi:tsi	teʰu-
沖縄・与那嶺	tʰi:-tei	teʷu-
沖縄・首里	ti:-tsi	teʷu-
宮古・大神	psti:-ks	pstu-
宮古・西原	çiti-tsi	çitu-
八重山・石垣	pʰiti:-tsi	pʰitu-
琉球祖語	*pite(e)-tu	*pito-

八丈語と琉球諸語との共通の祖語の段階には、「一つ」の「一（ひと）」にあたる形式と「つ」前以外に現れるそれとでは異なる形式として再建する必要がある。その対立は本土諸方言では失われ、八丈語と琉球諸語とで保存されたのである。なお、『枕草子』（10世紀終）に以下のような記述がある。これは、少なくとも当時の中央方言において「ひてつ」という形式は「標準的な言い方」ではなく、既に失われていたことを示唆する。

(24) 「ひてつ車に」など言ふ人もありき（枕草子 262）

4. 1. 2 「土・地面」

本調査では檉立で「地面」を *miza* といい、「古い言い方」として大賀郷でも *midza* という形式を得ている。琉球語では、この *miza* / *midza* に対応する形式が「土」を表す形式として見られ、琉球諸語と八丈語との共通の祖語の段階に **mita* のような形式が再建されることが示唆される⁸。

表3 琉球諸語の「土」

	「土」
奄美（喜界島）・上嘉鉄	<i>mitea</i>
奄美（大島）・大和浜	<i>mitea</i>

⁸ なお、民間語源として「御（み）座（ざ）」がある。

奄美（加計呂麻）・諸鈍	miteaː
奄美（徳之島）・岡前	nteaː
奄美・与論	nitea
伊江島	nteaː
沖縄・与那嶺	mitcaː
沖縄・首里	ntea
宮古・大神	mta
宮古・西原	nta
八重山・石垣	nta
八重山・竹富	ntə
与那国	nta
琉球祖語	*mita

4. 1. 3 「蚯蚓」

本調査では「蚯蚓」を意味する形式として以下のような形式が観察された。

表 4 八丈語の「蚯蚓」

三根	大賀郷	檣立	中之郷	末吉
meme ^d zume	meme ^d zu(me)	nenezüme	nenedzume	mimizume

末吉で観察された形式は、標準語の形式に八丈語でよく使われる指小辞-me がついた形式であろう。その他の形式では、総じて第一音節と第二音節の母音が[e]になっている。管見の限り「蚯蚓」がメメズというような形式で現れる方言は本土にないようである。一方、琉球諸語ではその祖語の段階で*memezu と再建される形式が見られる⁹。

次頁の表 5 中で奄美語に見られる中舌母音 i は琉球祖語の*e に由来する。また、南琉球諸語では第一・第二音節の母音が消失していない。このことから、その母音が琉球祖語の*i ではなく*e に由来すると言える。

⁹ 檣立・中之郷で第一・第二音節の音節初頭子音が n になっている理由は不明。なお、江戸時代初期に出版された言葉直しを目的とする安原貞室の『片言（嘉多言）』（1650 年京都刊）には「蚯蚓をめめず」という記述が見える。

表 5 琉球諸語の「蚯蚓」

	蚯蚓
奄美（喜界島）・上嘉鉄	mimidaː
奄美（大島）・大和浜	mimidzi
奄美（加計呂麻）・諸鈍	mimit
奄美・与論	miːmidzi
沖縄古語	みみず
沖縄・伊江島	mimizi
沖縄・首里	mimidzi
宮古・大神	mimiku
八重山・石垣	mimidzi
与那国	dimimi
琉球祖語	*memezu

4. 1. 4 「魚」

「魚」を表す jo（三根・末吉・檳立・大賀郷）や ijo（中之郷）という形式は、文献上見られる「いを」に対応する。中央方言では現在「いを」に遡る言い方をしないが、琉球諸語には「いを」に対応する形式が見られる。つまり、八丈語の jo/ijo や琉球祖語の *ijo は、その共通の祖語の段階に遡る形式なのである。

表 6 琉球諸語の「魚」

	魚
奄美（喜界島）・塩道	?iju
奄美（大島）・大和浜	?juː
奄美（加計呂麻）・諸鈍	?juː
奄美（徳之島）・岡前	?juː
奄美・与論	?juː
沖縄古語	いゆ

沖縄・伊江島	ʔju:
沖縄・与那嶺	ʔju:
沖縄・首里	ʔiju
宮古・大神	wu
宮古・西原	zzu
八重山・石垣	idzu
八重山・竹富	idzu
与那国	iju
琉球祖語	*ijo

この*ijo にあたる上代中央方言の確実な例はなく、上代語文献では専ら「うを」(『日本書紀』継体紀 97 「美那矢駄府紆鳴謨」 水下ふ魚も) が用いられている。その後、平安時代になって「いを」という形が多く見られるようになるが、「うを」が「いを」に取って代わられることはない。むしろ、現代の中央方言では(より一般的な「さかな」を除けば)「うお」が用いられるようになっている(「魚市場(うおいちば)」など)¹⁰。ただ、「いを」に対応する形式が八丈語と琉球諸語に見られるという事実からは、実際には「いを」という形式が上代以前から中央方言にもあって、たまたま文献上にないだけだと考えるべきである。

4. 1. 5 「朝」・「頭」

ここまで挙げてきた語の他にも、八丈語と琉球諸語とで共通してみられるものの、現代の本土諸方言ではほとんど見られない語はままたある。例えば「朝(特に早朝)」は、八丈語では *tommetei* (三根) もしくは *tommete* (末吉など) であるが、琉球語でも対応する形式が見られる。

表 7 琉球諸語の「朝」

	朝
奄美(徳之島)・岡前	<i>ɕitimu:ti</i>
沖縄古語	すとめて

¹⁰ 岩崎本『日本書紀』推古紀(巻第二十二)に「即化^{ナリ}少^チヒサキ^{サキ}魚^{イヲ}以^ヲ挟^ハサマレ^リ樹枝」がある。このように『日本書紀』の訓などには「いを」という形式はある。しかし、これらは後代(例えば岩崎本推古紀ならば平安中期)の加添であり、上代における確例としては扱えない。『時代別国語大辞典 上代編』の「いを」の項にあがっている『新撰字鏡』や『倭名類聚抄』の例も同様である。

沖縄・与那嶺	eitimiti
沖縄・首里	sutumiti
宮古・大神	stumuti
宮古・西原	situmuti
八重山・石垣	situmudi
八重山・竹富	eitũti
与那国	tʰumuti

「頭」にあたる八丈語 *tsuburi* (各方言) という形式も、琉球諸語に対応する形式が見られる一方、本土諸方言では「おつむ」などに化石的に残されているのみである。これら「朝」や「頭」などを表す諸形式はどれも八丈語と琉球諸語との共通の祖語の段階に遡り、対応する祖形が再建されうる¹¹。

表 8 琉球諸語の「頭」※一部の方言では「頭蓋骨」の意

	頭
奄美 (喜界島)・塩道	tʰuburaː
奄美 (大島)・大和浜	tsiburu
奄美 (徳之島)・岡前	teiburu
奄美・与論	teiburu
沖縄古語	つぶる
沖縄・伊江島	siburu
沖縄・与那嶺	teimbu
沖縄・首里	tsiburu
八重山・石垣	tsiburi
八重山・竹富	suːru

¹¹ また、「若い娘」を指して八丈語諸方言では *menarabe*、琉球語でも似たような形式が見られる。しかし、これは元々 *me* 「女」+*warabe* 「童」という語構成であったと考えられ、八丈・琉球それぞれで独立に生じた複合語とも考えられるゆえ、ここでは八丈・琉球に残る共通の「古層」として扱わない。

4. 2 u-系の指示詞

八丈語では遠称の指示詞として u-系が用いられる (ure・uno)。

- (25) uno me-no bo:-ke iro-no giro-ke otoko-wa dare {dakana:/ daro:}

「あの目の大きい, 色の白い男は誰だろう」(末吉) [(4)再掲]

- (26) urja: no:¹² gakko: deka:re, jakuba-de-wa nakkja:

「あれは (ね), 学校だ。役場ではない」(末吉)

一方, 琉球諸語では対応する形式が中称で使われる (表 9)。

表 9 琉球諸語に見られる u-系の指示詞・代名詞

	「それ」	「その」	「そこ」	「お前」
奄美 (喜界島)・塩道	?uri		?uma	?ura
奄美 (徳之島)・岡前	?uri:	?uŋ	?uma:	?u-kkja (PL)
奄美・与論	uri	unu, uŋ	uma	ura
伊江島	?uri	?unu, ?uŋ	?ma:	?ra:
沖縄・与那嶺	?uri	?unu, ?uŋ	?ma:	
沖縄・首里	?uri	?unu	?mma	
宮古・大神	uri	unu	uma	vva
宮古・西原	ui	unu	uma	vva
八重山・石垣	uri	unu	uma	wa:
八重山・竹富	uri	unu, uŋ	umə, mmə	wa:', wo:
与那国	u	unu	uma	nda
琉球祖語	*ure	*uno	*uma	*ura

そもそも琉球諸語における指示詞の体系は必ずしも全体としては明らかになっていない。また, 中央方言史上指示詞のア系の出現は中古以前には遡らない。各語派・各方言における指示詞体系

¹² この no: という形式は間投助詞の一種と見られ, 談話中に非常に多く現れる。それは, 前後の文節・単語と切れ目なく発音される。筆者 (平子) は一度聞いただけではそれが間投助詞であるとは気づかなかった。

の詳細な記述にもとづく、史的研究が俟たれる。いずれにせよ八丈語と琉球諸語の共通の祖語の段階における指示詞の体系中に*u-系の指示詞が再建されうると言ってよい。

この u-系 の指示詞に関連していえば、それと後に述べる八丈語の二人称代名詞 unu との関係も考える必要があるだろう。琉球諸語や八丈語では二人称代名詞にも u-系 が見られるのだが、これは u-系 指示詞が中称すなわち聞き手の領域（にあるもの）を指示することと関係している可能性もあるのである。八丈語の二人称 u- についてはこの後の 5. 1 を参照。

5 八丈語の新しさ

上記で指摘したように八丈語には古い特徴が見られる。一方で、八丈語には中央方言において中古以降に発展した新しい特徴もいくつか見られる。八丈語の歴史を考える場合、これらの史的位置づけを明らかにする必要がある。

5. 1 二人称代名詞

八丈語において二人称代名詞として nare が用いられることは既に指摘した (3.2.1) が、二人称代名詞には他にも待遇表現とかかわって多様な形式が存在している。

まず、尊敬語であり、目上の人に対して一般的に使われる（金田 2001: 71）ome: もしくは omja: という形式がある。また、それらと似た形式の omi がある。omi は ome: / omja: と違い、目下や同等のものに使われる。以下の omja: と omi の例は同一話者からのものである。

(27) 「お前（あなた）は畑へ行け（御行きください）」（檉立）

a) omja:-wa jama-e odzare-jo:（対目上）

b) omi-wa jama-e ike（対目下）

(27a) の例では omja: という尊敬語があるために、述語動詞も尊敬動詞 odzar- 「いらっしゃる」が用いられることに注目したい。

さて、ome: / omja: は、音対応からすれば中央方言の「オマへ（>オマエ）」にあたる。『日本国語大辞典』に挙例がある中で、中央方言の文献資料上「オマへ」の最古の例になるのは、『蜻蛉日記』（974 年頃）にある以下の例である。しかし、これが実際「オマへ」と読まれたかは分からない。いずれにしても「オマへ」は中央方言では上代に遡らない。

(28) 御まへにもいとせきあへぬまでなむ、おぼしためるを、見たてまつるも、ただおしはかり
たまへ（『蜻蛉日記』中・天祿二年）

omi については、それが同等もしくは目下のものに用いられることから、中央方言のオミ（御身）にあたる形式だと考えられる。ただし、中央方言の文献で 17 世紀以前にオミの用例はない。

さらに、八丈語では **unu** という形式も二人称代名詞として用いられる。文献資料上ウヌが中央方言で用いられるようになるのは 18 世紀頃になってからのことである。これが中称の指示詞 *u- と関連がある可能性については 4. 2 で触れた。

- (29) **una:** kono jo-no namee-jo eoke-ka.
「お前はこの魚の名前を知っているか」(末吉)

また、注目すべきは以下の **omai** という形式である。

- (30) **omai-wa** kono jo-no name:-jo foke-ka.
「お前はこの魚の名前を知っているか」(末吉。ただし(29)とは別の話者)

omai は特に同等以下のものに対して使用される形式であるという。金田(2001: 73)によれば、この **omai** という形式は **omi** や **ome: / omja:** に比して新しく、現代八丈語では **omi** や **unu** にとってかわろうとしているという。**unu** と対象がほぼ重なり、**unu** が失礼な言い方として敬遠された結果、中央方言の目下に対する言い方であったオマエを方言的な発音にして取り入れた形式が **omai** だとされている(金田 ibid.)。

通常、中央方言の **ae** に対しては、八丈語では方言によって異なるものの **e:** もしくは **ja** が対応する。ここで、中央方言オマエが (**ome: / omja:** となっておらず) **omai** となっているのは、既に八丈語においては尊敬語として **ome: / omja:** という形式があったために、同音衝突を避けて (**omae >**) **omai** として取り入れたからだという(金田 2001: 405 注 29)。なお、中央方言においてオマエが同等もしくは目下に対して使われるようになったのは、江戸時代後半(18 世紀後半以降)になってからのことである。

以下に八丈語における二人称代名詞の諸形式とそれに対応する中央方言の諸形式の歴史をまとめてみる。この二人称代名詞の様相からだけでも、現代八丈語の成立が上代語以前からの古層の継承と中世以降にあった流刑人などを通じての中央方言との接触の結果であることが示唆される。

表 10 八丈語の二人称代名詞の様相

八丈語の形式	対象 (八丈語)	対応する 中央方言の形式	文献に見られる時期	八丈語での 成立時期(推定)
nare	同等・目下	ナ(レ)	上代語～中古語	上代以前
ome: / omja:	尊敬	オマエ	中古語以降	中世以降

unu	同等・目下	ウヌ	18 世紀以降	江戸時代以降？ ¹³
omi	同等・目下	オミ（？）	17 世紀以降	江戸時代以降
omai	同等・目下	オマエ（？）	18 世紀後半	近代以降？

5. 2 疑問詞

疑問詞「誰」は、上代中央方言で「多例」（『日本書紀』仁徳紀 44）と語頭音節に清音を表す文字があてられていて、実際[tare]というような発音であったと考えられる。一方、八丈語では語頭音節が清音の tare という形式ではなく、濁音の dare という形式が現れる。中央方言で語頭音節が濁音となったことがはっきりと確認されるのは早くとも近世初期の資料からで、この八丈語の dare という形式も、近世以降の中央方言から取り入れられた形式だと考えられる。

- (31) uno me-no bo'-ke iro-no eiro-ke otoko-wa dare {dakana:/ daro:}

「あの目の大きい、色の白い男は誰だろう」（末吉）[(4)再々掲]

また、他の疑問詞「どれ」「どこ」などについても同様のことが指摘できる。すなわち、上代や中古の中央方言ではイヅレ・イヅク（もしくはイヅコ）で、ドレやドコが文献上に現れるのは 11・12 世紀からである。以下の例に見られる八丈語の「どれ」「どこ」にあたる形式も中世以降の中央方言から取り入れられたものと考えられる。

- (32) doi-ga n'-ga kasa-do:

「どれがお前の笠だ」（三根）

- (33) a-ga tega-wa {dokon/ dokodo:} aro:

「俺の鍬はどこにある」（三根）

6 八丈語の位置づけ（まとめ）

3 節・4 節で述べたことから、本土諸方言（のうち、少なくとも中央方言）および琉球諸語に対立する日本語系の一言語（の末裔）として八丈語を位置付けられることが分かる。一方で、八丈語には中央方言において比較的新しく発達したと考えられる形式も散見される。5 節で指摘したものがそれであり、現代の八丈語は、上代以前・日琉・八丈祖語に遡る古い特徴を残しながらも、その後本土方言の影響を強く受けて成立したのと考えられる。この言語上の事実を八丈

¹³ unu については琉球諸語をも含めて比較すると、その史的な位置づけについてはなお考える余地があるゆえ、ここでは「？」とした（4. 2 節参照）。

島の地理的・歴史的背景をも考慮に入れて解釈すれば、以下のようなシナリオを描くことができるだろう。

まず、八丈語（の基盤になった言語：先八丈語）は、本土諸方言祖語（特に中央方言系統）と琉球祖語と姉妹関係にある言語として成立したと考えられる。あるいは中央方言と琉球諸語との共通の祖語である日琉祖語と姉妹関係にあったかもしれない。少なくとも、中央方言と琉球諸語と対立する言語であったことは間違いなく、その痕跡が形容詞連体形や動詞連体形、東歌の「ナモ」に遡る推量形などの諸形式に見られる（3. 1節）。

かつては、先八丈語のように中央方言とも琉球諸語とも対立する言語（東国方言）が東日本に広く行われていた。例えば長野県秋山郷の方言などでも形容詞連体形-*ke* や動詞連体形-*o* といった上代東国方言固有の特徴が見られることはこのことを示唆する（馬瀬 1980, Pellard 2008）。その後、当時京都・奈良を中心に話された中央方言の影響を強く受ける中で、東国方言は衰退していった。

現代の東日本方言の大部分では往時の東国方言の痕跡は限定的に見られるに過ぎない。例えば、動詞命令形 -*ro* や、上代東国語のナフに遡ると言われる打消の-*nai* などがそれである。しかし、八丈島や秋山郷は周辺地域から隔絶されており、中央方言の影響を受けにくい環境にあった。八丈島の場合、同じ伊豆諸島に属す三宅島など、より北に位置する有人島との間に黒潮が流れており、このため古くは本土との人・物の交流がなかった、もしくは、あったとしても限定的であったと考えられる。

その後、室町時代以降になって八丈島に当時の幕府の機関が置かれ、江戸時代以降には流刑地となる。このころには既に本土諸方言は中央方言の強い影響を受けていた。八丈語はこの中央方言によって侵食された本土方言からの影響を受けて、徐々に東国方言的特徴を失っていったものと考えられる。人称代名詞や疑問詞の在り方からすると、本土方言の八丈語への影響は非常に強く、また、かなり長く続いたのだろう。

もちろん、本土方言からの影響による変化の他にも八丈語内部での変化もあった。八丈語各方言で盛んに見られる母音融合などの音変化や、金田 (2012)に指摘されるテンス・アスペクトのシステムの変化などがそれである。

このような史的背景を経て成立したのが現代の八丈語であると考えられる。その史的な性格からして、八丈語は日本語史研究にとって非常に重要であるのだが、考えるべき問題は多く、その詳細な位置づけは難しい。

参考文献

- 上村 幸雄 (1971) 「なぜ方言を研究するか」『教育国語』 26: 27-43.
金田 章宏 (2001) 『八丈方言動詞の基礎研究』 東京：笠間書院.
金田 章宏 (2012) 「八丈方言における新たな変化と上代語」『言語研究』 142: 119-142.
金水 敏 (2006) 『日本語存在表現の歴史』 東京：ひつじ書房.

- 金田一春彦 (1955) 「日本語 (方言)」『世界言語概説』下: 212-238. 東京: 研究社.
- 金田一春彦 (1967) 「東国方言の歴史を考える」『国語学』 69: 40-50.
- 柴田 武 (1961) 「東部方言の語彙 (関東・東海東山)」『方言学講座』第二巻 東京: 東京堂出版 [柴田 1978『方言の世界—ことばの生まれるところ』 98-123 東京: 平凡社に「八丈方言の位置」として再録].
- 東條 操 (1934) 「関東方言」『国語科学講座 VII 本州東部の方言』 37-55. 東京: 明治書院.
- 服部 四郎 (1959) 『日本語の系統』 東京: 岩波書店.
- 服部 四郎 (1968) 「八丈島方言について」『ことばの宇宙』 11: 92-95.
- 服部 四郎 (1976) 「琉球方言と本土方言」『沖縄学の黎明—伊波普猷生誕百年記念誌』 7-55. 沖縄文化協会.
- 服部 四郎 (1979) 「日本祖語について 22」『言語』 8/12: 100-114. 東京: 大修館書店.
- 早田 輝洋 (1997) 「平安時代京畿方言のアクセントに関する幾つかの問題」『音声研究』 1(2): 37-44.
- 平山 輝男 (1958) 「青ヶ島方言の所属」『国学院雑誌』 59: 301-306.
- 北条 忠雄 (1948a) 「八丈島方言の研究—特に上代性の遺存について (1)」『日本の言葉』 6: 84-88. 東京: 日本の言葉研究会
- 北条 忠雄 (1948b) 「八丈島方言の研究—特に上代性の遺存について (2)」『日本の言葉』 7: 13-29. 東京: 日本の言葉研究会
- 北条 忠雄 (1966) 『上代東国方言の研究』 東京: 日本学術振興会
- 北条 忠雄 (1977) 「琉球語の諸問題—「比較言語学的立場からの考究」覚書」『秋田大学教育学部研究紀要 人文科学・社会科学』 27: 159-146.
- 馬瀬 良雄 (1980) 「生きている東歌の語法」『言語生活』 342: 34-40. 東京: 筑摩書房.
- Dikins, F and Ernest Satow (1878) 'Notes of a visit to Hachijo in 1878 -Dialect.,' 『日本亜細亜協会会報』 6: 435-477.
- Pellard, Thomas (2008) 'Proto-Japonic *e and *o in Eastern Old Japanese.,' *Cahiers de linguistique – Asie orientale* 37(2): 133–158.
- Whitman, John (1999) 'Personal pronoun shift in Japanese: A case study in lexical change and point of view.,' In Kamio, Akio & Takami, Ken-ichi (eds.) *Function and Structure*. Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins, 357-386.

用例出典

文献資料 (表記は一部本稿に合わせて書き換えた部分がある)

- 阿部秋生・秋山虔・今井源衛 (校注・訳) (1970) 『日本古典文学全集 源氏物語 一』 東京: 小学館.
- 阿部秋生・秋山虔・今井源衛 (校注・訳) (1974) 『日本古典文学全集 源氏物語 四』 東京: 小学館.
- 白木進 (編著) (1976) 『かたこと』 (笠間叢書 53) 東京: 笠間書院.

松浦誠一・木村正中・伊牟田経久（校注・訳）(1973)『日本古典文学全集 土佐日記・蜻蛉日記』
東京:小学館.

松尾聰・永井和子（校注・訳）(1972)『日本古典文学全集 枕草子』東京:小学館.

水島義治(1972)『校註 萬葉集 東歌・防人歌—新增補改訂版—』東京:笠間書院.

荻原浅男・鴻巣隼雄（校注・訳）(1975)『日本古典文学全集 古事記・上代歌謡』東京:小学館.

琉球諸語（表記は簡略音声表記に統一した）

木部暢子・窪菌晴夫・下地賀代子・ローレンス ウェイン・松森晶子・竹田晃子(2011)『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究—喜界島方言調査報告書—』立川:国立国語研究所

菊千代・高橋俊三(2005)『与論方言辞典』東京:武蔵野書院.

国立国語研究所(編)(1963)『沖縄語辞典』東京:大蔵省印刷局.

前新透(2011)『竹富方言辞典』石垣:南山舎.

宮城信勇(2003)『石垣方言辞典』那覇:沖縄タイムス社.

仲宗根政善(1983)『沖縄今帰仁方言辞典』東京:角川書店.

沖縄古語大辞典編集委員会(編)(1995)『沖縄古語大辞典』東京:角川書店.

長田須磨・須山名保子(1977)『奄美方言分類辞典』東京:笠間書院.

生塩睦子(1999)『沖縄伊江島方言辞典』伊江村:伊江村教育委員会.2 vols.

内間直仁・新垣公弥子(2000)『沖縄北部・南部方言の記述的研究』東京:風間書房.

筆者の調査資料

八丈方言の特徴

ママをたずねて三千里

—八丈方言の系統的位置について—

ローレンス・ウエイン

1 はじめに

本稿では、一つの単語を中心に、八丈島の方言の系統的位置を考察する。

八丈方言が東日本方言 (= 東部方言) の一つであるとする考え方 (東條 1954: 47-51; 柴田 1961: 97) のほかに、八丈方言は奈良朝東国方言の系統を引きながらも、現代の東日本方言と別系統のことばであるという考え方 (服部 1968; Kupchik 2011: 9) もある。

本稿で問題にする単語は「まま」と発音する語形で、八丈島の五つの地区で「崖」という意味で使われる (内藤 1979: 186 では「土手 (土のままのがけ地)」となっている)。民話の中の使用例 (三根地区) は金田 (2002: 34 (§18)) にみられる。なお、八丈島の五地区以外に、八丈小島と青ヶ島でもこの「まま」が使われているという (山田 2010: 101)。

2 「まま」は東日本方言形か

「まま」という単語は崖の意で八丈方言にみられるが、おなじ「まま」は類似の意味で広く東日本の諸方言に見出せる。『日本方言大辞典』(徳川 1989: 2280) に掲載されている例は以下の通りである。

がけ：山形県，茨城県，栃木県，群馬県佐波郡，東京都伊豆諸島，神奈川県鎌倉，新潟県，
長野県上高井郡・諏訪，静岡県，愛知県北設楽郡¹

山地の断層：愛知県北設楽郡

急傾斜地：群馬県勢多郡，新潟県東浦原郡，山梨県南巨摩郡，長野県

段をなしている傾斜地：東京都利島，山梨県南巨摩郡，² 静岡県

あぜ：岩手県気仙郡，宮城県玉造郡，栃木県，神奈川県中郡，新潟県東浦原郡，長野県佐久

畦の大きなもの：山形県，福島県，茨城県

土手：山形県，福島県，茨城県久慈郡・真壁郡，群馬県利根郡・吾妻郡，埼玉県秩父郡，千葉県安房郡，東京都三宅島・御蔵島，神奈川県中郡，新潟県中越，長野県，静岡県田方郡・庵原郡

石垣：山形県米沢市，群馬県山田郡，東京都伊豆諸島，新潟県東浦原郡

岸：秋田県平鹿郡，山形県米沢市

川岸や土手の崩れたような所：山形県庄内，新潟県中浦原郡・東浦原郡

山などの土の崩れた所：静岡県榛原郡

崖などに横に抉られてできた穴：長野県北安曇郡

¹ これに秋田県の例として男鹿市脇本大倉方言の mama「崖」(北条 1968: 38) が加えられる。秋田県教育委員会(編)(2000: 403)によると、ママを「崖。特に土砂を採る崖」の意味で使うのは山本地方・河辺地方・仙北地方の方言であるという。

² この中に山梨県奈良田 (深沢 1957: 126) が含まれる。

海岸の岩が抉られて魚の隠れ場所になっている所：静岡県榛原郡

崖状の砂浜：新潟県佐渡，静岡県浜名郡

海岸の砂丘：新潟県中頸城郡

「まま」は愛知県東北部以東に分布しているので，東日本の方言形としてみる事ができよう。

通時的には，江戸時代の方言集『物類稱呼』には土堤のことは「上總及信濃にて。まゝといふ」(越谷 1775: 4ウ)とあるが，これも東日本方言の例である。さらに，上代の例として万葉集巻 14 の 3369 歌が挙げられる。

足柄の ままの小菅の 菅枕 あぜか巻かさむ 児ろせ手枕
阿之我利乃 麻万能古湏氣乃 湏我麻久良 安是加麻可左武 許呂勢多麻久良

これは万葉集に東国の相模国の歌として記載されている。この 3369 歌の「まま」を固有名詞とする立場(荷田; 澤瀉 1977: 47)と普通名詞とする立場(松岡 1934: 53; 折口 1936: 35; 伊藤ほか 1975: 368)とがあるが，地名とする説でも，この歌の「まま」はもともと「崖」(松岡 1934: 53 は「谷あい」³)という意味の普通名詞に由来することを認めている。

上掲の 3369 歌と並んで，上代語辞典編集委員会 (1967: 689) は巻 10 の 2288 歌をも「まま＝崖」の例として引用している。

石橋の ままに生ひたる 貌花の 花にしありけり ありつつ見れば

説明として「「石橋の」は飛び石の間の意でママにかけた枕詞で，ママは崖の意と見てよい。」(上代語辞典編集委員会 1967: 690)としているが，次に述べるようにこれは解釈が別れるところである。同じ上代語辞典である丸山 (1967: 906) はこの歌の「ママ」を「あいだあいだ」の意味として捉えている。窪田 (1985: 502) は同様に「間間に生ひたる」は，その飛石のあいだあいだに生えてゐる」と説明しているし，佐竹ほか (2000: 535) では「渡り瀬の飛び石の間々に生きている…」と解釈して，ママの解釈に関する注を設けていない。一方では，高木ほか (1960: 140) は「崖をママという地方は，中部・関東・東北地方に多い。広島県安芸郡では急傾斜地をいう。」と注記した上で，「崖に咲く貌花のように…」とこの歌を解釈している。佐伯ほか (1974: 42) はこの歌のママを土堤としている。古語辞典では中田ほか (1983: 1537) は 2288 歌の「ママ」を「急斜面・崖」とし，中村ほか (1999: 436, 437) は「崖」と「あいだごと」の両方の意味があるとしているようである。

万葉集の 2288 歌は東歌ではないから，もしこの「ママ」が「崖」という意味であるなら，この単語は東日本方言特有の語形でないことになる。水島 (1984: 417-25) はこの 2288 歌の「ママ」が「急斜面・崖」ではなく，「あいだあいだ」の意味であると論じているが，本稿では水島 (1984) が取り上げていない表記の観点から論じて，同じ結論に到達する。

現存する諸写本・刊本からして 2288 歌の原表記は次のようであったと考えられる。

³ 「相模方言に於て谷會又は水際の壟土をママと稱する」(松岡 1934: 12)。

石走間ㇿ生有兒花乃花西有來在簡見者

この歌の中の 生, 有, 兒, 花, 在, 見, 者 などの字は正訓表記, 西 と 簡 は訓仮名 (借訓), 乃 は音仮名として使われている。訓仮名も音仮名も, その漢字の本来の意味と関係なく, 表音文字として機能している。さて, 問題の「間ㇿ」だが, 意味が「あいだ〜」の場合はこれは正訓表記語で, 意味が「崖」なら訓仮名表記語になる。

2288 歌が入っている巻 10 の全 538 首の文字遣いを見てみると, 「間」の字は, 2288 歌以外に 16 例あり,⁴ すべて正訓表記である。同じ巻に「ま」の発音を表す音訓仮名は 4 例あって,⁵ 「麻」は三回, 「万」は一回使われている。また二の字点 (ㇿ) は 14 首の中で使われ,⁶ そのうちの 11 例は二の字点の前の字は表意文字になっている (例えば, 吾八更 ㇿ (われやさらさら) [1927], 何時 ㇿ ㇿ (いつもいつも) [1931], 時来 ㇿ (ときはきにけり) [2013])。一例 (2089 歌) ははっきりしないが, 衍字とする説 (小島ほか 1995: 96-7) は穏当であろう。残り 2 例 (之努 ㇿ 尔 (しののに) [1831], 等乎 ㇿ 尔 (とををに) [2315]) では二の字点の前の字は音仮名で, 2 例ともに部分重語の副詞である。以上のことから, 2288 歌の「間ㇿ」は「あいだ〜」という意味を表し, 「崖」でないということが察せられる。

だが, 「まま」は広島県安芸郡では急傾斜地のことを言うという高木ほか (1960: 140) の指摘はきわめて重要である。事実なら, 万葉集の 2288 歌と関係なく, この単語は東日本方言特有の語形でないということになる。高木ほか (1960) のこの指摘は『全国方言辞典』(東條 1951: 775) に依拠していると思われるが, 『全国方言辞典』のこの情報はにわかに信じがたい。というのは, 「まま」の分布をもっとも網羅的に記載している『日本方言大辞典』(徳川 1989: 2280) にはこの広島県安芸郡の例はない。また『広島県方言辞典』(村岡 1980: 18-9) にもそれらしき語形はないことから, 『全国方言辞典』のこの記述は誤記ではないかと考えられる。

3 結語

ママ「崖」という語形を八丈島と本州東部の諸方言に見出すことができる。(1) 八丈方言のママが借用語でない, (2) 東日本各地にみられるママが借用語でない, そして (3) 西日本方言にママが存在した時代はなかった, という三つの条件が成立していれば, このママは八丈島方言と本州東部の諸方言の直近の祖語に再建でき, その祖語は東日本祖語 (現代の東日本方言と奈良朝の東国方言の祖語) ということになる。

服部 (1968) と Kupchik (2011: 9) は八丈方言のみが奈良朝の東国方言の系統をひく言語で, その他の東日本方言は奈良朝の中央語の系統で, 現代東日本方言に見られる東国方言的な特徴は基層言語の影響によるという。「まま」の場合, その使用の広がり本州東部のほぼ全域を覆っていることから, 服部・Kupchik の仮説が正しいとすれば, その基層言語は東国方言になると考えられ, 東国方言の祖語 (服部 1968 の考えでは, これは日琉祖語と姉妹関係にある言語) にママが

⁴ 1838, 1851, 1864, 1876, 1890, 1898, 1899, 1971, 2042, 2054, 2059, 2125, 2166, 2196, 2287, 2344 の各首に一例ずつ。

⁵ 1937 歌に三例, 2018 歌に一例。

⁶ 1831, 1927, 1931, 1932, 2013, 2089, 2108, 2168, 2241, 2266, 2270, 2315, 2323, 2349 の各首。

再建できることになる。

以上のことから、八丈島方言は東国方言の系統をひくであろうが、服部・Kupchik が考えるように、八丈方言が現代東日本方言の一つでなくても、東日本方言は八丈方言と共通の基盤を有していると考えられる。

東国方言の祖語に *mama が再建できると思われるが、この語形のアクセント範疇の再建は今後の課題として残ることとなる。

参考文献

- 秋田県教育委員会 (編) (2000) 『秋田県のことば』 秋田市：無明舎.
- 伊藤 博・中西 進・橋本達雄・三谷栄一・渡瀬昌忠 (編) (1975) 『萬葉集事典』 東京：有精堂.
- 澤瀉久孝 (1977) 『萬葉集語釋 卷第十四』 東京：中央公論社.
- 折口信夫 (1936) 「萬葉集 卷第十四」 齋藤清衛・折口信夫『萬葉集総釋第七』 1-269. 東京：楽浪書院.
- 荷田春満 (講). 享保年間. 『萬葉集童蒙抄』
- 金田章宏 (2002) 『八丈方言のいきたことば 民話・伝説・談話』 東京：笠間書院.
- 窪田空穂 (1985) 『萬葉集評釋 第六卷』 東京：東京堂.
- 越谷吾山 (1775) 『諸国方言 物類稱呼 卷一 天地・人倫』 大坂屋.
- 小島憲之・木下正俊・東野治之 (校注・訳) (1995) 『新編 日本古典文学全集 8 萬葉集 ③』 東京：小学館.
- 佐伯梅友・藤森朋夫・石井庄司 (校註) (1974) 『日本古典全書 新訂萬葉集 三』 東京：朝日新聞社.
- 佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之 (校注) (2000) 『新日本古典文学大系 2 萬葉集 二』 東京：岩波書店.
- 柴田 武 (1961) 「東部方言の語彙」 東條 操 (監) 『方言学講座 第2巻』 64-98. 東京：東京堂.
- 上代語辞典編集委員会 (1967) 『時代別国語大辞典 上代編』 東京：三省堂.
- 高木市之助・五味智英・大野 晋 (校注) (1960) 『日本古典文学大系 6 萬葉集 三』 東京：岩波書店.
- 土屋文明 (1954) 『萬葉集私注 第十四卷』 東京：筑摩書房.
- 東條 操 (1951) 『全国方言辞典』 東京：東京堂.
- 東條 操 (1954) 『日本方言学』 東京：吉川弘文館.
- 徳川宗賢 (監) (1989) 『日本方言大辞典 下巻』 東京：小学館.
- 内藤 茂 (1979) 『八丈島の方言』 私家版.
- 中田祝夫・和田利政・朝倉篤義 (編) (1983) 『古語大辞典』 東京：小学館.
- 中村幸彦・岡見正雄・北原保雄 (編) (1999) 『角川古語大辞典』 東京：角川書店.
- 服部四郎 (1968) 「八丈島方言について」 『ことばの宇宙』 3.11: 92-5.
- 深沢正志 (1957) 「奈良田方言語彙」 稲垣正幸・清水茂夫・深沢正志 (編) 『奈良田の方言』 山梨民俗の会.
- 北条忠雄 (編) (1968) 『秋田県男鹿市脇本大倉方言』 方言録音資料シリーズ 6. 東京：国立国語研究所.
- 松岡静雄 (1934) 『萬葉集論究 第二輯』 東京：章華社.
- 水島義治 (1984) 『萬葉集東歌の國語學的研究』 東京：笠間書院.

- 丸山林平 (1967) 『上代語辞典』 東京：明治書院.
- 村岡浅夫 (1980) 『広島県方言辞典』 広島市：南海堂.
- 山田平右エ門 (2010) 『消えていく島言葉 ― 八丈語の継承と存続を願って』 東京：郁朋社.
- Kupchik, John E. (2011) *A Grammar of the Eastern Old Japanese Dialects*. Unpublished PhD dissertation, University of Hawai'i.

八丈町の「八丈方言」継承の取り組み

茂手木 清

『「八丈語？消滅危機言語」のリストに加わる』と 2009 年 2 月の朝日新聞に掲載された記事は、八丈島に住む島民にとっては、少なからず驚きだった。記事では「ユネスコの調査によれば、日本では沖縄の言葉など 8 言語が消滅危機言語リストに挙がった」と報じた。これは、昔から話されてきた故郷の言葉が、何もしなければ近い将来、消滅してしまうということを意味している。

この記事を受けて、八丈町教育委員会が中心になって「八丈方言を知り、伝える活動」を始めたのは、2009（平成 21）年度からである。以下 4 年半の取り組みを記す。

1. 学校教育での取り組み

①実態調査（全小・中・高校生）

ユネスコのリストに挙がった理由のひとつが「子どもが話さない」ということであったので、島の子どもたちの実態を知る必要があると思い、アンケート調査を行った。島の全小中高校生（2010 年 9 月 758 人）を対象に、八丈方言語彙調査を実施した。12 の比較的良好に使われる名詞、形容詞、動詞などの言葉を選び「知っているか」「使っているか」を問うた。この調査は、2013 年 10 月にも同様な調査を行い、比較とともに、その後の活動の参考にした。

次ページがその結果の表とグラフである。人数は 2010 年（758 人）2012 年（748 人）である。調査の「知っている」の項では、2010 年の調査より、2012 年の方が数値はどの言葉も増えている。これは取り組みの反映である。特に比較的良好の低かった「あっぱめ」（赤ん坊）「たこうな」（竹の子）が、2012 年の調査では、それぞれ +38%、+23% と増えている。この二つの言葉は「島ことばカルタ」の中の言葉にでてくる言葉であり、学校や家庭等で取り組み始めた成果といえる。逆に、「ねっこけ」（小さい）や「まじける」（なくす）などの形容詞や動詞については、伸びが少ない。この結果、カルタに書かれた言葉は認知度が高くなるが、そうでない言葉については、相変わらず低いのである。

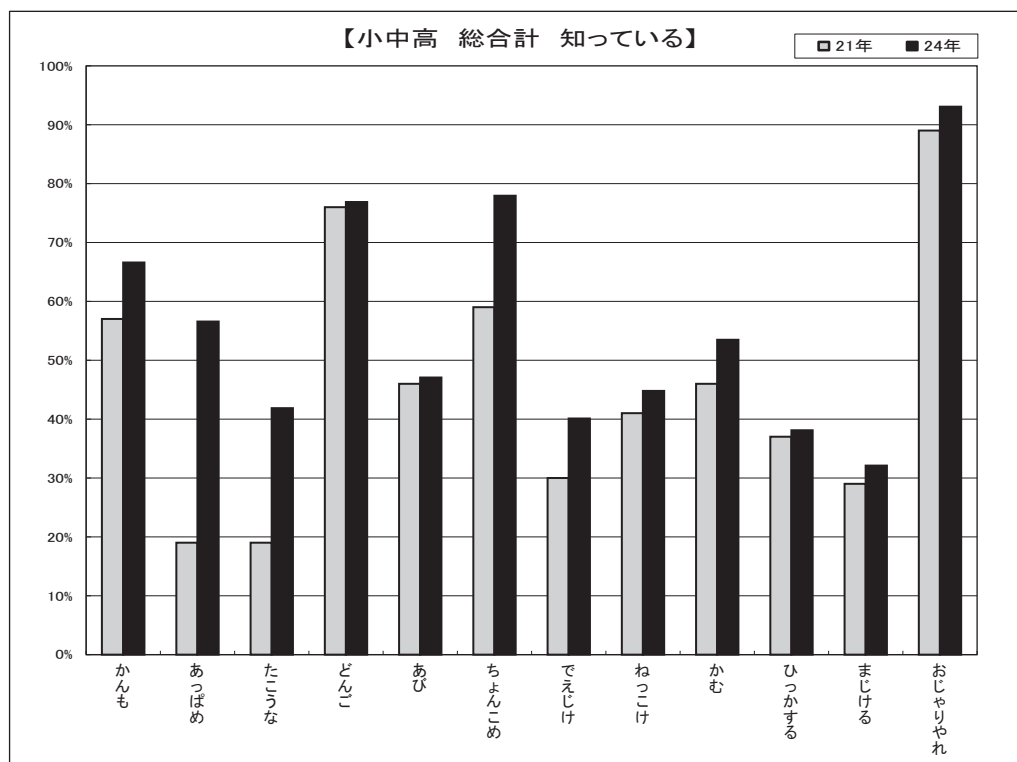
次に「使っている」（表 2・グラフ 2）の項では、どの言葉も 2010 年次の調査でも低く、10% 台の言葉がたくさんある。これは、八丈方言は知っていても、実際の生活の場（家庭・地域・学校）では使っていないことを意味している。このままでは、次の世代に継承していくことは、不可能であり、ユネスコの指摘の通り、八丈方言は「危険」というランクになっているのはうなずける。

また、取り組みを始めてからの、2012 年の調査でも「使っている」については、数値は上がっていない。特に、動詞、形容詞の類は死語に近いと考えられ、「でえじけ」などは、マイナスの数値になってしまっている。

表1 「知っている」比較

小中高 総合計 比較
「知っている」748名

調査八丈語	21年	24年	増減
かんも	57%	67%	10%
あっぱめ	19%	57%	38%
たこうな	19%	42%	23%
どんご	76%	77%	1%
あび	46%	47%	1%
ちょんこめ	59%	78%	19%
でえじけ	30%	40%	10%
ねっこけ	41%	45%	4%
かむ	46%	53%	7%
ひっかする	37%	38%	1%
まじける	29%	32%	3%
おじゃりやれ	89%	93%	4%

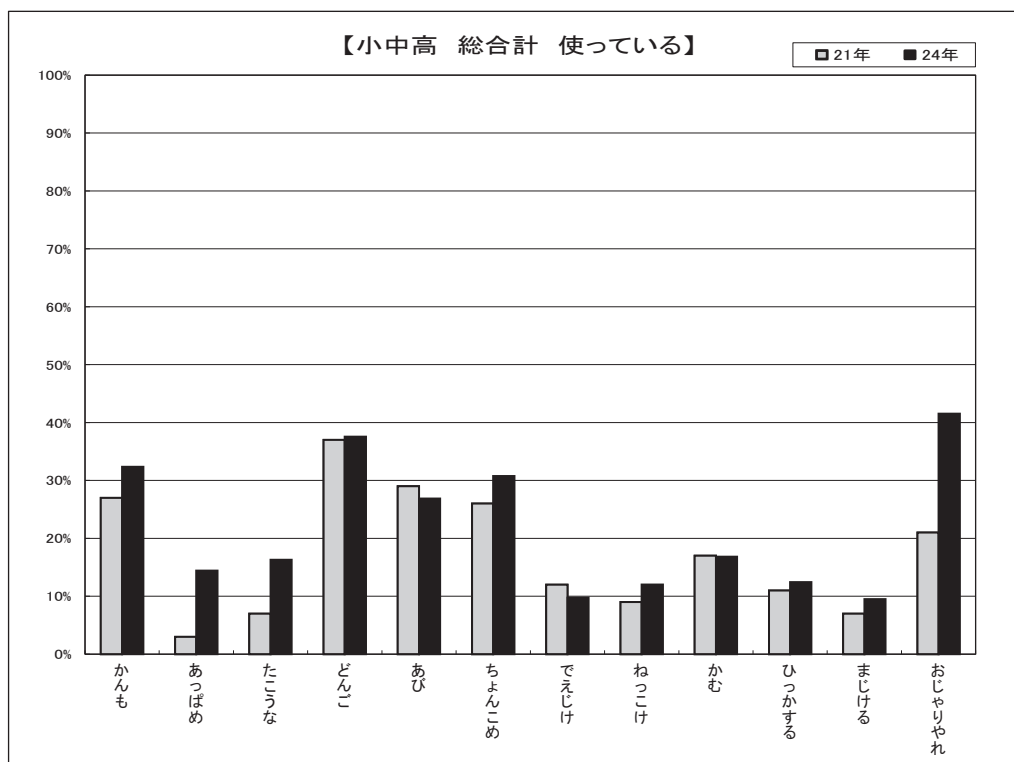


グラフ1 「知っている」比較

表2 「使っている」比較

小中高 総合計 比較
「使っている」748名

調査八丈語	21年	24年	増減
かんも	27%	32%	5%
あっぱめ	3%	14%	11%
たこうな	7%	16%	9%
どんご	37%	38%	1%
あび	29%	27%	-2%
ちょんこめ	26%	31%	5%
でえじけ	12%	10%	-2%
ねっこけ	9%	12%	3%
かむ	17%	17%	0%
ひっかする	11%	12%	1%
まじける	7%	9%	2%
おじやりやれ	21%	42%	21%



グラフ2 「使っている」比較

以上の分析から「八丈方言を伝える活動」の前途は、相当厳しいものが予想される。特に、30歳代～40歳代の子どもをもつ親世代への継承がない現状では、一層厳しいと感じざるをえない。

②「八丈・島ことばカルタ」の作成

方言を次世代に継承する方法として、「方言カルタ」が有効であるとの考えから、2010年に手製の「八丈・島ことばカルタ」を作成した。絵札は、島在住の人に描いてもらった。2011年には、小学校の全家庭に無料で配布した。家庭の中で、カルタ遊びをしながら、自然に覚えることをめざすとともに、方言を知っている高齢者との交流をめざした。また、当初作成したカルタの読み札は、島の一地域の言葉を載せたのだが、別の地域の人から「自分の地域の言葉が載っていない」との指摘があり、島の五地域のすべての言葉を載せて、改訂版のカルタを作成した。読み札の表には、共通語と三根、大賀郷の2地域の言葉、裏には檜立、中之郷、末吉の言葉を載せたのである。そして、島内の本屋・みやげ屋などで販売を始めた。ちなみに、1セット850円（＋消費税）である。下の写真が五地域の言葉が載っているカルタである。各学校や保育園や家庭でカルタで遊ぶ姿が見られ、カルタ遊びの中から、言葉を覚えるという子どもたちが増えてきている。



③「八丈方言100」を作成し、覚える取り組み

方言を覚えるにはゲーム感覚で、覚えるのが、良いとのことで「八丈方言100」を作成した。10級から1級まで級を設け、各級10の言葉を選んで作成し、学校等に提示し、遊びながら覚えることをめざした。10級は比較的によく使われる八丈方言にし、だんだん級が上がるにつれ、今はあまり使われなくなってしまった言葉をのせている。各級の言葉には、名詞や動詞、形容詞、文を級ごとに10個配して作った。

八丈方言100を覚えよう(改訂版)()内の言葉は地域によって違う言葉H24.5改訂 八丈町教育委員会 NO1

級	10級	9級	8級	7級	6級
1	・めならべ	・ちょんこめ (おしょこめ)	・かぶめ	・ほうべえ (ほーびゃー)	・とんめて
2	・あっぱめ	・あび	・くに	・はんけ (ひょーげ)	・ばんま (ばっぱ)
3	・おやこ	・どんご	・でーこ (じゃーこ)	・まぐさ (まくさ)	・かんじょ
4	・たこーな	・えーたば (やたば)	・けー (けえ・きー)	・しんべた (しっべた)	・あぶき
5	・こっこめ	・げっすり	・にやっとりめ (とうとうめ)	・づにん	・まん (まに)
6	・われ・わが ・あが・わい	・こごん (こがん)	・へんどうこと	・あっちゃん こっちゃん	・じょーる
7	・でえじきや (じゃーじきや)	・ねっこきや	・えずきや	・はじがましきや	・しゃしやきや
8	・ぼーきや	・しょくない	・あてがり (ぞら)	・かまる	・ごらごら
9	・かむ	・やろごん (やろがん)	・ひっかする	・おもうわよーい	・まじける
10	・おじやりやれ	・あに したろ	・どうもよーい	・そご(が)ん だーの	・このかんも(さ つまいも)は うんまきや

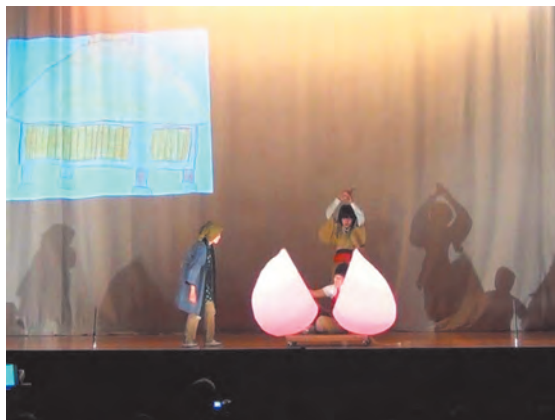
④「今週の島ことば」の作成、掲示・・・日常的な取り組み

八丈方言を日常的に意識化するために、各小中学校と町役場などに一週に一言ずつ作成し、掲示してもらっている。2010年10月からスタートして、2013年3月末現在98の言葉を掲示している。

各学校では、廊下等で掲示にし、児童・生徒・教職員が日常的に目に触れる機会をふやすとともに、学校を訪れる保護者、地域の人にも見てもらう場として活用されている。

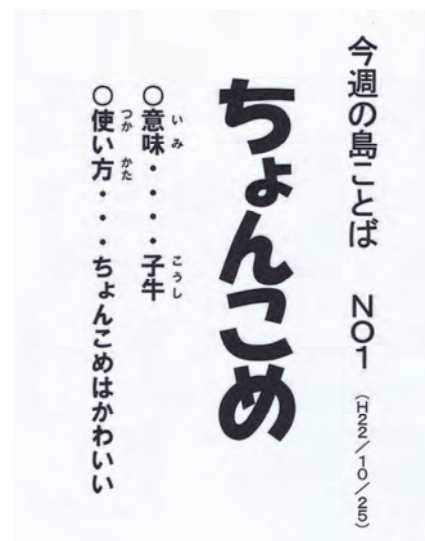
⑤方言劇（小学校の学芸会での発表）

八丈方言を声に出して覚えるには、八丈方言を使った劇が良いと考え、小学校の学芸会で取り組んだ。小学校の地域の話者に協力してもらい、台詞を方言に直した。また、台詞のイントネーションなどを祖父母に聞いたりして、方言劇をなかだちとする交流が図れた。



学芸会当日は、方言劇に観客から、笑いとともに「懐かしい！」の言葉が聞かれ、八丈方言の入った劇に、会場はなごやかな雰囲気になるばかりでなく、出演した子どもたち教員も貴重な体験を積んでいる。

この写真は、2013年2月に行われた三原小学校での学芸会の一シーンである。台詞の言い回しは、担任の教員ではできないので、保護者や祖父母に聴いてもらい、児童は練習に励んできた。この劇は八丈民話からヒントを得た「桃次郎」である。



すべてが、八丈方言の台詞で演じられ、観客にとって好評であった。2009 年度から今までに、島内の小学校で 4 本の方言劇を行ってきている。

⑥八丈町教育研究指定校制度の導入で行った八丈町立三原小学校の研究

八丈町のエデュケーション課題に取り組む制度として、エデュケーション指定校制度を設け、2012 年度から発足した。その制度の第一に取り上げたのが「八丈方言」の指導カリキュラム化である。2012 年度は、八丈町立三原小学校が 1 年かけて研究を行い、その成果を 2013 年 2 月 27 日発表した。島内の教員、保護者、地域の人に呼びかけ、約 130 人ほどが出席し、公開研究発表会を開いた。講師に国立国語研究所の本部副所長を招請して、示唆の富んだ助言をいただき、密度のこい研究発表会ができた。町教育委員会も全面的支援して成果は多かった。この成果を受けて、2013 年度は小学校の全校で 1 学年、年間 3 時間ほど八丈方言の学習を行うことになった。



左の写真は、当日のパネルディスカッションの様子で、パネラーには、地域のゲストティーチャーや保護者も入って、学校側だけでない立場からの意見も出されて、三原小学校の成果や課題も確認できた。

小学校なので、難しい理論より「島ことばは楽しい」という遊び感覚で方言を学習するという研究姿勢が成果をあげていた。また、研究テーマに「八丈方言の学習を通して、島や地域に関心をもつ子供の育成」を設定したので、三原小学校では、この研究を深めるにつれて学校と地域の距離が近づき、その敷居が低くなっていった。当初、八丈方言を話せない、理解できない教員の意識にも変化が生じてきた。地域の人と一緒に学んでいくことが大切であることをつかんだようであった。

2013 年度には、中学校の1校がエデュケーション指定を受けて、中学校での方言学習を研究し、成果を発表する。以降は島の全小中学校で、各学年 3 時間程度、実施することになる。島の全小中学生は、9 年間で合計 27 時間学習するということである。

⑦教職員研修会

島に赴任するほとんどの教員が、東京や本土からなので、八丈方言については全く知らない状態である。そこで、教職員対象に、都の教育庁八丈出張所と共催して、毎年夏に希望者向けの研修会を行っている。内容は、理論編と実施編を設け、講師には、方言話者を招いて、実際に声に出して学ぶ研修内容であり、八丈方言を身近に体験する機会となっている。

2. 社会教育（生涯学習）での取り組み

①八丈方言講座（4 年間に 6 回実施）

八丈方言の貴重さを知り、広めるために、島民向けに「八丈方言講座」を開催してきた。講師には八丈方言研究者金田章宏千葉大学教授をはじめ、専門的な人とともに、島の方言話者にも話してもらった。第 4 回には、同じ消滅危機言語地域の与論島から講師を招いた。毎回、島の方言

話者にも話をしてもらったことが、講座の参加者にとって身近であり、親しみやすい雰囲気をつくっている。島民の関心も高く、毎回平均 100 人～150 人程度受講している。しかし、地元出身の若者層（30 歳代～40 歳代）の参加者が少ないのが課題である。

尚、下の写真は、講座の時の写真である。



②八丈・島ことばカルタ大会（2 年間に 2 回実施）

島ことばカルタを作成したので、家庭や小学校、保育園で遊び感覚でカルタを楽しむ子どもたちの姿がみられた。そこで、小学生から高齢者を交えたカルタ大会を企画した。当日は、小学生の参加者が多かったが、保育園生、中学生、大人、高齢者も入り、なごやかに実施された。ルールは八丈島ルールで、絵札だけでなく読み札も並べ、絵札とともに取れるルールで、年齢別の部と交流の部と行っている。読み手には、各地域の人を呼び、その言葉で詠んでいる。小学生から高齢者まで同じ会場に集まり、楽しめるカルタ大会になっている。

高齢者の参加者からは「小学生と一緒にできてカルタができて、楽しかった」という感想がよせられている。2 回目からは、参加賞や賞品を用意した。



カルタ会の様子

③島ことば教室

実際の八丈方言を声に出して体験しようという企画で、方言話者を講師として招き、2012 年度に 3 回連続で実施した。各回ともに 20 人ほどの参加者があった。特に、島外から来て島に住みつけた人たちにとっては、初めての体験ができ、好評であった。

2013 年度には、30 歳代～40 歳代の親と子ども（祖父母と孫）との「親子島ことば教室」を企画した。

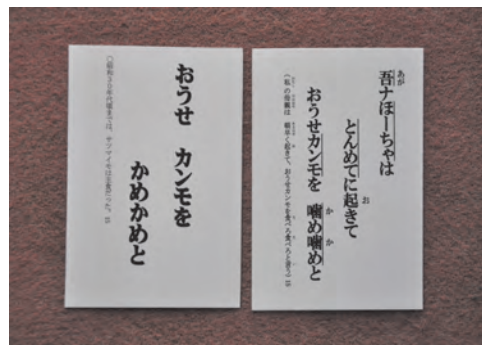
④八丈方言文法講座

八丈方言研究者の金田章宏氏(千葉大学教授)に、島民のために八丈方言の特徴である文法について、2 回にわたり講座を開講していただいた。島の人向けに平易に解説していただき、2 日間 6 時間の講義であったが、のべ 30 人ほどの参加者があった。



⑤八丈島の代表的な民謡「ショメ節」の歌詞 100 句の収集、作成

八丈島に昔から伝わる代表的な民謡「ショメ節」には、たくさんの八丈方言が入っている。この民謡は、かつては宴会の席上や盆踊りなどには、必ず歌われていたものであるが、最近はカラオケの普及等で歌われなくなってしまっている。そこで、八丈方言が入っている歌詞を収集して、100 句にまとめた。「ショメ節」は 7・7，7・5 形式の歌詞なので、上の 7・7，下の 7・5 の言葉に分けて詠むゲームとして考えた。いわゆる百人一首のルールである。老人会などで何回か開催したが、懐かしさのあまり一緒に歌いだす高齢者もいた。



⑥広がりをもせる取り組み

2009 年度からスタートした八丈方言を知り・広める活動であったが、島民に少しずつ知られようになり、理解者が増えてくると共に、島民の間に八丈方言を話すことが恥ずかしいという意識はなくなってきていることを感じる。

- ・高齢者劇団「かぶつ」(八丈方言 ダイダイの意)の方言劇の上演高齢者の芝居好きの素人の人達が集まり、八丈方言による芝居を上演している。高齢者演芸会や保育園・小・中学校で上演してきた。中でも、八丈民謡の「ベニ皿(じゃら)・カケ皿(じゃら)」は、東京での公演を実現した。2013 年 6 月には、「不思議なきのこ」という演目で山梨県の南アルプス市で行われた交流発表大会で演じた。
- ・マスコミが注目して取り上げてくれる機会が増えて、島民外にも活動が知られるようになった。活動を始めて 4 年経過するが、この間、数多くのマスコミが注目してくれて、メディアで八丈方言のことを取り上げてくれた。活動の様子を島だけでなく、島外にも知られるようになった。NHK、朝日新聞、東京新聞、ラジオ、雑誌などで紹介された。また、島の週刊ミニコミ紙「南海タイムス」にも、度々ニュースとして取り上げて、島民に取り組みを知らせてもらっている。



劇団「かぶつ」公演

「中日新聞」記事

3. これからの取り組みと課題

①「危機言語サミット」(仮称)の実施 2014年度予定

日本の8地域の言語が消滅の危機にあるという発表をうけて、その地域の人たちが集まり、その地域の実態を知り、これからの活動をお互いに支援しながら、横の連携とりあいながら、継承運動を進めていこうという会を2014年に八丈島で開こうと考えている。これまで、活動が八丈島という点であったのを、日本全体の面に広げるという発想である。その際には、文化庁、国立国語研究所、沖縄県、鹿児島県、北海道の関係者、各方言の研究者とともに開催できることを願っている。

＊開催予定時期 2014年12月

＊場所 八丈島

＊招請する地域 消滅危機言語の認定を受けた8地域

＊招請する予定者 1地域3人程度、各方言研究者(1人)

＊2013年度は、準備、広報活動。2014年度は、実施に向けての具体的な活動を行う。

②「島ことば(八丈方言)冊子」(全12ページ)作成、島民に全戸配布

2013年度 八丈方言の価値を全島民に知ってもらい、その文化を後世に伝えるために「島ことば(八丈方言)冊子」を作成、配布し、全島民の意識の向上を図る。

③課題

＊次世代に八丈方言を継承するための取り組み

「子ども世代が話さない」ということが、消滅にいたる道であるが、現状では、若い人(30歳代～40歳代の親世代)の意識がそんなに高くない。これらの世代が方言継承に関心を持ち、積極的に継承する担い手になっていく必要がある。そのためには、

1. 親世代への関心を引き起こす活動の提起
2. 現在八丈方言を話せる祖父母世代から、若い人や子どもたちへの継承

3. 子ども世代が、学校で習ってきたことを、家庭・地域に広める。

＊島民への意識の向上

「こんなことをするのは、懐古趣味である」「なくなってしまうのは、どうしようもない」という意見をもっている人に、八丈方言の価値と活動の意味を伝える活動を展開する必要がある、と同時に新しいアイデアを取り入れ、島民誰もが楽しめる企画を考えるとともに、日常的に島民が触れる機会をもうけられたらと思っている。

おわりに

八丈町の学校教育において、小学校では2013年度より1学年年間3時間、中学校では2014年度より1学年3時間 方言学習を始める予定である。八丈島で学んだ児童・生徒は合計27時間、学習することになる。学校から、家庭や地域に発信する体制ができるので、大いに期待するところである。家庭と学校と地域の中で、学校の役割が果たす役割は大きい。学校で学んできた八丈方言（島ことば）を子どもたちが父母に話し、分からない言葉などは、祖父母に聞く。そこで、祖父母の力を借りて、また子どもに還元させる。そのような循環が実現することは、可能であると思う。学校で学んだことを、家庭や地域で交流することにより、八丈方言のみならず、郷土を愛する児童・生徒に育っていくことを願っている。

最後に、八丈方言を知り・伝える活動のめざすことは、単に、方言の知識を増やすのではなく、島を愛することにつながり、島民に誇りをもつきっかけになると考えている。

島ことば普及活動経過

※2009. 2. 19 ユネスコの危機言語発表

八丈語——日本で一番古い日本語が残る

2013. 10. 08

	H21 (2009) 年度	H22 (2010) 年度	H23 (2011) 年度	H24 (2012) 年度	H25 (2013) 年度 (予定含む)
	＜演劇等＞ ・文化庁 (言語活動。H21 年度) ・文科省 (コミュニケーション能力向上。H22～24 年度) 国立国語研究所	○大賀郷小学校学芸会 1 SET (学校申請) ※SET＝スーパード・エキセントリック・シアター ※アス＝ 中野ケアセンター	○三原中学校歌づくり 5月石野田奈津代 2年生 (学校申請) ○三根小学校学芸会 11月～1月 アス 6年生 (学校申請) ○末吉小学校学芸会 12月～1月 アス 全校・オープニング (学校申請)	○大賀郷小学校学芸会 12月～2月 SET 4年生 (学校申請) ○大賀郷小学校学芸会 12月～2月 SET 4年生 (学校申請) ○大賀郷小学校学芸会 12月～2月 SET 4年生 (学校申請)	○三原小 (学芸会) 12月～2月 SET 4年生 (NP0 申請) ※大中と三原中が、方言ではなく体育・ダンスを申請
総合、国語学習 今週の島ことば 島内調査 夏期教職員研修 学校研究テーマ		富士中学校、小学校 No1～19	富士中学校、小学校 No20～58	富士中学校、三原小学校 No59～98 小・中・高校生語彙調査 748	三原小学校、三原中学校 No99～
		方言講座 2 回 7・8 月	方言講座 2 回 7・8 月	方言講座 1 回 7 月	方言講座 2 回 7・8 月
			○末吉小学校 (奨励校) ○研究指定校制度発足 H24・25 は方言取組	○研究指定校制度導入 (三原小) 2/27 発表会 パネルディスカッション	○八丈町教育研究指定校 研究 (三原中) 2/5 発表会・講演会 (講師：金田章宏)
	劇団「かぶつ」公演	○「大きなカブ」 小学校全校 (他に保育園)	○「ベニギヤとカガヤ」 全中学校と三根小 (図書館祭、東京公演、 保育園と老人会、地域)	○「ベニギヤとカガヤ」公演・ 三原小・青空保育園	○「ベニギヤとカガヤ」公演・ 大中小PTA・家庭支援センター ○「ふしぎなきのこ」公演・ 大中小以外の小・中学校、 南アルプス市公演
	カルタ作成 その他製作物	島ことば 100 作成	手作り → 正式印刷 熊雄さん民話 DVD (約 200 枚)	5 地域版作成配布 (700) 増刷 ○医療・身体にかかわる方言 一覧作成配布 (医療関係、老人ホームなど)	○八丈方言 (島ことば) 冊子 12 ページ 8000 部 ○メのつく言葉カード ○体の言葉等カード ○方言会話集

紙芝居	桃太郎・手作り (川上)	桃太郎・大判 (A3) サイズ	七七様 (川上)	
島民向け講演会 (八丈方言講座)	○講師—金田章宏 ・方言で語る 2009.11.28 85名参加	○講師—与論島・菊秀史 5人が語る、かるた紹介 151名参加 10.29 ○講師—国立国語研究所・ 木部、千葉大・金田、島の人 3月18日105名	○9月国立国語研究所調査時 講演会120名 ○島民向け方言教室6月20人 ○八丈方言文法講座 千葉大学金田章宏 (11月18名、3月10日・16 名)	○国立国語研究所調査結 果報告会・シンポジウム (第7回講座)11/9、 八丈高校視聴覚ホール 名 ○島民向け親子島ことば 教室7月13・14日(延べ 20人)、9月23日9人 ○八丈方言文法講座 (講 師：千葉大学金田章宏)
イベント	○図書館祭 (方言百) 7月	○図書館祭カルタ7/3 ○カルタ大会1月28日 競技73名、ギョラリ一等で 100以上	○カルタ大会1月20日、競技 50名、ギョラリ一22名、教委 等9名 (青少年委3名含む)	○カルタ大会1月13日 競技名、ギョラリ一 名、教委等名 (青少年 委 名含む)
老人会等		老人会でカルタ紹介	○老人会方言カルタ、ショメ 節カルタ	○老人会方言カルタ、ショ メ節カルタ 11/14、2/ 14 ○食育講演会での支援 10/20
町予算関係	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育	○学校教育 ○生涯教育
国などの調査等	東北大学 (?) アンケート		○国立国語研調査 (9月) ○琉球大学調査 (1月) ○方言シンポジウム 3/20、沖縄県立博物館・ 美術館 (パネラー：茂手木)	○国立国語研究所調査結 果報告会・シンポジウム 11/9、八丈高校視聴覚ホ ール
取材したもの その他	道徳地区公開講座	沖山恒子、川上清展 ○むつみ第2保育園方言劇 ○末吉庁祭 方言劇 ○観光協会ツイッター掲載		
取材されたもの	○「おれとじいちゃんの島こと ば」—NHK 3月放映 ○朝日新聞 (2回) ○ジパング ○南海タイムス	○「おじやいやれ運動会」 —NHK 12月放映 ○NPO 環境教育推進協 →You tube「方言ってなん だろう」 OMX テレビ2/8放映 ○南海タイムス	○NATIONAL GEOGRAPHIC ○東京新聞 ○中日新聞 ○朝日新聞 ○都政新報	○読売新聞

八丈語と八丈島の歴史

林 薫

八丈語は、他のどの地域にもない文法構造をもっている言語で、日本では古い日本語の要素を含んでいると言われている。この八丈語を歴史的に位置づけることは、他の地域の言語も同様だと思われるが、困難なことと言わざるを得ない。一般的に言って、普通の人が話す音声言語が記録に残ることは極めて稀である。また、記録が可能になったのは、文字が使われるようになってからであり、その場合、八丈島が記録に出てくるのはかなり遅く、それも稀だからである。従って、あまり要領を得ない、憶測の多い内容になってしまうが、言語的な観点を意識しながら、八丈島の歴史を綴ってみたいと思う。

1 八丈島の縄文・弥生と古代

1. 1 八丈島に存在する遺跡

八丈島における先史時代の遺跡には、分っているものとして、次のようなものがある。

＜湯浜遺跡＞ 八丈島で一番古い人間の足跡と言え、湯浜遺跡である。約7000年前の縄文時代のもので、竪穴式住居跡4（写真は1号住居跡）、石斧・叩き石・石皿・神津島産の黒曜石剥片などが出土した。土器は、原料の粘土が八丈産と思われる無紋厚手で脆い丸底深鉢形の物であり、本土との系統が分らないため、南方系ではないかなと言われたが、はっきりはしていないものである。ある程度の集団で渡って来たものと思われる。

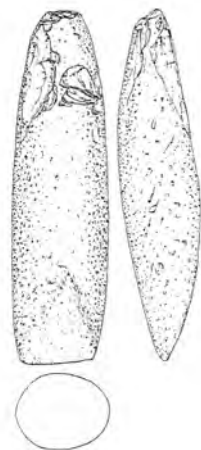


＜倉輪遺跡＞ 約6000年前のもので、住居跡2以上、人骨3体分（写真参照）、近畿関東系の土器、神津島産の黒曜石で作った矢じりや剥片、蛇紋岩製の装身具、大量のイノシシの骨、釣り針、その他石器類が大量に出土した。約200年間居住し、丸木舟で船団を組んで、他の島などと往来していたとも考えられている。



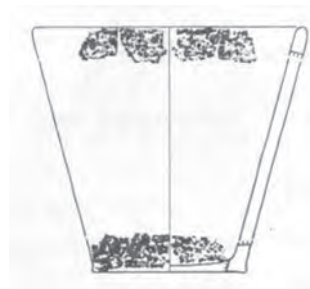
＜南方系石器の出土地＞ 出土地がはっきりしないため発掘調査もできないでいるが、島内各所から出土した、次のような石器群がある。すべて、弥生時代前期の物と考えられている。

①大型円筒石斧群で、琉球列島・五島列島・鹿児島県南部、そして、本州の太平洋沿岸地域に分布するものと共通性をもつ物（写真参照）。



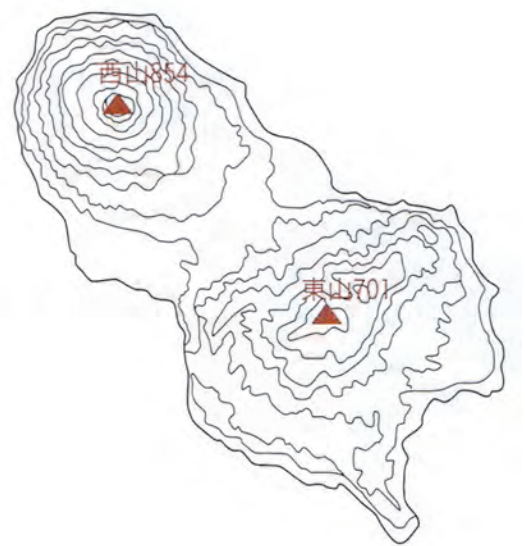
②小笠原・マリアナ諸島に多数存在するタガネ状石斧（これは八丈から移民した人が持ち帰った可能性もある）。③屋根型石斧で八重山諸島に特徴的に発見される物。これらは、意図的にやって来た者、漂流して来た者などによって持ち込まれた物であったであろうが、良く分かっていない。

＜八重根遺跡＞ 漁港の拡張に伴って、調査された遺跡である。第一文化層は、弥生時代後期から古墳時代前期のもので、掘立小屋の集落をつくり、地元の安山岩・玄武岩を使った多くの剥片石器を用い、魚介類の調理を行っていたと考えられる。また、多数の炉跡があることから、火熱を利用して魚介類の加工を行っていた可能性が高い。第二文化層は、古墳時代から奈良・平安時代のもので、神奈川県から来島し、百基近い炉を作って本格的な鰯加工工場を建設、地元の粘土を使って八重根式と言われる多数の煮沸用鉢形土器を製作し、鰯節製造等に利用していた。これらの産物がどのように流通したのかははっきりしないが、大量であることから島内消費のみだったかは疑問である。中国銭（太平通宝、天禧通宝）や糸紡ぎ用の紡錘車も出土している。第三文化層は、中世・近世のものであるが、ふいごの羽口などが出土している。また、江戸時代のものと思われる、大地震と大津波による、白い海砂が挟まった地割れも出ている。



＜火の渦遺跡＞ 平安時代の製塩遺跡である。使われた土器はバケツ形の物（図版参照）で珍しいことに西日本系ではなく、能登半島、佐渡島、津軽海峡、東北地方太平洋岸を通り、房総半島に達し、そこからの渡来集団によって持ち込まれたものと思われる。生産した人々や生産された塩がどうなっていたのかは、不明である。

これらの遺跡は、そのほとんどが三原山（東山）の地域に存在する。八丈島を構成している火山は2つあり、古い三原山は10数万年前から活動していたことが分っている。新しい八丈富士（東山）の活動は、約1万前から慶長10（1605）年までであり、八丈島はこの二つの火山が接合してできている繭形の島である。八丈島で活動していたこれらの古代人たちは、八丈富士の噴火活動が盛んな時代に活動しており、溶岩地帯で水もなく、噴火活動真っ盛りの八丈富士には近寄らず、三原山の地域で活動していたと思われる。



さて、これらの遺跡が、八丈島の遺跡を網羅しているとは考えられないものの、以上のことから、次のようなことが言えるであろう。八丈島は、かなり古い時代から、黒潮を乗り越えて、本

土などからの渡来人があった。縄文時代などは断絶した形での渡来であったが、弥生時代ぐらいからは、かなり定住的に生活していたのではなかったかと思われる。人の通常的な移動は、直接本土まで行ったとは思えないが、他の島との交流は一定程度あったのではなかろうか。

また、弥生時代以後でも、ある時期にまとまって渡来し、鰯節製造や製塩などを行っている事例もある。しかし、この人たちが残存したのか、移動していったのか、一部残存したのかは、不明である。

1. 2 縄文・弥生が残る島、八丈島

八丈語は日本語のルーツの一つと言われ、縄文時代の言葉の流れを汲んでいると言われているが、八丈島は、次のような、縄文・弥生の痕跡が残っている珍しい島ではないかと考えている。こんな小さな島に、こんなに多くの要素が残っている所はないのではないかと思うのである。

① 八丈にある高倉（写真参照）は、奄美や沖縄の高倉のように床から柱を立てる形式とは全く違い、柱が直接地面から屋根まで伸びるもので、弥生時代の登呂遺跡と同じ形式であると言われている。



② 八丈島にある、古代織と言われるカッペタ織りは、アイヌのアツシ織や沖縄のミンサー織と同様、機台をもたない古い形式の織物である。環太平洋の国々などで残っている所もあるようだが、日本ではこの3地域だけに残るのみである。ただし、現在のカッペタ織は、多^{そうこう}綜^{そうこう}統^{そうこう}で二重織になっているなど、後に付加されたと思われるものがあるので、かなり複雑な織物になっている。

③ 丹^{たなば}那^な婆^ば伝説と言われるものがある。海津波や山津波によって、ただ一人女性が生き残り、生まれた自分の子どもと夫婦になって、島の始祖になったという、母子交合伝説である。末吉地域は山津波で長い髪の毛が木の枝に絡んで生き残ったとし、他の地域は櫓に掴まって海岸に流れ着いたことになっている。日本に残っている始祖伝説できちんとした母子交合伝説は、八丈島だけだと言われている。沖縄などには兄弟婚は残っているが、母子婚の話はないようである。婚姻規制が強まる前の最も原始的な結婚形態を伝えるものであり、これは、東南アジアなどには残る伝説だということである。日本で最も古い婚姻譚と言える。（写真は明治時代に作られた丹那婆の墓）



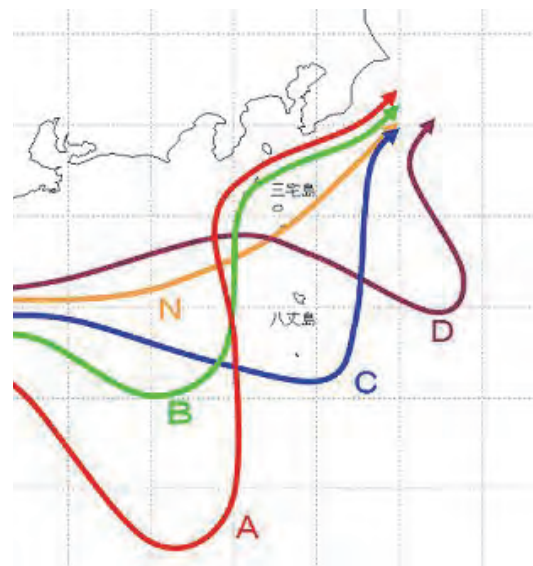
④ きちんとした文献記録では読んでいないが、八丈島の玉石垣（写真参照）や石場様信仰などは、古い南方系の遺産であるということを聞いたことがある。また、小田原北条氏の時代にわざわざ女性を差し出



して送ったという史実があるぐらい、八丈島は昔から美人が多いと言われているが、それは人種の系統が違うからだとか、八丈人の骨格を昔調べたら、古代人的な要素が強かったというような話もあるが、文献的には確認はしていない。

- ⑤ これは、単なる伝説かも知れないが、八丈には徐福伝説がある。秦の始皇帝の時代に、不老不死の薬を求めて、皇帝の命を受けた徐福が船団を組んで船出し、途中難風に遭って四散、500人の女兒を乗せた船は八丈島に、500人の男児を乗せた船は青ヶ島に辿り着いた。しかし、男女同棲は許されず、年に1度男が船で八丈島に渡って来て夫婦の契りを結んだという。この習慣を打ち破ったのは、大島に流された源為朝で、八丈まで侵出して来て男女同居の法を身をもって教えたという。

これらのことから言えるのは、海のもつ多様性・可能性・拒絶性である。海は、人や物の交流を促進するという側面と阻止するという側面をもっている。特に、世界最速と言われる黒潮（日本海流。図版参照）が流れ、御蔵島からの途中には島が存在しないという地理的条件の影響を強く受ける八丈島は、本土との行き来を制約する面が大きかったと思われるのである。現代であればエンジン付きの船であるが、古代などは丸木舟であるから、渡ってくるには、かなりの苦労があったものと思われる。こうした絶海の孤島であった八丈島は、その故に、日本では珍しい、「縄文・弥生が残る島」になったのである。（図版の N が通常の黒潮の流路。A～D は大蛇行の流路を表す）言葉は人とともに伝わって来るもので、文書などとともに伝わり流布するものではない。八丈語の基礎はいつごろ築かれたものであるかよく分らないが、定住性を考慮すると、多分、縄文末か弥生時代ごろなのかもしれない。



2 八丈島への人々の流入の歴史・・・八丈語に与えた影響は？

八丈語の基礎が縄文末・弥生時代にでき、また、八丈語の文法的な基礎は変化しにくかったとしても、語彙が、流入してくる人々によって影響を受けることは、当然考えられることである。これを時代に沿って見てみたい。

まず、中世以前で、八丈島が文献などに出てくることは非常に少ないが、次のようなものがある。

延喜式（延長5（927）年撰進，ウバイノミコトノ 康保4（967）年施行）に、八丈の優婆夷命神社、許志伎命神社が載せられている。両者は、事代主命コシキノミコトの妃と子どもことしろぬしのみこととされて、丹那婆伝説の丹那婆（種婆とも書かれる）とその子に比定され、過去には別々であったが、現在は優婆夷宝明神社（写真参照）



として合祀されている。同じく、延喜式の記載によれば、朝廷の行事として、亀の甲羅を焼いて吉凶を占う^{きぼく}亀卜が行われていたが、卜部は対馬から 10 人、壱岐から 5 人、伊豆から 5 人出仕していたという。伊豆というと伊豆半島も含む広い地域になるのだが、江戸時代であっても文献で亀卜が出てくるのは、八丈島だけなので、あるいはこの伊豆は八丈島のことかもしれない。幕末まで、檜立・中之郷地域では、亀卜が行われていたという。亀卜は、朝鮮系ではなく中国系の占いであると言われている。従って、これもまた、黒潮文化の産物であるのかもしれない。これらから、八丈島と中央政府との関係性があつたことは分るのだが、中央語と八丈語との関係性がどうだったかは、よく分っていないのである。多分、ほとんど関係性がなかったのではなかろうか。

次に、八丈島の島名由来になったと言われる、八丈絹に関係して考察してみたい。八丈絹とは長さが^{かぬじやく}曲尺 8 丈（24メートル）の絹織物ということであり、平安時代末から鎌倉時代にかけて各地に現れてくるものである。従って、そのころに、八丈島も長さ 8 丈（通常の織物は長さが 4 丈）の絹を産出していたと思われるのである。八丈絹というのは、特殊な価値の高い絹織物を言うのであり、八丈島に絹織物の高い技術があつたことを意味することになる。奈良時代には、朝鮮から帰化した秦氏（織物が得意だったという。服部氏等の祖）などが武蔵の国などに入植させられ、絹織物を発達させたと言われている。例えば、埼玉県高麗神社は高句麗国（667 年に滅亡）の高麗若光王を祭神とするが、日本の中央部（近畿圏）には受け入れてもらえず、神奈川県の大磯（大磯の高来神社の祭礼はそれを模したものである）に上陸し、先行した韓人が多くいた武蔵の国に入ったという。これは、当然、一定の人数の集団だったのである。また、奈良朝廷などは、絹織物の生産量を上げるために、地方の桑の木の植栽目標を立てたり、国衙で絹織物の生産を行わせたり、そのための技術指導員を地方に派遣したりしている。そうしたグループが、八丈に遭難して上陸したようなことがあつたのではないかと、と思われるのである。一定の人数の技術の高い集団がくれば、言語的に一定の影響は出てきてもおかしくないし、専門用語は当然そのまま定着すると思われる。

さらに、鎌倉時代以後は、鎌倉幕府や神奈川（今の横浜）の奥山氏、小田原北条氏などが八丈島を支配した。宗主地との交流や支配者として派遣された神主や代官、また僧侶などの影響である。支配者として派遣された人々は、人数としては多くなくとも、支配者として来ているので、当然影響はあつたはずである。江戸時代にあつては、八丈島のみ寛文 9（1679）年まで派遣された代官が島を支配していたが、遭難な



どが多いため、代官手代が派遣されるようになり、その後享保 8（1723）年から島人の有力家に地役人として支配させるようにした。本土から代官や手代が派遣されて来ていた時は、そうした人々の言語的影響はあつたであろうと思われる。（写真は、江戸時代の支配者がいた陣屋跡）

よく、流人の影響が言われるが、あまり影響していないのではないかとと思われる。八丈島の、慶長 11（1606）年から明治 4（1871）年までの流人総数は 2000 人弱であるが、一番多い時の在島数は幕末で 350 人ほどである。流人はあまり尊敬の対象にはなっておらず（宇喜多秀家でさえ、尊敬の対象にはなっていない）、初期の流人は極端に少なく、また、同じ地域から集団で来ているわけでもない。影響が考えられる具体的な事例や語彙もよく分っていないので、憶測で

あるが、そのように思う。ただ、本土への憧れのようなものはあったようであるから、一定の影響はあったのかもしれない。

漂流民は非常に多いのだが、ずっと島にいない例が多いので、どの程度影響があったであろうか。八丈に残る民謡などは、流人より漂流民の影響の方が大きいと思われる。ちなみに、元禄 14 (1701) 年の八丈島の人口は、3065 人である。大賀郷・中之郷と郷のつく集落は古代らあったであろうが、三根村・檜立村・末吉村などは、江戸時代に分村したと言われるので、当然、中世以前の人口はもっと少なかったであろう。どれぐらいの母集団に対して、どれほどの集団が来ると影響が出てくるのだろうか。単純な数の問題ではないと思うが……。源平の争いや南北朝の対立などの時にも、八丈に移動・漂着した人たちがいたようだが、どういう影響があったのか、なかったのかは、よく分らない。

ただし、特徴的なことでは、コック場（台所）やカノー（カヌーの八丈方言。写真参照）といった言葉が入って来ていることである。これは、明治9年から始まった小笠原の開拓に、八丈島から多くの人々が参加し、その人たちが明治時代末や大正時代に小笠原の文物を持ち帰ったものの中的一个であると考えられている。このような事例から考えると、ケース・バイ・ケースで、何かのきっかけで残る語彙もあるということである。関連して言えば、小笠原や南大東島の開拓には八丈島の人々が大きく関わっており、そうした所にも八丈語の残滓が現在でも存在する。



明治時代末ぐらいから房総半島などより、春のトビウオ漁に大勢（500 人とも言われる）出稼ぎに来たり、そのまま住みついたりしたことがあった。漁業者の中に、その言語的な影響はあるようだが、一般の人々への影響はあまり感じられない。漁具の一種・すかりなどは、一般化しているが、これなどは、こうした導入語になるのであろうか。

なお、一般家庭で八丈語がほとんど使われなくなってしまった現在では考えられないが、東兵エじい（大酒飲みの人）、^{うんすけ}運祐じい（大声の人）、清兵エじい（大食いの人）など、特徴のある人の個人名が方言になり、他地域でも使われるといった事例もある。狭い社会だからありえるのだと思うが、面白いことだと思っている。現在八丈島に生きている人でも知っているレベルの言葉であるが、こうした言葉が、出て来ては消え、出て来ては消えていたのであろうか。地名などでも、個人名のついた浜や大石、土地の名前があるが（例えば、郵便局長が事故にあったから、局長^{ばま}とか）、そういった個人の事件等にかからんだ名称だと思われる。これも一種の方言になるのではなかろうか。

方言の定義をどう考えるかによるが、共通語と違うことを言うのか、あるいは、八丈だけで使われていることを言うのか、様々な考え方がありうると思うが、共通語と違うという観点で考えるならば、他地域との共通性はかなりあることになり、語彙などの伝播はそれによって推測できると思うが、いつ・どのようにということを知るのはかなり難しいのではないかとと思われる。

参考文献

浅沼良次 (1965) 『八丈島の民話』 未来社

- 石田英一郎 (1984)『桃太郎の母』講談社学術文庫
厳原町史編集委員会 (1997)『厳原町史』
大間知篤三 (1951)『八丈島 ―民俗と社会―』東京創元社
小田静雄 (2005)「八丈島の先史文化」国学院大学考古学資料館『国学院大学 考古学資料館紀要』
金達寿 (1986)『古代朝鮮と日本文化』講談社
近藤富蔵 (1964-) 緑地社版『八丈実記』
東京都教育委員会 (1984)『八丈島湯浜遺跡』発掘調査報告書
東京都八丈町教育委員会 (1987)『東京都八丈島倉輪遺跡』発掘調査報告書
東京都港湾局・八丈島八重根遺跡調査会 (1993)『東京都八丈島八丈町八重根遺跡発掘調査報告書』
東京都八丈町教育委員会 (1991)『火の潟遺跡』発掘調査報告書
角山幸洋 (1968)『日本染織発達史』田畑書店
永原慶二 (2004)『苧麻・絹・木綿の社会史』吉川弘文館
八丈町教育委員会・(株)文化財保存計画協会 (2009)『東京都指定有形文化財(建造物) 高倉
(六脚倉) 保存修理工事(移築) 報告書』
山田平右エ門 (2010)『消えていく島言葉』郁朋社
山本節 (2010)「東京都八丈島八丈町におけるタナバ(丹那婆)の伝承」西郊民俗談話会『西郊民
俗』210

八丈方言調査データ

八丈方言基礎語彙データ（音声記号表記）

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-001	頭（あたま）	tsubuuri (里芋の種イモも)	tsubuuri	tsubuuri / atama (新)	tsubuuri	tsubuuri ~ tsübuuri (頭脳、里芋の種イモ)
H-002	髪の毛	tsubuurinoke / tsubuurinokebu eo	kebico	atamanoke / kaminoke	tsubuurinoke	kaminoke / tsübuurinoke
H-003	つむじ	tsumuɰɰi ~ tsumuɰɰi	tsumuɰɰi ~ tsumuɰɰi	tsumuɰɰi / tsumuɰɰi / uɰɰu	tsumuɰɰi	tsumuɰɰi ~ tsümüɰɰi
H-004	ふけ	ɸɸuke	ɸɸuke	ɸɸuke	ɸɸuke	ɸɸuke
H-005	白髪（しらが）	eaga / eiraga	eaga	eaga (eaga ni narui 白髪になる) / eiraga	eoäga	eaga (eagaga eikkaridaqano 白髪が多いね)
H-006	目（め）	mentama / manako	manako	manako	medama (全体を指す) / manako	manako (manakoga jamek'a 目が痛い)
H-007	眉（まゆ）	majuɰe / mami / mamige / me:ge /	mamige / mami	maju / majuɰe / mami	maju / majuɰe / mamige	majuɰe (mamige まつげ?)
H-008	額（ひたい）	ɕite:	ɕite:	ɕite:	ɕiteä	ɕitea:
H-009	鼻（はな）	hana	hana	hana	hana	hana
H-010	鼻血（はなぢ）	hanadzi	hanadzi / hanazi	hanazi / hanadzi	hanadzi	hanazi
H-011	耳（みみ）	mimi	mimi	mimi	mimi	mimi
H-012	口（くち）	kɸɸtei	kɸɸtei	kɸɸtei	kɸɸtei	kɸɸtei
H-013	唇（くちびる）	kɸɸteibiru	kɸɸteibiru	kɸɸteibiru	kɸɸteibiru	kɸɸteibiru
H-014	舌（した）	eɕta / bero (古)	bero / eita	kɸɸteibero / bero / eɕta	eɕta / kɸɸteibero (昔こう言ったかも)	eɕta / bero
H-015	歯（は）	ha / nuukaba (抜けている歯)	nuukaba	ha / nuukaba	ɸüä / nuukaba (全ての歯)	nuukaba
H-016	歯茎（はぐき）	hagu / haguiki	hagu:ba / haguiki	hagu / haguiki	haguiki	haguiki
H-017	顎（あご）	ago / otoge: (あご先)	otoge: / otogei (アゴ全体のこと)	otoge: / ago	ago / otogä	otagä: / ago / agu (aguga harete あごがはれて)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-018	髭 (ひげ)	çige / hege (古) / ho:çige	çige / hege	çige	çige	çige
H-019	毛 (け)	ke / kebueo	kebego / kebieo	ke	ki (髪の毛も体 毛も)	ke / kebiei (脇毛 や陰毛) / kebueo (どうもろ こしのひげ)
H-020	顔 (かお)	tsura (古)	tsura	tsura (古) / kao	kao	kao / tsura (乱 暴な言い方)
H-021	首 (くび)	kuubi / nodo (前)	kuubi	kuubi	kuubi	kuubi
H-022	肩 (かた)	kata / ke:na	kata / ke:na	kata / ke:na	kata	kata / ke:na (古)
H-023	胸 (むね)	muune / muuneutei	muune	munaita (～が厚 い, ～が痛い, 全体 に使う。心臓・胃 などにも) / muune	munada	muune
H-024	乳 (ちち)	teitei / oppai	oppai	tei / oppai	oppai / teitei	oppai (「牛の搾 乳」は teiteieiboriとい う)
H-025	腹 (はら)	çara ~ hara	hara	hara	çarõa	hara
H-026	背中 (せな か)	ke:na / hedaka	hedaka	hedaka / hadaka (古) / senaka (新)	hedaka (背中全 体: 肩から腰ま でを指すか) / k'a:na (背中上 部を指すか「一 ヲ モム」)	senaka / hedaka
H-027	肝 (きも)	kimo / ðuugi (内 蔵全体)	kimo	kandzo: / kimo (魚 の肝, 人間には言 わない)	kimo	kimo / ðuugi (魚 のはらわた)
H-028	臍 (へそ)	heso	hetteogo	heso / hessogo	hetteogo	heso / hetteogo (古)
H-029	腰 (こし)	koei	koei	koei	koei	koei
H-030	尻 (しり)	eimbeta	eimbeta	eiggeta / eiri	eibbeta	oeiri / eibbeta / eirippeta / eippeta
H-031	肛門 (こうも ん)	ketsunoana / ko:mon (新)	kikuunogomon / ko:mon	kusomari (kusomari jameru 肛門が痛 い) / ko:mon	NR	ko:mon
H-032	手 (て)	te / tembo: / tambo:	te	te: / çira: (拳) / tabbo: (物をもら うときの手の形)	te	te / tabbo ~ tabo: (手の平)
H-033	腕 (うで)	uude	uude	uude	uude (手首まで)	uude
H-034	肘 (ひじ)	çi ^d zi ~ çidzi	çi ^d zi / çizi	çizi ~ çidzi	çidzi	çizi

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-035	力 (ちから)	udeppuwei / teikara	teikara	NR	teikara	teikara / udeppuwei ga tsūjoi (力がある)
H-036	拳 (こぶし)	geŋkotsu / geŋko	geŋkotsu / kobuwei	kobuwei / geŋko / geŋkotsu	geŋko (こぶしそのもの) / geŋkotsu	kobuwei / geŋkotsu
H-037	筋 (すじ)	studzi	suizi	suizi ~ sudzi / eizu	sudzi	suizi ~ süzi
H-038	指 (ゆび)	jubi / ibi (古)	jubi / ibi	jubi	jubi / ibi	jubi
H-039	爪 (つめ)	tsume	tsume	tsume	tsume	tsume ~ tsūme
H-040	足 (あし)	aei / acinoke:na (足の甲)	anaçita (足のうら) / açi / aei	aei / akke: (靴を履く部分) (akke: bozi 大きい足)	aei	aei (aei で全体)
H-041	腿 (もも)	ɸɯtomomo / ɸutohagi / momo	ɸɯtomomo / ɸutohagi / momo	momo / ɸuatomomo	momo	momo / ɸtomomo
H-042	股 (また)	mata	mata	mata / mataçita	mataguura	mata
H-043	膝 (ひざ)	çidza ~ çidza	çiʔzakabuura / tsugume	çizakabu / çiza	çidza / çizakambuuri (古)	çiza / çizakabuura
H-044	くるぶし	ke:buei / kuruwbuei	kuruwbuei	ke:buei / kuruwbuei	ki:buei	kuruwbuei
H-045	脛 (すね)	suune / akke:	suune	hagi / suune / akke: (古)	hagi/ suune	suune ~ süne
H-046	ふくら脛	komuuna / ɸukurahagi	ɸɸkurahagi	hɸkurahagi / ɸukurahagi	NR	kobuura (kobuura ga çikkatamatta 足がつつた) / ɸkurahagi
H-047	踵 (かかと)	kakato (akke: アキレス腱)	akke: / akkei	akke:/ bozi / kakato	akke:	kakato / akkei (古)
H-048	体 (からだ)	karada	karada	gake: / karada	karada	karada / taikaku
H-049	背丈 (せたけ)	se: / setake	setake	se	sei	uwaze (uwazega aru 背が高い)
H-050	骨 (ほね)	hone	hone	hone	hone	hone
H-051	皮 (かわ)	kawa / ko:be	kawa / ko:be	kawa / ka:	kūa (果物の皮も)	koa:be / kawa
H-052	ほくろ	hokuro	kɸsube	hokuro (「あざ」 aza は幼児の尻にあるもの)	hokuro (「あざ」 は aza ~ azōa)	kɸsube (kɸsubega eikkari aroza (ほくろがたくさんあるね))

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-053	涙 (なみだ)	menada / namida (新)	menada	mɛnada / namida	mɛnada	menada / namida
H-054	声 (こえ)	koe	koe / koi	koe / koi	ki:	koe
H-055	息 (いき)	iki	iki	iki	iki	iki
H-056	咳 (せき)	seki	seki	seki	ɕiki/ seki	seki
H-057	唾 (つば)	tsubaki / tsuba	tsubaki / tsuba	tsuba / tsubaki	tsuba/ tsudaki	tsuba / tsudaki (古)
H-058	あくび	akuubi	akuubi	akuubi / akuubi:	akuubi	akuubi
H-059	涎 (よだれ)	jondare	jondare	jondare / jodare	jodare / joddare (古)	jodare / jodɔ̃dare
H-060	屁 (へ)	he	he	ɕi:ri / ɕi:ri: (古) / onara (新)	ɕi:ri	he:ri / ɕi:ri (ɕi:rjo heru 屁 を放る)
H-061	糞 (くそ)	uŋko / kuso / hedda (鳥の糞)	uŋko/ kuŋso	kuŋso / uŋko	nitto	nitto (nittoo maru 糞をする)
H-062	尿 (にょう)	ɕomben / jombari	ɕomben / jombari	ɕomben	ɕomben / jobbari (古)	ɕo:ben / ɕomben / jobɕari (jobɕario suɾu おしっこをする)
H-063	おでき	jombe / jambe (すりきずがうん だもの)	jambe	NR	jabbe	kizü
H-064	たんこぶ	taŋkobu	taŋkobu	taŋkobu	taŋkobu	taŋkobu
H-065	汗 (あせ)	ase	ase	ase	ase	ase (hoto:ru「暑 くて」)
H-066	垢 (あか)	aka	aka	aka	aka	aka
H-067	怪我 (けが)	kega (kego: 怪 我を)	kega (kego: ɕita:no (ケガを したの))	kega	kega	kega
H-068	病気	jonde (動詞) / jandarowa (病気 になる)	jami / bi:ki	bi:ki / jamu: (動 詞、結核などで長 く病床にある人を jamihoroke とい う)	jami / jamibi:ki	jamu (動詞、病 気になる) / bi:ɕin (病気が ちの人)
H-069	血 (ち)	tei	tei	tei	tei	tei
H-070	傷 (きず)	kizuu	kiʔuu / kizuu	kizuu~kidzu	kizuu	kizuu~kizü
H-071	薬 (くすり)	kuɕsuri	kuɕsuri	kuɕsuri	kuɕsuri	kuɕsuri~ kuɕsüri
H-072	灸 (きゅう)	okiu:	küu:	okiu: (灸に使うモ グサは mogusa)	küu:	küu:
H-073	命 (いのち)	inotei	inotei	inotei	inotei	inotei
H-074	木 (き)	ki	ki	ki	ki	ki

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-075	葉 (は)	happa	happa	ha (~oteru 葉が落ちる) / happa	happa	happa
H-076	枝 (えだ)	eda	eda	eda / edaburi (たくましい枝について)	eda / jeda	eda
H-077	梢 (こずえ)	kozuue	kozuue	NR	tondzaki	NR
H-078	実 (み)	mi	mi	mi	mi	mi
H-079	根 (ね)	ne: / nekkō	nekkō	nekkō / nokko	ne / nekkō	ne / nekkō
H-080	草 (くさ)	kusa (kusa: 草を) / tanari (雑草)	kūsa / kuuso: (草を)	kūsa	kūsa	kūsa
H-081	花 (はな)	hana	hana	hana / e:taba (明日葉)の呼び名: taro:bana (一番良い花) / ziro:bana (二番目に良い花) / saburo:bana (三番目に良い花)	hana	hana
H-082	種 (たね)	tane	tane	tane	tane	tane
H-083	苗 (なえ)	ne: (ne:je: 田植え)	ne: / nae	ne: / nae	nāa	nae / nāa:
H-084	稲 (いね)	tabu	ne:/ ine/ tabu	ine / okabu (陸でとれる稲)	ine/ ine (植えるとき) / tabu (刈るとき)	ine
H-085	穂 (ほ)	ho	inaho	ho	NR	tabu か (tabukari 稲刈り)
H-086	米 (こめ)	kome	jone / kome	kome	kome	kome
H-087	粃 (もみ)	momi	momi/ momio (粃を)	momi (momigara 粃殻)	momi (「粃殻」は momigara)	momi
H-088	麦 (むぎ)	muugi	muugi	muugi (muugigara 麦殻)	muugi	muugi
H-089	藁 (わら)	wara / inawara	wara	wara	wara	wara
H-090	麦わら	muugiwara	muugiwara	muugiwara	muugiwara	muugiwara
H-091	茅 (かや)	kaja	kaja	kaja (屋根葺き用)	kaja (希)	kaja
H-092	粟 (あわ)	awa (w は弱い)	awa	awa / a: (a:meci 粟飯)	awa (希)	awa (粟は島にはない)
H-093	稗 (ひえ)	çie	hie	粟と区別なし	NR	島にはない
H-094	芋 (いも)	imo (里芋)	imo (里芋)	imo (里芋のこと) / teingo: (小振りの里芋)	imo (里芋)	imo (里芋)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-095	甘藷（さつまいも）	kammo	k ^h ammo	sa ^h suma / kane ^o : (sa ^h sumaimo は内地の人か)	kane ^o / kammo / d ^z iki: (古)	sa ^h suma ~ sa ^h suma (sa ^h suma kamoka サツマイモ食べようか) ('さとうきび'はkane ^a)
H-096	豆（まめ）	mame	mame	mame	mame	mame / d ^z iku ^u guri
H-097	きゅうり	k ^h u:ri	k ^h u:ri	k ^h u:ri	k ^h u:ri	k ^h u:ri
H-098	蓬（よもぎ）	jomogi	jomogi	jomogi	jomogi	jomogi
H-099	菜（な）	nappa	nappa	na / nappa (大根の葉、カキナの葉)	nappa	nappa
H-100	大根（だいこん）	de:ko	de:ko / dza:ko	de:ko	d ^h ia:kon	dza:ko
H-101	冬瓜（とうがん）	NR	to:gan	NR	to:gan	to:gan
H-102	かぼちゃ	kabotea	kabotea	kabotea	kabotea	kabotea
H-103	瓜（うり）	uri / eima ^u uri	uri	uri	uri	uri (まくわ瓜)
H-104	萰（にら）	nira	nira	nira (島にはなかった)	nira (近代的、最近のもの)	nira
H-105	茸（きのこ）	kinoko	kinoko	kinoko (しいたけ ei:take (自生)を指した)	kinoko (種類で言うのが普通)	kinoko / ei:take 「しいたけ」
H-106	きくらげ	mimidabu ^u	kikurage	dabumimi	dabumimi	mimitabu ^u / dabumimi
H-107	とうがらし	tongaraci	tongaraci	tongaraci	tongaraci	to:garaci ~ tongaraci
H-108	にがうり	NR	nigau ^u ri	NR	NR	nigau ^u ri
H-109	胡麻（ごま）	goma	goma	goma	goma	goma
H-110	苺（いちご）	iteigo / abi (野いちご)	iteigo / abi (のいちご) / denkiabi (のいちごの一種)	abi	abi	abi (山いちご)
H-111	黴（かび）	kabi	kabi	kabi	kabi	kabi
H-111	麴（こうじ）	ko:d ^z i	ko:z ^h i	ko:zi ~ ko:d ^z i (酒造・味噌に)	ko:zi	ko:zi
H-112	ソテツ	sotetsu	eamembana	sotetsu	sotetsu / goeamembana とも	sotetsu (eamembana ソテツの花)
H-113	松（まつ）	ma ^h su	ma ^h su	ma ^h su	ma ^h su	ma ^h su
H-114	竹（たけ）	take	take	take (「筍」は tako:na:)	take (「筍」は tako:na)	take

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-115	梅 (うめ)	ume	ume	ume	ume	ume
H-116	桃 (もも)	momo	momo	momo	momo	momo
H-117	桑 (くわ)	kanoki (桑の木) / kabe: (桑の葉) / kanomi (桑の実)	kabe: / kabei	kanoki (桑の木) / kabe: (桑の葉)	kanoki (桑) / kabia (桑の葉)	kab'a: (桑の葉) / kab'a:noki (桑の木) / kab'a:batake (桑畑) / kanomi (～の実)
H-119	すすき	susuki	susuki	susuki	magusa (牛の餌にする)	susuki
H-120	びろう樹	biro: / eironoki	kuba	biro:	birou	biro:
H-121	ミカン	mikan	mikan	mikan (種類別に komikan, unɛu:, bakanari とも)	mikan	mikan
H-122	茎 (くき)	kuki	kuiki	kuki	kuki	kuki~kuiki
H-123	あおさ	NR	aosa	NR (hamba 海藻 の一種)	aosa	島にはない
H-124	モズク	NR	mozukuu	NR (budo: 海藻 の一種)	NR	島にはない
H-125	藻 (も)	mo (種類に budo, hamba (nori), nori, tosaka, komonoha)	mo	mo / mo:	mo (希) / teŋguusa (テングサ)	kaiso: (種類に budo, tosaka, hamba, nori (岩のり), teŋguusa)
H-126	イカ	ika / ikame	ika / ikame	ika / ikame	ika / ikame	ika / ikame
H-127	タコ	tako / takome	tako / takome	takome	tako / takome	tako / takome / n'okkome
H-128	エビ	ebi / ebime	ebi / ebime	ebi / ebime	ebime / ebi	ebi / ebime
H-129	ウニ	uni / ɖaru (トゲ がないバフンウニ)	uni / unime	unime (食べない)	uni (-me は付かない)	uni / irakazi (ウニの仲間、トゲばかりで食べられない) / ɖaru ~ɖaruzaru (ウニの仲間、トゲが無いバフンウニ、食べられる)
H-130	ウニの身	mi	NR	NR	NR (食べなかった)	uni / nakami
H-131	貝 (かい)	kai (ke:go: トコ ブシのから)	kai (abuiki あ わび)	総称はない。 metto: (高瀬貝) / eitadami などと種 類別に言う	kia:go: (トコブシ の貝殻のこと。 貝の総称はな く、種類で言う のが普通)	kai (ke:go:「貝 殻」)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-134	巻き貝	çittaka (岩に付く小さいもの) / metto: (ボタンを作るのに使う)	çitadami	NR (タニシはいない) / çitadami (çirami ミミガイ科の一種)	çitadami	metto: (gai) (巻き貝の一種)
H-132	カメ	kame / kameme	kameme	kameme	kameme / kame	kame / kameme
H-133	カニ	kanime	kanime	kanime / garimame	kanime / ganime	kani / kanime
H-135	魚(さかな)	jo	jo	jo / sakana	sakana / jo / ijo	jo (jo: tsuri iko:gon 魚を釣りに行こうか)
H-136	うろこ	kokedza / uroko	koke ^ɕ za / uroko	uroko/ uroko: / koke	koke	uroko / kokera
H-137	ウナギ	unagi / unagime	unagi / unagime	unagi / unagime	unagi	unagi (nadame ウツボか)
H-138	クジラ	kuudzira	ku ^ɕ zira / kuuzira	kuuzira	kuudzira / kuudzirame	kuuzira
H-139	カツオ	katsuu:	katsuu:	katsuu: (古) / tatsuo (新)	katsuu:	katsuo/ katsuu: ~katsü:漁師言葉)
H-140	トビウオ	tobijo / tobi	tobijo (tobime tsuri ikogo:N 「トビウオ釣りに行こう」)	tobijo	tobijo	tobi
H-141	イルカ	irukame / iruka	iruka (me は 付けない)	iruka	iruka	iruka
H-142	ナマコ	umidzimpō (海のチンポ)	namako (me は 付けない)	umedzippo	namako	namako
H-143	ヒトデ	çitode	çitode (me は 付けない)	çitode	çitode	çtode
H-144	ヤドカリ	okagani / kanagome	jadokari (me は付けない)	NR	kanagame	NR
H-145	牛 (うし)	ueime / zoku / zokume / zokku / zokkume (雄牛) / bokko / bokkome (大きな雄牛) / bame (雌牛) / teonkome (子牛)	ueime / zoku / bame / zokume	ueime / teonkome (子牛)	ueime	ueime / dzokku / dzokkume (雄牛) / bame (雌牛) / teonkome (赤ちゃん牛) / teo:semme (朝鮮牛?, 赤い牛)
H-146	馬 (うま)	umame	umame	umame	umame	uma / umame
H-147	ヤギ	jagime	jagime	jagime / osujagi (雄山羊)	jagime	jagime
H-148	豚 (ぶた)	butame	butame	butame	butame	butame

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-149	角 (つの)	tsuno	tsuno	tsuno	tsuno	tsuno～tsūno
H-150	とさか	tosaka	tosaka	tosaka (馬のたてがみとしてはない)	tosaka	tategami / tosaka
H-151	犬 (いぬ)	inuume	inu / inuume	inuume	inuume	inuume
H-152	猫 (ねこ)	nekkome	neko / nekkome	nekkome	nekkome	nekkome / konekko (子猫)
H-153	ウサギ	usagime	usagi / usagime	usagi / usagime	usagime	usagime
H-154	ネズミ	nedzumime / nedzumi / jorunoçito (古)	jomedono / nezuumi	nedzumi / nezumime / jomedono (古)	nedzumi / jomedono	nezuumi
H-155	虫 (むし)	muueime	muuei / muueime	muuei / muueime	muueime	muueime
H-156	アリ	arime	ari / arime	arime	arime	arime
H-157	蚊 (か)	kabume	kabume	kabume / ka	kabume	kabume
H-158	蜘蛛 (くも)	kumome / tonɕzarume (蜘蛛の一種)	tonɕzarume / to:zindzaru / to:zindzaru	tenjome	tenjome	kumo
H-159	クモの巣	kumomenosui	tonɕzarumeno sui / kumonosui	kumonosui / tenjomenosui	adzi	kumonosui
H-160	蝶々 (ちょうちょ)	teo:teome / hetteome / he:rume (大きなハエ)	teo:teo / teo:teo:me	teo:teome / teo:teo	teo:teo	teo:teo / teo:teome
H-161	カタツムリ	katatsumuri / dendemmuei	katatsumuri / dendemmuei	katatsumuri / dendemmuei (昔は食べたかもしれない)	dendemmuei	katatsumuri / dendemmuei
H-162	カエル	kaerume	kaerume / kia:rume	kaerume	kia:rume	kaerume / kia:rume (古)
H-163	蜂 (はち)	hateime	hateime / hatei	hatei / hateime (蜂の種類 abume, bujome (牛を襲う))	hateime	hatei / hateime
H-164	蠅 (はえ)	he:me	he:me / he:	he:me	ça:me	ça:me
H-165	蛆 (うじ)	udzimuei / udzime	udzime	udzi / uzime	udzime	uzime
H-166	蚤 (のみ)	nomime / nomme	nomme / numme	nomi / numme	nummi	nomi / numme

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檣立
H-167	ミミズ	memedzu / memedzume	memeɰzume ～memezume	mimidzu / mimizume	nenedzume	mimizume / memezu / nenezume
H-168	シラミ	ɕamme～ɕamme	ɕamme	ɕamme	ɕamme	ɕamme (me は付 かない)
H-169	ムカデ	gedzixedzi / muɰkadzime / mukade	muɰkaɰzime～ mukazime	muɰkade / mukademe	muɰkadzime	mukazime
H-170	蚕 (かいこ)	konasama	konasama	konasama (尊敬 語)	konasama	konasama
H-171	カマキリ	kamakiri (ke:bio:me とか げ)	kamakiri	kamakiri (-me は 付かない)	gembi:me	kamakiru
H-172	トンボ	tombome	hetɕome / hettsome	tombo / tombome	hetɕome	tombo / tombome
H-173	バッタ	battame	batta / battame	battame	battame	batta/ battame / battami
H-174	鳥 (とり)	torime	torime	torime / 「キジ」は kizime (戦後入れた。 今は害鳥)	torime	torime
H-175	ニワトリ	nʲattorime	nʲattori / nʲattorime / to:to:me	nʲatorime	nʲattorime	nʲattorime/ to:to:me (昔)
H-176	とさか	NR	tosaka	tosaka	tosaka	NR
H-177	雀 (すずめ)	suɰdzume～ suzume	suɰɰzume / suzume	suɰdzume / suzumeme	suɰdzume	suzume～ süzume
H-178	鳩 (はと)	hattome / hatome / hato / eo:tome (古)	hatome	hatome	hatome	hatome
H-179	カラス	karasume	karasume	karasu / karasume	karasume	karasume～ karasume
H-180	ウズラ	uɰdzura / uɰdzurame	uɰzurame	NR (子供の頃は いなかった)	NR	uɰzura (me は付 かない)
H-181	鷹 (たか)	takame (tombi / tombime トビ)	taka (tombime トビ)	taka (niceme トン ビ)	ni:ɕemme	taka (「鷹」は tombime)
H-182	卵 (たまご)	tamago	tamago	tamago	tamago	tamago
H-183	巣 (す)	su	su	su	su	su
H-184	羽 (はね)	hane	hane	hane	hane	hane
H-185	動物	do:butsu	ikimono	o:butsu	NR	ikimono / do:butsu
H-186	空 (そら)	sora / tenne:	sora	sora / tenni	tenʲni:	sora
H-187	日 (ひ)	çi	çi	çi (日付け) / oçisama / tento:sama (古)	çi	çi / tento:sama も 使う

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-188	太陽	tento:sama	tento:sama / taijo:	çi / taijo: / oçisama	tento:sama	tento:sama
H-189	光 (ひかり)	çikari	çikari	çikari	çikari	çkari
H-190	蔭 (かげ)	çikage / kage / kagebo:çi	kage	kage / çikage (日 蔭) / kokage (木 蔭)	kage	kage / çikage / kagebo:çi (影法 師)
H-191	まぶしい	mabueçik'a	mabueik'a (「まぶしいで すね」)	mabuei:	mabuei:	mabuei: (mabueik'a:no: まぶしいなあ)
H-192	火 (ひ)	çi	çi	çi	çi	çi
H-193	水 (みず)	midzuu	mi'zuu / mizuu	mizuu ~ midzuu / 海水 uœo (煮炊 きに用いた) (uœokumi 海水 を汲みに行く人。 桶を頭に載せて)	midzuu	mizuu ~ mizü
H-194	山 (やま)	jama	jama	jama	jama	jama
H-195	川 (かわ)	kawa / ko: (古)	kawa / ko:	ka: / kawa / ka:ra / ta:da	kowa	kawa
H-196	橋 (はし)	haei	haei	hatei	haei	haei
H-197	丘 (おか)	jama / oka/ tombuu	oka	jama	oka	oka
H-198	陸地 (りくち)	oka (小高い) / rikuu	oka / rikutei	oka / okæo	oka	rikutei / oka
H-199	土・地面	teitei / dzimen/ midza (古)	tsutei	tsutei / teitei, zimen	teitei	tsütei / teitei (死 語) / miza (外の 土の上)
H-200	星 (ほし)	hoçi	hoçi	hoçi	hoçi	hoçi
H-201	月 (つき)	hoçi / tsuki / otsukisama	tsuki	tsuki / otsukisama / otsukisama	tsukj	tsuki ~ otsukisama
H-202	雲 (くも)	kumo / kumome	kumo	kumo	kumo	kumo
H-203	霧 (きり)	kiri / kasumi / moja	kiri	kiri	kiri (新) / moja (古)	kiri / moja
H-204	露 (つゆ)	tsujuu	tsujuu	tsujuu / jotsujuu	tsujuu	tsujuu / tsüjuu
H-205	雨 (あめ)	ame	ame	ame	ame	ame
H-206	風 (かぜ)	kadze	ka'ze / kaze	kaze	kadze	kaze
H-207	竜巻 (たつ まき)	tatsumaki / tsumudzikadze (小さい)	tatsumaki /tsumudzika'z e	tatsumaki (-me は ない)	tatsumaki	tatsumaki ~ tatsümaker (tsuzikaze「辻 風」)
H-208	稲光 (いな びかり)	inabikari / inadzuma (古)	inabikari	inabikari / inazuma	inabikari	inazuma ~ inazüma

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-209	地震 (じしん)	dziein	ɬziein / dziein	ziein / dziein	dziein	dziein
H-210	虹 (にじ)	nidzi~nizi / nidzime	nuɽiɬzi / nizi	nizi / nidzi	nidzi	nizi
H-211	明かり	akari	akari	akari	akari	akari
H-212	雷 (かみなり)	kaminari / kaminarisama	kaminari	kaminarisama / gorogorosama (幼児語)	gorogorosama	kaminari / kaminarisama
H-213	潮 (しお)	eo	eo / tueio	ueo (ueomizuu 塩水) / eo	eo	eo / eo
H-214	煙 (けむり)	kemuuri / kebuu / kemu	ibuuri / kemuuri	jubuu (jubuusuu [動詞]) / ibuuri (古) / kemuuri (新)	kemuuri	kemuuri / ibuuri (kemuuride ibuuroka 煙でい ぶそうか)
H-215	浅瀬 (あさせ)	ne	asase	dzimoto	asak'a (浅いと言 う)	asase
H-216	遠浅 (とおあさ)	to:asa	to:asa	to:asa	to:asa	to:asa
H-217	洞窟 (どうくつ)	do:kutsuu / hokora / hora	to:ra (小さいもの、俵も to:ra) / hora	hora / do:kutsuu	hora'ana	do:kutsuu / horaana / to:ra~do:ra (木のうろ)
H-218	海 (うみ)	umi	umi	umi	umi	umi/ hama
H-219	水溜り、池	tamari (水溜り) / ike (池)	mizutamari / ike	eodamari (潮だまり) / ike (池)	NR	iki (水たまり、池)
H-220	港 (みなと)	minato	minato / wan	te:bo: (突堤か) / minato	minato	minato
H-221	波 (なみ)	nami	nami	nami	nami	nami / uneri (大きな波) (「風」は nagi)
H-222	泡 (あわ)	awa / abuukuu (古) (ao: 泡を)	abuukuu / awa	awa / abuukuu (石 鹼)	ɛowa (波の花のこと)	jota (jotaga hatterukara k'io:wa uumigaareteruzo : 泡が張っているから京は海が荒れているぞ) / eabuuki (海の泡) / abuukuu (石鹼の泡)
H-223	島 (しま)	eima	eima	eima	eima	eima
H-224	浜 (はま)	hama	hama	hama / sunahama	NR	hama
H-225	珊瑚礁	sangoco:	sangoco:	NR	NR	sangoco: (島にはない)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-226	砂 (すな)	suma	suma/ ɕzari (ea:re つちぼ こり)	suma	suma	suna
H-227	石 (いし)	iei / ieikoro	iei	iei	iei	iei
H-228	溝 (みぞ)	midzo (小さい) / hora (大きい) / midzo (古)	midzo / mizo	ɕida / mizo / midzo	midzo	mizoma (排水 用)
H-229	田 (た)	tabara	tabara	tabara (少ない) / tabara: (古) / tambo (新)	tabara	tabara
H-230	畦道 (あぜ)	adze	aɕe / azemitei / azemitei	aze/ azemitei / adzemitei	hata	NR
H-231	畑 (はたけ)	jama / eo / jamaco (奥の方)	eo / jama	-eo (地名に付け て言う) / hatake / jama	jama	jama/ jamaco (遠くの畑)
H-232	野 (の)	noppara / no	no / noppara	jabuu	NR	NR
H-233	道 (みち)	mitei	mitei	mitei	mitei	mitei
H-234	崖 (がけ)	mama	gake	gake / dote/ mama (切り立ったところ)	gake/ horabata	mama / takamama
H-235	坂 (さか)	saka	saka	saka	saka	saka
H-236	頂上 (ちょう じょう)	teppen / tontsube (低い 山)	tontsube / teppen	tombuu / tontsubuuri (古) / teo:ɕzo: (新)	teppen	teppen / tontsubuura (低 いところの～)
H-237	東 (ひがし)	ɕigaci / ɕigacikaze (東 風) / narai (東北 風)	ɕigaci / narai	ɕigaci / ɕigacikade ～ɕigacikadze (東 風) / naraikade (東風)	ɕigaci / narai (北 東の風。良い 風)	narai (北東の 風)
H-238	北 (きた)	kita / saga (北 風) / nare: (北 東) / nare:kaze (北東風)	kita / narai (北 東の風)	kita / nare: (北風)	kita / koamura (北風)	NR
H-239	西 (にし)	nici (nieipon 冬 の季節風)	nici / nieikaze	nici / nieikade～ nieikaze (西風) (「風」単独では [kaɕe]。但し [ɕ] ほどの摩擦はな い)	nici (方角) / nici (風。良い風)	NR
H-240	南 (みなみ)	minami / minami kaze (南 風) / nagaci (南 西) / nagacikaze (南西風)	minami / minamikaze	minami / minamikade～ minamikaze (南 風) / hae (南風、 古)	minami (方角) / minami (風)	nagaci (南風)
H-241	右 (みぎ)	migi	migi	migi	migi	migi

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-242	左（ひだり）	çidari	çidari	hidari (ç ではなく) / çidari	çidari	çidari
H-243	前（まえ）	mae (maege: dero 前に出る) / me: / sakkata (古) /	me:	mai / me:	mae	mae
H-244	後ろ（うしろ）	ueiro / oeiro	ueiro	oeiro / oeiro (okki 海側、jaburo 山 側)	oeiro / ueiro	ueiro / oeiro (古)
H-245	跡（あと）	ato / aciato	ato	ato	ato	ato
H-246	横（よこ）	joko	joko	jokoppara / joko	joko	joko
H-247	上（うえ）	ue	ue	ve (歯唇接近音) / urwe~ue	węda / wenda / ue	ue / we:
H-248	下（した）	eita	eita	ęta	eta~eita	eita
H-249	中（なか）	naka (hakon naka 箱の中)	naka	naka	naka	naka
H-250	底（そこ）	soko	soko	eigi (:) / eimbuu	soko / doddzoko (崖の)	eibbuu
H-251	内（うち）	utei / naka	utei	utei	naka	utei
H-252	外（そと）	soto	soto	n'a: / soto	soto (「庭」は n'a:)	soto
H-253	奥（おく）	okuu	summa	okuu~okuuzi (「庭」 n'a:)	okuu	okuu
H-254	角（かど）	kado	kado	sumi / kado	kado	tsunokko / kado (新)
H-255	傍（そば）	soba	soba	soba / sobe: (そば に) / sobajo: (そば を)	soba / sobja: (~ に)	soba
H-256	今日（きょう）	ke:	kei	ki:	ki: / k'io:	ki:
H-257	昨日（さくじつ）	kine:	kinei	kini:	kini: / kin'io:	kini: / kin'io: (借 用形?)
H-258	一昨日（いっ さくじつ）	ototoi / utsurse:	ototoi	uteitei: / ototoi	utetei~uteitei: / ototoi	ototsui / uteitei:
H-259	明日（みょう にち）	asuu / aeita	asuu	asuu	aeita~aeita / asuu	asuu
H-260	明後日（みょう ごにち）	asatte / sannasatte (古)	asatte	asatte	asatte	asatte
H-261	明明後日（み ょうみょうご にち）	eiasatte / sannasatte	eiasatte	eigasatte / eiasatte / sannasatte	sannasatte (eijasatte 明明 明後日、 janasatte 明明 明明後日)	sannasatte
H-262	今年（ことし）	kotoei	kotoei	kondo / kotoei	kotoei	kotoei

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-263	昨年(さくねん)	k'onen	k'onen	k'onen	k'onen	k'onen
H-264	一昨年(いっさくねん)	ototoei	ototoei	ototoei	ototoei	ototoei
H-265	来年(らいねん)	rainen / de:nen	rainen / de:nen (知っているが 使わない)	de:nen	ɾa:nen / dza:nen	ɾa:nen / dza:nen (古) / rainen (新)
H-266	再来年(さら いねん)	sarainen / sare:nen / sade:nen	sarainen	sade:nen	sar'a:nen / sarainen	sar'a:nen
H-267	今 (いま)	man / ima	man	mani / man	man	man / mani (man'a isogaei: 今は忙しい)
H-268	昔 (むかし)	muukaēi	muukaēi	muukaēi	muukaē / eote:ni	muukaēi / m'a:ni (以前に)
H-269	夏 (なつ)	natsu	natsu	natsu	natsu	natsu
H-270	冬 (ふゆ)	ɸuɸju	ɸuɸju	ɸuɸju	ɸuɸju	ɸuɸju
H-271	朝 (あさ)	asa / tommete (古)	tommetei	tommete	asa / tommete (8 時頃まで)	tommete (早朝。 強調して言う to:mmete) / asa
H-272	昼 (ひる)	çiruu	çouradoki	çiruu~hiruu	çiruu	çiruu
H-273	夕方 (ゆうが た)	juu:gata/ kuuregata (古)	kuure:gata	juu:gata / kuure: (古) / kuureje:	juu:gata / kuureja (日が落ちる頃) / kuuregata / jombe (夕べ)	juu:gata / kuureja
H-274	夜 (よる)	juu:/ jombe (昨 日の夜、古)	juu	juu (「昨夜」は jobbe / jombe)	jobbe	jobbe
H-275	夜中	jonaka	jonaka	jonaka	jonaka / juu:jonaka	jonaka
H-276	暇 (ひま)	çima	çima	çima (「合間」は joma)	çima / joma (合 間) / jomaški	çima (「合間」は joma)
H-277	時 (とき)	toki	toki / dzibuun	toki	toki	dzikan / toki
H-278	年 (とし)	toei	toei	toei	toei	toei (年齢も)
H-279	暦 (こよみ)	kojomi / kojuume (古)	kojomi (コユミ は使わない)	koimi (3音節) / kojomi	kojomi / koimi (3音節)	kojomi
H-280	物 (もの)	mono	mono	mono	mono	mono
H-281	色 (いろ)	iro	iro	iro	iro	iro
H-282	音 (おと)	oto	oto	oto	oto	oto
H-283	夢 (ゆめ)	juume	juume	juume / juumi: (夢 を)	juume	juume
H-284	着物 (きもの)	kimono, hebera (古)	hebira	hebira	hebera / madara (よそ行き)	madara / kimono / hebera
H-285	襟 (えり)	eri	eri	jeri / eri	eri	eri / jeri (古)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-286	袖（そで）	sode	sode	sode	sode	sode
H-287	裾（すそ）	suuso	suuso	suuso	suuso	suuso
H-288	帯（おび）	obi	obi	obi	obi	obi
H-289	紐（ひも）	çimo/ çibo (古)	çimo	çibo	çimo / çibo / nawa	çimo /çibo (古)
H-290	足袋（たび）	tabi	tabi	tabi	tabi	tabi
H-291	袴（はかま）	hakama	hakama	hakama	hakama	hakama
H-292	下駄（げた）	geta/ bokkuri (古)	geta / puukkuri (何 か履物)	geta (acida 高下 駄)	geta (ho:ba / acida 高下駄) / bokkuri	geta / acida (高 下駄)
H-293	草履（ぞうり）	dzo:ri / acinaka (走るの使うぞう り、短い)	zouri / acinaka (つま 先だけの履 物)	dzo:ri / acinaka 走るのに使う、前 半分しかないぞう り)	dzo:ri / dzo:ri (古) / acinaka (走るのに使う、 前半分しかない ぞうり)	dzo:ri
H-294	緒（お）	hanao	oba	hanawo (下駄の) / hanao	o / hanao	hanao
H-295	布（ぬの）	kire	kire	kire	kire / nuuno / boro (ボロ布)	kire
H-296	表（おもて）	omote (「玄関」 は tobo:)	omote (「玄関」 は tobou)	omote / omotei: (〜に) / sakkata	omote (「前」は sakkata)	omote
H-297	裏（うら）	ura	ura	ura / o:iro	ura	--
H-298	綾,模様（あ や）	gara	mojou / mojo: (ou と o: の 区別がある人 とない人がい る)	mojo:	gera	aja
H-299	手ぬぐい、タ オル	tenege: / tenegui (新)	tenege: / tenegei	tenigi:	tenegi: / tenegui / tenugui	tenugui / (古)tenegi:
H-300	蓑（みの）	mino	mino ((A) 見 たことある, (B)使わない)	mino	NR	NR / (kappa)
H-301	湯（ゆ）	ojuu	ojuu	juu	juu / sajuu	juu / ojuu (juu: wakase 湯を沸 かせ)
H-302	茶（ちゃ）	otea	otea	tea	tea	tea / otea (tea: nomogon 茶を 飲みましょう)
H-303	飯（めし）	gohan / meei (古) (cameci 白 ごはん)	meci	meci	meci / cameci	meci / eiromeci (白米)
H-304	粥（かゆ）	okajuu (oke:o tamoore おかゆ を下さい)	okajuu	oke:	k'a / okajuu	okajuu

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-305	餅 (もち)	motei	motei:	motei:	motei:	motei:
H-306	雑炊 (ぞうすい)	ozija / dzo:sui	zowsui / odzija	dzo:ei: / odzija	dzo:ei: / dzo:ei:	dzo:ei: / dzo:sei (新?) (odzija 残ったご飯をみそ汁などと混ぜて煮直したもの)
H-307	味噌 (みそ)	miso	miso	miso / misuu	miso	miso / tekkammiso (自家製の味噌)
H-308	汁 (しる)	eiuru	eiuru	tsujuu / eiuru	eiuru / tsujuu (「オカズ」は ea:)	tsujuu
H-309	塩 (しお)	eiou	eiou	eo	eiou / eo	eiou / eo (古)
H-310	塩辛い	eoppai (eoppakia しょっぱいよ)	eoppai	eokkarake / karakia:/ eoppai	eokkarai / eoppakia (「魚 醤」は eu:de)	eokkarai: / eokkarai (新)
H-311	砂糖 (さとう)	sato: (sato:: kero 砂糖をくれ)	sato:	sato:	sato:	sato:
H-312	甘い	ame: / amakia	amakia	amakia	amai	amakia:
H-313	砂糖黍 (さとうきび)	to:gimi	kanea	kanea (kibiganea サトウキビの種 類、to:kibiganea とうもろこし)	kanea	kanea
H-314	粕 (かす)	kasuu	kasuu	kasuu	eu:teu:dobuu (酒作りの)	kasuu
H-315	酒 (さけ)	sake	sake	sake	sake	sake (焼酎)
H-316	麴 (こうじ)	ko:zi	ko:dzi	ko:dzi~ko:zi	ko:dzi	ko:dzi
H-317	粒 (つぶ)	tsubuu	tsubuu	tsubuu	tsubuu	itsubuu
H-318	糠 (ぬか)	nuuka	nuuka	nuuka	nuuka	nuuka
H-319	粉 (こ・こな)	kona	kona	kona	ko / kona	kona
H-320	にんにく	ninnikuu	ninnikuu	ninnikuu	ninnikuu	ninnikuu
H-321	芽 (め)	me	me	me	me	me
H-322	クワズイモ	NR	NR	--	kuwadzuimo (5 音節)	NR
H-323	肉 (にく)	nikuu	nikuu	nikuu	nikuu	nikuu
H-324	果物 (くだもの)	kuadamono (「み かん」は ko:zi、小さい、 酸っぱくて種が 大きい)	kuadamono	kuadamono	kuadamono (「み かん」は ko:zi)	kuadamono
H-325	油 (あぶら)	abuura	abuura	abuura	abuura	abuura
H-326	天ぷら	tempuura	tempuura	tempuura	tempuura	tempuura (かき 揚げ含む)
H-327	灰 (はい)	hai / he: (古)	he:	he:	ça:	ça: (古) / hai

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
						(新)
H-328	匂い (におい)	nioi (kamaruu 動詞「匂いがする」)	nioi	nijoi (いゝい匂いも) (kamarowana: 臭いなあ) / nioi	nijoi / nioi / kamaruu (動詞「臭い」)	nioi (kamaruu 動詞「匂いがする」)
H-329	味 (あじ)	azi	adzi	adzi~azi	adzi~azi	adzi
H-330	料理 (りょうり)	rio:ri	rio:ri / 「魚をさばく」は dzo:ruu (boudzo so wa: 料理をしようか)	rio:ri	rio:ri	gotejsio: (来客向け) / rio:ri / 「料理する」は dzo:ruu (jo: dzo:rowa 魚を料理する / dzo:rodza)
H-331	ご飯	meci	meci	meci	meci	meci (meco kamoaka ご飯を食べようか)
H-332	食事 (しょくじ)	meci	meci	çokuuzi	meci	meci
H-333	朝食 (あさめし)	asameci	asameci	asameci / asake	asake (古) / asameci	asage (古) / asameci (新)
H-334	昼食 (ひるめし)	ço:ra	hirumeci / çowura	ço:ra	ço:ra	çiruge (古) / çirumeci (新)
H-335	夕食 (ゆうめし)	juu:meci	jouumeci	jo:ke / jo:meci	jo:ke / jo:meci	jo:ke (古) / jo:meci (古) / juu:meci (新)
H-336	膳 (ぜん)	odzen	ozen	dzen / tabodai~ tabudai (ちゃぶ台)	dzen	obon
H-337	食べる	kamuu	kamuu (kamowa 食べるよ)	kamuu	kamuu	kamowa (あまり使わない)
H-338	食べ物	kamimono	kamomon	kamomon	kamomono	kamomon
H-339	家 (いえ)	ie / wae (我が家) / omaenoe (お前の家), unga は目下へ)	e	je: / utei	e / wae (我が家) / ungaie~unagai (おまえの家)	je
H-340	母屋 (おもや)	omoja / bo:keutei (大きい家) / bo:e (分家)	bowe	omoja (希) (「はなれ」は dzigwura (希))	bo:keutei (「はなれ」は geja / enoko)	omoja / bo:je (古)
H-341	台所 (だいどころ)	kokkuuba / okatte	kokkuuba	kokkuuba / kokuuba	kokkuuba	daidokoro / kokkuuba / otema

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-342	天井 (てんじょう)	tendzo:	tendzo: / ama	tendzo: (「天井裏」は ama)	tendzo: (「天井裏」は ama)	tendzo: / ama (古)
H-343	床 (ゆか)	juuka (miza「地面」)	juuka	juuka	juuka (床) / midza~miza (床・地面)	juuka
H-344	棚 (たな)	tana	tana	tana	tana	tana
H-345	竈 (かまど)	kamado / hetsui (ごはんを炊く釜全体)	kamado	kamado (hetsui 自在鉤)	kamado / hetsui	kamado / hetsui
H-346	いろり	irori	irori	irori / dziroputei (囲炉裏端)	kamado / dzero (「囲炉裏淵」は dziroputei, 「予備の薪」の muusukuubi)	irori
H-347	戸 (と)	to	to / amado	to	to	to
H-348	板 (いた)	ita	ita	ita	ita	ita
H-349	節 (ふし)	ɸuɕi	ɸuɕi / ɸuɕime	ɸɕi~ɸuɕi	ɸɕi~ɸuɕi	ɸuɕi
H-350	穴 (あな)	ana	ana	ana	doma / ana	ana
H-351	柱 (はしら)	haɕira	haɕira	haɕira	haɕira	haɕira
H-352	釘 (くぎ)	kuɕi	kuɕi	kuɕi	kuɕi	kuɕi
H-353	瓦 (かわら)	kawara	kawara	kawara / ka:ra	kawara	kawara (ほとんどない。普通はトタン。)
H-354	便所 (べんじょ)	toire / kandzo: (古)	bendzo / kandzo:	kandzo:	bendzo / kandzo: (「島アジサイの葉」を kandzo:ɕiba という。これをトイレトペーパーとして使用した)	bendzo / kandzo (kandzo は他地区の言い方か?)
H-355	垣 (かき)	kuɕe「生け垣」	ieigaki (石垣) / kuɕe (生け垣)	ieigaki / ori (古) / kaki	orito / ieigaki	kakine / ori (石積の垣)
H-356	庭 (にわ)	n'a:	n'a:	n'a:	n'a:	n'a:
H-357	井戸 (いど)	ido	ido	ido	ido	ido
H-358	墓 (はか)	hakao	hakao	hakao	haka / hakao	haka (精密には無声化して [χaka]。)
H-359	煤 (すす)	susui	susui	susui	sūsū~susui	susui[sɕsui]
H-360	埃 (ほこり)	hokori	hokori	hokori	hja:re (砂ほこり) / hokori	hokori
H-361	縄 (なわ)	nawa	no:	na:	noa / n'a:	nawa / nɕa (古)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-362	鎖（くさり）	kuisari	kɯ̥sari	kɯ̥sari	kɯ̥sari	kɯ̥sari
H-363	綱（つな）	tsuna	roppu / tsuna	na: / tsuna	tsuna	tsuna
H-364	袋（ふくろ）	ɸukuro	ɸɯ̥kuro	ɸkuro / ɸukuro	ɸkuro ~ ɸukuro	ɸɯ̥kuro
H-365	荷（に）	nimotsu	ni / nimotsu	ni	ni: ~ ni	ni (n'io: tsuɯɯ 荷を積む)
H-366	皿（さら）	sara	sara	sara	sara / goki	sara
H-367	椀（わん）	owan	owan / goki (聞いたことあり)	wan	wan	wan
H-368	茶碗（ちゃ わん）	mecizawan / goki (古)	teawan	teawan / goki (古)	goki / mecizawan	mecidzawan
H-369	壺（つぼ）	tsubo	tsubo	tsubo	tsubo	tsubo
H-370	鉢（はち）	hatei	hatei	hatei	hatei	hateinamme
H-371	瓶（かめ）	kame	kame	kame	kame	kame
H-372	水瓶（みず がめ）	mizugame	mizugame	midzugame	midzugame	mizugame
H-373	桶（おけ）	oke	oke	oke	oke	oke
H-374	水桶（みず おけ）	NR	mizuoke	mizuoke	midzuoke	mizuoke
H-375	盥（たらい）	tarai / tare: (古)	tarai / tare:	tare: (木製)	taɾi̥a:	taɾi̥a: / kanadaɾi̥a: (金盥)
H-376	ひしゃく		ɕaku	ɕaku	ɕɕaku	ɕamodzi
H-377	柄（え）	e / ɕicakunoe	e / totte	je / e	e	bo:
H-378	釜（かま）	hagama	okama / hagama (聞いたことがある)	hangama (ごはん 釜) / meigama / kama	kama / hangama (ご飯用)	meigama / hagama
H-379	しゃもじ	hera (ɕamozi お 玉)	ɕamodzi	hera / ɕamozi	hera / ɕazi	ɕamozi
H-380	急須・鉄瓶 (きゅうす)	kɯ̥:su / kibieo (古)	kɯ̥:su / tɕɕubin	kɯ̥:su / tɕɕubin / kibieo ~ kibieo: (南洋帰りの方が 使用、古)	kɯ̥:su / dobin / kibieo	kibieo (古) / kɯ̥:su (新)
H-381	箸（はし）	haei	haei	haei	hae ~ haei	haeira
H-382	包丁（ほうち ょう）	ho:teo:	houteo:	deba / ho:teo:	ho:teo:	ho:teo:
H-383	刀（かたな）	katana	katana	katana	katana	katana
H-384	小刀（こが たな）	kiridaɕinaɪɸu	kogatana	kogatana	kogatana / naiɸu	kogatana
H-385	まな板	mane:ta / kiriban (古)	manaita / kiriban	mane:ta / kiriban	kiriban	manaita / kiriban (古)
H-386	臼（うす）	usu	usu	usu (搗き臼) / ieiusu (挽き臼)	usu (搗き臼) / surusu (挽き)	usu

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
					臼、腰の重い 女)	
H-387	杵 (きね)	kine	kine	kine (横杵) / tegin (縦杵)	kine (「ゴマすり (道具)」は deŋŋine	kine
H-388	斧 (おの)	ono	ono (薪割り用) / nata (枝落と し用) / joki (大 工道具)	ono (伐採用) / joki (薪割り用)	masakari / makiwari / ono / joki (古)	ono / nata (山 刀)
H-389	鋸 (のこ)	nokogiri	noko / nokogiri	nokogiri	nokogiri	noko (nokogiri と も)
H-390	鑿 (のみ)	nomi	nomi	nomi	nomi	nomi
H-391	錐 (きり)	kiri	kiri	kiri	kiri	kiri
H-392	箱 (はこ)	hako	hako	hako	hako	hako
H-393	筆 (ふで)	ɸude	ɸude	ɸude / ɸudzi: (～を)	ɸude / ɸudi: (～を)	ɸude
H-394	紙 (かみ)	kami	kami	kami / kam'io (～ を)	kami	kami
H-395	鋏 (はさみ)	hasami	hasami	hasami	hasami	hasami
H-396	印 (しるし)	syruei (y は丸 めのある i)	ɛiruei / meboei	ɛiruei	eoiei (eoiei mo tanemo n'a:何も かもめちやくち やになってなく なる)	ɛiruei
H-397	漆 (うるし)	uruei	uruei	uruei (希)	uruei	uruei
H-398	鏡 (かがみ)	kagami	kagami	kagami	kagami	kagami
H-399	櫛 (くし)	kuei	kuei	kuei	kue	kuei / to:guei (半月型の櫛)
H-400	布団 (ふと ん)	ɸuton	ɸuton	ɸton～ɸuton / jagu: (腕を通すも の)	ɸuton	ɸuton
H-401	枕 (まくら)	makura	makura	makura	makura	makura
H-402	箒 (ほうき)	ho:ki	houki / ho:ki	ho:ki / ho:k'io (～ を)	ho:ki	houki / ho:ki
H-403	竿 (さお)	sao/ monohocizao (物干し竿) / saodake	sao	sawo / sao	sao	sao
H-404	杖 (つえ)	tsuembo:	tsue / tsuembow / tsuukimbow	tsue / tsuukumbo: (物を突くための 棒) / tsuembo: (古))	tüse	tsue / tsuembo:
H-405	笠・傘 (かさ)	kasa / ko:mori (古)	kasa	kasa	kasa	kasa

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-406	針（はり）	hari / nuibari	hari	hari	hari	hari
H-407	糸（いと）	ito	ito / n'ur:tuu	ito	ito / tenn'io: (たこ糸)	ito
H-408	煙管（きせる）	kiseruu	kiseruu	kiseruu~kiseruu	kiseruu	kiseruu
H-409	金（かね） （金属・お金）	dzene/ dzene (古) / dzan'e	kane / dzene / dzeni	kanamono / kane	kane / dzene / dzeni (お金)	okane / kane / dzeni / dzene
H-410	三味線（しゃみせん）	camisen	camisen	camisen	camisen	NR (camisen)
H-411	船（ふね）	ɸune	ɸune	ɸune	ɸune	ɸune
H-412	帆（ほ）	ho	ho	ho	ho	ho
H-413	櫂（舟のカイ）	kai	kai / ro (ro と kai は別物)	kai	ro / kai	kai
H-414	網（あみ） （魚を獲るあみ）	ami	ami	jo:ami / ami	ami	ami
H-415	槍（やり）	jari / tsukimbo:	jari	tsukimbo: / mori / jari	mori / jas / jari	jari
H-416	鍬（くわ）	kuwa / mitsuguwa (3 つに分かれてる 鍬) / hiraguwa (平らな鍬) / tega	tega	tega (種類に mitsuga, hiraga)	tega (種類に mitsuga / çiragwa)	kuwa / k'a:tega (草取り道具) ('蚕'は konasama)
H-417	鋤（牛にひかすすき）	suuki	suki	ski~suuki	ski / purao	NR
H-418	脱穀用ゴザ	goza~godza	goza / muero	muero	muero~muero	godza
H-419	鎌（かま）	magama	magama	magama	kama / magama	kama / hiratega (草刈り道具)
H-420	鋤（すき）	suuki	suki	--	--	NR
H-421	篋（へら）	hera	hera	hera	hera	NR
H-422	箆（ざる）	dzaru / dzaru	zaruu~dzaru / imemigo (竹で 編んだ壺が他 の細い箆)	dzaru / mi (脱穀 用)	dzaru	dzaru
H-423	箆（かご）	kago	kago / dzaru	kago / imemigo (里芋洗いに使 用)	kago / imemigo, jumem'go (里 芋洗いに使うか ご)	imemigo (小さい 背負う箆)
H-424	篩（ふるい）	ɸurui / mi	ɸurui / mi	ɸuri:~ɸurui	ɸuri: / ɸurui	NR
H-425	俵（たわら）	tawara / to:ra (古)	to:ra	tawara / ta:ra / sumida:ra (炭俵)	tawara / sumidoara / dzukku	tyara (古)
H-426	筵（むしろ）	goza~godza	muero / moero (古) /	muero	muero / muero / goza	muero / komo

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
			goza			
H-427	薪 (たきぎ)	maki / gomi	maki (大きい木) / gomi (ちよつと大きめの木、細い木という人もいる) / musukuubi (着火材に使う細かい木)	gomi / takigi / dzansara (古)	gomi / musukuubi	maki / gomi / musukuubi
H-428	人 (ひと)	çito	çito	çto~çito	çto	çito
H-429	親 (おや)	oja	oja	oja	oja / ojasama	oja
H-430	子 (こ)	ko (ukuuno ko あそこの家の子) / kodomo	ko / kodomo / appame (赤ん坊)	ko / jakkome (古)	ko / kodomo	kodomo
H-431	長男	teo:nan / teounamme	teo:nan / taro: (使わないが知っている) / bo:ja	teo:nan	teo:nan	teo:nan
H-432	二男	dzinan / dzinamme	dzoume / dzinan	dzinan	dzinan	dzinan
H-433	三男	sannan / sannamme	sabou	sannan	sannnan	sannan
H-434	四男	jonnán	jonnán / cou	jonnán	jonan	jonnán
H-435	五男	gonan	gonan / gorou	gonan	gonan	gonan
H-436	六男	rokuunan	rokuunan / rokuurow	rokuunan	rokuunan	rokuunan
H-437	七男	eiteinan	eiteinan	eiteinan	eiteinan	eiteinan
H-438	八男	hateinan	hateinan	hateinan	hateinan	hateinan
H-439	九男	kju:nan	kju:nan	kju:nan	kju:nan	kju:nan
H-440	十男	dzuu:nan	dzuu:nan	dzuu:nan	dzuu:nan	dzuu:nan
H-441	長女	teo:zo / teo:dzome	teo:dzó / n'oko / n'okome	teodzo~teo:zo / n'okome (古)	teo:zo	teo: ^d zo
H-442	二女	dzizo / dzidzome	dzidzo / naka (聞いたことがある) / tegome (?)	dzidzo / nizo	dzizo	^d zi: ^d zo
H-443	三女	sandzo / sandzome	sandzo	sandzo	sandzo	san ^d zo

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-444	四女	jondzo / jondzome	jondzo / kusuu (聞いたことがある)	jondzo	jondzo	jon ^d zo
H-445	五女	gozo	godzo	godzo～gozo	gozo	godzo
H-446	六女	rokuizo	rokuizdo	rokuizdo～ rokuizo	rokuizo	rokuizdo
H-447	末っ子	suekko/ çippaci (古) / çippaci	suekko / eippaci / eippacime (me が付くと上品 でない感じが する。)	suekko / çippacime	eippaci	çippaci / çippacime (me は愛情をこめた 謙遜のニュアン ス。)
H-448	親子（おや こ）	ojako	ojako (親戚も)	ojako (親戚も)	ojako	ojako
H-449	孫（まご）	mago / magome	mago	mago	mago	mago
H-450	父，おとうさ ん	oto:san / to:tean (古) / ojadz	otto / totou (古) / ojazi / to:tean / teteoja	oto:tean / to:tean / tottean (古)	oto:tean / tete (古) / ojazi	oto:tean / ototean
H-451	母，おかあさ ん	oka:san / ka:tean (古) / oφukuro	okka / ka:tean / ho: (古)	oka:tean / ka:tean / okka (古)	oka:tean / hwa (古) / oφukuro	oka:tean / okatean
H-452	兄，おにいさ ん	oni:san/ antean (古)	ani / antean (「年上，目上 の人」は asei)	antean / aci: (古) / ni:tean	antean / aniki	oni:tean / antean (asei は聞いたこ とあり)
H-453	姉，おねえさ ん	one:san/ ne:tean (古)	ne:tean / neija / neitean (「年 上の女性」は inne)	ne:tean	ne:tean (呼ぶと きは○○ (名 前)ni:tean)	one:tean / ando
H-454	弟（おとうと）	oto:to / eitano kio:de:	otowuto	qto:to	oto:to	otowuto
H-455	妹（いもうと）	imo:to / eitano kio:de:	imowuto	imo:to	imo:to	imowuto
H-456	兄弟（きょう だい）	kio:dai / kio:de:	kio:de:	kio:de:	kio:dai	kio:dai / kio:dza:
H-457	祖父（そふ）	ozi:san～ odzi:tean / dzi:tean	dzi:tean / dzi:san / ousama (古)	dzi:tean	dzi:tean / odzi:tean / o:sama (古)	odzi:tean / o:sama (古) / o:teama
H-458	祖母（そば）	oba:san / oba:tean / ba:tean/ babba (坂上の呼び方)	ba:tean / bamma (古) / omo:sama (古)	ba:tean / bamba / umma (古)	ba:tean / oba:tean / babba (古)	oba:tean

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-459	夫 (おっと)	danna / te:eu	otto / ojazi / wagajenoçito / wage:noçito	danna / otto/ to: / wagainoçito	dantsükü (宿ろく) / danna (呼ぶ時は名前で呼ぶ)	wagi (:)noçito
H-460	妻 (つま)	jome / wage:noçito	jome / wagajenojatsui / wage:nojatsui	jome / wagainoonago	kan'a: / jome (呼ぶ時は名前で呼ぶ)	omi / 呼ぶ時は名前で呼ぶ
H-461	夫婦 (ふうふ)	φu:φu / tsureai	φu:φu	φu:φu	φu:φu	φu:φu
H-462	叔父 (おじ)	ozitean / ozisan / odzi	odzi	odzi ~ ozi	odzi	o ^d zitean / o ^d zi
H-463	叔母 (おば)	obatean / obasan / oba	oba	oba	oba	obatean / oba
H-464	甥 (おい)	oi / meijo:ei	oi	oi	oikko / me:jo:ei (姪と合わせて)	oikko
H-465	姪 (めい)	mei / meijo:ei	mei	mei	meikko / me:jo:ei (甥と合わせて)	meikko
H-466	従兄弟 (いとこ)	itoko	itoko	itoko	itoko	itoko
H-467	婿 (むこ)	muiko / muikodono	muiko / muikodono	muiko	muiko	muiko
H-468	家族 (かぞく)	kazoku ~ kazoku	kazoku / eote: (eote:は「以前に」の意味も)	nakama / kazoku	kazoku / kan'a:	kadzoku
H-469	親戚 (しんせき)	ojako	ojako	ojako	ojako	ojako
H-470	男 (おとこ)	onokogo / otokogo	otoko / otokogo	onokogo	onokogo	otoko / onokogo
H-471	女 (おんな)	onnago	onnaga / onnago (聞いたことがある)	onnago	onnago	onna / onnago
H-472	目上 (の男)	meue (warejori bo:ke çito 私より年上の人) / toeiue	asei / sempai (年齢が上の人)	ani (呼ぶ時は ○○ (人名)ani / bo:keçito (年上))	antean (呼ぶ時は○○ (人名) antean / ○○ odzitean)	meuenoçito
H-473	目下 (弟、妹)	toçicita	NR	omentee: / korentee:	呼ぶ時は名前を呼び捨て	NR
H-474	青年 (せいねん)	se:nen / wake:eu: (古)	wake:eu	wake:eu (20歳 ~ 25,26歳) / wake:ei	wak'a:eu (17、18才 ~ 27,28才 或は結婚するまで)	wakakeçito
H-475	大工 (だいく)	daiku / de:ku (古)	de:ku	de:ku / daiku	dja:ku / de:ku	daiku
H-476	友だち	ho:be:	hoube:	nakama / ho:be:		tomodatei

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
				(古)		
H-477	若い娘	menarabe	menarabe	menarabe	menarabe	menarabe (25 才 くらいまで)
H-478	私 (わたし)	ware / wai / ai / warewa (私は) / waga (私の) / wareni (私に)	ai / wai / ware / aga (?)	aga / are	are / aga	ware / wai
H-479	私たち	warera / waira	waica: / waira: / waira	warente: / arente:	warenea: / warentea:	ware:ca: / waica:
H-480	あなた	omae / ome: (対 目上、対目下と いう人も) omi: (同等以上)	ome:	ome: (目上や年 上) / omi (古)	om'a:	om'aj
H-481	あなたたち	omaera / ome:ra (同等以下) / omira (同等以 上)	ome:ra	omentee: / ome:tatei (目上や 年上) / omira (古)	om'anea:	om'ajca:
H-482	お前	unuu / un / unnga (軽蔑して いる)	unuu / omae	ome: / omai / uumu (けなし)	om'a: / unnga	omi
H-483	お前たち	unara / unuura	unuura / omaera / ome:ra	omentee: / omaira / umuura (けなし)	om'anea: / ununea	omi:ca
H-484	皆 (みな)	minna / menna (古)	menna	menna	dzembu (人も)	minna
H-485	名 (な)	namae /	na / name:	name:	nam'a:	namae
H-486	お祝い	oiwai / juwe	juwe:	ju'we:~juwe:~ juwe:	juwja: / juwai / oiwai	iwai
H-487	結婚 (けっこ ん)	kekko (konrei 結婚式)	kekko / kenre: / kenrei	kekkoeki (jue:dara 結婚 式)	kekko / eu:gen / konre:	kekko / eu:gen
H-488	結納 (ゆい のう)	juino:	juino:	juino: / jue:~juwe:	juino:	NR (juino:)
H-489	喧嘩 (けん か)	kenka	kenka	kenka	kenka	kenka
H-490	相互扶助 (そうごふじ よ)	tetsudai / ko:jo: / miteiko:jo: (古)	miteigo:jo: (皆 で道を整備す る) / jore:	jui (まれ)	joso:suru (手 伝う) / gappe:	miteigo:jo: (道 の整備)
H-491	相撲 (すも う)	sumo:	sumou	sumo:	sumo	sumo:~sumou
H-492	一つ	çitotsu / tetsu (古)	tetsu	tetsu	tetsu	çitotsu
H-493	二つ	çutatsu	çutatsu	çtatsu~çutatsu	çtatsu	çutatsu
H-494	三つ	mittsu	mittsu	mittsu	mittsu	mittsu

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-495	四つ	jotsu	jotsu	jotsu	jotsu	jotsu
H-496	五つ	itsutsu	itsutsu	itsutsu	itsutsu	itsutsu
H-497	六つ	muttsu	muttsu	muttsu	muttsu	muttsu
H-498	七つ	nanatsu	nanatsu	nanatsu	nanatsu	nanatsu
H-499	八つ	jatsu	jatsu	jatsu	jatsu	jatsu
H-500	九つ	kokonotsu	kokonotsu	kokonotsu	kokonotsu	kokonotsu
H-501	十 (とお)	to:	tou	to:	to~to:	to:
H-502	一人	tori	tori	çtori	tori / çitori	çitori
H-504	二人	φutari	φutari / φutai	φtari~φutari	φtari~φutari	φutari
H-503	三人	sannin	sannin	sannin	sannin	sannin
H-505	四人	jonin/ jottari (古)	jottari / jonin	jonin / jottari	jottari / jonin	jonin
H-506	五人	gonin	gonin	gonin	gonin	gonin
H-507	六人	rokuunin	rokuunin	rokuunin	rokuunin	rokuunin
H-508	七人	eiteinin	nananin / eiteinin	eiteinin	eiteinin	nananin
H-509	八人	hateinin	hateinin	hateinin	hateinin	hateinin
H-510	九人	kju:nin	kunin / kju:nin	kju:nin	kju:nin	kju:nin
H-511	十人	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin	dzu:nin
H-512	いくら	ikuura / doidade	ikuura / ikujen (金額) / donogure:	ikuura	ikuura	ikuura
H-513	いつ	itsu	itsu / itsutsu	itsu	itsu	itsu
H-514	だれ	dare / dai / dare: (~を)	dare / dai	dare / dari: (~を)	dare	dai
H-515	どこ	doko / dokoge: / doko: (~を)	doko / dokei, dokoge: (どこ に)	doko / doki: (~ に) / doko: (~を) / dokkara (~から)	doko	doko
H-516	どれ	dore	doi / dore	dore / dori: (~を)	dore	dore
H-517	なぜ	ande / adde	ande / adde (古)	ande	ande	ande:
H-518	なに	ani	ani: / ani (聞き 返す場合) / an do: (何か?)	ani / anjo (~を)	andoa (~です か) / ani. / anjo (~を)	ando:
H-519	いくつ	ikuutsu / doidade	ikuutsu	ikuutsu	ikuutsu	ikuutsu
H-520	これ	kore / koreo (~ を)	koi	kore / kori: (~を)	kore / kori: (~ を)	kore

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-521	それ	sore / ure / sore: (～を)	sorei / soi	sore / sori: (～を)	sore / sori: (～を)	sore
H-522	あれ	ure/ ure: (～を) / are	urei / ure / ui	ure / uri: (～を) / ur'ia (～は) / are	ure / ura / ure: (～を)	are
H-523	ここ	koko	koko / kokonotsu	koko	koko	koko
H-524	そこ	soko / soko: (～を)	soko	soko	soko / soki:	soko
H-525	あそこ	ukuu / ukuu: (～を)	ukuu	ukuu	ukuu	attei / tookebaeo / oku:dzi
H-526	技・仕事	eigoto	eigoto	eigoto	--	wadza
H-527	鬼 (おに)	onime	onime	onime	--	oni
H-528	心 (こころ)	kokoro	kokoro	kokoro	--	kokoro
H-529	情け (なさけ)	nasake	dzou	nasake	--	nasake
H-530	言葉 (ことば)	kotoba	kotoba	kotoba	--	eimago
H-531	歌 (うた)	uta	uta	uta	--	uta
H-532	踊り (おどり)	odori	odori	odori	--	odori
H-533	鼓 (つづみ)	tsudzumi	tsuzumi	tsuzumi	--	NR
H-534	宝 (たから)	takara	takara	takara	--	takaramono
H-535	型 (かた)	kata	kata	kata	--	kata
H-536	形 (かたち)	katatei	katatei	katatei		katatei
H-537	休息	jasumi / ippukuu	ippukuu / jasumi	ippukuu	çtoiki / jasumi	jasumuu (動詞)
H-538	魂 (たましい)	tamaei:	tamaei:	tamaei:	--	tamaei:
H-539	刺青 (いれずみ)	iredzumi	irezumi	irezumi	--	iredzumi
H-540	真似 (まね)	mane	mame	mane / mani: (～を)	mame / mami: (～を)	mane
H-541	嘘 (うそ)	oso (osotsuki 嘘つき)	jamaeu	oso (oso: tsukuuna うそをつくな) / osotski (うそつき) / kitsunĭ /	kitsuue (「嘘つき」も) / kitsunetski (嘘つき)	te:ren
H-542	小さい	nekkoke / nekkokia	nekkoi / nekkokia	nekkokia / ne:koke (連体)	nekkoi (子供、 ねずみ) / teĩgoi (芋)	teitteake / teitteakia:
H-543	大きい	bo:ke / ko:kia	boui / boui: / boukia (「大きいもの」は bouke mono)	bo:kia / bo:ke (連 体)	bo:i / dekkai	dekakia / dekkakia: / bo:kia:

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-544	低い	çikukia	midzikai / midzikakia (kia で終わると「ー よ」のニュアン ス。)	nekkokia (背が低 い) / çikukia (床 が低い) / mizakia (古、床が低い)	çkui	çikukia:
H-545	同じ	onnaei	o (n)nazi	onnazi	onadzi	onna ^d zi
H-546	短い	mikkake / mikkakia	mizikai / mizikakia	mizikakia	mikkai	midzikakia:
H-547	丸い	maruke / maru:kia	marui / marukia	marukia	marui	mammarukia:
H-548	暖かい	nuukuutoke / nuukuutokia	hotouru	attakia / nuukuutoi	nuukuutoi	attakakia: (「暑 い」は atsukia:)
H-549	寒い	kage:ruu	kogeiru (kogeiro çi 寒 い日)	kogi:ruu (「凍える」 かも?) / samukia	kogi:ruu	samukia:
H-550	冷たい	çakkoke	çakkoi / çakkokia (çakkoke mono 冷たい もの)	çakkokia	çakkoi	çakkokia:

八丈方言基礎語彙データ（かな表記）

（．は母音が無声化していることを表す）

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檣立
H-001	頭（あたま）	ツブリ（里芋の種イモも）	ツブリ	ツブリ / アタマ（新）	ツブリ	ツブリ～ツイブリ（頭脳、里芋の種イモ）
H-002	髪の毛	ツブリノケ / ツブリノケブシヨ	ケビシヨ	アタマノケ / カミノケ	ツブリノケ	カミノケ / ツイブリノ
H-003	つむじ	ツムジ	ツムンジ～ツムジ	ツムジ / ツムヂ / ウズ	ツムヂ	ツムジ～ツイムジ
H-004	ふけ	フ.ケ	フ.ケ	フ.ケ	フ.ケ	フ.ケ
H-005	白髪（しらが）	シャガ / シラガ	シャガ	シャガ（シャガニナル白髪になる） / シラガ	ショアガ	シャガ（シャガガシッカリダガノ 白髪が多いね）
H-006	目（め）	メンタマ / マナコ	マナコ	マナコ	メダマ（全体を指す） / マナコ	マナコ（マナコガヤメキャ 目が痛い）
H-007	眉（まゆ）	マユゲ / マミ / マミゲ / メーゲ /	マミゲ / マミ	マユ / マユゲ / マミ	マユ / マユゲ / マミゲ	マユゲ（マミゲ まつげ？）
H-008	額（ひたい）	ヒ.テー	ヒ.テー	ヒ.テー	ヒ.テゝア	ヒチャー
H-009	鼻（はな）	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ
H-010	鼻血（はなぢ）	ハナヂ	ハナヂ / ハナジ	ハナジ / ハナヂ	ハナヂ	ハナジ
H-011	耳（みみ）	ミミ	ミミ	ミミ	ミミ	ミミ
H-012	口（くち）	ク.チ	ク.チ	ク.チ	ク.チ	ク.チ
H-013	唇（くちびる）	ク.チビル	ク.チビル	ク.チビル	ク.チビル	ク.チビル
H-014	舌（した）	シタ / ベロ（古）	ベロ / シタ	ク.チベロ / ベロ / シタ	シタ / ク.チベロ（昔こう言ったかも）	シタ / ベロ
H-015	歯（は）	ハ / ムカバ（抜けている歯）	ムカバ	ハ / ムカバ	ホア / ムカバ（全ての歯）	ムカバ
H-016	歯茎（はぐき）	ハグ / ハグキ	ハグーバ / ハグキ	ハグ / ハグキ	ハグキ	ハグキ
H-017	顎（あご）	アゴ / オトゲー（あご先）	オトゲー / オトゲイ（アゴ全体のこと）	オトゲー / アゴ	アゴ / オトギゝア	オタギヤー / アゴ / アグ（アグガ ハレテ あごがはれて）

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-018	髭 (ひげ)	ヒゲ / ヘゲ (古) / ホーヒ ゲ	ヒゲ / ヘゲ	ヒゲ	ヒゲ	ヒゲ
H-019	毛 (け)	ケ / ケブシヨ	ケベシヨ / ケベシヨ	ケ	キ (髪の毛も体 毛も)	ケ / ケビシ (脇 毛や陰毛) / ケブ シヨ (とうもろこし のひげ)
H-020	顔 (かお)	ツラ (古)	ツラ	ツラ (古) / カオ	カオ	カオ / ツラ (乱 暴な言い方)
H-021	首 (くび)	クビ / ド (前)	クビ	クビ	クビ	クビ
H-022	肩 (かた)	カタ / ケーナ	カタ / ケー ナ	カタ / ケーナ	カタ	カタ / ケーナ (古)
H-023	胸 (むね)	ムネ / ムネウ チ	ムネ	ムナイタ (～が 厚い, ～が痛い, 全体に使う。心 臓・胃などにも) / ムネ	ムナダ	ムネ
H-024	乳 (ちち)	チチ / オッ パイ	オッパイ	チ / オッパイ	オッパイ / チチ	オッパイ (「牛の 搾乳」は チチシ ボリという)
H-025	腹 (はら)	ハラ	ハラ	ハラ	ファロア	ハラ
H-026	背中 (せな か)	ケーナ / ヘ ダカ	ヘダカ	ヘダカ / ハダ カ (古) / セナカ (新)	ヘダカ (背中全 体: 肩から腰ま でを指すか) / キヤーナ (背中 上部を指すか 「ーヲ モム」)	セナカ / ヘダカ
H-027	肝 (きも)	キモ / フギ (内蔵全体)	キモ	カンゾオー / キ モ (魚の肝, 人間 には言わない)	キモ	キモ / フギ (魚 のはらわた)
H-028	臍 (へそ)	ヘソ	ヘツチョゴ	ヘソ / ヘツゴ	ヘツチョゴ	ヘソ / ヘツチョゴ (古)
H-029	腰 (こし)	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ
H-030	尻 (しり)	シンベタ	シンベタ	シッゲタ / シリ	シッベタ	オシリ / シッベタ / シリッペタ / シ ッペタ
H-031	肛門 (こうも ん)	ケツノアナ / コーモン (新)	キクノゴモン / コーモン	クソマリ (クソ マリ ヤメル肛門 が痛い) / コー モン	NR	コーモン
H-032	手 (て)	テ / テンボー / タンボー	テ	テー / ヒラー (拳) / タッボー (物をもらうときの	テ	テ / タッボー～タボ ー (手の平)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
				手の形)		
H-033	腕 (うで)	ウデ	ウデ	ウデ	ウデ (手首まで)	ウデ
H-034	肘 (ひじ)	シヂ〜ヒヂ	ヒヂ / ヒジ	ヒジ 〜ヒヂ	ヒヂ	ヒジ
H-035	力 (ちから)	ウデップシ / チカラ	チカラ	NR	チカラ	チカラ / ウデッ プシ ガ ツイヨイ (力がある)
H-036	拳 (こぶし)	ゲンコツ / ゲ ンコ	ゲンコツ / コブシ	コブシ / ゲンコ / ゲンコツ	ゲンコ (こぶしそ のもの) / ゲンコ ツ	コブシ / ゲンコツ イ
H-037	筋 (すじ)	スヂ	スジ	スジ〜スヂ / シズ	スヂ	スジ〜スイジ
H-038	指 (ゆび)	ユビ / イビ (古)	ユビ / イビ	ユビ	ユビ / イビ	ユビ
H-039	爪 (つめ)	ツメ	ツメ	ツメ	ツメ	ツメ〜ツイメ
H-040	足 (あし)	アシ / アシノ ケーナ (足の 甲)	アナヒタ (足 のうら) / アヒ / アシ	アシ / アッキー (靴を履く部分) (アッキー ボジ 大きい足)	アシ	アシ (アシで全体)
H-041	腿 (もも)	フトモモ / フ トハギ / モモ	フトモモ / フトハギ / モモ	モモ / フトモモ	モモ	モモ / フトモモ
H-042	股 (また)	マタ	マタ	マタ / マタシタ	マタグラ	マタ
H-043	膝 (ひざ)	ヒヅァ〜ヒヅァ	ヒヅァカブラ / ツグメ	ヒザカブ / ヒザ	ヒヅァ / ヒヅァ カンブリ (古)	ヒザ / ヒザカブラ
H-044	くるぶし	ケーブシ / ク ルブシ	クルブシ	ケーブシ / ク ルブシ	キーブシ	クルブシ
H-045	脛 (すね)	スネ / アッケ ー	スネ	ハギ / スネ / アッキー (古)	ハギ/ スネ	スネ〜スイネ
H-046	ふくら脛	コムナ / フク ラハギ	フ.クラハギ	ホウ.クラハギ / フクラハギ	NR	コブラ (コブラガ ヒッカタマッタ 足 がつった) / フ.ク ラハギ
H-047	踵 (かかと)	カカト (アッケ ー アキレス 腱)	アッキー / アッケイ	アッキー/ ボジ / カカト	アッキー	カカト / アッケイ (古)
H-048	体 (からだ)	カラダ	カラダ	ガケー / カラダ	カラダ	カラダ / タイカク
H-049	背丈 (せたけ)	セー / セタケ	セタケ	セ	セイ	ウワゼ (ウワゼガ アル背が高い)
H-050	骨 (ほね)	ホネ	ホネ	ホネ	ホネ	ホネ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-051	皮 (かわ)	カワ / コーベ	カワ / コーベ	カワ / カー	クア (果物の皮も)	コアーベ / カワ
H-052	ほくろ	ホクロ	ク.スベ	ホクロ (「あざ」アザは幼児の尻にあるもの)	ホクロ (「あざ」は アザ〜アゾア)	ク.スベ (ク.スベガシツカリ アロジャ (ほくろがたくさんあるね))
H-053	涙 (なみだ)	メナダ / ナミダ (新)	メナダ	メナダ / ナミダ	メナダ	メナダ / ナミダ
H-054	声 (こえ)	コエ	コエ / コイ	コエ / コイ	キー	コエ
H-055	息 (いき)	イキ	イキ	イキ	イキ	イキ
H-056	咳 (せき)	セキ	セキ	セキ	シキ/ セキ	セキ
H-057	唾 (つば)	ツバキ / ツバ	ツバキ / ツバ	ツバ / ツバキ	ツバ/ ツダキ	ツバ / ツダキ (古)
H-058	あくび	アクビ	アクビ	アクビ / アクビー	アクビ	アクビ
H-059	涎 (よだれ)	ヨンダレ	ヨンダレ	ヨンダレ / ヨダレ	ヨダレ / ヨッダレ (古)	ヨダレ / ヨッダレ
H-060	屁 (へ)	へ	へ	ヒーリ / ヒーリー (古) / オナラ (新)	ヒーリ	ヘーリ / ヒーリ (ヒーリオ ヘル屁を放る)
H-061	糞 (くそ)	ウンコ / クソ / ヘツダ (鳥の糞)	ウンコ/ クソ	クソ / ウンコ	ニット	ニット (ニットオマル糞をする)
H-062	尿 (にょう)	シヨンベン / ヨンバリ	シヨンベン / ヨンバリ	シヨンベン	シヨンベン / ヨッバリ (古)	ショーベン / シヨンベン / ヨッバリ (ヨッバリオ スル おしっこをする)
H-063	おでき	ヨンベ / ヤンベ (すりきずがうんだもの)	ヤンベ	NR	ヤッベ	キズイ
H-064	たんこぶ	タンコブ	タンコブ	タンコブ	タンコブ	タンコブ
H-065	汗 (あせ)	アセ	アセ	アセ	アセ	アセ (ホトール「暑くて」)
H-066	垢 (あか)	アカ	アカ	アカ	アカ	アカ
H-067	怪我 (けが)	ケガ (ケゴー 怪我を)	ケガ (ケゴー シターノ (ケガをしたの))	ケガ	ケガ	ケガ
H-068	病気	ヨンデ (動詞) / ヤンダロワ (病気になる)	ヤミ / ビョーキ	ビョーキ / ヤムー (動詞、結核などで長く病床にある人を ヤミホロケ という)	ヤミ / ヤミビョーキ	ヤム (動詞、病気になる) / ビョーシン (病気がちの人)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-069	血 (ち)	チ	チ	チ	チ	チ
H-070	傷 (きず)	キズ	キヅ/ キズ	キズ〜キヅ	キズ	キズ〜キズィ
H-071	薬 (くすり)	クスリ	クスリ	クスリ	クスリ	クスリ〜クスリィ
H-072	灸 (きゅう)	オキュー	キュー	オキュー (灸に 使うモグサは モ グサ)	キュー	キュー
H-073	命 (いのち)	イノチ	イノチ	イノチ	イノチ	イノチ
H-074	木 (き)	キ	キ	キ	キ	キ
H-075	葉 (は)	ハツパ	ハツパ	ハ (〜オテル葉 が落ちる)/ ハッ パ	ハツパ	ハツパ
H-076	枝 (えだ)	エダ	エダ	エダ / エダブリ (たくましい枝に ついて)	エダ / イエダ	エダ
H-077	梢 (こずえ)	コズエ	コズエ	NR	トンヂャキ	NR
H-078	実 (み)	ミ	ミ	ミ	ミ	ミ
H-079	根 (ね)	ネー / ネッコ	ネッコ	ネッコ / ノッコ	ネ / ネッコ	ネ / ネッコ
H-080	草 (くさ)	クサ (クサー 草を)/ タナリ (雑草)	クサ/ クソ ー (草を)	ク.サ	ク.サ	ク.サ
H-081	花 (はな)	ハナ	ハナ	ハナ / エータ バ (明日葉)の 呼び名:タロー バナ (一番良い 花)/ ジローバ ナ (二番目に良 い花)/ サプロ ーバナ (三番目 に良い花)	ハナ	ハナ
H-082	種 (たね)	タネ	タネ	タネ	タネ	タネ
H-083	苗 (なえ)	ネー (ネーイ ェー 田植え)	ネー / ナエ	ネー / ナエ	ニャ	ナエ / ニャー
H-084	稲 (いね)	タブ	ネー/ イネ/ タブ	イネ / オカブ (陸でとれる稲)	イネ/ イネ (植 えるとき)/ タブ (刈るとき)	イネ
H-085	穂 (ほ)	ホ	イナホ	ホ	NR	タブ か (タブカリ 稲刈り)
H-086	米 (こめ)	コメ	ヨネ / コメ	コメ	コメ	コメ
H-087	粃 (もみ)	モミ	モミ/ モミヨ (粃を)	モミ (モミガラ 粃殻)	モミ (「粃殻」は モミガラ)	モミ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-088	麦 (むぎ)	ムギ	ムギ	ムギ (ムギガラ 麦殻)	ムギ	ムギ
H-089	藁 (わら)	ワラ / イナワ ラ	ワラ	ワラ	ワラ	ワラ
H-090	麦わら	ムギワラ	ムギワラ	ムギワラ	ムギワラ	ムギワラ
H-091	茅 (かや)	カヤ	カヤ	カヤ (屋根葺き 用)	カヤ (希)	カヤ
H-092	粟 (あわ)	アワ (ワのwは 弱い)	アワ	アワ / アー (ア ーメン 粟飯)	アワ (希)	アワ (粟は島には ない)
H-093	稗 (ひえ)	ヒエ	ヒエ	粟と区別なし	NR	島にはない
H-094	芋 (いも)	イモ (里芋)	イモ (里芋)	イモ (里芋のこ と) / チンゴー (小振りの里芋)	イモ (里芋)	イモ (里芋)
H-095	甘藷 (さつ まいも)	カンモ	カンモ	サツマ / カン ショ (サツマイ モは内地の人 か)	カンショ / カン モ / チキー (古)	サツマ〜サツイマ (サツマ カモカ サツマイモ食べよ うか) (「さとうきび」 は カンシャ)
H-096	豆 (まめ)	マメ	マメ	マメ	マメ	マメ / チクグリ
H-097	きゅうり	キューリ	キューリ	キューリ	キューリ	キューリ
H-098	蓬 (よもぎ)	ヨモギ	ヨモギ	ヨモギ	ヨモギ	ヨモギ
H-099	菜 (な)	ナツパ	ナツパ	ナ / ナツパ (大根の葉、カキ ナの葉)	ナツパ	ナツパ
H-100	大根 (だい こん)	デーコ	デーコ / チ ャーコ	デーコ	ディアーコン	チャーコ
H-101	冬瓜 (とうが ん)	NR	トーガン	NR	トーガン	トーガン
H-102	かぼちゃ	カボチャ	カボチャ	カボチャ	カボチャ	カボチャ
H-103	瓜 (うり)	ウリ / シマウリ	ウリ	ウリ	ウリ	ウリ (まくわ瓜)
H-104	萵 (にら)	ニラ	ニラ	ニラ (島にはな かった)	ニラ (近代的、 最近のもの)	ニラ
H-105	茸 (きのこ)	キノコ	キノコ	キノコ (しいたけ シータケ (自生) を指した)	キノコ (種類で 言うのが普通)	キノコ / シータケ 「しいたけ」
H-106	きくらげ	ミミダブ	キクラゲ	ダブミ	ダブミ	ミミダブ / ダブミ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-107	とうがらし	トンガラシ	トンガラシ	トンガラシ	トンガラシ	トーガラシ〜トンガラシ
H-108	にがうり	NR	ニガウリ	NR	NR	ニガウリ
H-109	胡麻 (ごま)	ゴマ	ゴマ	ゴマ	ゴマ	ゴマ
H-110	苺 (いちご)	イチゴ / アビ (野いちご)	イチゴ / アビ (のいちご) / デンキ アビ (のいちごの一種)	アビ	アビ	アビ (山いちご)
H-111	黴 (かび)	カビ	カビ	カビ	カビ	カビ
H-111	麴 (こうじ)	コーヂ	コーヂ	コージ〜コーヂ (酒造・味噌に)	コージ	コージ
H-112	ソテツ	ソテツ	シャメンバナ	ソテツ	ソテツ / ゴシャ メンバナ とも	ソテツィ (シャメン バナ ソテツの花)
H-113	松 (まつ)	マツ	マツ	マツ	マツ	マツ
H-114	竹 (たけ)	タケ	タケ	タケ (「筍」はタ コーナー)	タケ (「筍」はタ コーナ)	タケ
H-115	梅 (うめ)	ウメ	ウメ	ウメ	ウメ	ウメ
H-116	桃 (もも)	モモ	モモ	モモ	モモ	モモ
H-117	桑 (くわ)	カノキ (桑の木) / カベ (桑の葉) / カ ミ (桑の実)	カベ / カ ベ	カノキ (桑の木) / カベ (桑の 葉)	カノキ (桑) / カ ビヤ (桑の葉)	カビヤ (桑の葉) / カビヤノキ (桑の木) / カビ ヤバタケ (桑畑) / カミ (〜の実)
H-119	すすき	ススキ	ススキ	ススキ	マグサ (牛の餌 にする)	ススキ
H-120	びろう樹	ビロー / シロ ノキ	クバ	ビロー	ビロウ	ビロー
H-121	ミカン	ミカン	ミカン	ミカン (種類別 にコミカン, ウン シュウ, バカナ リとも)	ミカン	ミカン
H-122	荳 (くき)	クキ	クキ	クキ	クキ	クキ〜クキ
H-123	あおさ	NR	アオサ	NR (ハンバ 海 藻の一種)	アオサ	島にはない
H-124	モズク	NR	モズク	NR (ブドー 海 藻の一種)	NR	島にはない
H-125	藻 (も)	モ (種類にブ ド, ハンバ (ノ リ), トサ	モ	モ / モー	モ (希) / テング サ (テングサ)	カイソー (種類に ブド, トサカ, ハン バ, ノリ (岩のり),

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
		カ, コモノハ)				テンクサ)
H-126	イカ	イカ / イカメ	イカ / イカ メ	イカ/ イカメ	イカ / イカメ	イカ / イカメ
H-127	タコ	タコ / タコメ	タコ / タコメ	タコメ	タコ / タコメ	タコ / タコメ / ニョツコメ
H-128	エビ	エビ / エビメ	エビ / エビ メ	エビ / エビメ	エビメ / エビ	エビ / エビメ
H-129	ウニ	ウニ/ ズアル (トゲがないソ フンウニ)	ウニ/ ウニメ	ウニメ (食べ ない)	ウニ(-メは付 かない)	ウニ/ イラカジ (ウニの仲間、ト ゲばかりで食 べられない) / ズアル〜ズ アルザル(ウ ニの仲間、ト ゲが無いソ フンウニ、食 べられる)
H-130	ウニの身	ミ	NR	NR	NR (食べな かった)	ウニ/ ナカミ
H-131	貝 (かい)	カイ (ケー ゴー トコブシ のから)	カイ (アブキ あわび)	総称はない。メ ットー (高瀬 貝) / シタダ ミ などと 種類別に言 う	キヤーゴー (ト コブシの貝 殻のこと。貝 の総称はな く、種類で 言うのが普 通)	カイ (ケー ゴー「貝 殻」)
H-134	巻き貝	シツタカ (岩 に付く小さい もの) / メッ トー (ボタン を作るのに 使う)	ヒタダミ	NR (タニシ はいない) / シタダミ (ヒラミミ ガイ科の一 種)	シタダミ	メットー (ガ イ) (巻き 貝の一種)
H-132	カメ	カメ / カメ メ	カメメ	カメメ	カメメ / カ メ	カメ / カメ メ
H-133	カニ	カニメ	カニメ	カニメ / ガ リマメ	カニメ / ガ ニメ	カニ/ カニ メ
H-135	魚 (さかな)	ヨ	ヨ	ヨ / サカナ	サカナ / イ ヨ / イヨ	ヨ (ヨー ツ リ イコー ゴン 魚を 釣りに行 こうか)
H-136	うろこ	コケヅァ / ウロコ	コケ ヅァ / ウロコ	ウロコ/ ウ ロコー / コ ケ	コケ	ウロコ / コ ケラ
H-137	ウナギ	ウナギ / ウ ナギメ	ウナギ / ウ ナギメ	ウナギ / ウ ナギメ	ウナギ	ウナギ (ナ ダメ ウツ ボか)
H-138	クジラ	クヂラ	クヂラ / ク ジラ	クジラ	クヂラ / ク ヂラメ	クジラ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-139	カツオ	カツー	カツー	カツー (古) / タツオ (新)	カツー	カツオ/ カツー〜カツイー漁師言葉)
H-140	トビウオ	トビヨ / トビ	トビヨ (トビメツリ イコゴー ン「トビウオ釣りに行こ う」)	トビヨ	トビヨ	トビ
H-141	イルカ	イルカメ / イルカ	イルカ (メは 付けない)	イルカ	イルカ	イルカ
H-142	ナマコ	ウミヂンポ (海 のチンポ)	ナマコ (メは 付けない)	ウメヂッポ	ナマコ	ナマコ
H-143	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ (メは 付けない)	ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ
H-144	ヤドカリ	オカガニ/ カ ナゴメ	ヤドカリ (メ は付けない)	NR	カナガメ	NR
H-145	牛 (うし)	ウシメ / ゾク / ゾクメ / ゾ ック / ゾックメ (雄牛) / ボッ コ / ボッコメ (大きな雄牛) / バメ (雌牛) / チョンコメ (子 牛)	ウシメ / ゾ ク / バメ / ゾクメ	ウシメ / チョン コメ (子牛)	ウシメ	ウシメ / ズォック / ズォックメ (雄 牛) / バメ (雌牛) / チョンコメ (赤ち ゃん牛) / チョー センメ (朝鮮 牛?, 赤い牛)
H-146	馬 (うま)	ウマメ	ウマメ	ウマメ	ウマメ	ウマ / ウマメ
H-147	ヤギ	ヤギメ	ヤギメ	ヤギメ / オスヤ ギ (雄山羊)	ヤギメ	ヤギメ
H-148	豚 (ぶた)	ブタメ	ブタメ	ブタメ	ブタメ	ブタメ
H-149	角 (つの)	ツノ	ツノ	ツノ	ツノ	ツノ〜ツィノ
H-150	とさか	トサカ	トサカ	トサカ (馬のた てがみとしては ない)	トサカ	タテガミ / トサカ
H-151	犬 (いぬ)	イヌメ	イヌ/ イヌメ	イヌメ	イヌメ	イヌメ
H-152	猫 (ねこ)	ネッコメ	ネコ/ ネッコ メ	ネッコメ	ネッコメ	ネッコメ / コネッ コ (子猫)
H-153	ウサギ	ウサギメ	ウサギ / ウ サギメ	ウサギ / ウサギ メ	ウサギメ	ウサギメ
H-154	ネズミ	ネヅミメ / ネ ヅミ / ヨルノ ト (古)	ヨメドノ / ネ ズミ	ネヅミ / ネズミ メ / ヨメドノ (古)	ネヅミ/ ヨメドノ	ネズミ
H-155	虫 (むし)	ムシメ	ムシ / ムシ	ムシ / ムシメ	ムシメ	ムシメ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
			メ			
H-156	アリ	アリメ	アリ / アリメ	アリメ	アリメ	アリメ
H-157	蚊 (か)	カブメ	カブメ	カブメ / カ	カブメ	カブメ
H-158	蜘蛛 (くも)	クモメ / トン チャルメ (蜘蛛 の一種)	トンチャルメ / トージンヅ アル/ トー ジンチャル	テンゴメ	テンゴ [°] メ	クモ
H-159	クモの巣	クモメノス	トンチャルメ ノス / クモノ ス	クモノス / テン ゴメノス	アヂ	クモノス
H-160	蝶々 (ちょう ちよ)	チョーチョメ / ヘツチョメ / ヘールメ (大 きなハエ)	チョーチョ / チョーチョー メ	チョーチョメ / チョーチョ	チョーチョ	チョーチョ / チョ ーチョメ
H-161	カタツムリ	カタツムリ / デンデンムシ	カタツムリ / デンデンム シ	カタツムリ / デ ンデンムシ (昔 は食べたかもし れない)	デンデンムシ	カタツムリ / デン デンムシ
H-162	カエル	カエルメ	カエルメ / キヤールメ	カエルメ	キヤールメ	カエルメ / キヤ ールメ (古)
H-163	蜂 (はち)	ハチメ	ハチメ / ハ チ	ハチ/ ハチメ (蜂の種類 アブ メ, ブヨメ (牛を 襲う))	ハチメ	ハチ / ハチメ
H-164	蠅 (はえ)	ヘーメ	ヘーメ / ヘ ー	ヘーメ	ヒヤーメ	ヒヤーメ
H-165	蛆 (うじ)	ウヂムシ / ウ ヂメ	ウヂメ	ウヂ / ウジメ	ウヂメ	ウジメ
H-166	蚤 (のみ)	ノミ / ノンメ	ノンメ / ノン メ	ノミ / ノンメ	ヌンミ	ノミ / ノンメ
H-167	ミミズ	メメヅ / メメ ヅメ	メメヅメ〜メ メズメ	ミミヅ / ミミズメ	ネネヅメ	ミミズメ / メメズ/ ネネズイメ
H-168	シラミ	シャンメ	シャンメ	シャンメ	シャンメ	シャンメ (メは付か ない)
H-169	ムカデ	ゲヂゲヂ / ム カヂメ / ムカ デ	ムカヂメ〜ム カジメ	ムカデ / ムカ デメ	ムカヂメ	ムカジメ
H-170	蚕 (かいこ)	コナサマ	コナサマ	コナサマ (尊敬 語)	コナサマ	コナサマ
H-171	カマキリ	カマキリ (ケー ビョーメ とか げ)	カマキリ	カマキリ (〜メは 付かない)	ゲンビーメ	カマキル

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-172	トンボ	トンボメ	ヘツチョメ / ヘツオメ	トンボ / トンボ メ	ヘツチョメ	トンボ / トンボメ
H-173	バッタ	バッタメ	バッタ / バ ッタメ	バッタメ	バッタメ	バッタ / バッタメ / バッタミ
H-174	鳥 (とり)	トリメ	トリメ	トリメ / 「キジ」 はキジメ (戦後 入れた。今は害 鳥)	トリメ	トリメ
H-175	ニワトリ	ニヤットリメ	ニヤットリ / ニヤットリメ / トートーメ	ニヤトリメ	ニヤットリメ	ニヤットリメ / トート ーメ (昔)
H-176	とさか	NR	トサカ	トサカ	トサカ	NR
H-177	雀 (すず め)	スヅメ〜スズメ	スヅメ / ス ズメ	スヅメ / スズメ メ	スヅメ	スズメ〜スイズイメ
H-178	鳩 (はと)	ハットメ / ハト メ / ハト / シ ョートメ (古)	ハトメ	ハトメ	ハトメ	ハトメ
H-179	カラス	カラスメ	カラスメ	カラス / カラス メ	カラスメ	カラスメ〜カラスイ メ
H-180	ウズラ	ウヅラ / ウヅ ラメ	ウズラメ	NR (子供の頃は いなかった)	NR	ウズラ (メは付か ない)
H-181	鷹 (たか)	タカメ (トンビ / トンビメ トビ)	タカ (トンビメ トビ)	タカ (ニシエメ ト ンビ)	ニーシェンメ	タカ (「鷹」は トン ビメ)
H-182	卵 (たまご)	タマゴ	タマゴ	タマゴ	タマゴ	タマゴ
H-183	巢 (す)	ス	ス	ス	ス	ス
H-184	羽 (はね)	ハネ	ハネ	ハネ	ハネ	ハネ
H-185	動物	ドーブツ	イキモノ	オーブツ	NR	イキモノ / ドーブ ツイ
H-186	空 (そら)	ソラ / テンネ ー	ソラ	ソラ / テンニ	テンニー	ソラ
H-187	日 (ひ)	ヒ	ヒ	ヒ (日付け) / オ ヒサマ / テント ーサマ (古)	ヒ	ヒ / テントーサマ も使う
H-188	太陽	テントーサマ	テントーサマ / タイヨー	ヒ / タイヨー / オヒサマ	テントーサマ	テントーサマ
H-189	光 (ひかり)	ヒカリ	ヒカリ	ヒ.カリ	ヒカリ	ヒ.カリ
H-190	蔭 (かげ)	ヒ.カゲ / カゲ / カゲボーシ	カゲ	カゲ / ヒカゲ (日蔭) / コカゲ (木蔭)	カゲ	カゲ / ヒカゲ / カゲボーシ (影法 師)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-191	まぶしい	マブシキヤ	マブシキヤ (「まぶしいで すね」)	マブシー	マブシー	マブシー (マブシ キヤーノー まぶし いなあ)
H-192	火 (ひ)	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ
H-193	水 (みず)	ミヅ	ミヅ/ ミズ	ミズ〜 ミヅ / 海水 ウシヨ (煮 炊きに用いた) (ウシヨクミ 海水 を汲みに行く 人。桶を頭に載 せて)	ミヅ	ミズ〜ミ zü
H-194	山 (やま)	ヤマ	ヤマ	ヤマ	ヤマ	ヤマ
H-195	川 (かわ)	カワ / コー (古)	カワ / コー	カー / カワ / カーラ / ターダ	コワ	カワ
H-196	橋 (はし)	ハシ	ハシ	ハチ	ハシ	ハシ
H-197	丘 (おか)	ヤマ / オカ/ トンブ	オカ	ヤマ	オカ	オカ
H-198	陸地 (りく ち)	オカ (小高い) / リク	オカ / リク チ	オカ / オカシヨ	オカ	リクチ / オカ
H-199	土・地面	チチ/ チメン/ ミヂャ (古)	ツチ	ツチ/ チチ, ジ メン	チチ	ツイチ/ チチ(死 語) / ミジヤ (外の 土の上)
H-200	星 (ほし)	ホシ	ホシ	ホシ	ホシ	ホシ
H-201	月 (つき)	ホシ / ツキ / オツキサマ	ツキ	ツキ / オツキサ マ / オツキサ マ	ツキ	ツキ〜オツイキサ マ
H-202	雲 (くも)	クモ / クモメ	クモ	クモ	クモ	クモ
H-203	霧 (きり)	キリ / カスミ / モヤ	キリ	キリ	キリ (新) / モヤ (古)	キリ / モヤ
H-204	露 (つゆ)	ツユ	ツユ	ツユ / ヨツユ	ツユ	ツユ / ツユ
H-205	雨 (あめ)	アメ	アメ	アメ	アメ	アメ
H-206	風 (かぜ)	カヅエ	カヅエ/ カ ゼ	カゼ	カヅエ	カゼ
H-207	竜巻 (たつ まき)	タツマキ / ツ ムヂカヅエ (小さい)	タツマキ / ツ ムヂカヅエ	タツマキ (〜メは ない)	タツマキ	タツマキ〜タツイ マキ (ツジカゼ 「辻風」)
H-208	稲光 (いな びかり)	イナビカリ / イナヅマ (古)	イナビカリ	イナビカリ / イ ナヅマ	イナビカリ	イナヅマ〜イナ zü マ
H-209	地震 (じし ん)	ヂシン	シン / チシ ン	ジシン / チシ ン	ヂシン	ヂシン
H-210	虹 (にじ)	ニヂ〜ニジ / ニヂメ	ムイヂ / ニ ジ	ニジ / ニヂ	ニヂ	ニジ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-211	明かり	アカリ	アカリ	アカリ	アカリ	アカリ
H-212	雷 (かみなり)	カミナリ / カミナリサマ	カミナリ	カミナリサマ / ゴロゴロサマ (幼児語)	ゴロゴロサマ	カミナリ / カミナリサマ
H-213	潮 (しお)	シヨ	シヨ / ウシオ	ウシヨ (ウシヨミズ塩水) / シヨ	シヨ	シオ / シヨ
H-214	煙 (けむり)	ケムリ / ケブ / ケム	イブリ / ケムリ	ユブリ (ユブス [動詞]) / イブリ (古) / ケムリ (新)	ケムリ	ケムリ / イブリ (ケムリデ イブロカ煙でいぶそうか)
H-215	浅瀬 (あさせ)	ネ	アサセ	ヂモト	アサキヤ (浅いと言う)	アサセ
H-216	遠浅 (とおあさ)	トーアサ	トーアサ	トーアサ	トーアサ	トーアサ
H-217	洞窟 (どうくつ)	ドークツ / ホコラ / ホラ	トーラ (小さいもの、俵もトーラ) / ホラ	ホラ / ドークツ	ホラアナ	ドークツ / ホラアナ / トーラドローラ (木のうろ)
H-218	海 (うみ)	ウミ	ウミ	ウミ	ウミ	ウミ / ハマ
H-219	水溜り、池	タマリ (水溜り) / イケ (池)	ミズタマリ / イケ	ショダマリ (潮だまり) / イケ (池)	NR	イキ (水たまり、池)
H-220	港 (みなと)	ミナト	ミナト / ワン	テーボー (突堤か) / ミナト	ミナト	ミナト
H-221	波 (なみ)	ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	ナミ / ウネリ (大きな波) (「風」はナギ)
H-222	泡 (あわ)	アワ / アブク (古) (アオー泡を)	アブク / アワ	アワ / アブク (石鹸)	ショワ (波の花のこと)	ヨタ (ヨタガ ハッテルカラ キョーワ ウミガアレテルゾー 泡が張っているから京は海が荒れているぞ) / シャブキ (海の泡) / アブク (石鹸の泡)
H-223	島 (しま)	シマ	シマ	シマ	シマ	シマ
H-224	浜 (はま)	ハマ	ハマ	ハマ / スナハマ	NR	ハマ
H-225	珊瑚礁	サンゴショー	サンゴショー	NR	NR	サンゴショー (島にはない)
H-226	砂 (すな)	スナ	スナ / チャリ (チャーレ つ	スナ	スナ	スイナ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
			ちぼこり)			
H-227	石 (いし)	イシ / イシコロ	イシ	イシ	イシ	イシ
H-228	溝 (みぞ)	ミゾ (小さい) / ホラ (大きい) / ミヂョ (古)	ミゾ / ミジヨ	ヒダ / ミジヨ / ミゾ	ミヂョ	ミゾマ (排水用)
H-229	田 (た)	タバ	タバ	タバ (少ない) / タバラー (古) / タンボ (新)	タバ	タバ
H-230	畦道 (あぜ)	アヅエ	アヅエ / アゼミチ / アヅエミチ	アゼ / アゼミチ / アヅエミチ	ハタ	NR
H-231	畑 (はたけ)	ヤマ / ショ / ヤマショ (奥の方)	ショ / ヤマ	-ショ (地名に付けて言う) / ハタケ / ヤマ	ヤマ	ヤマ / ヤマショ (遠くの畑)
H-232	野 (の)	ノツパラ / ノ	ノ / ノツパラ	ヤブ	NR	NR
H-233	道 (みち)	ミチ	ミチ	ミチ	ミチ	ミチ
H-234	崖 (がけ)	ママ	ガケ	ガケ / ドテ / ママ (切り立ったところ)	ガケ / ホラバタ	ママ / タカママ
H-235	坂 (さか)	サカ	サカ	サカ	サカ	サカ
H-236	頂上 (ちょうじょう)	テッペン / トンツベ (低い山)	トンツベ / テッペン	トンブ / トンツブリ (古) / チョーゾー (新)	テッペン	テッペン / トンツイブラ (低いところの～)
H-237	東 (ひがし)	ヒガシ / ヒガシカゼ (東風) / ナライ (東北風)	ヒガシ / ナライ	ヒガシ / ヒガシカデ～ヒガシカヅエ (東風) / ナライカデ (東風)	ヒガシ / ナライ (北東の風。良い風)	ナライ (北東の風)
H-238	北 (きた)	キタ / サガ (北風) / ナレー (北東) / ナレーカゼ (北東風)	キタ / ナライ (北東の風)	キタ / ナレー (北風)	キタ / コアムラ (北風)	NR
H-239	西 (にし)	ニシ (ニシボン 冬の季節風)	ニシ / ニシカゼ	ニシ / ニシカデ～ニシカゼ (西風) (「風」単独では [kaðe]。)	ニシ (方角) / ニシ (風。良い風)	NR

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-240	南 (みなみ)	ミナミ / ミナミ カゼ (南風) / ナガシ (南西) / ナガシカゼ (南西風)	ミナミ / ミナ ミカゼ	ミナミ / ミナミカ デ〜ミナミカゼ (南風) / ハエ (南風、古)	ミナミ (方角) / ミナミ (風)	ナガシ (南風)
H-241	右 (みぎ)	ミギ	ミギ	ミギ	ミギ	ミギ
H-242	左 (ひだり)	ヒダリ	ヒダリ	ヒダリ (ヒ.ではな く) / ヒダリ	ヒダリ	ヒダリ
H-243	前 (まえ)	マエ (マエゲ ー デロ 前に 出る) / メー / サッカタ (古) /	メー	マイ / メー	マエ	マエ
H-244	後ろ (うし ろ)	ウシロ / オシ ロ	ウシロ	オシロ / オシロ (オッキ 海側、 ヤブロ 山側)	オシロ / ウシロ	ウシロ / オシロ (古)
H-245	跡 (あと)	アト / アシア ト	アト	アト	アト	アト
H-246	横 (よこ)	ヨコ	ヨコ	ヨコツパラ / ヨ コ	ヨコ	ヨコ
H-247	上 (うえ)	ウエ	ウエ	ウウエ〜ウエ	ウェッダ / ウエ ンダ / ウエ	ウエ / ウエー
H-248	下 (した)	シタ	シタ	シタ	シタ〜シタ	シタ
H-249	中 (なか)	ナカ (ハコン ナカ 箱の中)	ナカ	ナカ	ナカ	ナカ
H-250	底 (そこ)	ソコ	ソコ	シギ (ー) / シ ンブ	ソコ / ドツヅォ コ (崖の)	シツブ
H-251	内 (うち)	ウチ/ ナカ	ウチ	ウチ	ナカ	ウチ
H-252	外 (そと)	ソト	ソト	ニャー / ソト	ソト (「庭」は ニ ャー)	ソト
H-253	奥 (おく)	オク	スンマ	オク〜オクジ (「庭」ニャー)	オク	オク
H-254	角 (かど)	カド	カド	スミ / カド	カド	ツノッコ / カド (新)
H-255	傍 (そば)	ソバ	ソバ	ソバ / ソベー (そばに) / ソバ ヨー (そばを)	ソバ / ソビャー (〜に)	ソバ
H-256	今日 (きょう)	ケー	ケイ	キー	キー / キョー	キー
H-257	昨日 (さくじ つ)	キネー	キネイ	キニー	キニー / キニョ ー	キニー / キニョ ー (借用形?)
H-258	一昨日(い っさくじつ)	オトイ / ウツ ツエー	オトイ	ウチチー / オ トイ	ウッチ〜ウチチ ー / オトイ	オトツイ / ウチチ ー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-259	明日(みょうにち)	アス / アシタ	アス	アス	アシ.タ〜アシタ / アス	アス
H-260	明後日(みょうごにち)	アサッテ / サンナサッテ (古)	アサッテ	アサッテ	アサッテ	アサッテ
H-261	明明後日(みょうみょうごにち)	シアサッテ / サンナサッテ	シアサッテ	シガサッテ / シアサッテ / サンナサッテ	サンナサッテ (シヤサッテ 明明後日、ヤナサッテ 明明明後日)	サンナサッテ
H-262	今年(ことし)	コトシ	コトシ	コンド / コトシ	コトシ	コトシ
H-263	昨年(さくねん)	キョネン	キョネン	キョネン	キョネン	キョネン
H-264	一昨年(いっさくねん)	オトシ	オトシ	オトシ	オトシ	オトシ
H-265	来年(らいねん)	ライネン / デーネン	ライネン / デーネン (知っているが使わない)	デーネン	リヤーネン / チャーネン	リヤーネン / チャーネン (古) / ライネン (新)
H-266	再来年(さらいねん)	サライネン / サレーネン / サデーネン	サライネン	サデーネン	サリヤーネン / サライネン	サリヤーネン
H-267	今(いま)	マン / イマ	マン	マニ/ マン	マン	マン / マニ(マニャ イソガシー 今は忙しい)
H-268	昔(むかし)	ムカシ	ムカシ	ムカシ	ムカ _g / ショテーニ	ムカシ / ミヤーニ (以前に)
H-269	夏(なつ)	ナツ	ナツ	ナツ	ナツ	ナツ
H-270	冬(ふゆ)	フユ	フユ	フユ	フユ	フユ
H-271	朝(あさ)	アサ/ トンメテ (古)	トンメテイ	トンメテ	アサ / トンメテ (8時頃まで)	トンメテ (早朝。強調して言うと トーンメテ) / アサ
H-272	昼(ひる)	ヒル	ヒョウラドキ	ヒル〜ヒル	ヒル	ヒル
H-273	夕方(ゆうがた)	ユーガタ/ クレガタ (古)	クレーガタ	ユーガタ / クレー (古) / クレイエー	ユーガタ / クレー (日が落ちる頃) / クレガタ / ヨンベ (タベ)	ユーガタ / クレー
H-274	夜(よる)	ヨル/ ヨンベ (昨日の夜、古)	ヨル	ヨル(「昨夜」はヨッベ / ヨンベ	ヨッベ	ヨッベ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-275	夜中	ヨナカ	ヨナカ	ヨナカ	ヨナカ / ヨルヨ ナカ	ヨナカ
H-276	暇 (ひま)	ヒマ	ヒマ	ヒマ (「合間」は ヨマ)	ヒマ / ヨマ (合 間) / ヨマシ.キ	ヒマ (「合間」はヨ マ)
H-277	時 (とき)	トキ	トキ / チブ ン	トキ	トキ	チカン / トキ
H-278	年 (とし)	トシ	トシ	トシ	トシ	トシ (年齢)
H-279	暦 (こよみ)	コヨミ / コユメ (古)	コヨミ (コユミ は使わない)	コイミ (3音節) / コヨミ	コヨミ / コイミ (3 音節)	コヨミ
H-280	物 (もの)	モノ	モノ	モノ	モノ	モノ
H-281	色 (いろ)	イロ	イロ	イロ	イロ	イロ
H-282	音 (おと)	オト	オト	オト	オト	オト
H-283	夢 (ゆめ)	ユメ	ユメ	ユメ / ユミー (夢を)	ユメ	ユメ
H-284	着物 (きもの)	キモノ, ヘベラ (古)	ヘビラ	ヘビラ	ヘベラ / マダ ラ (よそ行き)	マダラ / キモノ / ヘベラ
H-285	襟 (えり)	エリ	エリ	イエリ / エリ	エリ	エリ / イエリ (古)
H-286	袖 (そで)	ソデ	ソデ	ソデ	ソデ	ソデ
H-287	裾 (すそ)	スソ	スソ	スソ	スソ	スソ
H-288	帯 (おび)	オビ	オビ	オビ	オビ	オビ
H-289	紐 (ひも)	ヒモ/ ヒボ (古)	ヒモ	ヒボ	ヒモ / ヒボ / ナワ	ヒモ / ヒボ (古)
H-290	足袋 (たび)	タビ	タビ	タビ	タビ	タビ
H-291	袴 (はかま)	ハカマ	ハカマ	ハカマ	ハカマ	ハカマ
H-292	下駄 (げた)	ゲタ/ ボックリ (古)	ゲタ / プッ クリ (何か履 物)	ゲタ (アシダ 高 下駄)	ゲタ (ホーバ / アシダ 高下駄) / ボックリ	ゲタ / アシダ (高下駄)
H-293	草履 (ぞう り)	ゾーリ / ア シナカ (走る の使うぞうり、 短い)	ゾウリ / ア シナカ (つま 先だけの履 物)	ヂョーリ / アシ ナカ 走るのに 使う、前半分し かないぞうり)	ヂョーリ / ズォ ーリ (古) / アシ ナカ (走るのに 使う、前半分し かないぞうり)	ゾーリ
H-294	緒 (お)	ハナオ	オバ	ハナウオ (下駄 の) / ハナオ	オ / ハナオ	ハナオ
H-295	布 (ぬの)	キレ	キレ	キレ	キレ / ヌノ / ボロ (ボロ布)	キレ
H-296	表 (おもて)	オモテ (「玄 関」はトボー)	オモテ (「玄 関」はトボウ)	オモテ / オモ チー (〜に) / サッカタ	オモテ (「前」は サッカタ)	オモテ
H-297	裏 (うら)	ウラ	ウラ	ウラ / オシロ	ウラ	—

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-298	綾,模様 (あや)	ガラ	モヨウ / モヨー (オウ と オー の区別がある人とないない人がいる)	モヨー	ゲラ	アヤ
H-299	手ぬぐい、タオル	テネゲー / テネグイ (新)	テネゲー / テネゲイ	テニギー	テネギー / テネグイ / テヌグイ	テヌグイ / (古)テネギー
H-300	蓑 (みの)	ミノ	ミノ ((A) 見たことある, (B)使わない)	ミノ	NR	NR / (カッパ)
H-301	湯 (ゆ)	オユ	オユ	ユ	ユ / サユ	ユ / オユ (ユーワカセ 湯を沸かせ)
H-302	茶 (ちゃ)	オチャ	オチャ	チャ	チャ	チャ / オチャ (チャー ノモゴン 茶を飲みましょう)
H-303	飯 (めし)	ゴハン / メシ (古) (シヤメシ 白ごはん)	メシ	メシ	メシ / シヤメシ	メシ / シロメシ (白米)
H-304	粥 (かゆ)	オカユ (オケーオ タモオレ おかゆを下さい)	オカユ	オケー	キャ / オカユ	オカユ
H-305	餅 (もち)	モチ	モチー	モチー	モチー	モチー
H-306	雑炊 (ぞうすい)	オジャ / ヅォースイ	ゾウスイ / オヂヤ	ゾォーシー / オヂヤ	ヂョーシー / ヅォーシー	ヅォーシー / ヅォーセイ (新?) (オヂヤ 残ったご飯をみそ汁などと混ぜて煮直したもの)
H-307	味噌 (みそ)	ミソ	ミソ	ミソ / ミス	ミソ	ミソ / テッカンミソ (自家製の味噌)
H-308	汁 (しる)	シル	シル	ツユ / シル	シル/ ツユ (「オカズ」はシャー)	ツユ
H-309	塩 (しお)	シオ	シオ	シヨ	シオ / シヨ	シオ / シヨ (古)
H-310	塩辛い	シヨツパイ (シヨツパキヤ しよっぱいよ)	シヨツパイ	シヨツカラケ / カラキヤ / シヨツパイ	シヨツカライ / シヨツパキヤ (「魚醬」はシュエーデ)	シヨツカリヤ / シヨツカライ (新)
H-311	砂糖 (さとう)	サトー (サトー ケロ 砂糖をくれ)	サトー	サトー	サトー	サトー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-312	甘い	アメー / アマ キャ	アマキャ	アマキャ	アマイ	アマキヤー
H-313	砂糖黍 (さ とうきび)	トーギミ	カンシャ	カンシャ (キビ ガンシャ サトウ キビの種類、ト ーキビガンシャ とうもろこし)	カンシャ	カンシャ
H-314	粕 (かす)	カス	カス	カス	シューチュード ブ (酒作りの)	カス
H-315	酒 (さけ)	サケ	サケ	サケ	サケ	サケ (焼酎)
H-316	麴 (こうじ)	コージ	コーヂ	コーヂ〜コージ	コーヂ	コーヂ
H-317	粒 (つぶ)	ツブ	ツブ	ツブ	ツブ	イツブ
H-318	糠 (ぬか)	ヌカ	ヌカ	ヌカ	ヌカ	ヌカ
H-319	粉 (こ・こな)	コナ	コナ	コナ	コ / コナ	コナ
H-320	にんにく	ニンニク	ニンニク	ニンニク	ニンニク	ニンニク
H-321	芽 (め)	メ	メ	メ	メ	メ
H-322	クワズイモ	NR	NR	—	クワヅイモ (5 音 節)	NR
H-323	肉 (にく)	ニク	ニク	ニク	ニク	ニク
H-324	果物 (くだ もの)	クダモノ (「み かん」は コー ジ、小さい、 酸っぱくて種 が大きい)	クダモノ	クダモノ	クダモノ (「みか ん」はコージ)	クダモノ
H-325	油 (あぶら)	アブラ	アブラ	アブラ	アブラ	アブラ
H-326	天ぷら	テンプラ	テンプラ	テンプラ	テンプラ	テンプラ (かき揚 げ含む)
H-327	灰 (はい)	ハイ / ヘー (古)	ヘー	ヘー	ヒヤー	ヒヤー (古) / ハイ (新)
H-328	匂い (にお い)	ニオイ(カマ ル動詞「匂い がする」)	ニオイ	ニオイ (いい匂 いも) (カマロワ ナー 臭いなあ) / ニオイ	ニオイ / ニオイ / カマル(動詞 「臭い」)	ニオイ(カマル動 詞「匂いがする」)
H-329	味 (あじ)	アジ	アヂ	アヂ〜アジ	アヂ〜アジ	アヂ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-330	料理 (りょうり)	リョーリ	リョーリ / 「魚をさばく」はヂョール (ボウヂョソワ 料理をしようか)	リョーリ	リョーリ	ゴチソー (来客向け) / リョーリ / 「料理する」はヂョール(ヨーヂョーロワ 魚を料理する / チョーロヂャ)
H-331	ご飯	メシ	メシ	メシ	メシ	メシ (メシヨカモアカ ご飯を食べようか)
H-332	食事 (しょくじ)	メシ	メシ	ヒョクジ	メシ	メシ
H-333	朝食 (あさめし)	アサメシ	アサメシ	アサメシ / アサケ	アサケ (古) / アサメシ	アサゲ (古) / アサメシ (新)
H-334	昼食 (ひるめし)	ヒョーラ	ヒルメシ / ヒョウラ	ヒョーラ	ヒョーラ	ヒルゲ (古) / ヒルメシ (新)
H-335	夕食 (ゆうめし)	ユーマシ	ヨウメシ	ヨーケ / ヨーマシ	ヨーケ / ヨーマシ	ヨーケ (古) / ヨーマシ (古) / ユーマシ (新)
H-336	膳 (ぜん)	オヅェン	オゼン	ヅェン / タボダイ〜タブダイ (ちゃぶ台)	ヅェン	オボン
H-337	食べる	カム	カム (カモワ 食べるよ)	カム	カム	カモワ (あまり使わない)
H-338	食べ物	カミモノ	カモモン	カモモン	カモモノ	カモモン
H-339	家 (いえ)	イエ / ワガエ (我が家) / オマエノエ (お前の家), ウンガ は目下へ)	エ	イエー / ウチ	エ / ワガエ (我が家) / ウンガイ エ〜ウナガイ (おまえの家)	イエ
H-340	母屋 (おもや)	オモヤ / ボークウチ (大きい家) / ボーエ (分家)	ボウエ	オモヤ (希) (「はなれ」はヂグラ (希))	ボーケウチ (「はなれ」はゲヤ / エノコ)	オモヤ / ボーイエ (古)
H-341	台所 (だいどころ)	コックバ / オカッテ	コックバ	コックバ / コクバ	コックバ	ダイドコロ / コックバ / オテマ
H-342	天井 (てんじょう)	テンヂョー	テンヂョー / アマ	テンヂョー (「天井裏」はアマ)	テンヂョー (「天井裏」はアマ)	テンヂョー / アマ (古)
H-343	床 (ゆか)	ユカ (ミジャ「地面」)	ユカ	ユカ	ユカ (床) / ミヂャ〜ミジャ (床・	ユカ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
					地面)	
H-344	棚 (たな)	タナ	タナ	タナ	タナ	タナ
H-345	竈 (かまど)	カマド / ヘツツイ (ごはんを炊く釜全体)	カマド	カマド (ヘツツイ自在鉤)	カマド / ヘツツイ	カマド / ヘツツイ
H-346	いろり	イロリ	イロリ	イロリ / チロブチ (囲炉裏端)	カマド / チロ (「囲炉裏淵」はチロブチ,「予備の薪」のムスクビ)	イロリ
H-347	戸 (と)	ト	ト / アマド	ト	ト	ト
H-348	板 (いた)	イタ	イタ	イタ	イタ	イタ
H-349	節 (ふし)	フシ	フ.シ / フ.シメ	フ.シ〜フシ	フ.シ〜フシ	フ.シ
H-350	穴 (あな)	アナ	アナ	アナ	ドマ / アナ	アナ
H-351	柱 (はしら)	ハシラ	ハシラ	ハシラ	ハシラ	ハシラ
H-352	釘 (くぎ)	クギ	クギ	クギ	クギ	クギ
H-353	瓦 (かわら)	カワラ	カワラ	カワラ / カーラ	カワラ	カワラ (ほとんではない。普通はタン。)
H-354	便所 (べんじょ)	トイレ / カンヂョー (古)	ベンヂョ / カンヂョー	カンヂョー	ベンヂョ / カンヂョー (「島アジサイの葉」をカンヂョーシバという。これをトイレトペーパーとして使用した)	ベンヂョ / カンヂョ (カンヂョは他地区の言い方か?)
H-355	垣 (かき)	クネ「生け垣」	イシガキ (石垣) / クネ (生け垣)	イシガキ / オリ (古) / カキ	オリト / イシガキ	カキネ / オリ (石積の垣)
H-356	庭 (にわ)	ニヤー	ニヤー	ニヤー	ニヤー	ニヤー
H-357	井戸 (いど)	イド	イド	イド	イド	イド
H-358	墓 (はか)	ハカシヨ	ハカシヨ	ハカシヨ	ハカ / ハカシヨ	ハカ
H-359	煤 (すす)	スス	スス	スス	ス〃ス〃〜スス	スス[ス.ス]
H-360	埃 (ほこり)	ホコリ	ホコリ	ホコリ	ホヤーレ (砂ほこり) / ホコリ	ホコリ
H-361	縄 (なわ)	ナワ	ノー	ナー	ノア / ニヤー	ナワ / ノア (古)
H-362	鎖 (くさり)	クサリ	ク.サリ	ク.サリ	ク.サリ	ク.サリ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-363	綱 (つな)	ツナ	ロッパ / ツナ	ナー / ツナ	ツナ	ツナ
H-364	袋 (ふくろ)	フクロ	フ.クロ	フ.クロ / フクロ	フ.クロ〜フクロ	フ.クロ
H-365	荷 (に)	ニモツ	ニ/ ニモツ	ニ	ニー〜ニ	ニ(ニョー ツム 荷を積む)
H-366	皿 (さら)	サラ	サラ	サラ	サラ / ゴキ	サラ
H-367	椀 (わん)	オワン	オワン / ゴキ (聞いたことあり)	ワン	ワン	ワン
H-368	茶碗 (ちゃわん)	メシジャワン / ゴキ (古)	チャワン	チャワン / ゴキ (古)	ゴキ / メシジャワン	メシジャワン
H-369	壺 (つぼ)	ツボ	ツボ	ツボ	ツボ	ツボ
H-370	鉢 (はち)	ハチ	ハチ	ハチ	ハチ	ハチナンメ
H-371	瓶 (かめ)	カメ	カメ	カメ	カメ	カメ
H-372	水瓶 (みずがめ)	ミズガメ	ミズガメ	ミヅガメ	ミヅガメ	ミズガメ
H-373	桶 (おけ)	オケ	オケ	オケ	オケ	オケ
H-374	水桶 (みずおけ)	NR	ミズオケ	ミズオケ	ミゾオケ	ミズオケ
H-375	盥 (たらい)	タライ / タレー (古)	タライ / タレー	タレー (木製)	タリヤー	タリヤー / カナダリヤー (金盥)
H-376	ひしゃく		シャク	シャク	ヒ.シャク	シャモヂ
H-377	柄 (え)	エ / ヒシャクノエ	エ / トツテ	イエ / エ	エ	ボー
H-378	釜 (かま)	ハガマ	オカマ / ハガマ (聞いたことがある)	ハンガマ (ごはん釜) / メシガマ / カマ	カマ / ハンガマ (ご飯用)	メシガマ / ハガマ
H-379	しゃもじ	ヘラ (シャモジお玉)	シャモヂ	ヘラ / シャモジ	ヘラ / シャジ	シャモジ
H-380	急須・鉄瓶 (きゅうす)	キュース / キビショ (古)	キュース / テツビン	キュース / テツビン / キビショ〜キビショー (南洋帰りの方が使用、古)	キュース / ドビン / キビショ	キビショ (古) / キュース (新)
H-381	箸 (はし)	ハシ	ハシ	ハシ	ハシ〜ハシ	ハシラ
H-382	包丁 (ほうちょう)	ホーチョー	ホウチョー	デバ / ホーチョー	ホーチョー	ホーチョー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-383	刀 (かたな)	カタナ	カタナ	カタナ	カタナ	カタナ
H-384	小刀 (こが たな)	キリダシナイフ	コガタナ	コガタナ	コガタナ / ナイ フ	コガタナ
H-385	まな板	マネータ / キ リバン (古)	マナイタ / キリバン	マネータ / キリ バン	キリバン	マナイタ / キリバ ン (古)
H-386	臼 (うす)	ウス	ウス	ウス (搗き臼) / イシウス (挽き 臼)	ウス (搗き臼) / スルス (挽き臼、 腰の重い女)	ウス
H-387	杵 (きね)	キネ	キネ	キネ (横杵) / テギネ (縦杵)	キネ (「ゴマすり (道具)」はデン キ ^o ネ	キネ
H-388	斧 (おの)	オノ	オノ (薪割 り用) / ナタ (枝落とし用) / ヨキ (大工 道具)	オノ (伐採用) / ヨキ (薪割り用)	マサカリ / マキ ワリ / オノ / ヨ キ (古)	オノ / ナタ (山 刀)
H-389	鋸 (のこ)	ノコギリ	ノコ / ノコギ リ	ノコギリ	ノコギリ	ノコ (ノコギリとも)
H-390	鑿 (のみ)	ノミ	ノミ	ノミ	ノミ	ノミ
H-391	錐 (きり)	キリ	キリ	キリ	キリ	キリ
H-392	箱 (はこ)	ハコ	ハコ	ハコ	ハコ	ハコ
H-393	筆 (ふで)	フデ	フデ	フデ / フデー (～を)	フデ / フディー (～を)	フデ
H-394	紙 (かみ)	カミ	カミ	カミ / カミヨ (～ を)	カミ	カミ
H-395	鋏 (はさみ)	ハサミ	ハサミ	ハサミ	ハサミ	ハサミ
H-396	印 (しるし)	シュルシ (丸 めのあるイ)	シルシ / メ ボシ	シルシ	ショシ (ショシ モ タネモ ニャ ー何もかもめち やくちゃになっ てなくなる)	シルシ
H-397	漆 (うるし)	ウルシ	ウルシ	ウルシ (希)	ウルシ	ウルシ
H-398	鏡 (かがみ)	カガミ	カガミ	カガミ	カガミ	カガミ
H-399	櫛 (くし)	クシ	クシ	クシ	ク ^e	クシ / トーグシ (半月型の櫛)
H-400	布団 (ふと ん)	フ.トン	フ.トン	フ.トン～フトン / ヤグー (腕を通 すもの)	フ.トン	フ.トン

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-401	枕 (まくら)	マクラ	マクラ	マクラ	マクラ	マクラ
H-402	箒 (ほうき)	ホーキ	ホウキ / ホーキ	ホーキ / ホーキョ (～を)	ホーキ	ホウキ / ホーキ
H-403	竿 (さお)	サオ / モノホシザオ (物干し竿) / サオダケ	サオ	サウオ / サオ	サオ	サオ
H-404	杖 (つえ)	ツエンボー	ツエ / ツエンボウ / ツッキンボウ	ツエ / ツクンボー (物を突くための棒) / ツエンボー (古))	ツイセ	ツエ / ツエンボー
H-405	笠・傘 (かさ)	カサ / コーモリ (古)	カサ	カサ	カサ	カサ
H-406	針 (はり)	ハリ / ヌイバリ	ハリ	ハリ	ハリ	ハリ
H-407	糸 (いと)	イト	イト / ニュートウ	イト	イト / テミョー (たこ糸)	イト
H-408	煙管 (きせる)	キセル	キセル	キシエル ^へ キセル	キセル	キセル
H-409	金 (かね) (金属・お金)	ヅェネ / ゼエネ (古) / チャニエ	カネ / ゼエネ / ゼエニ	カナモノ / カネ	カネ / ゼエネ / ゼエニ(お金)	オカネ / カネ / ゼエニ / ゼエネ
H-410	三味線 (しゃみせん)	シャミセン	シャミセン	シャミセン	シャミセン	NR (シャミセン)
H-411	船 (ふね)	フネ	フネ	フネ	フネ	フネ
H-412	帆 (ほ)	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ
H-413	櫂 (舟のカイ)	カイ	カイ / ロ (ロとカイは別物)	カイ	ロ / カイ	カイ
H-414	網 (あみ) (魚を獲るあみ)	アミ	アミ	ヨーアミ / アミ	アミ	アミ
H-415	槍 (やり)	ヤリ / ツキンボー	ヤリ	ツキンボー / モリ / ヤリ	モリ / ヤス. / ヤリ	ヤリ
H-416	鍬 (くわ)	クワ / ミツグワ (3つに分かれてる鍬) / ヒラグワ (平らな鍬) / テガ	テガ	テガ (種類にミツガ, ヒラガ)	テガ (種類にミツガ / ヒラグワ)	クワ / キヤーテガ (草取り道具) (「蚕」はコナサマ)
H-417	鋤 (牛にひかすすき)	スキ	スキ	s ₁ スキ～スキ	s ₁ スキ / プラオ	NR
H-418	脱穀用ゴザ	ゴザ～ゴヅァ	ゴザ / ムシ	ムシロ	ムシヨ～ムシロ	ゴヅァ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
			ロ			
H-419	鎌 (かま)	マガマ	マガマ	マガマ	カマ / マガマ	カマ / ヒラテガ (草刈り道具)
H-420	鋤 (すき)	スキ	スキ	—	—	NR
H-421	篋 (へら)	ヘラ	ヘラ	ヘラ	ヘラ	NR
H-422	箆 (ざる)	ヅアル/ チャ ル	ザル〜ヅア ル/ イメミゴ (竹で編んだ 壺が他の細 い箆)	ヅアル/ ミ (脱 穀用)	ヅアル	ヅアル
H-423	籠 (かご)	カゴ	カゴ / ズア ル	カゴ / イメミゴ (里芋洗いに使 用)	カゴ / イメミゴ, ユメムゴ (里芋 洗いに使うかご)	イメミゴ (小さい 背負う籠)
H-424	篩 (ふるい)	フルイ / ミ	フルイ / ミ	フリー〜フルイ	フリー / フルイ	NR
H-425	俵 (たわら)	タワラ / トー ラ (古)	トーラ	タワラ / ターラ / スミダーラ (炭 俵)	タワラ / スミド アラ / ズック	トアラ (古)
H-426	筵 (むしろ)	ゴザ〜ゴヅア	ムシロ / モ ショ (古) / ゴザ	ムシロ	ムショ / ムシロ / ゴザ	ムシロ / コモ
H-427	薪 (たきぎ)	マキ / ゴミ	マキ (大きい 木) / ゴミ (ちょっと大き めの木、細 い木という人 もいる) / ム スクビ (着火 材に使う細か い木)	ゴミ / タキギ / ヅアンサラ (古)	ゴミ / ムスクビ	マキ / ゴミ / ム スクビ
H-428	人 (ひと)	ヒト	ヒト	ヒト〜ヒト	ヒト	ヒト
H-429	親 (おや)	オヤ	オヤ	オヤ	オヤ / オヤサ マ	オヤ
H-430	子 (こ)	コ (ウクノ コ あそこの家の 子) / コドモ	コ / コドモ / アッパメ (赤ん坊)	コ / ヤッコメ (古)	コ / コドモ	コドモ
H-431	長男	チョーナン / チョウナンメ	チョーナン / タロー (使わ ないが知っ ている) / ボ ーヤ	チョーナン	チョーナン	チョーナン
H-432	二男	ヂナン / チ ナンメ	ヂョウメ / チ ナン	ヂナン	ヂナン	ヂナン

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-433	三男	サンナン / サ ンナンメ	サボウ	サンナン	サンナン	サンナン
H-434	四男	ヨンナン	ヨンナン / ショウ	ヨンナン	ヨナン	ヨンナン
H-435	五男	ゴナン	ゴナン / ゴ ロウ	ゴナン	ゴナン	ゴナン
H-436	六男	ロクナン	ロクナン / ロクロウ	ロクナン	ロクナン	ロクナン
H-437	七男	シチナン	シチナン	シチナン	シチナン	シチナン
H-438	八男	ハチナン	ハチナン	ハチナン	ハチナン	ハチナン
H-439	九男	キューナン	キューナン	キューナン	キューナン	キューナン
H-440	十男	ヂューナン	ヂューナン	ヂューナン	ヂューナン	ヂューナン
H-441	長女	チョージョ / チョーヂョメ	チョーヂョ / ニョコ / ニョ コメ	チョーヂョ〜チョー ジョ/ ニョコメ (古)	チョージョ	チョーヂョ
H-442	二女	ヂジョ / ヂヂ ョメ	ヂヂョ / ナ カ (聞いたこ とがある) / テゴメ (?)	ヂヂョ / ニジョ	ヂジョ	ヂーヂョ
H-443	三女	サンヂョ / サ ンヂョメ	サンヂョ	サンヂョ	サンヂョ	サンヂョ
H-444	四女	ヨンヂョ / ヨン ヂョメ	ヨンヂョ / ク ス (聞いたこ とがある)	ヨンヂョ	ヨンヂョ	ヨンヂョ
H-445	五女	ゴジョ	ゴヂョ	ゴヂョ〜ゴジョ	ゴジョ	ゴヂョ
H-446	六女	ロクジョ	ロクヂョ	ロクヂョ〜ロクジ ョ	ロクジョ	ロクヂョ
H-447	末っ子	スエッコ / ヒッ パシ (古) / シツパシ	スエッコ / シツパシ / シツパシメ (メが付くと上 品でない感 じがする。)	スエッコ / ヒッ パシメ	シツパシ	ヒッパシ / ヒッ パシメ (メは愛情 をこめた謙遜のニ ュアンス。)

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-448	親子 (おやこ)	オヤコ	オヤコ (親戚も)	オヤコ (親戚も)	オヤコ	オヤコ
H-449	孫 (まご)	マゴ / マゴメ	マゴ	マゴ	マゴ	マゴ
H-450	父, おとうさん	オトーサン / トーチャン (古) / オヤヂ	オット / トウ (古) / オヤジ / トーチャン / テテオヤ	オトーチャン / トーチャン / トッチャン (古)	オトーチャン / テテ (古) / オヤジ	オトーチャン / オトチャン
H-451	母, おかあさん	オカーサン / カーチャン (古) / オフクロ	オッカ / カーチャン / ホー (古)	オカーチャン / カーチャン / オッカ (古)	オカーチャン / ホワ (古) / オフクロ	オカーチャン / オカチャン
H-452	兄, おにいさん	オニーサン / アンチャン (古)	アニ / アンチャン (「年上, 目上の人」はアセイ)	アンチャン / アシー (古) / ニーチャン	アンチャン / アニキ	オニーチャン / アンチャン (アセイは聞いたことあり)
H-453	姉, おねえさん	オネーサン / ネーチャン (古)	ネーチャン / ネイヤ / ネイチャン (「年上の女性」は インネ)	ネーチャン	ネーチャン (呼ぶときは〇〇 (名前) ニーチャン)	オネーチャン / アンド
H-454	弟 (おとうと)	オトート / シタノ キョーデー	オトウト	オトート	オトート	オトウト
H-455	妹 (いもうと)	イモート / シタノ キョーデー	イモウト	イモート	イモート	イモウト
H-456	兄弟 (きょうだい, しまい)	キョーダイ / キョーデー	キョウデー	キョーデー	キョーダイ	キョーダイ / キョーデチャー
H-457	祖父 (そふ)	オジーサン / オヂーチャン / デーチャン	ヂーチャン / デーサン / オウサマ (古)	ヂーチャン	ヂーチャン / オヂーチャン / オーサマ (古)	オヂーチャン / オーサマ (古) / オーチャマ
H-458	祖母 (そぼ)	オバーサン / オバーチャン / バーチャン / バッパ (坂上の呼び方)	バーチャン / バンマ (古) / オモースマ (古)	バーチャン / バンバ / ウンマ (古)	バーチャン / オバーチャン / バッパ (古)	オバーチャン
H-459	夫 (おっと)	ダンナ / テーシュ	オット / オヤジ / ワガイエノヒト / ワゲーノヒト	ダンナ / オット / トー / ワガイノヒト	ダンツィクイ (宿ろく) / ダンナ (呼ぶ時は名前で呼ぶ)	ワギ (一)ノヒト

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-460	妻 (つま)	ヨメ / ワゲー ノ ヒト	ヨメ / ワガイ ェノヤツ / ワゲーノヤツ	ヨメ / ワガイノ オンナゴ	カニヤー / ヨメ (呼ぶ時は名前 で呼ぶ)	オミ / 呼ぶ時は 名前と呼ぶ
H-461	夫婦 (ふう ふ)	フーフ / ツレ アイ	フーフ	フーフ	フーフ	フーフ
H-462	叔父 (おじ)	オジチャン / オジサン / オ ヂ	オヂ	オヂ〜オジ	オヂ	オヂチャン / オ ヂ
H-463	叔母 (お ば)	オバチャン / オバサン / オバ	オバ	オバ	オバ	オバチャン / オ バ
H-464	甥 (おい)	オイ/ メイヨー シ	オイ	オイ	オイッコ / メー ヨーシ (姪と合 わせて)	オイッコ
H-465	姪 (めい)	メイ / メイヨー シ	メイ	メイ	メイッコ / メー ヨーシ (甥と合 わせて)	メイッコ
H-466	従兄弟 (い とこ)	イトコ	イトコ	イトコ	イトコ	イトコ
H-467	婿 (むこ)	ムコ / ムコド ノ	ムコ / ムコ ドノ	ムコ	ムコ	ムコ
H-468	家族 (かぞ く)	カゾク〜カゾ ク	カゾク / シ ョテー (ショ テーは「以前 に」の意味も)	ナカマ / カゾク	カゾク / カニヤ ー	カゾク
H-469	親戚 (しん せき)	オヤコ	オヤコ	オヤコ	オヤコ	オヤコ
H-470	男 (おとこ)	オノコゴ / オ トコゴ	オトコ / オト コゴ	オノコゴ	オノコゴ	オトコ / オノコゴ
H-471	女 (おんな)	オンナゴ	オンナ / オ ンナゴ (聞い たことがある)	オンナゴ	オンナゴ	オンナ / オンナ ゴ
H-472	目上 (の男)	メウエ (ワレヨリ ボーケ ヒト 私 より年上の人) / トシウエ	アセイ / セ ンパイ (年齢 が上の人)	アニ(呼ぶ時は 〇〇(人名)アニ / ボーケヒト (年 上)	アンチャン (呼 ぶ時は〇〇 (人 名) アンチャン / 〇〇オヂチャ ン)	メウエノヒト
H-473	目下 (弟、 妹)	トシシタ	NR	オメンチェー/ コレンチェー	呼ぶ時は名前を 呼び捨て	NR
H-474	青年 (せい ねん)	セーネン / ワ ケーシュ (古)	ワケーシュ	ワケーシュ (20 歳〜25,26 歳) / ワケーシ	ワキヤーシュ (17, 18 才〜 27,28 才或は結 婚するまで)	ワカケヒト
H-475	大工 (だい)	ダイク / デー	デーク	デーク / ダイク	ディヤーク./ デ	ダイク

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
	く	ク (古)			ーク	
H-476	友だち	ホーバー	ホウバー	ナカマ / ホーバー (古)		トモダチ
H-477	若い娘	メナラベ	メナラベ	メナラベ	メナラベ	メナラベ (25 くらいまで)
H-478	私 (わたし)	ワレ / ワイ / アイ / ワレワ (私は) / ワガ (私の) / ワレニ (私に)	アイ / ワイ / ワレ / アガ (?)	アガ / アレ	アレ / アガ	ワレ / ワイ
H-479	私たち	ワレラ / ワイラ	ワイシャー / ワイラー / ワイラ	ワレンチャー / アレンチャー	ワレンシャー / ワレンチャー	ワレーシャー / ワイシャー
H-480	あなた	オマエ / オメー (対目上、対目下という人も) オミー (同等以上)	オメー	オメー (目上や年上) / オミ (古)	オミヤー	オミヤイ
H-481	あなたたち	オマエラ / オメーラ (同等以下) / オミラ (同等以上)	オメーラ	オメンチャー / オメータチ (目上や年上) / オミラ (古)	オミヤンシャー	オミヤイシャー
H-482	お前	ウヌ / ウン / ウンガ (軽蔑している)	ウヌ / オマエ	オメー / オマイ / ウム (けなし)	オミヤー / ウンガ	オミ
H-483	お前たち	ウナラ / ウヌラ	ウヌラ / オマエラ / オメーラ	オメンチャー / オマイラ / ウヌラ (けなし)	オミヤンシャー / ウヌンシャ	オミーシャ
H-484	皆 (みな)	ミンナ / メンナ (古)	メンナ	メンナ	ヅェンブ (人も)	ミンナ
H-485	名 (な)	ナマエ /	ナ / ナメー	ナメー	ナミヤー	ナマエ
H-486	お祝い	オイワイ / ユウェ	ユウェー	ユウェー~ユウェー~ユウェー	ユウヤー / ユワイ / オイワイ	イワイ
H-487	結婚 (けっこん)	ケッコン (コンレイ 結婚式)	ケッコン / ケンレー / ケンレイ	ケッコンシキ (ユエーダラ 結婚式)	ケッコン / シューゲン / コンレー	ケッコン / シューゲン
H-488	結納 (ゆいのう)	ユイノー	ユイノー	ユイノー / ユエー~ユウェー	ユイノー	NR (ユイノー)
H-489	喧嘩 (けんか)	ケンカ	ケンカ	ケンカ	ケンカ	ケンカ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-490	相互扶助 (農作業など)	テツダイ / コーヨー / ミチ コーヨー (古)	ミチゴーヨー (皆で道を整備する) / ヨレー	ユイ (まれ)	ヨソアースル(手 伝う) / ガッペー	ミチゴーヨー (道 の整備)
H-491	相撲 (すもう)	スモー	スモウ	スモー	スモ	スモー〜スモウ
H-492	一つ	ヒツツ / テツ (古)	テツ	テツ	テツ	ヒツツ
H-493	二つ	フタツ	フ.タツ	フ.タツ〜フタツ	フ.タツ	フタツ
H-494	三つ	ミツツ	ミツツ	ミツツ	ミツツ	ミツツ
H-495	四つ	ヨツツ	ヨツツ	ヨツツ	ヨツツ	ヨツツ
H-496	五つ	イツツ	イツツ	イツツ	イツツ	イツツ
H-497	六つ	ムツツ	ムツツ	ムツツ	ムツツ	ムツツ
H-498	七つ	ナナツ	ナナツ	ナナツ	ナナツ	ナナツ
H-499	八つ	ヤツツ	ヤツツ	ヤツツ	ヤツツ	ヤツツ
H-500	九つ	ココノツ	ココノツ	ココノツ	ココノツ	ココノツ
H-501	十 (とお)	トー	トウ	トー	ト〜トー	トー
H-502	一人	トリ	トリ	ヒ.トリ	トリ / ヒトリ	ヒトリ
H-504	二人	フタリ	フ.タリ / フ タイ	フ.タリ〜フタリ	フ.タリ〜フタリ	フタリ
H-503	三人	サンニン	サンニン	サンニン	サンニン	サンニン
H-505	四人	ヨニン/ ヨッタ リ (古)	ヨッタリ / ヨ ニン	ヨニン / ヨッタリ	ヨッタリ / ヨニン	ヨニン
H-506	五人	ゴニン	ゴニン	ゴニン	ゴニン	ゴニン
H-507	六人	ロクニン	ロクニン	ロクニン	ロクニン	ロクニン
H-508	七人	シチニン	ナナニン / シチニン	シチニン	シ.チニン	ナナニン
H-509	八人	ハチニン	ハチニン	ハチニン	ハチニン	ハチニン

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-510	九人	キューニン	クニン / キューニン	キューニン	キューニン	キューニン
H-511	十人	ヂューニン	ヂューニン	ヂューニン	ヂューニン	ヂューニン
H-512	いくら	イクラ / ドイダケ	イクラ / イクイエン (金額) / ドノグレー	イクラ	イクラ	イクラ
H-513	いつ	イツ	イツ / イツツ	イツ	イツ	イツ
H-514	だれ	ダレ / ダイ / ダレー (～を)	ダレ / ダイ	ダレ / ダリー (～を)	ダレ	ダイ
H-515	どこ	ドコ / ドコゲー / ドコー (～を)	ドコ / ドケイ, ドコゲー (どこに)	ドコ / ドキー (～に) / ドコー (～を) / ドツカラ (～から)	ドコ	ドコ
H-516	どれ	ドレ	ドイ / ドレ	ドレ / ドリー (～を)	ドレ	ドレ
H-517	なぜ	アンデ / アッデ	アンデ / アッデ (古)	アンデ	アンデ	アンデー
H-518	なに	アニ	アニー / アニ (聞き返す場合) / アンダー (何か?)	アニ / アニョ (～を)	アンドア (～ですか) / アニ. / アニョ (～を)	アンドー
H-519	いくつ	イクツ / ドイダケ	イクツ	イクツ	イクツ	イクツ
H-520	これ	コレ / コレオ (～を)	コイ	コレ / コリー (～を)	コレ / コリー (～を)	コレ
H-521	それ	ソレ / ウレ / ソレー (～を)	ソレイ / ソイ	ソレ / ソリー (～を)	ソレ / ソリー (～を)	ソレ
H-522	あれ	ウレ / ウレー (～を) / アレ	ウレイ / ウレ / ウィ	ウレ / ウリー (～を) / ウリヤ (～は) / アレ	ウレ / ウラ / ウレー (～を)	アレ
H-523	ここ	ココ	ココ / ココノツ	ココ	ココ	ココ
H-524	そこ	ソコ / ソコー (～を)	ソコ	ソコ	ソコ / ソキー	ソコ
H-525	あそこ	ウク / ウクー (～を)	ウク	ウク	ウク	アッチ / トオケバショ / オクーヂ
H-526	技・仕事	シゴト	シゴト	シゴト	—	ワゾア
H-527	鬼 (おに)	オニメ	オニメ	オニメ	—	オニ
H-528	心 (こころ)	ココロ	ココロ	ココロ	—	ココロ

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檜立
H-529	情け (なさけ)	ナサケ	ヂョウ	ナサケ	—	ナサケ
H-530	言葉 (ことば)	コトバ	コトバ	コトバ	—	シマゴ
H-531	歌 (うた)	ウタ	ウタ	ウタ	—	ウタ
H-532	踊り (おどり)	オドリ	オドリ	オドリ	—	オドリ
H-533	鼓 (つづみ)	ツズミ	ツズミ	ツズミ	—	NR
H-534	宝 (たから)	タカラ	タカラ	タカラ	—	タカラモノ
H-535	型 (かた)	カタ	カタ	カタ	—	カタ
H-536	形 (かたち)	カタチ	カタチ	カタチ		カタチ
H-537	休息	ヤスミ / イップク	イップク / ヤスミ	イップク	ヒトイキ / ヤスミ	ヤスミ (動詞)
H-538	魂 (たましい)	タマシー	タマシー	タマシー	—	タマシー
H-539	刺青 (いれずみ)	イレヅミ	イレヅミ	イレヅミ	—	イレヅミ
H-540	真似 (まね)	マネ	マメ	マネ / マニー (～を)	マメ / マミー (～を)	マネ
H-541	嘘 (うそ)	オソ (オソツキ 嘘つき)	ヤマシュ	オソ (オソー ツクナ うそをつくな) / オソ _{ts} キ (うそつき) / キツニ _u /	キツネ (「嘘つき」も) / キツネ _{ts} キ (嘘つき)	テーレン
H-542	小さい	ネツコケ / ネツコキヤ	ネツコイ / ネツコキヤ	ネツコキヤ / ネーコケ (連体)	ネツコイ (子供、ねずみ) / チンゴイ (芋)	チツチャケ / チツチャキヤー
H-543	大きい	ボーケ / コーキヤ	ボウイ / ボウイー / ボウキヤ (「大きいもの」はボウケ モノ)	ボーキヤ / ボーケ (連体)	ボーイ / デッカイ	デカキヤ / デッカキヤー / ボーキヤー
H-544	低い	ヒクキヤ	ミヂカイ / ミヂカキヤ (キヤで終わると「ーよ」のニュアンス。)	ネツコキヤ (背が低い) / ヒクキヤ (床が低い) / ミジャキヤ (古、床が低い)	ヒクイ	ヒクキヤー

番号	語	大賀郷	三根	末吉	中之郷	檣立
H-545	同じ	オンナシ	オ(ン)ナジ	オンナジ	オナヂ	オンナヂ
H-546	短い	ミツカケ / ミツ カキヤ	ミジカイ / ミ ジカキヤ	ミジカキヤ	ミツカイ	ミヂカキヤー
H-547	丸い	マルケ / マ ルーキヤ	マルイ / マ ルキヤ	マルキヤ	マルイ	マンマルキヤー
H-548	暖かい	ヌクトケ / ヌク トキヤ	ホトウル	アツタキヤ / ヌ クトイ	ヌクトイ	アツタカキヤー （「暑い」はアツキ ヤー）
H-549	寒い	カゲール	コゲイル(コ ゲイロ ヒ 寒 い日)	コギール（「凍え る」かも?）/ サ ムキヤ	コギール	サムキヤー
H-550	冷たい	ヒヤツコケ	ヒヤツコイ / ヒヤツコキヤ (ヒヤツコケ モノ 冷たい もの)	ヒヤツコキヤ	ヒヤツコイ	ヒヤツコキヤー

八丈方言文法項目データ

八丈方言文法項目データ（音声記号表記）

1	共通語	おれはきょうはいそがしい	備考
1	大賀郷 1	waɾa ke:wa isogaɕikʲa	
1	大賀郷 2	{waja / warewa} kʲo:wa {isogaɕikʲa / isogaɕikʲajo:}	
1	三根 1	ara ke:wa isogaɕikʲa	
1	三根 2	waiwa keiwa {isogaɕikute: / isogaɕikʲa:}	
1	末吉	aɾa: ki:wa isogaɕikedara:	
1	中之郷 1	ara ki:wa isogaɕikʲa.	
1	中之郷 2	ara ke:wa isogaɕikʲa	後に「今日」を ki: というと訂正
1	檜立 1	wara ki:wa isogaɕikʲa	※共通語形が出るのが多く、 方言形を引き出すのに苦労した
1	檜立 2	wara kʲo:wa isogaɕikʲajo:	
1	檜立 3	warewa kʲo:wa isogaɕikʲa	
2	共通語	おまえが畑へ行け。	備考
2	大賀郷 1	narewa jamage: ike (nare は同等以下)	
2	大賀郷 2	omaega hatake: {ike / ikebajokedza}	
2	三根 1	n:ga {jamage: / jame:} ike:	n:ga 同等の人
2	三根 2	ome:wa jamae {odzare: / ike:}	odzare: は丁寧な形
2	末吉	uŋga jame: {ike / ikebajokeɟa}	
2	中之郷 1	omʲa: wa jamʲa: ike	
2	中之郷 2	{ũŋga / ŋ:ga} jamʲa: ike	
2	檜立 1	omʲa:wa jamʲa ikeba joʔkeza. (「行けばいい (命令)」は ike)	
2	檜立 2	omiwa jamae ike. (対目下) / omʲa:wa jamae odzarejo: (対目上)	
2	檜立 3	omiga jamae ike	
3	共通語	うん、畑へはおれがいく。	備考
3	大賀郷 1	o: ɕoge:wa waga ikuwa	
3	大賀郷 2	wakarara, soidza waga {hatake ni / hatake:} ikowa // o: waga {hatake ni / hatake:} ikowa	
3	三根 1	hoiza aga jame: ikowa:	
3	三根 2	{un / n:} {jamaje / jamage:} wa {waga / aga} ikowa:	
3	末吉	(uŋga) jamage:wa aga ikowa	
3	中之郷 1	jamʲa: wa aga ikowa	
3	中之郷 2	o: jamʲa:wa aga ikowa	

3	檜立 1	wara jamia ikowajo	
3	檜立 2	o:, waga jamae ikodza.	
3	檜立 3	o: jamaewa wa:ga ikowa	
4	共通語	おれの鍬はどこにある。	備考
4	大賀郷 1	waga tegawa dokoni aro.	
4	大賀郷 2	{waga / aga} kuwawa dokoni aro	
4	三根 1	aga tegawa {dokon / dokodo:} aro:	aga tegawa dokodo
4	三根 2	{waga / aga} kuwawa dokoni {arudaro: / aro:}	
4	末吉	aga magamawa dokoni aro.	鍬でなく鎌
4	中之郷 1	aga kuwawa dokoni arodo	
4	中之郷 2	aga t ^h egawa dokoni aro↘↗	
4	檜立 1	waga kawa {dokoda?tarō: / dokoni arudaro:}	
4	檜立 2	waga kuwawa dokoni aro.	
4	檜立 3	waga kuwawa dokoni aruka	
5	共通語	この鎌は太郎のか。	備考
5	大賀郷 1	kono magamawa taro:nogaka	
5	大賀郷 2	kono {kama / magama} wa taro:noka	
5	三根 1	kono magamawa taro:gaka	
5	三根 2	kono magamawa {senseiga / senseino} da:jo:	太郎→先生
5	末吉	kono magama wa totteangaka	
5	中之郷 1	kono magamawa taroonoka	
5	中之郷 2	kono magamawa taro:ga ka	
5	檜立 1	kono magamawa omia:nogaka.	
5	檜立 2	kono magamawa taro:nogaka	
5	檜立 3	kono kamawa taro:no ka	
6	共通語	どれがおまへの笠だ	備考
6	大賀郷 1	dorega narega kasado:	
6	大賀郷 2	dorega omaeno kasado:	
6	三根 1	doiga n:ga kasado:	
6	三根 2	doiga ome:no kasado:	
6	末吉	dorega uŋga kasa da:	
6	中之郷 1	dorega omia:no kasa do:	
6	中之郷 2	dorega uŋga kasa dōa	
6	檜立 1	dorega omia:no kasado	
6	檜立 2	dorego omino {minodoa / minodo:} (対目下) // omia:no minowa dorede {odzaro / odzarijaro:}	
6	檜立 3	dorega omi no kasada	
7	共通語	その笠がおれのだ。	備考
7	大賀郷 1	sono kasaga wagadara	

7	大賀郷 2	sono kasawa wagame dara	
7	三根 1	sono kasaga wagado:za:	
7	三根 2	sono kasawa {aga / waga} da:jo:	
7	末吉	sono kasaga aga da:ɕa:	
7	中之郷 1	sono kasaga aga dowaɕa	
7	中之郷 2	sono kasaga aga dara / sore ga aga kasa dara (それが私の 筈だ。)	
7	檜立 1	(sorega waga kasadoaza.) sono kasaga wagadoaza.	
7	檜立 2	sono minowa waga minodarajo:	
7	檜立 3	sono kasaga wareno dara	
8	共通語	このふろしきはおまえのか。	備考
8	大賀郷 1	kono ɸɯɾɯeikiwa {naregaka / naregado:ka}	
8	大賀郷 2	kono ɸɯɾɯeikiwa omaenoda: (「誰のだ」は dagamedo: / darenodo: }	
8	三根 1	kono ɸɯɾɯeikiwa {n:gada: / n:gaka: }	
8	三根 2	kono ɸɯɾɯeikiwa ome:no {gaka: / ka: }	確認する時は ome:noda:no:
8	末吉	kono ɸɯɾɯeikiwa uŋga ka.	
8	中之郷 1	kono ɸɯɾɯeikiwa om:ga ka.	
8	中之郷 2	kono ɸɯɾɯeikiwa {ũŋga / ŋga} ka	
8	檜立 1	kono huɾɯeikiwa om'a:nogaka	
8	檜立 2	kono ɸɯɾɯeikiwa {ominogaka (対目下) / om'a:nogaka (対目上)}	
8	檜立 3	sono ɸɯɾɯeikiwa ominoka	
9	共通語	それはおとうとのかもしない。	備考
9	大賀郷 1	sorewa kjo:de:noga kamoeirennaka	「おとうと」kjo:de:noga, oto:tonoga でかなり迷う。結局 「太郎の」taro:noga で採取
9	大賀郷 2	sorewa {oto:tono kamo eirennakajo (:) (かもしない) / oto:tonodza ne:ka (:) (弟のじゃないか) }	
9	三根 1	soiga kjo:de:noga dakamoeirennakajo:	
9	三根 2	sorewa oto:tono dakamo eirennakano:	
9	末吉	sore wa no: kjo:dee no ga kamo eirennaka:	
9	中之郷 1	sorewa kjo:ɕa:ga kamo eirennaka.	
9	中之郷 2	sorewa kjo:dja:no kamo eirennaka	no の代わりに ga は不可。 kjo:dja:は kjo:dẽa:か
9	檜立 1	sorewa humi (人名)nogakamo eirenai.	
9	檜立 2	sora kjo:ɕa:nogakamo eirennakajo:	
9	檜立 3	sorewa oto:tono kamo eirennaka	
10	共通語	沖縄には船で行くより飛行機で行ったほうがいい。	備考

10	大賀郷 1	okinawan ¹ a φunede derojori ɕiko:kide detaho:ga jokanno:wa	
10	大賀郷 2	okinawaniwa φunede ikujori ɕiko:kide ittaho:ga jokk ¹ ajo:	
10	三根 1	okinawage:wa φunede ikojori ɕiko:kide ittaho:ga jokk ¹ a:	
10	三根 2	okinawage: iko tokiwa φunede ikojorimo ɕiko:kide ikoho:ga jokk ¹ ano:	
10	末吉	okinawa ge:wa φune de ikojori mo ɕiko:kide ittaho:ga jokk ¹ a:	
10	中之郷 1	okinawan ¹ a φunede ikojorikamo ɕiko:kide ittaho:ga {jokanno:wa / jokk ¹ ajo}	
10	中之郷 2	okinawa niwa φunede ikojori ɕiko:kide itta ho:ga jokk ¹ a	
10	檳立 1	okina:n ¹ a hūnede ikojorimo hiko:kide i?ta ho:ga jo?k ¹ ajo.	
10	檳立 2	okinawajewa φunede ikujorika hiko:kinoho:ga {jokk ¹ ajo: (実際に行ったことがある) / jōkan nua jo. (想像で言う場合 (と内省))}	
11	共通語	飛行機は一日に一回しかない。	備考
11	大賀郷 1	ɕiko:kiwa itenteini ikkaieɕka nakk ¹ a	
11	大賀郷 2	ɕiko:kiwa iteiniteini ikkaieɕka nakk ¹ ajo:	
11	三根 1	ɕiko:kiwa iteinteini ikkaieika nakk ¹ a:	
11	三根 2	ɕiko:kiwa iteiniteini sambineika nakk ¹ a {jo: / no:}	一回→三便。
11	末吉	ɕiko:kiwa iteiniteini ikkaieika nakk ¹ ajo:	
11	中之郷 1	ɕiko:kiwa jo iteiniteini ikkaieika nakk ¹ ajo:	
11	中之郷 2	ɕiko:kiwa iteiniteini ikkaieɕka {nakk ¹ a / kinnaka (来ない)}	
11	檳立 1	hiko:kiwa iteintein saŋkaieɕka na?k ¹ ajo:.	
11	檳立 2	ɕko:kiwa itenitei ikkaieika nakka jo:	
12	共通語	空港ならこっちの道を行きなさい。	備考
12	大賀郷 1	kuuko:ge: ikoda:ba kotteino miteo ike	
12	大賀郷 2	{ɕiko:dzo: / ku:ko:}ge: ikoda:ba {kotteino miteiga jokk ¹ ajo (:)/ kotteije ikeba jokk ¹ ajo:}	
12	三根 1	ɕiko:zo:ge:wa kotteino miteo ikeba jokk ¹ a:	
12	三根 2	ku:ko:ge: ikoda:ba: kotteino miteio {ikijare: / odzare: / ike}	録音終了後、「空港」は hiko:zo: と言っていた。行きなさい=ikijare:
12	末吉	ku:ko:nara kottei no miteo:{ ike: / ittaho:gajokune:ka:}	
12	中之郷 1	ɕiko:zo:nara kotteino miteijo itta ho:ga jokk ¹ ajo:	
12	中之郷 2	ɕiko:dzo:ewa kotteino miteio odzarijare	
12	檳立 1	hiko:zo:n ¹ a ko?teino miteo ikeba jo?keza.	

12	檜立 2	çko:ðzo:e {odzaraba (目上) / ikaba} kotteino miteiho {to:rae jo: (対目下) / to:rijare jo: (対目上)}	
13	共通語	道のまんなかをあるいてはいけない。	備考
13	大賀郷 1	miteino mannako: mittea damedara	
13	大賀郷 2	miteino mannaka (o) aruita:ba damedo:dza. kotteino miteio {ike: / itta:ba jokkedza: (行ったらいいよ)}	
13	三根 1	miteino mannakað e:za damedara:	
13	三根 2	miteino mannakawo {e:muuna: / e:mazuun / e:dzadamedajjo:}	e:mazuun は「歩かずこ」とい う意味。
13	末吉	mitei no mannaka: e:n ⁴ za damedara:	
13	中之郷 1	miteino mannak ^w a: arittea damedarajo:	
13	中之郷 2	miteino mannakao {jadde / jande とも} ittewa dame dara (jo)	
13	檜立 1	miteino mannakoa ja?za damedarajo.	
13	檜立 2	miteino mannakao to:ttea damedarajo:.	
14	共通語	道が広いなあ。	備考
14	大賀郷 1	miteiga çirok ¹ ano: // miteiga çiroso:	
14	大賀郷 2	miteiga çirok ¹ ano:	
14	三根 1	miteiga çiroso:no:	
14	三根 2	miteiga çirok ¹ ano:	
14	末吉	miteiga {çirok ¹ ana: / çirokedza:}	
14	中之郷 1	a: miteiga hiros ^w a:	
14	中之郷 2	miteiga çirok ¹ a noā	
14	檜立 1	miteiga hirosoā.	
14	檜立 2	wa: miteiga çirok ¹ a {noa / no:}	
14	檜立 3	miteiga çirok ¹ ano:	
15	共通語	あ、雨がふってきた。	備考
15	大賀郷 1	amega φuttekitara	
15	大賀郷 2	o amega φutte kito:dza	
15	三根 1	aijaijai amega φuttekitara:ra: / o amega φutte kito:za	
15	三根 2	a: amega φuttekitara:	
15	末吉	amega φuttekitara:ɕa:	
15	中之郷 1	wa: amega φuttekitara:	
15	中之郷 2	amega φutte kitara	
15	檜立 1	wa: amega hu?te kitoaza	
15	檜立 2	wa: amega φttekitaro:	
15	檜立 3	amega {φuttekitara:dza / φutte kitara}	
16	共通語	いとこの布団がやねの上にほしてある。	備考
16	大賀郷 1	itokono φutonja janeno weni hoeitaarowa	

16	大賀郷 2	itokono ϕ utonga janeno ueni hocite arodza	
16	三根 1	itokono ϕ utonga janeno weini hocitearowa:	
16	三根 2	itokono ϕ utonga janeno weini hocitearowa:	
16	末吉	itoko no no: ϕ utonga janeni {hocitearoda:ga: / hosarete aroga:}	
16	中之郷 1	wa:, itokono ϕ utonga janeno weni hocitearu ^ɕ za.	
16	中之郷 2	itokono ϕ utonjo jane no ueni hocit (e)arowa (jo:)	no の代わりに ga は不可
16	檜立 1	itokono h ϕ utonga janeno weni hocite arowa.	
16	檜立 2	itokono ϕ tonga janeni {hocitearowajo: (人に説明する時と内省) / hocitearodza. (断定する時と内省)}	
17	共通語	きのうは今日より風が強かった。	備考
17	大賀郷 1	kine:wa ke:jori kazega tsujokarara	
17	大賀郷 2	kino:wa kio:jori kاذega tsujokararano:	
17	三根 1	kineiwa keijori kazega tsujokara:no:	
17	三根 2	kineiwa keijoriwa kazega tsujokarano:	
17	末吉	kinii wa no: kiijori ka ^ɕ zega tsujokarara.	
17	中之郷 1	kiniiwa kiijorika ka ^ɕ zega tsujo karo wa ^ɕ za:	
17	中之郷 2	{kini: / kine:} wa ki:jori kazega tsujokatta no ^ː :	
17	檜立 1	kini:wa ki:jori kazega tsujokarara.	
17	檜立 2	kini:wa ki:jori kazega tsujokaro:ɕza.	
17	檜立 3	kino:wa kazega tsujokararano:	
18	共通語	真っ白な鳥が空を飛んでいる。	備考
18	大賀郷 1	matteirodo: torimega soro: tondaarowa	
18	大賀郷 2	maceiroke toriga sorao {tondarodza / tondarowano (:)}	
18	三根 1	maceiroke torimega soro: {tondarozza / tondearozza}	
18	三根 2	maceirona tori (me)ga sorao tondearowa:jo:	過去形:tondearara:
18	末吉	maceiroke torimega {sora: / tenni:jo} {maite aro ^ɕ za / tonde aro ^ɕ za jo:}	
18	中之郷 1	maceiro d ^w a toriga sor ^w a tondjaru ^ɕ za:	
18	中之郷 2	eiroke torimega tenni:o t ^h ondarowa	
18	檜立 1	wa. ma [?] eirodua torimega soro ^ː a tonde araajo:. (to [?] de とは言わない)	
18	檜立 2	maceiroke torimega sorao {tonde arowajo / todde araijo:}	
19	共通語	あの山にはいのしがいるそうだ。	備考
19	大賀郷 1	uno jamaniwa inoeieiga arute:ja	
19	大賀郷 2	uno jama niwa inoeieiga irute:dza	
19	三根 1	uno jamage:wa inoeieiga arutteija:	uno jamaniwa...
19	三根 2	uno jamaniwa inoeieiga aruteijano:	

19	末吉	uno no: jama niwa inoeieiga arutei:ja (:)jo:	
19	中之郷 1	uno jamaniwasa inoeieiga arutteijajoo	
19	中之郷 2	uno jamaniwa inoeieiga aruttejajo:	
19	檜立 1	ono jaman ^a inoeieiga aru [?] tei:jajo	
19	檜立 2	ano jaman ^a : inoeieiga arutei (:)jajo:.	
19	檜立 3	inoeieiga {arutei:ja / arara}	
20	共通語	あれは学校だ。役場ではない。	備考
20	大賀郷 1	ur ^a gakko:dara. jakubaza nakk ^a	
20	大賀郷 2	urewa {gakko:da / gakko:deka arega (学校であって)} jakuba{dza / dewa} nakk ^a	
20	三根 1	ura gakkowudo:za jakubadewanakk ^a :	
20	三根 2	urewa gakko:da:jo: jakuba {dza / dewa} nakk ^a :	
20	末吉	ur ^a : no: gakko: deka:re, jakuba dewa nakk ^a :	
20	中之郷 1	urewa (jo) gakkodarajo:, jakuba ^d za nakk ^a ajo:	
20	中之郷 2	urewa gakko:dekare. jakuba dewa nakk ^a ajo:	
20	檜立 1	ukurwa ga [?] ko:dekare. jakubaza na [?] k ^a .	
20	檜立 2	ora gakko:dattei (:)ja. jakubadza {nakk ^a . / nakatei:jajo:.	
20	檜立 3	arewa gakko:dara. jakuba dza nakk ^a	
21	共通語	あれが役場だ。	備考
21	大賀郷 1	urega jakubado:dara // urega jakubado:dare	
21	大賀郷 2	urega jakubadeka arega.	
21	三根 1	uigaka jakubadare:	
21	三根 2	uiga jakuba {dara: / da:jo:}	
21	末吉	ure ga ka jakuba danne:	
21	中之郷 1	uregaka jakubadarega.	
21	中之郷 2	urega jakuba dara	
21	檜立 1	ukuigaka jakubadare.	
21	檜立 2	aregaka jakuba{dza / da}n ^a :	
21	檜立 3	arega jakuba dara	
22	共通語	あの目のおおきい、色の白い男はだれだろう。	備考
22	大賀郷 1	uno meno bo:ke irono maeiroke otokowa daredatte:	
22	大賀郷 2	uno meno {dekkake / bo:ke} iroga eiroke otokowa daredo:	
22	三根 1	uno mentamano bouke irono eiroke otokowa daidarouu	
22	三根 2	uno meno bouke irono eiroke otokowa daidaro:no:	
22	末吉	uno me no bo:ke iro no eiroke otokowa dare {dakana: / da ro:}	
22	中之郷 1	uno meno booke çitode irono eirokeçitowa dokono çito	

		dõa.	
22	中之郷 2	uno manakono {bo:ke / dekkake とも} irono eiroke onokogowa dare daro: no:	
22	檜立 1	ono meno bo:ke irono ei:ro:ke otokowa daredaro:.	
22	檜立 2	ano meno bo:ke otokowa daidaro:.	補:「色が白い」は ironofirokedʒa. (言い切り)「色 の白い男」は出てこず。おそ らく ironofiroke
23	共通語	孫が去年から東京にいる。	備考
23	大賀郷 1	magowa kʰoneŋkara kunini arowa	
23	大賀郷 2	magoga kʰoneŋ kara kunini arowa (:)(いるよ)	
23	三根 1	magoga kʰoneŋkara kunin arowa	
23	三根 2	magoga kʰoneŋkara kunige (:)(sunde)arowa:	
23	末吉	magome wa kʰonen kara kunini arowa.	
23	中之郷 1	magoga kʰoneŋkara kunini aruʔza.	
23	中之郷 2	magoga kʰoneŋkara kunini ittaro (w)a	
23	檜立 1	magoga kʰoneŋkara kunini arowa.	
23	檜立 2	magoga kʰoneŋkara kunini aro:ɖza	
23	檜立 3	magoga kʰoneŋkara kuni: itterowa	
24	共通語	孫はいつ東京から帰るか。	備考
24	大賀郷 1	magowa itsu kunikara {modorudaro: / modorodo:}	
24	大賀郷 2	magowa itsu kunikara kaerodo:	
24	三根 1	magowa itsu kunikara ke:te kuruukano:	
24	三根 2	magowa itsu kunikara ke:te kuru kano:	
24	末吉	magome wa itsu kuni kara ke:ro	
24	中之郷 1	mogowa itsu kunikara kʰa:te {kuruuka no. / kuurodõa.}	
24	中之郷 2	magowa itsu kunikara kʰa:tte kuuro (:)\u2197	
24	檜立 1	magowa itsu kunikara kʰa:ro	
24	檜立 2	magowa itsu kunikara kʰa:ruɖa:	
24	檜立 3	magowa itsu to:kʰo:kara kʰa:ruka	
25	共通語	八月には帰ってくるようだ。	備考
25	大賀郷 1	hateigatsunʰa modottekuruno:wa	
25	大賀郷 2	hateigatsuniwa kaette kurundza ne:ka.	
25	三根 1	hateigatsunʰa ke:te kuurogonda:jo:	
25	三根 2	hateigatsuniwa ke:ttekuru teja:	
25	末吉	hateigatsui niwa keete kuuro ganda:gai.	
25	中之郷 1	hoteigatsuniwa kʰa:tte kurutti:ja	
25	中之郷 2	hateigatsunʰa: kʰa:tte kuru jo:darajo:	*kuuro は不可
25	檜立 1	hateigatsuniwa kʰa:ʔte kurutei:jajo.	

25	檜立 2	hateigatsuuniwa k'annuwajo:.	
25	檜立 3	natsujasuminiwa k'a:tte kurujo:dara	
26	共通語	かあさんはあした東京へむすこに会いに行く。	備考
26	大賀郷 1	ho:donowa aeita kunige: musukoni aini ikowa	
26	大賀郷 2	ka:teanwa aeita kunige (:) musukoni {aini ikodara / aini ikowa}	
26	三根 1	ka:teanwa asu kunige: musukoni aini ikuteija:	
26	三根 2	ka:teanwa aeita kunige: kodomoni ainiitte kurowa:	
26	末吉	uraga je no ka:teanwa asu kunie kodomoni ai ni iko watte ittarara.	
26	中之郷 1	ka:teanwa (sa) asu kuuni: itte kodomoni atte kुरonte joi	
26	中之郷 2	okkateanwa asu kunie kodomoni ikutteija	
26	檜立 1	o?kateanwa asu kunie kodomoni aini ikowa	
26	檜立 2	hoawa asu kodomoni aine to:kio:ni ikowa.	
27	共通語	大阪から東京までの汽車賃はいくらだろうか。	備考
27	大賀郷 1	o:sakakara to:kio:madeno kiateinwa ikuuragure: suurudaro:	
27	大賀郷 2	o:saka kara to:kio:madeno kiateinwa {ikurado: / ikura suurudo:}	
27	三根 1	o:sakakara toukio:madeno kiateinwa ikuuradaro:no:	
27	三根 2	o:sakakara to:kio:madeno kiateinwa ikura daro:no:	
27	末吉	o:saka kara tokio:made no denea tein wa {ikuuradaro: / ikuuradakano:}	
27	中之郷 1	o:saka kara to:kio: made kiateinwa ikura daka noa:	
27	中之郷 2	o:sakakara kunimadeno kiseateinwa ikuuradaka no:	
27	檜立 1	o:sakakara to:kio:madeno kiateinwa ikuuradaro:	
27	檜立 2	o:sakara kiateinwa {ikurado: / ikuuradaro: / ikuuradeodaro: (対目上)}	
28	共通語	四時まで駅でまっておれ。	備考
28	大賀郷 1	jozimade ekide mateitaare	
28	大賀郷 2	jodzimade ekide {mattarejo / matto:jo}	
28	三根 1	jozimade ekide matta:re	
28	三根 2	jodzimade ekide {mattearejo: / mateitearejo:}	
28	末吉	jo%zi made ekide matta:re:	
28	中之郷 1	jo%zimade sokode matt'are jo:	
28	中之郷 2	jodzimade ekide mattarejo:	
28	檜立 1	jozimade jekide {mateirojoi / mateite arejoi}	
28	檜立 2	jodzimade {mateite wase odzare: (より丁寧らしい) / mateitewasejo:}	

28	檜立 3	jodzimate ekide matta:re	
29	共通語	五時までに帰らなくてはならない。	備考
29	大賀郷 1	gozimadeni modorinno:to narinnaka	
29	大賀郷 2	godzimadeni {kaerinno:to dara / kaerino:to dame dara}	
29	三根 1	gozimaden {ke:rinna:badara: / ke:na:badara:}	
29	三根 2	godzimadeni ke:rinna:ba narinnakajo:	
29	末吉	gʷzi made ni ke:rin na:to {dameda:nte / damedorajo:..}	
29	中之郷 1	goʷzinadeni kʷa:razuunʷa dowaga	
29	中之郷 2	godzimadeni (wa) kʷa:{ranakʷutewa / rinnakʷutewa} narinnaka (jo: / no:)	
29	檜立 1	gozimadeni kʷa:rinnoato doadara	
29	檜立 2	godzimadenʷa kʷa:ranakʷadarajo:	
30	共通語	次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。	備考
30	大賀郷 1	ziro: kono nimotsu: jemade katsunde motteike	
30	大賀郷 2	dziro: kono nimotsuo iemade katsuide {motte itto:jo / mottetto:jo}	
30	三根 1	dzirow, kono nimotsu: emade katsundeittekero	
30	三根 2	dziro: kono nimotsuo emade katsuide {itteke: / itto:jo:}	itto:jo:は優しいいい方。
30	末吉	ʷziro:, kono no: nimotsu: iē made kaside ittekero:	
30	中之郷 1	ʷzirow, kono nimotsu: wagajamade katsuide mottette kero.	
30	中之郷 2	dziro: kono nimotsuo iemade katsuide ittekero	
30	檜立 1	ziro: kono nimotsu: iemade katsui?de iʔto:	
30	檜立 2	dziro:, kono nimotse {katsuide tabejo. / katsuide tamo:re (対目上) (「かついでくれ」のみか?)}	補:「行ってくれ」のみでは、 wacite tabe. (対同等) wacite kero (対目下、希) wacitetamo:re (対目上)
31	共通語	荷物が重かったので、二人でもった。	備考
31	大賀郷 1	nimotsuga omokaro:de ɸɯtaride motara	
31	大賀郷 2	nimotsuga omokente ɸɯtaride {mottara / moto: dara}	
31	三根 1	nimotsuga omokaro:te ɸɯtaide sagetara	
31	三根 2	nimotsuga omokaro:te ɸɯtaride {motteikara: / motara:}	
31	末吉	kono no: nimotsuga {omokute / omokede} ɸɯtari de ka mota:da {re: / ga:}	
31	中之郷 1	nimotsuga omokede ɸɯtaride jattode moteikora.	
31	中之郷 2	nimotsuga omokente ɸɯtaride sagetara	
31	檜立 1	nimotsuga omokute (重くて) ɸɯtaride motara	
31	檜立 2	nimotsuga omokaro:jani ɸtaride motara.	
32	共通語	この上着はこのまえ沖縄で二千元で買った。	備考

32	大賀郷 1	kono uwagiwa konome: okinawade nisen ende kawara	
32	大賀郷 2	kono uwagiwa konomae okinawade nisenende kawara:	
32	三根 1	kono uwagiwa konome: okinawade nisen ende {katto:za / kattara:}	「買った」kao:do:za / kao:za
32	三根 2	kono ŋukurwa konome: okinawage: {iko:tokini / nisenende} {kattekitara: / kawara:}	
32	末吉	kono no: uwagi wa konome: okinawa de nisen.ende kawa:ɕa	
32	中之郷 1	kono uwagi wa sa kono m'a: okinawade nisen'ende katte kitoaɕa.	
32	中之郷 2	kono hebirawa kono m'a: okinawade nisenende {kattara / kattekitara}	
32	檜立 1	kono uwagiwa konom'a: okinawade nisenende {kaʔtara / kawarajo:}	
32	檜立 2	kono catsuwa konom'a: okinawade nisen jende kawara (jo).	
33	共通語	沖縄にはめずらしい菓子がある。	備考
33	大賀郷 1	okina:n'a mezuuracike kaciga arowa	
33	大賀郷 2	okinawaniwa medzuuracike kaciga {arowa / arowano: / arodza}	
33	三根 1	okinawan'a mezuuracike kaciga arowa	
33	三根 2	okinawaniwa medzuuracike kaciga arowajo:	
33	末吉	okinawa niwa no: meɕuracike kaei ga arowa	
33	中之郷 1	okina:niwa meɕuracike kaciga {ippja / sikkari} arowajo	
33	中之郷 2	okinawaniwa mezuuracike kaciga aro (w)a (no:)	
33	檜立 1	okina:niwa mezuuracike kaciga aroza.	
33	檜立 2	okinawan'a: medzuuracike kaciga arowajo:.	
33	檜立 3	mezuuracike kaciga arowa	
34	共通語	孫はお菓子が好きだ。	備考
34	大賀郷 1	magowa kaciga sukidara	
34	大賀郷 2	magowa okaciga {sukidara / sukindo:dara}	
34	三根 1	magowa kaciga sukidara	
34	三根 2	magowa kaciga suki {da:jo: / dara}	
34	末吉	magome wa kaciga sukinda:ɕa.	
34	中之郷 1	magowa kaciga daisuki dʷadza.	
34	中之郷 2	magowa kaciga sukidara	
34	檜立 1	magowa kɕeo sukidarajo:	
34	檜立 2	magowa kaciga sukidarajo:	
34	檜立 3	magowa okaciga suki dara	

35	共通語	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。	備考
35	大賀郷 1	hakono nakan manzuu:ga ikuutsu aruto omo:	
35	大賀郷 2	hakono nakaniwa mandzuu:ga ikuutsu aroka{eittaroka / eoeka}	
35	三根 1	hakon nakani manzuu:ga ikuutsu aruto omo:ro	
35	三根 2	hakononakani mandzuu:ga ikuutsu aruto omouka	
35	末吉	hakono no: nakani manzuu:ga ikuutsu aruto omo:	
35	中之郷 1	hakononakan'a (sa), manzuu:ga ikuutsu aru to omo:	
35	中之郷 2	hakono nakani ikuutsu mandzuu:ga aruto omo: / ikuutsu ga:ttaruto omo: (いくつ入っていると思うか。)	
35	檜立 1	hakon nakan manzuu:wa ikuutsu aruto omo:	
35	檜立 2	hakononakani mandzuu:ga ikuutsu aro (いくつある?) (「と思うか?」は NR)	
36	共通語	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。	備考
36	大賀郷 1	magowa manzuu:jo ko:bedake kamuwa	
36	大賀郷 2	magowa mandzuu:o kawadakeeka {kaminaka / kaminno:dara}	
36	三根 1	magowa manzuu:jo ko:bedake kamowa	
36	三根 2	wagaino magowa mandzuu:wo kawadake kamowa	
36	末吉	mago wa manzuu:jo ka:be dake kamuwa	
36	中之郷 1	magowa mandzuuno k'a:bedakii umagatte kamo'za:.	
36	中之郷 2	magowa mandzuu:{o / no} koa dake kamo (w)a	
36	檜立 1	magowa manzuu:jo koadake kamowajo:.	
36	檜立 2	magowa mandzuu:jo koabedake kamowa.	
37	共通語	じいさんは朝から海へ魚をとりに行った。	備考
37	大賀郷 1	dzi:teanwa tommetekara umige: jo: torii detara	
37	大賀郷 2	dzi:teanwa asakara umi {ni / je} sakanao torini {ikara / ittarajo:}	
37	三根 1	dziisanwa tommeteikara umige: jouutori ikara	
37	三根 2	wagaino dzi:teanwa tommetekara umige: jo:torini ikara	
37	末吉	'zi:sanwa no: tommetekara umige: jo: torini.ikara.	
37	中之郷 1	'zi:teanwa tommetekara ham'aa sakanoa tori ni iku wa'za.	
37	中之郷 2	dzi:san tōmmetekara umie jo: torini i (k)kara	
37	檜立 1	zi:teanwa ton:metekara umi: sakanoa tori: {oza'tara / ozarara}	
37	檜立 2	dzi:sanwa toNmetekara jo:tsuri ikara.	
38	共通語	ここは海にちかいので魚がうまい。	備考
38	大賀郷 1	kokowa umin teikakente joga n:mak'a	
38	大賀郷 2	kokowa {umini / umige:} teikakente sakanaga {umak'a	

		/ m:mak'ja } no:	
38	三根 1	kokowa umige: teikakente joga n:mak'ja:	
38	三根 2	kokowa umini teikakente joga m:mak'jano:	
38	末吉	kokowa no: umini teikakente joga {umakedara / mmakedara}	
38	中之郷 1	kokowa (sa) hamani teikakede joga umak'ja no:.	
38	中之郷 2	kokowa umini teikakente joga mmak'ja	
38	檜立 1	kɔkowa umini teikakade {jo / sɔkana} ga ummak'ja.	
38	檜立 2	kokowa umini teikakeite sakanaga ummak'ja.	
39	共通語	魚より肉のほうが高い。	備考
39	大賀郷 1	jojori nikuuno ho:ga takak'ja	
39	大賀郷 2	sakanajori nikuuno ho:ga takak'jajo:	
39	大賀郷 3	{sakana / jo (古)} jori nikuuno ho:ga takak'jano:.	takakedza. (高い〈独白〉) takakja. (高い)
39	大賀郷 4	{jo / sakana} jori nikuuno ho:ga takak'ja.	
39	三根 1	ijojori nikuunoho:ga takak'ja:	
39	三根 3	jojori nikuuno ho:ga takak'ja (no:).	no:はやわらげ
39	三根 4	jo jori nikuuno ho:ga takak'ja no:	
39	末吉	jojori nikuuno ho:ga takak'ja	
39	末吉	jojori nikuuno ho:ga takak'ja.	
39	中之郷 1	jojori nikuuno hooga takak'ja jo:	
39	中之郷 2	jojori nikuuno ho:ga takak'ja	
39	中之郷 3	jojori nikuuno ho:ga takak'jano:	
39	中之郷 4	{sakana / jo} {jori / joriwa / jorika / jorikawa} {nikuuga / nikuuno hooga} takak'ja.	joriwa を jor'ja と言うのは古い言い方。oɔは弱い二重母音で[o:]にも (以下同じ)。
39	檜立 1	jojori nikuuno ho:ga takak'jano:	
39	檜立 4	jojori nikuugaho: takak'jajo:	
40	共通語	おれは鰯のさしみが食べたい。	備考
40	大賀郷 1	war'ja takomeno saɕim'jo kamitak'ja	
40	大賀郷 2	waja takono saɕimiga {kamitak'ja / tabetak'ja} no:	
40	大賀郷 3	ɯaja: takono saɕimiga kuitak'ja (no:).	
40	大賀郷 4	warewa takono saɕimiga tabetak'jano:	
40	三根 1	waiwa takono sasumiga kamitak'ja	
40	三根 3	wara takono saɕimiga {kamitak'ja: / tabetak'ja:}	s は口蓋化していない。[sw]にも聞こえる)
40	三根	ara takono saɕimiga kamitak'ja no:	
40	末吉	ara no: takomeno saɕimiga kamitak'ja	
40	末吉	ar'ja tako (me)no saɕim'jo kamitak'ja.	

40	中之郷 1	wara takomeno sasum'io kamitak'ia.	
40	中之郷 2	ara takomeno saeimiga tabetak'ia	saeimio も可
40	中之郷 3	ara (:) takono saeimiga {kamitak'iano: / kamitak'ajo:}	
40	中之郷 4	{wara / ara} {takono / takomeno} saeimio {tabetak'ia / kamitak'ia (古)}.	takome は最近は言わない。 「俺」は ware / are
40	檜立 1	wara takomeno saeimio kamitak'ia	
40	檜立 3	warewa takono saeimiga {tabetak'ia / kamitak'ia}	
40	檜立 4	wara takono saeimio kamitak'ia	
41	共通語	おまえはこの魚の名まえを知っているか。	備考
41	大賀郷 1	na'ia kono jono name:jo eoekaka	
41	大賀郷 2	omaewa kono sakanano namaeo {eoekaka / eittaroka}	
41	大賀郷 3	omaewa kono sakanano namaeo eoekaka.	ome:. (<目下に対して>おまえ) unnuu (相手を軽んじたとき)
41	三根 1	un'ia kono jono name:o eoekaka	
41	三根 3	ome:wa kono jono name:o eitta:roka:	ome:は今は今上目下どちらにも使う。昔は目上へは ommi:
41	三根 4	ome:wa kono jono namaeo {eko:dzaroka: (対目上) / eoekaka: (対同等)}	
41	末吉	un'ia: kono jono namee jo eoekaka.	
41	末吉	omaiwa kono jono name:jo eoekaka.	ome:は年輩の人に使う。omi:はさらに丁寧。
41	中之郷 1	om'ia:wa konojono nam'ia:jo eokeno'a	
41	中之郷 2	una kono jono nam'ia (:)o eoekaka	
41	中之郷 3	om'ia:wa kono jono nam'ia:wo eoekaka	
41	中之郷 4	una kono jono nam'ia:jo eoekaka (i).	「お前が」は un'ga。「お前を」は unnu:。
41	檜立 1	om'ia:wa kono jono nam'ia:jo obi:ta (eoekaka とは言わない)	
41	檜立 4	omiwa kono sakanano nam'ia:jo obi:toaka	
42	共通語	これはかつおだろう。	備考
41	大賀郷 4	omaewa kono{jo / sakana}no {namae / name:}o eoekaka	
42	大賀郷 1	ko'ia katsui: danno:za	
42	大賀郷 2	koja {katsuo dara (no:) / katsuide ne:ka}	
42	大賀郷 3	korewa {katsuo / katsui: (古)} daro:.	
42	大賀郷 4	korewa katsuo dara jo:	
42	三根 1	kora: katsuui daro:	
42	三根 3	ko'ia katsui: daro:	
42	三根 4	kora katsuo {do:dzaroa no: (対目上) / da:no: (対同等)}	
42	末吉	ko'ia: katsui: {dan no:da / daro:}	

42	末吉	kori̯a katsu:darɔː.	
42	中之郷 1	kora katsuɯ do̯a̯ɟa	
42	中之郷 2	kora katsuɔ darɔː	
42	中之郷 3	kora katsuɔ darɔ	
42	中之郷 4	kora {katsuɔ / katsu:} {danno:za / darɔɯ}.	katsu:は漁師の言葉。
42	檜立 1	kori̯a: katsu: darɔː	
42	檜立 4	kora katsu: {darɔː / doadza (断定的ないい方)}	
43	共通語	酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう？	備考
43	大賀郷 1	sake:wa adancite tsukuruuka narewa ɛokanno:za	
43	大賀郷 2	sakewa dogan{eite / jatte} tsukuruuka omaewa {eittaroka / ɛokeka}	
43	大賀郷 3	sakeɯa adancite tsukuruuka oameɯa ɛokeka.	
43	大賀郷 4	kono sakewa dogon jatte tsukuttaruka omaewa {eoidaro: / ɛokeka}	
43	三根 1	sakeiwa {dogon jatte / adancite} tsukuruuka ome:wa ɛokeka	
43	三根 3	sake:wa {doganjatte / dogancite} tsukuroka ome:wa eitta:「ru:	
43	三根 4	sakewa adan.jatte tsukurudaro:no: , ome:wa {eitto:dzaroka / ɛoko:dzaroka:}	
43	末吉	saki:wa adancite tsukuruuka omaiwa ei:darɔː.	i は良く無声化するが u は無 声化しにくい。
43	中之郷 1	saki:wa adan eite tsukuruuka omi̯a:wa ɛokeka.	
43	中之郷 3	sakewa adancite tsukuruuka omi̯a:wa {ɛokeka / ei:darɔː (誘導)}	ei:darɔːの方が良い。
43	中之郷 4	saki:wa {dogan / adan}eite {tsukuroka / tsukuruuka (新?)} una {ɛokanno:za (古) / ei:darɔː (新)}.	
43	檜立 1	sakewa adancite tsukuruuka obi:taro:	
43	檜立 3	sakewa do:jatte tsukuruuka {omiwa / omi̯a:wa} obi:to:ka	
43	檜立 4	saki:wa adancite tsukuroka omiwa obi:taro:	
44	共通語	酒は米からつくる。	備考
44	大賀郷 1	sakewa komekara tsukuruwa	
44	大賀郷 2	{sakewa / sakeiwa} komekara {tsukuru / tsukuru danno:dza}	
44	大賀郷 3	sakeɯa komekara {tsukuroɯa (つくるよ) / tsukurodza (つくる<断定>) / tsukurodo:dza (つくるんだよ)}.	
44	大賀郷 4	sakewa komekara {tsukuro (:)dza / tsukuttarowa (tsukuttarodza 作っているだろう の意)}	
44	三根 1	sakewa komekara tsukuro:wa	

44	三根 3	sake:wa komekara tsukurowa	
44	三根 4	sakewa komekara tsukurowano:	
44	末吉	saki:wa komekara tsukuru.	
44	中之郷 1	saki:wa komekara tsukuru doa'za.	
44	中之郷 3	sakewa komekara tsukurodza:	
44	中之郷 4	saki:wa komekara {tsukuroza / tsukurowa}.	{tsukuttaroza / tsukuttarowa}「作っているよ」。
44	檜立 1	sakewa komekara tsukuru no:za	
44	檜立 3	sakewa kome kara tsukurowa	
44	檜立 4	saki:wa komekara tsukurodza	
45	共通語	酒さえあればなにもいらぬ。	備考
45	大賀郷 1	sakese: areba annimo irinnak'ia	
45	大賀郷 2	sakese: areba a (:)nnimo irinnaka	
45	大賀郷 3	sake{ga / gase: } areba annimo { irinnaka (いらない) / irinnak'ia (強い表現)}.	
45	大賀郷 4	sakega areba (no:) annimo nakute jokedza.	
45	三根 1	sakese: areba annimo jokk'ia:	
45	三根 3	sakese: areba annimo irinnaka (:)	
45	三根 4	sakese: areba annimo irinnakano:	
45	末吉	sakese: areba annimo irinnaka.	
45	中之郷 1	sake ea areba annimo jokkya.	
45	中之郷 3	sakesae areba annimo {jokk'ia / irinnaka (誘導)}	irinnaka の方が良い。
45	中之郷 4	sakedake areba annimo {irinakoza / irinnaka}.	se:は使わない。
45	檜立 1	sakeca: areba annimo jo'k'ia	
45	檜立 3	sake sae areba annimo irinnaka	
45	檜立 4	sakeca: a'ia: {annimo innaka / jokk'ia: }	
46	共通語	うちのじいさんは酒もたばこのまない。	備考
46	大賀郷 1	wagaino dzi:teanwa sake:mo tabako:mo nominnaka	
46	大賀郷 2	wage:no dzi:teanwa sakemo tabakomo annimo nominnaka.	
46	大賀郷 3	uaga eno dzi:sanu'a sakemo tabakomo {nominnaka (飲まない) / agarinnaka (召し上がらない:敬語)}.	(古)o:sama (じいさん)
46	大賀郷 4	wagaeno dzi:teanwa sakemo tabakomo annimo {nominaka / nominno:dza }	
46	三根 1	wagaeno dzi:isanwa sakeimo tabakoumo nominnaka:	
46	三根 3	wage:no dzi:sanwa sake:mo tabako:mo nominnaka	
46	三根 4	wage:no dzi:teanwa sake:mo tabako:mo nominnakano:	
46	末吉	wagaino dzi:sanwa saki:mo tabako:mo nominnaka.	

46	中之郷 1	wagaeno ʔi:saŋwa saki:mo tabako:mo nominnaka.	
46	中之郷 3	wagaino dzi:teanwa sakemo tabakomo nominnaka	
46	中之郷 4	waga (j)eno dzi:teanwa saki:mo tabakoꝯmo {nominnaka / nominakoza}.	「おじいさん」は toto:とも言うか。「飲まない」の丁寧な言い方 m̥a:rinnaka.
46	檜立 1	wagi:no zi:teanwa s̥aki:mo tabako:mo agarinnaka (敬語)	
46	檜立 3	wagajano dzi:teanwa sakemo tabakomo nominaka	
46	檜立 4	wagi:no odzi:teanwa saki:mo tabakoꝯmo nominnaka	
47	共通語	その水はのむな。のむならこの水をのめ。	備考
47	大賀郷 1	sonomizuruwa nomuna. nomoda:ba kono mizu: nome	
47	大賀郷 2	sono midzuruwa {nomennaka / damedara} nomoda:ba kono midzuo {nome / nomeba jokadza}	
47	大賀郷 3	sono mizuruwa nomunajo. nomora:ba kono mizuo nomejo (:).	
47	大賀郷 4	sono mizuruwa nomunajo: {nomutok̥a: / nomundattara} kono mizuo nomejo:	
47	三根 1	sono mizu:wa nomuna. nomuda:ba kono mizu: nome	
47	三根 3	sono mizu:wa nomunajo, {nomodara (ba) / nomundara / nomoda:bajo} kotteino mizu: {nome (目下へ) / nomijare (目上へ)}	
47	三根 4	sono mizuruwa nominnakajo:. nomoda:ba {kono / kotteino} mizu: nomijarejo:	
47	末吉	sono mizu:wa nomuna. nomodaraba kono mizu: nome.	daraba は[da:ba]にも。
47	中之郷 1	sono mizuruwa nomunajo:, nomodaraba kotteino mizuu nome.	
47	中之郷 3	sono midzuruwa nomuna. {nomunara / nomodaraba} kono midzuo nome	
47	中之郷 4	sono mizu:wa nominajo:. nomodaraba kono mizu: {nome / nomijare / agarijare}.	{nomijare / agarijare}は丁寧な言い方。
47	檜立 1	sono mizu:wa nomina. nomaba koꝯteino mizu: nome.	
47	檜立 3	sono mizuruwa nomunajo. nomunara kono mizuo nome	
47	檜立 4	sono midzuruwa nomuna. nomitakaraba kono midzu: nome	
48	共通語	なぜおまえはたべないのか。	備考
48	大賀郷 1	ande narewa {kaminno: / kaminno:do:}	
48	大賀郷 2	ande omaewa kaminno:	
48	大賀郷 3	ande omaeuwa kaminno:.	
48	大賀郷 4	ande omaewa {tabenno:ka / kaminno: (ka)}	
48	三根 1	ande un̥a kaminno:do:	
48	三根 3	ande (×adde) ome:wa {kamin̥no: / kaminno:ka}	目上へは agarinno:ka:

48	三根 4	ande ome:wa {agarinno: / agarijaranaino: (丁寧)}	
48	末吉	ande omaiwa {kaminna:ni / kaminna:da / (目下に) kaminna: / (目上に) me:rinna:mi}.	
48	中之郷 1	ande om'a:wa kaminnakod ^w a.	
48	中之郷 3	ande om'a:wa {kaminai / kaminakoka}	
48	中之郷 4	{ande / adde (古)} una {tabenako (:)(i) / kaminako (:)(i) (古)}.	「お前」は unu. 「(自分が) 食べない」は kaminaka.
48	檜立 1	a [?] de om'a:wa kaminno ^a .	
48	檜立 4	adde {omiwa / om'a:wa (目上の人)} {kaminnoaka: / aganno:ka / agan noaka:}	
49	共通語	おれはさつまいもなんか食べないぞ。	備考
49	大賀郷 1	wa ^a kammonse: kaminnaka	
49	大賀郷 2	waja satsumaimonse: {kaminnaidzo: / kaminnakajo:}	
49	大賀郷 3	u ^a ja kammonse:u ^a kaminnaka.	
49	大賀郷 4	waiwa no: kammo (w)a kaminnakajo:	
49	三根 1	wa:iwa kammonse: kaminnakajo:	
49	三根 3	wara kammonse:jowa {tabennaka: / kaminnaka:}	tabennaka: は新しい言い方
49	三根 4	ara kamo:wa {kaminnakka: / kaminnaka}	
49	末吉	ar'a satsumantee: (jo)wa kaminne: (zo).	
49	中之郷 1	wara satsumanea:wa, kaminnakajo.	
49	中之郷 3	ara satsumanea: kaminnakajo	
49	中之郷 4	{ara / wara} {satsumanea:jowa / kammonca:jowa} {tabenak'a / kaminak'a}.	
49	檜立 1	wara sa ^t sumo ^a wa {kaminnaka / kaminaka}	
49	檜立 3	warewa satsuma na ⁿ ka kaminaka	
49	檜立 4	wara: {kammo ^a :wa / kammowa} {kaminaka / kuinnaka (ぞんざいな言い方)}	
50	共通語	もう食べられるものは全部食べた。	備考
50	大賀郷 1	haja kameromonowa zembu kamara	
50	大賀郷 2	haja kameru monowa minna {kamo:te eimattara: / kamarara / kande eimarara}	
50	大賀郷 3	haja kameromonou ^a zembu kamarajo.	
50	大賀郷 4	mo: kamo (:)monowa minna kande {eimattara / eimatta (jo:) / eimo:rara:}	
50	三根 1	ha: kameromonou ^w wa zembu kande eimou ^w rara	
50	三根 3	hara kamero mono:wa minna kamara	
50	三根 4	mo: kameru monowa ze:nbu kamara:	
50	末吉	har'a {kamero / kameru (新)} mono:wa menna {kamara / kanda (新)}.	

50	中之郷 1	{kamero / kamo} monowa hara minna kamōa ^ɕ za:	
50	中之郷 3	hara kameru monowa zembu {kandazo / kamowa:dza / kamara}	
50	中之郷 4	hara taberareru mono ^ɔ wa minna tabetara.	taberareru を taberarero に近くも発音。
50	檜立 1	hara kamero mono:wa zembu kamara.	
50	檜立 4	hara kamero mono:wa minna kamara	
51	共通語	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。	備考
51	大賀郷 1	kande nerodakeda:ba inumeja nekkometo onnazido:za	
51	大賀郷 2	kande nerudakeda:ba inunekoto onnaeido:dza	
51	大賀郷 3	kande nerodake da:ba inumeja nekkometo onnazido:dza.	
51	大賀郷 4	kandotte {nerudakenara / neteɕimaeba} inume to nekkome to {ieɕo / onnazi }do:dza:	
51	三根 1	kande nerodakeda:ba inumeja nekkometo onnazidara	
51	三根 3	kande (×kadde)nerodake {da:ba / daraba} inumeja nekkometo onnadzi {dara: / do:dza:}	
51	三根 4	ka:nde nerodakenara inumeja {nekkome / nekome} to onnadzidara:	
51	末吉	{kande / kandottei:} nerodakedaraba inumeja ne (k)kometo {onnazida:za / onnazidara}.	kandottei:「食べてから」。
51	中之郷 1	kande nerodake daraba inumeto nekkometo onna ^ɕ zi do ^ɕ a:za:	
51	中之郷 3	kande nerudake da:ba inumeja nekkometo onnadzi darajo	
51	中之郷 4	tabete nerodakedaraba inumeja nekkometo {onnazidoqaza / onnazidara}.	
51	檜立 1	ka?de nerodakedaraba inumeja nekometo onnazidara.	
51	檜立 4	kadde nerodakedaraba {inunekoto / inume ja nekkometo} {onnadzido ^ɕ adza: / onnaeido ^ɕ adza:}	
52	共通語	さとうはあまい。くすりはあまくない。	備考
52	大賀郷 1	sato:wa amakeni kusuriwa amakunakk ^ɕ ja	
52	大賀郷 2	sato:wa amakega kusuriwa {amaku nakk ^ɕ ano: / nigak ^ɕ ano:}	
52	大賀郷 3	sato:u ^ɕ a amakedza. konokaei ^ɕ u ^ɕ a amakunakkedza. (この菓子は あまくない。)	
52	大賀郷 4	sato:wa {amakega no: / amakedza:}, kusuriwa {amakunakkedza / amakunakkedara: / amakunakk ^ɕ ja}	
52	三根 1	satouwa amakega kusuriwa amakunakk ^ɕ ja:	
52	三根 3	sato:wa amak ^ɕ ja: kusuriwa amaku nakk ^ɕ ano:	

52	三根 4	sato:wa amak'ano: , kusuuriwa amakuunakk'ano:	
52	末吉	sato:wa amak'ia. {kusuuriwa / kusur'ia (古)} amakuunakk'ia.	m:mak'ia「おいしい」。
52	中之郷 1	sato:wa amakega, kusuuriwa amakuunakk'ia no:	
52	中之郷 3	sato:wa amak'ajo: kusuuriwa amakuunakk'ia	
52	中之郷 4	sato:wa amak'ia. kusuuriwa amakuunakk'ia.	◇「薬はいらない。」 kusuuriwa irinaka. ◇「うまくない」 ummakunakk'ia. ◇「うまいなあ。」 ummak'ianqa. ◇「甘い菓子」 amake kaci. ◇「この薬は苦い。」 kono kusuuriwa nigakedara. ◇「この菓子はおいしい。」 kono kaciwa ummak'ianqa. ◇「この菓子は甘い。」 kono kaciwa{amak'ianqa / amakeza}.
52	檜立 1	sato:wa amak'ia. kusuuriwa amaku na?k'ia.	
52	檜立 3	sato:wa amak'ia. kusuuriwa amakuwa nakk'ia	
52	檜立 4	sato:wa amak'ia kusuuriwa amakuunakk'ia	
53	共通語	去年いところが中学の先生になった。	備考
53	大賀郷 1	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni narara	
53	大賀郷 2	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni narara.	
53	大賀郷 3	k'ionen itokoga teu:gakko:no sense:ni {naro:dza / nararajo: .}	
53	大賀郷 4	k'ionen (no:) itokoga teu:gakko:no sense:ni (no:) {narara / narara: }	
53	三根 1	k'ionen itokoga teu:gakkouno sense:ni naratteija:	「なった」nattouza
53	三根 3	k'ionen itokoga teu:gakko:no sense:ni narara:	
53	三根 4	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni narara:	
53	末吉	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni narara.	
53	中之郷 1	k'ionen itokoga teu:gakkono senci:ni narowa'zanoa	
53	中之郷 3	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni {narara: / narowa:dza}	
53	中之郷 4	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni {narara / naroadza}.	
53	檜立 1	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni narara	
53	檜立 3	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni nattara	
53	檜立 4	k'ionen itokoga teu:gakuuno sense:ni natta	
54	共通語	いところは英語の本が読める。	備考
54	大賀郷 1	itokowa e:gono {honjo / hong'a} jomerowa	

54	大賀郷 2	itokowa eigono hongga jomerowa	
54	大賀郷 3	itokouga e:gono hongga jomerouajo:.	
54	大賀郷 4	itokowano: e:gonohonga jomerodza.	
54	三根 1	itokowa eigono hongga jomerowa	
54	三根 3	itokowa e:gono honn'a jomerowa	
54	三根 4	itokowa e:gono hongga jomerodzdza (:)	
54	末吉	itokowa e:gono hongga jomerowa.	
54	中之郷 1	itokowa i:gono hongga jomerutteii ja	
54	中之郷 3	itokowa eigono hongga jomerowa	
54	中之郷 4	itokowa i:gono hongga {jomerowa / jomerodza}.	
54	檜立 1	itokowa je:gono hon'o jomerowajo.	
54	檜立 3	itokowa e:gono hongga jomerowa	
54	檜立 4	itokowa e:gono hongga jomero (w)a	
55	共通語	あの人こそほんとうの金持ちだ。	備考
55	大賀郷 1	{uno çitokoso / uno çito ga:} honto:no kanemoteidara	
55	大賀郷 2	uno çitokoso kanemoteidara // uno hitogaka kanemotei deka:rega	
55	大賀郷 3	uno çito{ga / gaka (係り助詞あり)} honto:no kanemotei {dara / dare (結び)}.	
55	大賀郷 4	uno çitogano: honto:no kanemotei {do:dza: / do:dara:}	
55	三根 1	uno çitowa hontono kanemoteida:no: // uno çitogaka hontono kanemoteidare	
55	三根 3	uno çitoga jappari kanemotei dara: // uno çitogaka jappari kanemotei dare: (係り結び)	
55	三根 4	uno hitowa honto:no kanemoteida:no:	
55	末吉	{uno / (B) ano (?)} {çitokoso honto:no kanemoteidara // çitogaka (jo) honto:no kanemoteidare}.	
55	中之郷 1	unuçitokoso honto:no kanemotei dann'a:	
55	中之郷 3	uno çitokoso honto:no kanemotei danno:dza	
55	中之郷 4	uno {çitoga honto:no {kanemoteidara / kanemoteidqadza} // uno çitogaka honto:no kamemoteidare.	
55	檜立 1	ono h̥itiwa honto:no kanemoteidara. // onoh̥itogaka honto:no kanemoteidare.	
55	檜立 3	ano çitokoso honto:no kanemotei dara	
55	檜立 4	ono çitogaka honto:no kanemotei dare	
56	共通語	その話は妻にだけ聞かせた。	備考
56	大賀郷 1	sono hanacowa jomenidake kikasetara	
56	大賀郷 2	sono hanaciwa {wagaino jatsuu / wage:no / wagaino jome (新)}nidake k̥ikasetara.	

56	大賀郷 3	sono hanaciuqa jomenidakeuqa kikaseteokarajo.	
56	大賀郷 4	kono hanaciwa wagaeno n'o:bo:nidake {juo:dza / hanacito:dara: / hanacitara:}	
56	三根 1	sono hanacowa jomendake kikasetara	
56	三根 3	{sogando: / sono} hanaciwajo: {①jomenidake / ②jomenidakeka} {①kikasetara: / ②hanacitare: (係り結び)}	
56	三根 4	sono hanacowa tsumanidake kikasetara:	
56	末吉	sono {hanacowa / (新)hanaciwa} jomenidake kikasetara.	kikasetara の i は無声化せず。
56	中之郷 1	sono hanaciwa (sa) jomeni dakeka kikase tarega	
56	中之郷 3	sono hanaciwajo: jomenidake kikasetara	
56	中之郷 4	sono {hanaciwanqa / hanacowanqa} jomenidake kikase{tqadza / tara}.	
56	檜立 1	sono hanacowa jomedakenka kikasetare	
56	檜立 4	sono hanaco (:)wa jomendake kikasetoadza:	
57	共通語	妻に夕飯を作らせる。	備考
57	大賀郷 1	jomeni jo:meco tsukurasetara	
57	大賀郷 2	{wage:no / wagaino} ni jo:mecio {kose:saserowa (古) / tsukuraseru (新)}	
57	大賀郷 3	uqagaenoni ju:mecio tsukuraserouqa.	
57	大賀郷 4	wagaeno n'o:boni jo:meci tsukuraserodara.	
57	三根 1	jomeni joumeco tsukuraserowa	
57	三根 3	jomeni {joumeco / jouke: (古)} {tsukuraserowa (no:) (新) / eimatsusaserowa (no:)}	
57	三根 4	jomeni jo:meci(o) tsukuraserowa	
57	末吉	jomeni jo:meco tsukuraserowa.	
57	中之郷 1	ka:teanni jumeowwa tsukurasetaro{ʔa: / wa:}	
57	中之郷 3	jomeni jo:keo koca:saseru	
57	中之郷 4	jomeni ju:meco {tsukura / eimatsusa}se{rodza / rowa}.	
57	檜立 1	(名前)ni jwō:meco tsukuraserowa.	
57	檜立 4	jomeni jo:meco tsukurasetoadza:	
58	共通語	夫は竹でかごをつくった。	備考
58	大賀郷 1	wage:no ɕitowa takede kago: tsukurara	
58	大賀郷 2	wage:nowa takede kago: kose:rara (古)	
58	大賀郷 3	uqagaeno ɕitouqa takede kago: {tsukurara. / tsukuro (:)dza}.	
58	大賀郷 4	wagaeno dannawa (no:) takedeno: kagoó {tsukurara / tsukuutarodara (作っている) / tsukuuttara (作った) / tsukuuttarowa (作っている)}	

58	三根 1	dannawa takede kogou tsukurara	
58	三根 3	wage: no dannawa takede kago: {tsukurara / tsukuro: dza}	
58	三根 4	{wage: no hito / otto} wa takede kago {tsukura: / tsukurara} jo	
58	末吉	waga (j) eno {çitowa / dannawa} takede kago: tsukurara.	
58	中之郷 1	wagi: no çitowa takede kagowo tsukurowa ⁴ za	
58	中之郷 3	oto: tean wa takede kago: {koea: tajo / koea: tara}	
58	中之郷 4	wagaeno çitowa takede kago {tsukurara / tsukuro ² adza}.	
58	檜立 1	wagi: no çitowa takede kago: tsukuroza.	
58	檜立 3	uteino çitowa takede kago: {tsukurara / tsukuttara}	
58	檜立 4	wagi: no çitowa takede kago: koea: ta (ra)	
59	共通語	次郎はおとうとの三郎とけんかした。	備考
59	大賀郷 1	dzo: wa oto: tonosabo: to kenjo: çitara	
59	大賀郷 2	dziro: wa oto: tonosabuuro: to kenka çitara.	
59	大賀郷 3	dziro: uqa oto: tonosabuuro: to kenjo (:) {çitara / çito: dza}.	
59	大賀郷 4	dziro: wa no: oto: tonosabuuro: to kenjo: {çito: dara: / çito: dza: / çitatte: dza:}	
59	三根 1	dzirowa kio: de: no saburowto kenjou çita	
59	三根 3	dziro: wa oto: tonosabuuro: to {kenjo: (ケンカを) / kenka} çitara:	
59	三根 4	dziro: wa oto: tonosabuuro: to kenkaçita	
59	末吉	{dziro: wa / dzo: wa} oto: tonosabuuro: to / sabo: to} kenka: çitara.	dzo: 「次男」、sabo: 「三男」。
59	中之郷 1	ziru: to oto: to sabuuro to kenko ² çito ² a ⁴ za	
59	中之郷 3	dziro: wa oto: tonosabuuro: to {kenkaçita / kenkaçitara jo:}	
59	中之郷 4	dzirowa sabuuroto kenko ² {çitadza / çitara / çitarara / çitarajo / çitararajo:}.	「弟の」があると不自然とのことで訳にナン。
59	檜立 1	ziro: wa kio: za: no sabuuro: to kenko ² çitara	
59	檜立 4	dziro: wa kio: dza: no sabuuro: to kenko ² çita (ra)	
60	共通語	三郎は次郎に棒でなぐられた。	備考
60	大賀郷 1	sabo: wa dzo: ni bo: de buunaguraretara	
60	大賀郷 2	sabuuro: wa dziro: ni bo: de {buunaguraretara / buunagurararara}	
60	大賀郷 3	sabuuro: uqa dziro: ni bo: de buunagurare {tara / to: dza}.	
60	大賀郷 4	sabuuro: wa dziro: ni bo: de buunaguraretara.	
60	三根 1	saburowwa dzirowi boude buunagurareta	「なぐられた」butaretara
60	三根 3	sabuuro: wa dziro: ni bo: de buunaguraretara:	
60	三根 4	sabuuro: wa dziro: ni bo: de buunagurareta: jo	

60	末吉	sabo:wa dzo:ni bo:de {butaretara / buunnaguuraretara}.	
60	中之郷 1	sabuuro (狭):wa dziruuni boode butaretara	
60	中之郷 3	sabuuro:wa dziro:ni bo:de {butareta / butaretara (誘導)}	
60	中之郷 4	sabuurogwa dzirogni bo:de {butaretara (jo:) / butaretqadza}.	
60	檜立 1	sabuuro:wa antanni bo:de buunnaguuraretara.	
60	檜立 4	sabuuro:wa dziro:ni bo:de {buunnaguuraretara / butaretara}	人に話す時は tara を使う
61	共通語	次郎はじいさんにしかられた。	備考
61	大賀郷 1	dzo:wa zi:samani so:garetara	
61	大賀郷 2	dziro:wa dzi:teanni {so:garetara / so:garetera}	
61	大賀郷 3	dziro:wa dzi:sanni {idzimeraretara / so:garetara}.	
61	大賀郷 4	dziro:wa dzi:teanni {okoraretatte:wa: / so:garetara}	
61	三根 1	dziruwa dzi:sanni {waiku:uraretara / waiku:retara}	
61	三根 3	dziro:wa dzi:teanni {eikararetara: (新しい言い方) / jominnatta}.	
61	三根 4	dziro:wa dzi:teanni waiku:uraretara:jo	
61	末吉	dzo:wa dzi:sanni idzimeraretara.	
61	中之郷 1	dziru:wa dzi:sanni idzimeraretarajo	
61	中之郷 3	dziro:wa dzi:teanni {idzimerareta / idzimeraretara (誘導)}	
61	中之郷 4	dziruwa {toto:ni / odzi:sanni} {idzimeraretara (jo:) / idzimeraretqadza}.	
61	檜立 1	ziru:wa zi:teanni izimeraretara	
61	檜立 4	dziru:wa dzi:sanni {soagareta / soagaretei:ja (伝聞「〜つてよ」)}	人に話す時は tara を使う
62	共通語	おれはきのうは新聞をよまなかった。	備考
62	大賀郷 1	warewa kine:wa eimbunjo jominzarara	
62	大賀郷 2	waja kino:wa eimbunwo jominnakarara.	
62	大賀郷 3	warewa kino:wa eimbunno jomin nakarara.	
62	大賀郷 4	warewa kino: eimbun o {jominnak (k)ja / jominnakedara / jominnakarara}	
62	三根 1	ara kineiwa eimbunwa jominnarara	
62	三根 3	warewa kine:wa eimbunjo {hominnarara: / jominnatta}.	
62	三根 4	ara kine: (kinei) wa eimbun o jominnara:jo	
62	末吉	warewa kini:wa eimbunjo jomindzarara.	
62	中之郷 1	warewa kini:wa eimbunjo {jomindzarara / jominnakarara}	
62	中之郷 3	warewa kini:wa eimbunwa jominnakararajo	
62	中之郷 4	warewa kini:wa eimbunjo {jominnakarara / jominnakarqadza}.	

62	檜立 1	wara kini:wa eimbuun ^o {jominnaka?tara / jominzarara}	
62	檜立 3	warewa kino: eimbuun {jomindzarara / jominnakarara / jomanakia}	
62	檜立 4	wara: kini:wa eimbuuno {jominnakarara / jominakatta}	
63	共通語	その新聞はきょうのだ。きのうのはこれだ。	備考
63	大賀郷 1	sono eimbuunwa ke:nodara. kine:nogawa koredara.	
63	大賀郷 2	sono eimbuunwa kio:nodara kino:nowa koredara	
63	大賀郷 3	sono eimbuunwa kio: no darajo:. kine:nouwa koredara.	
63	大賀郷 4	sono eimbuunwa kio: no {dara / dai}, kino: nowa kore dara:	
63	三根 1	sono eimbuunwa keinodara. kineinowa koido:za	
63	三根 3	{sono / kono} eimbuunwa ke:nodara. kine:nowa koidara.	
63	三根 4	sono eimbuunwa keinogada:jo. kineinogawa kore da:jo:	
63	末吉	sono eimbuunwa ki:nogadara. kini:nogawa {koredara (ra) / koreda:dza}.	
63	中之郷 1	sono eimbuunwajo ki:no deka:re, kiniinowa koredekaregajo	
63	中之郷 3	sono eimbuunwa ki:nuda kini:nowa kored ^o da: dza	
63	中之郷 4	sono eimbuunwa ki:nogadara. kini:nogawa {koredarara / kored ^o da: / koredekare}.	
63	檜立 1	sono eimbuunwa ki:nodara. kini:nowa koredara.	
63	檜立 3	kono eimbuunwa kio:nodara:. kino:nowa kore dara	
63	檜立 4	sono eimbuunwa ki:nodara kini:nowa koidara	
64	共通語	雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。	備考
64	大賀郷 1	ameno ɸuroçin'a ba:teanwa iede terebibakkari mitaarowa	
64	大賀郷 2	{amega ɸuru tokiwa / ameno çin'a} ba:sanwa jede terebi bakkari mitarowa	
64	大賀郷 3	ameno ɸuroçiniwa ba:sanwa jede terebi bakkari {mitarowa / mitearowa}.	
64	大賀郷 4	ameno çiwa ba:teanwa uiteide terebibakkari {mitearowa / mita:rowa}	
64	三根 1	ameno ɸurohin'a bammawa ede terebibakkari mitaarowa	
64	三根 3	amega ɸuro çiwa ba:teanwa jede terebibakkari mita:rowa:	
64	三根 4	ameno ɸuru çiniwa ba:teanwa jede terebibakkari {mita:rowajo / mita:rowa:}	
64	末吉	amega ɸuro çin'a ba:sanwa jede {terebiobakkari / terebibakkari (新)} { (A)mita:rowa / (B)mitarowa}.	(A), (B)は個人の差。
64	中之郷 1	ameno ɸuroçin'a terebi bakkasi mitjarowa	

64	中之郷 3	ameno ɸuɾuɕi wa ba:teanwa ede terebibakkari {mitarowajo / mitearowa}	
64	中之郷 4	amega ɸuro {ɕiniwa / ɕin'a} ba:teanwa jede tereɓibakkari {mitarowa / mitarodza / mite odzarowa}.	
64	檜立 1	ameno huɾo hin'a ba:teanwa iede terebibaʔkari mite ozarowa (敬語)	
64	檜立 4	ameno ɸuɾuɕin'a ba:sanwa jede tereɓibakkari {mitaroa / go:dzarowa / go:dzatte odzarowa}	go:ɕa～は目上の人に対する 言葉
65	共通語	お祝いのときにはばあさんまでおどった。	備考
65	大賀郷 1	juɾwe:no tokiniwa ba:teammade odorara	
65	大賀郷 2	iwain'a ba:sammade odorara	
65	大賀郷 3	juɾwe:no tokin'a ba:sammadega {odorara / odorodza}.	
65	大賀郷 4	juɾwaino {tokiwano / toki:} ba:teammade {odorara / odotta (:):rowa}	
65	三根 1	juɾwe:no tokin'a bammamade {odottara / odorara}	
65	三根 3	juɾwe:no tok'a ba:teammade (ga) odorara:	
65	三根 4	{iwe: / juɾwe:} no tokiniwa ba:teammade {odora:jo / odorara}	
65	末吉	{iwe: / juɾwe:}no {tokiniwa / tokin'a} ba:sammade odorara.	
65	中之郷 1	juɾwja:no tokin'a ba:team madega odorarwaɕa.	
65	中之郷 3	iwaino tokiwa ba:teammade odorarajo	
65	中之郷 4	{iwja: / juɾwja:}no tokin'a (noa) {oba:teammade / oba:teammo} {odorara / odorodza / odotte ketara / odotte {ketarejo / tamo:rara / tamo:roɕadza}}.	
65	檜立 1	juɾja:no tokiwa ba:teammade odorara.	
65	檜立 4	juɾja:no tokin'a: oba:teammade {odorara / odotta}	
66	共通語	花子はきのうから病気でねている。	備考
66	大賀郷 1	hanakowa kine:kara jande netaarowa	
66	大賀郷 2	hanakowa kino:kara ɓio:kide netarowa	
66	大賀郷 3	hanakouɕa kine:kara {jande / ɓio:kide} netarouɕa.	
66	大賀郷 4	hanakowa kino:kara (no:) ɓio:kide neta:rowa.	
66	三根 1	hanakowa kineikara jande netearowa	
66	三根 3	hanakowa kine:kara jande (xjadde) neta:rowa	
66	三根 4	hanakowa kineikara tsurakute neta:rowajo	
66	末吉	hanakowa kini:kara {jande / jadde (古)} { (A)neta:rowa / (B)netarowa}.	(A), (B) は個人の差。
66	中之郷 1	hanateanwa kiniikara {ɓio:kide / jande} netearo (ti:)ɕa	
66	中之郷 3	hanakowa kini:kara jande{ neta:rowa / netarowajo}	
66	中之郷 4	hanakowa kini:kara {jande / jadde (古)} netarowa.	

66	檜立 1	hanakowa kini:kara ja?de nete [~] arowa	
66	檜立 4	hanakowa kini:kara jande netaarowa	
67	共通語	花子はおかあさんにごはんをたべさせてもらった。	備考
67	大賀郷 1	hanakowa ho:dononi meeo kamasete mu [~] ro:rara	
67	大賀郷 2	hanakowa ka:teanni meeo kamasete {mora:ra / moratta}	
67	大賀郷 3	hanakou [~] qa ka:teanni meeo kauqasete morauqara.	
67	大賀郷 4	hanakowa ka:teanni gohan o {kamasete / tabesaeite} morattarowa.	
67	三根 1	hanakowa ka:teanni meeo kamasete mu [~] ro:rara	
67	三根 3	hanakowa ka:teanni meeo kamasete moro:rara:	
67	三根 4	hanakowa ka:teanni {meeio / meeo} kamasete {morawa:jo / morawara}	
67	末吉	hanakowa {kaka:ni / ka:teanni (新)} meeo kamasete {mora:ra / mura:ra}.	
67	中之郷 1	hanakowa ka:teanni meeo kamasete {mu [~] rattaro (三人称) / mu [~] rowarara / mu [~] rowarowa [~] dza}	
67	中之郷 3	hanakowa ka:teanni meeo kamasete morattarowa	
67	中之郷 4	hanakowa ka:teanni meeo ho [~] mete {morqara / morqadza / morattarara (新?) / morattarowa (新?)}.	順に、完成非過去、継続過去、継続非過去か。
67	檜立 1	hanakowa ka:teanni meeo kamasete {mu [~] roara / mu [~] roarara}	
67	檜立 4	hanakowa oka:teanni meeo {kamasete / ho:mete} moratta	ho:mete～は手で食べさせて もらうような感じ
68	共通語	医者がかくれたくすりをのめばなおるだろう。	備考
68	大賀郷 1	icaga keto: kuisurio nomeba naoruno:wa	
68	大賀郷 2	icaga keto: kuisurio nomeba naoru no:wa	
68	大賀郷 3	icaga keta kuisuri: nomeba {naorudaro: / naorodza}.	
68	大賀郷 4	icaga keto: kuisuri o nomeba {naorudo:dza: / naoruno:wa}	
68	三根 1	icaga keto: kuisurio nomeba naoruno:wa	
68	三根 3	icaga keto: kuisurio nomeba naorodara:	
68	三根 4	icaga keto: kuisurio nomeba naorudaro:	
68	末吉	icaga keta: kuisurio nomeba naorudaro:.	
68	中之郷 1	bio:inde mu [~] rowaru kuisurio nomeba naorodo [~] dza.	
68	中之郷 3	icaga keta kuisurio nomeba naorunno:wa	
68	中之郷 4	oicasanga {keta / ketqa} kuisurio nomeba {naorudaro: / naorqanqa / naorodqadza / naori:tasowa}.	
68	檜立 1	icakara mu [~] roa kuisurio {nomeba / nomaba} naorunnu:wa	
68	檜立 4	icaga {keta / ketoa} kuisurio nomeba naorunnu:dza	

69	共通語	かあさんは市場へ買物に行った。	備考
69	大賀郷 1	ho:donowa misege kaimon ikara	
69	大賀郷 2	ka:teanwa {iteibani / iteibae} {kaimononi / kaimonoge:} ikarara	
69	大賀郷 3	ka:teanuqa mise{ge / e} kaimonni {ikara / ikarara}.	
69	大賀郷 4	ka:tean wa misege: kaimononi {itto:dza: / ittara: / ikara: / ittadza:}	
69	三根 1	ka:teanwa misege: kaimononi ikara	
69	三根 3	ka:teanwa {misege: / miseje (新しい表現)} kaimononi ikara:	
69	三根 4	ka:teanwa iteibage: {kaimononi / otsukaini} ikara:	
69	末吉	ka:teanwa misie: kaimononi ikara.	
69	中之郷 1	ka:teanwa misee (狭) kaimononi ikara	
69	中之郷 3	ka:teanwa iteibae kaimononi {detanno:wajo / detara}	
69	中之郷 4	ka:teanwa iteibia: kaimononi {ikodadza / ikarara}.	ikodadza「(これから)行くよ」
69	檜立 1	ka:teanwa {miei: / mise:} kaimononi ikara.	
69	檜立 3	okkateanwa miseni kaimononi {ikara / ittara}	
69	檜立 4	oka:teanwa iteibia (:) kaimononi ikara:	
70	共通語	道で学校の先生に会った。	備考
70	大賀郷 1	miteide gakko:no sense:ni awara	
70	大賀郷 2	miteide gakko:no sense:ni awarara	
70	大賀郷 3	mitteide gakko:no sense:ni auarajo.	
70	大賀郷 4	miteide (no:) gakko:no sense:ni {attara: / awara: / ao:dza}	
70	三根 1	miteide gakkouno sense:ni ikio:rara	
70	三根 3	to:ride gakko:no sense:ni {awarara (何日か前に) / awara (ついさっき)}	
70	三根 4	miteide gakko:no sense:ni awara:	
70	末吉	miteide gakko:no sense:ni awara.	
70	中之郷 1	miteide gakkoono senciini aowa ⁴ za	
70	中之郷 3	miteide gakko:no sense:ni {ikia:ra / i ^u karara / ikia:rara}	
70	中之郷 4	miteide gakkogno {sense:ni / senci:ni (古)} {awgadza / awara / awarara / ai:taejtara}.	(古)senci:を[senci:]とも。awararaの方がawaraより前を指す？
70	檜立 1	miteide ga?ko:no {sense: / senci:} ni awara	
70	檜立 3	miteide gakko:no sense:ni {awara / attara}	
70	檜立 4	miteide gakko:no sense:ni {bu ^u tsukwatte / bu ^u tsukwattara}	
71	共通語	なにを ¹ 買おうか。	備考
71	大賀郷 1	an ^o kaudaro:ka	

71	大賀郷 2	ani: kauɖaro:	
71	大賀郷 3	an'io kao:kano: / an'io ka kao:ka (no:).	
71	大賀郷 4	an'io kao:kano: // ani kao:kano:.	
71	三根 1	an'io kaoukano:	
71	三根 3	an'io kao:kano:	
71	三根 4	an'io kao:kano: / an'io kao:	
71	末吉	an'io kao:kana.	
71	中之郷 1	ki:wa an'io kawokka noaa	
71	中之郷 3	an'io: kao:kano:	
71	中之郷 4	an'io kao:kanqa.	
71	檜立 1	an'io kao:ka.	
71	檜立 3	an'io: kao (:)ka	
71	檜立 4	an'io kao:kano:	
72	共通語	和子のおなじげたを花子にもかってやろう。	備考
72	大賀郷 1	kazuikonoto onnazi geto: hanakonimo kattekerogon	
72	大賀郷 2	kadzuikonoto onnadzi geta: hanakonimo kattekeruukano:	
72	大賀郷 3	kazuko{ga / no}to onnazi geto: hanakonimo {kattejaro: / kattekerokano: / kattejarodo:ɖa}.	備考:kazuikogato と kazuikonoto でニュアンスに差があるようである。ga を用いると「差をつけていない」ということが強調されるようである。
72	大賀郷 4	kazuikonoto onnadzi getao hanakonimo kattejarogon.	
72	三根 1	kazuikonogato onnazi geto: hanakommo kattekerokano:	
72	三根 3	kazuikogato onnadzi geto: hanakommo katte kerodza:	
72	三根 4	kazuikonoto onnadzi{getao / geta: }hanakonimo kaogonno:	geta: は末吉的な感じ
72	末吉	kazuikogato onnazi geta: hanakonimo kattekerokano:.	
72	中之郷 1	kaʔzuikoto onnaʔzi getoa hanakonimo kattejarodara	
72	中之郷 3	kadzuikoto onnadzi getao hanakonimo katte kerogan	
72	中之郷 4	kazuikogato onnazi getqa hanakonimo kattekerogan.	
72	檜立 1	kazuikogato onnazi getoa hanakonimo kaʔte jarowa	
72	檜立 4	kazuikoto onnadzi getoa hanakommo katte kerodza	
73	共通語	和子と花子は友だちだ。	備考
73	大賀郷 1	kazuikoto hanakowa ho:be:dara	
73	大賀郷 2	kadzuikoto hanakowa tomodatei da:no	
73	大賀郷 3	kazuikoto hanakouja tomodatei dara.	
73	大賀郷 4	kazuikoto hanakowa {tomodateidara: / tomodateidatte:wa}	
73	三根 1	kazuikoto hanakowa hoube:dara	

73	三根 3	kazuukoto hanakowa ho:be: {dara (jo:) / do:dza:}	
73	三根 4	kazuukoto hanakowa ho:be:dara:	
73	末吉	kazuukoto hanakowa ho:be:dara.	
73	中之郷 1	kazuukoto hanakowa ho:bia: {doa ^ɕ za / datti:ɕza}	
73	中之郷 3	kadzuukoto hanakowa ho:bia: {doadza / do:dza}	
73	中之郷 4	kazuukoto hanakowa ho:bia:dara.	ho:bia:を数回[ho:biɕa]とも言っているが言い間違いと判断。あるいは[a:]が[ɕa]となることの類推か。
73	檜立 1	kazuukoto hanakowa ho:bia darajo	
73	檜立 3	kazuukoto hanakowa ho:bai dara	
73	檜立 4	kadzuukoto hanakowa ho:bia: doadza	
74	共通語	花子は顔がかあさんによく似ている。	備考
74	大賀郷 1	hanakowa kaoga ho:dononi jokuu nitaarowa	
74	大賀郷 2	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu {nitarowano: (似ているね) / nitarowa}	
74	大賀郷 3	hanakouya kaodateiga ka:sanni jokuu {nito:ɕza / niteirodza / nitearouya}.	
74	大賀郷 4	hanakowa (no:) kaoga ka:teanni sokkuridara:.	
74	三根 1	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu nitaarowa	
74	三根 3	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu nita:rowano:	
74	三根 4	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu nita:rowano:	
74	末吉	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu {nita:rowa (A) / / nitarowa (B)}. sokkuridara.	(A), (B) は個人の差。
74	中之郷 1	hanatean, om'aawa kaoga ka:teanni {nita.aro ^ɕ za / sokkuridoa ^ɕ za}	
74	中之郷 3	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu {nitaroano: / nita:rodza}	
74	中之郷 4	hanakowa {tsuraga / kaoga} ka:teanni jokuu {nitarodza / nitarowa / sokkuridoa ^ɕ za}.	
74	檜立 1	hanakowa kaoga ka:teanni jokuu nitearowano	
74	檜立 4	hanakowa kaoga ka:teanni {jokunitara: / nitaroadza (意外性や驚きが強い) / nitaroano}	
75	共通語	◆たぶんあの人は「飲まないだろうな～飲まないと思うよ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ (中之郷:ノミンジャンノーワ)」といいますか。	備考
75	大賀郷 1	いまでも使う。	「来ないだろう」キンジャンノウワ
75	大賀郷 2	今でも使う。nominnakanno:wa を使う。	
75	大賀郷 3	いまでも使う? nominnakanno:wa.	
75	大賀郷 4	今でも使う。nominnaka: / ikindzanno:wa / ikinnanno:wa	

75	三根 1	いまでも使う。	
75	三根 3	いまでも使う。	nominnan no:wa
75	三根 4	知らない。	
75	末吉 1	知らない。	
75	末吉 2	いまでも使う。	nominnanno:wa とも言う。
75	中之郷 1	知らない。	
75	中之郷 2	聞いたことはある。	
75	中之郷 3	知らない。(※これは大賀郷の言葉)	
75	中之郷 4	聞いたことはある。	
75	檜立 1	今でも使う。	
75	檜立 3	いまでも使う。	
75	檜立 4	知らない。檜立では nominnakanur:wa / nomindzarara	
76	共通語	◆きのうはだれも「飲まなかったよ。」といった意味で、「ノ ミンジャララ」といいますか。	備考
76	大賀郷 1	いまでも使う。	「しないだろう」シンナカンノウ ワ
76	大賀郷 2	今でも使う。 / 聞いたことはある。(人によっては使う) nominnakarara	
76	大賀郷 3	いまでも使う。nominnarara.	
76	大賀郷 4	今でも使う。nomindzarara / nominnakkia	
76	三根 1	いまでも使う。	
76	三根 3	いまでも使う。	nominnarara
76	三根 4	聞いたことはある(上の世代が使用)	
76	末吉 1	知らない。	
76	末吉 2	いまでも使う。	nominnarara とも言う。
76	中之郷 1	知らない。	
76	中之郷 2	聞いたことはある。	
76	中之郷 3	知らない。(※これは大賀郷の言葉)	中之郷では nominnakarara
76	中之郷 4	聞いたことはある。	nominnakarara。
76	檜立 1	今でも使う。	
76	檜立 3	いまでも使う。	
76	檜立 4	今でも使う。nomindzarara も	
77	共通語	◆(上記 76 の質問で「知らない」と答えた人以外に対す る質問。)「来なかった、見なかった」は、キンジャララ、ミ ンジャララですか。	備考
77	大賀郷 1	キンジャララ、ミンジャララ	「見ないだろう」ミンナカンノウ ワ / ミンジャンノーワ (言うか もしれないが使わない)
77	大賀郷 2	kinnakarara	

77	大賀郷 4	キンジャララ、ミンジャララ	
77	三根 1	キンジャララ、ミンジャララですか。Yes (キンナララも)	
77	三根 3	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	三根 4	キンジャララ・ミンジャララ。上の世代（祖母：当時 100 才、現在なら 130 才）が使用。	
77	末吉 1	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	中之郷 2	キンジャララ、ミンジャララですか。OK, OK	
77	中之郷 3	kinnakatta / kinnakarare / minnakarara	
77	檜立 1	キンジャララ、ミンジャララ	
77	檜立 3	キンジャララ、ミンジャララ	
78	共通語	◆むかしよくあの人と「飲んだっけなあ。」といった意味で、「ノンジガー（あるいはノマッチガー、ノマラッチガー）」といえますか。	備考
78	大賀郷 1	知らない。	
78	大賀郷 2	知らない。nomaro:gano:	
78	大賀郷 3	知らない。nomararajo:を使う。	
78	大賀郷 4	知らない。nomaro:gano:	
78	三根 1	知らない。	
78	三根 3	いまでも使う。	(nondero:gano:) nomaratte:ga:
78	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
78	末吉 1	知らない。	
78	末吉 2	(A)いまでも使う。 / (B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
78	中之郷 1	知らない。	
78	中之郷 2	聞いたことはある。	
78	中之郷 3	ノマッチガー：聞いた事はある。以前使っていた。	
78	中之郷 4	知らない。	nomakarakkega:。
78	檜立 1	以前は使っていた。	
78	檜立 3	いまでも使う。	
78	檜立 4	知らない。	
79	共通語	◆むかしあの人と「飲んだとき」といった意味で、「ノンジトキ（あるいは、ノマッチ トキ、ノマラッチ トキ）」といえますか。	備考
79	大賀郷 1	知らない。	
79	大賀郷 2	知らない。nomo:toki	
79	大賀郷 3	知らない。nomo:toki を使う。	
79	大賀郷 4	知らない。nomo:toki	
79	三根 1	知らない。	
79	三根 3	知らない。	(nomo:toki)

79	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
79	末吉 1	知らない。	
79	末吉 2	知らない。	nomara toki と言う。(nomaro または nomo: が予測される が、終止形の連体用法？
79	中之郷 1	知らない。	
79	中之郷 2	NR	
79	中之郷 3	知らない	
79	中之郷 4	知らない。	
79	檜立 1	知らない。	
79	檜立 3	?	
79	檜立 4	知らない。	
80	共通語	◆あの人はむかし足が「はやかったなあ。」といった意味 で、「ハヤカッチガー (あるいは、ハヤカラッチガー)」とい いますか。	備考
80	大賀郷 1	知らない。	
80	大賀郷 2	知らない。hajakara: no / hajakaro: dzano:	
80	大賀郷 3	知らない。hajakarara を使う。	
80	大賀郷 4	知らない。hajakatto: ga / hajakaro: gano:	
80	三根 1	知らない。	
80	三根 3	知らない。	(najakara: no:)
80	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
80	末吉 1	知らない。	
80	末吉 2	(A) いまでも使う。 / (B) 以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
80	中之郷 1	知らない。	
80	中之郷 2	聞いたことはある。	
80	中之郷 3	聞いた事はある。(※昔のことば)	
80	中之郷 4	聞いたことはある。	
80	檜立 1	聞いたことはある。	
80	檜立 3	いまでも使う。	
80	檜立 4	知らない。檜立では hajakaro: ga / hajakarara (早かった)	
81	共通語	◆「あっちとき」というのはどんな意味ですか。	備考
81	大賀郷 1	知らない。	
81	大賀郷 2	知らない。unokorowa / unotoki	
81	大賀郷 3	知らない。	
81	大賀郷 4	知らない。untoki (あの時の意味)	
81	三根 1	知らない。	
81	三根 3	知らない。	
81	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	

81	末吉 1	知らない。	
81	末吉 2	(A)知らない。 / (B)昔, 以前	
81	中之郷 1	聞いたことはあるがわからない。	
81	中之郷 2	知っている。「あの時」	
81	中之郷 3	昔、以前のこと。	意味は分かるが、90 代とかでないと使わない
81	中之郷 4	過ぎた時, 昔。	
81	檜立 1	以前。	
81	檜立 3	あの時。	
81	檜立 4	知らない。	
82	共通語	◆あの人、さっきまでここで「飲んでいたけど」どこに行ったかな、といった意味で、「ノンドログ (あるいは、ノマツログ、ノマラツログ)」といいますか。	備考
82	大賀郷 1	知らない。	
82	大賀郷 2	知らない。sakkimade nonde aro:ga dokoge: ittecimatto:.	
82	大賀郷 3	知らない。nondearo:ga を使う。	
82	大賀郷 4	知らない。nomaro:gano: / nondaro:gano:	
82	三根 1	以前は使っていた。	母の時代
82	三根 3	知らない。	cf. nonda:ro:ga madziketa:no: どっか行っちゃった
82	三根 4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
82	末吉 1	知らない。	
82	末吉 2	知らない。	nondara:ga と言う。
82	中之郷 1	知らない。	
82	中之郷 2	知らない。	
82	中之郷 3	ノマツログ:今でも使う。 nomattoroga doki ikoa: (飲んでたけどどこに行ったのか)	
82	中之郷 4	知らない。	
82	檜立 1	知らない。	
82	檜立 3	いまでも使う。	
82	檜立 4	知らない。檜立では nonda arowaga	

八丈方言文法項目データ（かな表記）

（. は母音が無声化していることを表す）

1	共通語	おれはきょうはいそがしい	備考
1	大賀郷1	ワリャ ケーワ イソガシキャ	
1	大賀郷2	{ワヤ / ワレワ} キョーワ {イソガシ.キャ / イソガシキャヨ ー}	
1	三根1	アラ ケーワ イソガシキャ	
1	三根2	ワイワ ケイワ {イソガシクテー / イソガシキヤー}	
1	末吉	アリャー キーワ イソガシケダラー	
1	中之郷1	アラ キーワ イソガシキャ	
1	中之郷2	アラ ケーワ イソガシキャ	後に「今日」をキーというと訂正
1	檜立1	ワラ キーワ イソガシ.キャ	※共通語形が出るのが多く、方 言形を引き出すのに苦労した
1	檜立2	ワラ キョーワ イソガシキャヨ	
1	檜立3	ワレワ キョーワ イソガシキャ	
2	共通語	おまえが畑へ行け。	備考
2	大賀郷1	ナレワ ヤマゲー イケ (ナレは同等以下)	
2	大賀郷2	オマエガ ハタケー {イケ / イケバヨケヂャ}	
2	三根1	ンーガ {ヤマゲー / ヤメー} イケ	ンーガ同等の人
2	三根2	オメワ ヤマエ {オヂャレー / イケ}	オヂャレーは丁寧な形
2	末吉	ウンガ ヤメー {イケ / イケバヨケ チャ}	
2	中之郷1	オミヤ ワ ヤミヤー イケ	
2	中之郷2	{ウンガ / ンガ} ヤミヤー イケ	
2	檜立1	オミヤワ ヤミヤ イケバ ヨッケジャ (「行けばいい (命令)」 はイケ)	
2	檜立2	オミワ ヤマエ イケ (対目下) / オミヤワ ヤマエ オヂャレ ヨ (対目上)	
2	檜立3	オミガ ヤマエ イケ	
3	共通語	うん、畑へはおれがいく。	備考
3	大賀郷1	オー ショゲーワ ワガ イコワ	
3	大賀郷2	ワカララ ソイヂャ ワガ {ハタケ ニ / ハタケー} イコワ / / オー ワガ {ハタケ ニ / ハタケー} イコワ	
3	三根1	ホイジャ アガ ヤメー イコワー	
3	三根2	{ウン / ンー} {ヤマイエ / ヤマゲー}ワ {ワガ / アガ} イ コワー	
3	末吉	(ウンガ) ヤマゲーワ アガ イコワ	
3	中之郷1	ヤミヤー ワ アガ イコワ	
3	中之郷2	オー ヤミヤーワ アガ イコワ	
3	檜立1	ワラ ヤミヤ イコワヨ	

3	檜立2	オー ワガ ヤマエ イコチャ	
3	檜立3	オー ヤマエワ ワーガ イコワ	
4	共通語	おれの鍬はどこにある。	備考
4	大賀郷1	ワガ テガワ ドコニ アロ	
4	大賀郷2	{ワガ / アガ} クワワ ドコニ アロ	
4	三根1	アガ テガワ {ドコン / ドコドー} アロ	アガ テガワ ドコド
4	三根2	{ワガ / アガ} クワワ ドコニ {アルダロー / アロ}	
4	末吉	アガ マガマワ ドコニ アロ	鍬でなく鎌
4	中之郷1	アガ クワワ ドコニ アロド	
4	中之郷2	アガ テガワ ドコニ アロ↗	
4	檜立1	ワガ カワ {ドコダッタロー / ドコニ アルダロー}	
4	檜立2	ワガ クワワ ドコニ アロ	
4	檜立3	ワガ クワワ ドコニ アルカ	
5	共通語	この鎌は太郎のか。	備考
5	大賀郷1	コノ マガマワ タローノガ カ	
5	大賀郷2	コノ {カマ / マガマ} ワ タローノ カ	
5	三根1	コノ マガマワ タローガ カ	
5	三根2	コノ マガマワ {センセイガ / センセイノ} ダーヨー	太郎→先生
5	末吉	コノ マガマワ トッチャンガ カ	
5	中之郷1	コノ マガマワ タローノ カ	
5	中之郷2	コノ マガマワ タローガ カ	
5	檜立1	コノ マガマワ オミヤノガ カ	
5	檜立2	コノ マガマワ タローノガ カ	
5	檜立3	コノ カマワ タローノ カ	
6	共通語	どれがおまえの笠だ	備考
6	大賀郷1	ドレガ ナレガ カサ ドー	
6	大賀郷2	ドレガ オマエノ カサ ドー	
6	三根1	ドイガ ンーガ カサ ドー	
6	三根2	ドイガ オメノ カサ ドー	
6	末吉	ドレガ ウンガ カサ ダー	
6	中之郷1	ドレガ オミヤノ カサ ドー	
6	中之郷2	ドレガ ウンガ カサ ドア	
6	檜立1	ドレガ オミヤノ カサ ド	
6	檜立2	ドレゴ オミノ {ミノドア / ミノドー} (対目下) // オミヤノ ミノワ ドレデ {オチャロ / オチャリヤロー}	
6	檜立3	ドレガ オミ ノ カサダ	
7	共通語	その笠がおれのだ。	備考
7	大賀郷1	ソノ カサガ ワガダラ	
7	大賀郷2	ソノ カサワ ワガメ ダラ	

7	三根1	ソノ カサガ ワガドージャー	
7	三根2	ソノ カサワ {アガ / ワガ} ダーヨー	
7	末吉	ソノ カサガ アガ ダー チャー	
7	中之郷1	ソノ カサガ アガ ドワ チャ	
7	中之郷2	ソノ カサガ アガ ダラ / ソレ ガ アガ カサ ダラ (それが私の筈だ。)	
7	檜立1	(ソレガ ワガ カサドアジャ) ソノ カサガ ワガドアジャ	
7	檜立2	ソノ ミノワ ワガ ミノダラヨー	
7	檜立3	ソノ カサガ ワレノ ダラ	
8	共通語	このふろしきはおまえのか。	備考
8	大賀郷1	コノ フルシキワ {ナレガカ / ナレガドーカ}	
8	大賀郷2	コノ フロシキワ オマエノダー (「誰のだ」はダガメドー / ダレノドー)	
8	三根1	コノ フルシキヤ {シーガ ダー / シーガ カー}	
8	三根2	コノ フロシキワ オメノ {ガカー / カー}	確認する時はオメノダーノ
8	末吉	コノ フロシキワ ウンガ カ	
8	中之郷1	コノ フロシキワ オミヤーガ カ	
8	中之郷2	コノ フロシキワ {ウンガ / ンガ} カ	
8	檜立1	コノ フルシキワ オミヤノガカ	
8	檜立2	コノ フルシキワ {オミノガカ (対目下) / オミヤノガカ (対目上)}	
8	檜立3	ソノ フロシキワ オミノカ	
9	共通語	それはおとうとのかもしれない。	備考
9	大賀郷1	ソレワ キョーデーノガ カモシレンナカ	「おとうと」の「キョーデーノガ」は、オトトノガでかなり迷う。結局「太郎」の「タローノガ」で採取
9	大賀郷2	ソレワ {オトノ カモ シレンナカヨ (一)(かもしれない) / オトノヂヤ ネーカ (一)(弟のじゃないか)}	
9	三根1	ソイガ キョーデーノガ ダカモシレンナカヨー	
9	三根2	ソレワ オトノ ダカモ シレンナカノ	
9	末吉	ソレ ワ ノー キョーデエ ノ ガ カモ シレンナカー	
9	中之郷1	ソレワ キョーチャーガ カモ シレンナカ	
9	中之郷2	ソレワ キョーチャーノ カモ シレンナカ	ノの代わりにガは不可。「キョーチャー」は「キョーデアー」か
9	檜立1	ソレワ フミ (人名)ノガカモ シレナイ	
9	檜立2	ソラ キョーチャーノガカモ シレナカヨー	
9	檜立3	ソレワ オトノ カモ シレナキヤ	
10	共通語	沖縄には船で行くより飛行機で行ったほうがいい。	備考
10	大賀郷1	オキナワニヤ フネデ デロヨリ ヒ、コーキデ デタホーガ ヨカンノワ	

10	大賀郷2	オキナワニワ フネデ イコヨリ ヒコーキデ イッタホーガ ヨッキャヨー	
10	三根1	オキナワゲーワ フネデ イコヨリ ヒコーキデ イッタホーガ ヨッキャー	
10	三根2	オキナワゲー イコ トキワ フネデ イコヨリモ ヒコーキデ イコホーガ ヨッキャノー	
10	末吉	オキナワ ゲーワ フネ デ イコヨリ モ ヒコーキデ イッタホーガ ヨッキャー	
10	中之郷1	オキナワニャ フネデ イコヨリカモ ヒコーキデ イッタホーガ {ヨカンノーワ / ヨッキャヨ}	
10	中之郷2	オキナワ ニワ フネデ イコヨリ ヒコーキデ イッタ ホーガ ヨッキャ	
10	檣立1	オキナーニャ フネデ イコヨリモ ヒコーキデ イッタ ホーガ ヨッキャヨ	
10	檣立2	オキナワイェワ フネデ イコヨリカ ヒコーキノホーガ {ヨッキャヨー (実際に行ったことがある)/ ヨカン スア ヨ(想像で言う場合 (と内省))}	
11	共通語	飛行機は一日に一回しかない。	備考
11	大賀郷1	ヒコーキワ イチンチニ イッカイシカ ナッキャ	
11	大賀郷2	ヒコーキワイチニチニ イッカイシカ ナッキャヨー	
11	三根1	ヒコーキワイチンチニ イッカイシカ ナッキャー	
11	三根2	ヒコーキワイチニチニ サンビンシカ ナッキャ {ヨー / ノー}	一回→三便。
11	末吉	ヒコーキワイチニチニ イッカイシカ ナッキャヨー	
11	中之郷1	ヒコーキワ ヨイチニチニ イッカイシカ ナッキャヨー	
11	中之郷2	ヒコーキワイチニチニ イッカイシカ {ナッキャ / キンナカ (来ない)}	
11	檣立1	ヒコーキワイチンチン サンカイシカ ナッキャヨー	
11	檣立2	ヒコーキワ イチニチ イッカイシカ ナッカ ヨー	
12	共通語	空港ならこっちの道を行きなさい。	備考
12	大賀郷1	クコーゲー イコダーバ コッチノ ミチヨ イケ	
12	大賀郷2	{ヒコーヂョー / クーコー}ゲー イコダーバ {コッチノ ミチガ ヨッキャヨ (一)/ コツチェ イケバ ヨッキャヨー}	
12	三根1	ヒコージョーゲーワ コッチノ ミチヨ イケバ ヨッキャー	
12	三根2	クーコーゲー イコダーバー コッチノ ミチオ {イキヤレー / オヂャレー / イケ}	録音終了後、「空港」はヒコージョー と言っていた。行きなさい=イキヤレー
12	末吉	クーコーナラ コッチ ノ ミチョー{ イケ / イッタホーガヨクネーカー}	
12	中之郷1	ヒコーヂョーナラ コッチノ ミチヨイッタ ホーガ ヨッキャヨ	

		ー	
12	中之郷2	ヒコーヂョーエワ コッチノ ミチオ オヂャリヤレ	
12	檜立1	ヒ、コージョーニヤ コッチノ ミチョ イケバ ヨッケジャ	
12	檜立2	ヒ、コーヂョーエ {オヂャラバ (目上)/ イカバ} コッチノ ミチホ {トーラエ ヨー (対目下)/ トーリヤレ ヨー (対目上)}	
13	共通語	道のまんなかをあるいてはいけない。	備考
13	大賀郷1	ミチノ マンナコー ミッチャ ダメダラ	
13	大賀郷2	ミチノ マンナカ (オ) アルイターバ ダメドーチャ、コッチノ ミチオ {イケ / イッタバ ヨッケヂャー (行ったらいいよ)}	
13	三根1	ミチノ マンナカオ エージャ ダメダラー	
13	三根2	ミチノ マンナカウオ {エームナー / エーマズン / エーヂャダメダーヨー}	エーマズン は「歩かずに」という意味。
13	末吉	ミチ ノ マンナカー エーン チャ ダメダラー	
13	中之郷1	ミチノ マンナクワー アリッチャ ダメダラヨー	
13	中之郷2	ミチノ マンナカオ {ヤッデ / ヤンデとも} イツテワ ダメダラ (ヨ)	
13	檜立1	ミチノ マンナコア ヤッジャ ダメダラヨ	
13	檜立2	ミチノ マンナカオ トーッチャ ダメダラヨー。	
14	共通語	道が広いなあ。	備考
14	大賀郷1	ミチガ ヒロキヤノー // ミチガ ヒロソー	
14	大賀郷2	ミチガ ヒロキヤノー	
14	三根1	ミチガ ヒロソーノー	
14	三根2	ミチガ ヒロキヤノー	
14	末吉	ミチガ {ヒロキヤナー / ヒロケヂャー}	
14	中之郷1	アー ミチガ ヒロスワー	
14	中之郷2	ミチガ ヒロキヤ ンオア	
14	檜立1	ミチガ ヒロソア	
14	檜立2	ワー ミチガ ヒロキヤ{ノア / ノー}	
14	檜立3	ミチガ ヒロキヤノー	
15	共通語	あ、雨がふってきた。	備考
15	大賀郷1	アメガ フッテキタラ	
15	大賀郷2	オ アメガ フッテ キ、トーチャ	
15	三根1	アイヤイヤイ アメガ フッテキターラー / オ アメガ フッテキトージャ	
15	三根2	アー アメガ フッテキターラー	
15	末吉	アメガ フッテキター チャー	
15	中之郷1	ワー アメガ フッテキターラー	
15	中之郷2	アメガ フッテ キタラ	

15	樫立1	ワー アメガ フッテ キトアジャ	
15	樫立2	ワー アメガ フッテキタロー	
15	樫立3	アメガ {フッテキトーチャ / フッテ キタラ}	
16	共通語	いとこの布団がやねの上にほしてある。	備考
16	大賀郷1	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェニ ホシタアロワ	
16	大賀郷2	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェニ ホシ.テ アロチャ	
16	三根1	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェイニ ホシテアロワー	
16	三根2	イトコノ フトンガ ヤネノ ウェイニ ホシテアロワー	
16	末吉	イトコ ノー フトンガ ヤネニ {ホシテアロダーガー / ホサレテ アロガー}	
16	中之郷1	ワー イトコノ フトンガ ヤネノ ウェーニ ホシチャル チャ	
16	中之郷2	イトコノ フ.トンヨ ヤネ ノ ウェニ ホシタ (テ)アロワ (ヨー)	ノの代わりにガは不可
16	樫立1	イトコノ フ.トンガ ヤネノ ウェニ ホシ.テ アロワ	
16	樫立2	イトコノ フ.トンガ ヤネニ {ホシテアロワヨー (人に説明する時と内省)/ ホシテアロチャ. (断定する時と内省)}	
17	共通語	きのうは今日より風が強かった。	備考
17	大賀郷1	キネーワ ケーヨリ カゼガ ツヨカララ	
17	大賀郷2	キノーワ キョーヨリ カヅェガ ツヨカララノー	
17	三根1	キネイワ ケイヨリ カゼガ ツヨカラノー	
17	三根2	キネイワ ケイヨリワ カゼガ ツヨカラノー	
17	末吉	キニイワ ノー キイヨリ カヅェガ ツヨカララ	
17	中之郷1	キニイワ キイヨリカ カヅェーガ ツヨ カロ ワ チャー	
17	中之郷2	{キニー / キネー} ワ キーヨリ カゼガ ツヨカッタ ンオアー	
17	樫立1	キニーワ キーヨリ カゼガ ツヨカララ	
17	樫立2	キニーワ キーヨリ カゼガ ツヨカローチャ	
17	樫立3	キノーワ カゼガ ツヨカララノー	
18	共通語	真っ白な鳥が空を飛んでいる。	備考
18	大賀郷1	マッチロドー トリメガ ソロー トンダアロワ	
18	大賀郷2	マシ.シロケ トリガ ソラオ {トンダロチャ / トンダロワノ (一)}	
18	三根1	マシ.シロケ トリメガ ソロー {トンダロジャ / トンデアロジャ}	
18	三根2	マシ.シロナ トリ (メ)ガ ソラオ トンデアロワーヨー	過去形:トンデアララー
18	末吉	マシ.シロケ トリメガ {ソラー / テンニーヨ} {マイテ アロチャ / トンデ アロ チャ ヨー}	
18	中之郷1	マシ.シロ ドゥ トリガ ソロワ トンチャル チャー	
18	中之郷2	シロケ トリメガ テンニーオトンダロワ	
18	樫立1	ワ. マッシロドア トリメガ ソロア トンデ アラアヨー.(トッデ	

		とは言わない)	
18	檜立2	マシ.シロケ トリメガ ソラオ {トンデ アロワヨ / トッデ アライヨー}	
19	共通語	あの山にはいのししがいるそうだ。	備考
19	大賀郷1	ウノ ヤマニワイノシシガ アルテーヤ	
19	大賀郷2	ウノ ヤマ ニワイノシシガイルテーチャ	
19	三根1	ウノ ヤマゲーワイノシシガ アルッテイヤー	ウノ ヤマニワ...
19	三根2	ウノ ヤマニワイノシシガ アルテイヤノー	
19	末吉	ウノ ノー ヤマ ニワイノシシガ アルチャーヤ (一)ヨー	
19	中之郷1	ウノ ヤマニワサイノシシガ アルッテイヤヨオ	
19	中之郷2	ウノ ヤマニワイノシシガ アルッテヤヨー	
19	檜立1	オノ ヤマニヤイノシシガ アルッチャーヤヨ	
19	檜立2	アノ ヤマニヤーイノシシガ アルチ (一)ヤヨー	
19	檜立3	イノシシガ {アルチャーヤ / アララ}	
20	共通語	あれは学校だ。役場ではない。	備考
20	大賀郷1	ウリヤ ガッコダラ. ヤクバジャ ナツキヤ	
20	大賀郷2	ウレワ {ガッコダ / ガッコデカ アレガ (学校であって)} ヤクバ{チャ / デワ} ナツキヤ	
20	三根1	ウラ ガッコドージャ ヤクバデワナツキヤー	
20	三根2	ウレワ ガッコダーヨー ヤクバ {チャ / デワ} ナツキヤー	
20	末吉	ウリヤー ノー ガッコ デカーレ ヤクバ デワ ナツキヤー	
20	中之郷1	ウレワ (ヨ) ガッコダラヨー ヤクバ チャ ナツキヤヨー	
20	中之郷2	ウレワ ガッコデカレ. ヤクバ デワ ナツキヤヨー	
20	檜立1	ウクワ ガッコーデカレ. ヤクバジャ ナツキヤ	
20	檜立2	オラ ガッコダッチ (一)ヤ. ヤクバチャ {ナツキヤ / ナカ チャーヨー}	
20	檜立3	アレワ ガッコダラ. ヤクバ チャ ナツキヤ	
21	共通語	あれが役場だ。	備考
21	大賀郷1	ウレガ ヤクバドーダラ // ウレガ ヤクバドーダレ	
21	大賀郷2	ウレガ ヤクバデカ アレガ	
21	三根1	ウイガカ ヤクバダレー	
21	三根2	ウイガ ヤクバ {ダラー / ダーヨー}	
21	末吉	ウレ ガ カ ヤクバ ダンネー	
21	中之郷1	ウレガカ ヤクバダレガ	
21	中之郷2	ウレガ ヤクバ ダラ	
21	檜立1	ウクガカ ヤクバダレ	
21	檜立2	アレガカ ヤクバ{チャ / ダ}ニヤー	
21	檜立3	アレガ ヤクバ ダラ	
22	共通語	あの目のおおきい, 色の白い男はだれだろう。	備考

22	大賀郷1	ウノ メノ ボーケイロノ マシ.シロケ オトコワ ダレダッテ	
22	大賀郷2	ウノ メノ {デッカケ / ボーケ}イロガ シロケ オトコワ ダレ ドー	
22	三根1	ウノ メンタマノ ボウケイロノ シロケ オトコワ ダイダロウ	
22	三根2	ウノ メノ ボウケイロノ シロケ オトコワ ダイダローノ	
22	末吉	ウノ メノ ボーケイロ ノ シロケ オトコワ ダレ {ダカナ ー / ダ ロー}	
22	中之郷1	ウノ メノ ボオケ ヒトデイロノ シロケヒトワ ドコノ ヒト ドア	
22	中之郷2	ウノ マナコノ {ボーケ / デッカケとも}イロノ シロケ オノ コゴワ ダレ ダロー ノ	
22	檜立1	オノ メノ ボーケイロノ シローケ オトコワ ダレダロー	
22	檜立2	アノ メノ ボーケ オトコワ ダイダロー	補:「色が白い」はイロノ シロケ ヂャ (言い切り)「色の白い男」は 出てこず。おそらくイロノ シロケ
23	共通語	孫が去年から東京にいる。	備考
23	大賀郷1	マゴワ キョネンカラ クニニ アロワ	
23	大賀郷2	マゴガ キョネン カラ クニニ アロワ (一)(いるよ)	
23	三根1	マゴガ キョネンカラ クニン アロワ	
23	三根2	マゴガ キョネンカラ クニゲ (一)(スデ)アロー	
23	末吉	マゴメワ キョネン カラ クニニ アロワ	
23	中之郷1	マゴガ キョネンカラ クニニ アル チャ	
23	中之郷2	マゴガ キョネンカラ クニニイッタロ ワア	
23	檜立1	マゴガ キョネンカラ クニニ アロワ	
23	檜立2	マゴガ キョネンカラ クニニ アロヂャ	
23	檜立3	マゴガ キョネンカラ クニー イツテロワ	
24	共通語	孫はいつ東京から帰るか。	備考
24	大賀郷1	マゴワイツ クニカラ {モドルダロー / モドロドー}	
24	大賀郷2	マゴワ イツ クニカラ カエロドー	
24	三根1	マゴワイツ クニカラ ケーテ クルカノ	
24	三根2	マゴワ イツ クニカラ ケイテ クル カノ	
24	末吉	マゴメワ イツ クニ カラ ケーロ	
24	中之郷1	モゴワ イツ クニカラ キヤーテ {クルカ ノ / クロダ}	
24	中之郷2	マゴワ イツ クニカラ キヤーッテ クロ (一)↗	
24	檜立1	マゴワ イツ クニカラ キヤーロ	
24	檜立2	マゴワ イツ クニカラ キヤールダー	
24	檜立3	マゴワ イツ トーキョーカラ キヤールカ	
25	共通語	八月には帰ってくるようだ。	備考
25	大賀郷1	ハチガツニヤ モドッテクルノ	
25	大賀郷2	ハチガツニワ カエッテ クルンヂャ ネーカ.	

25	三根 1	ハチガツニャ ケーテ クロゴンダーヨー	
25	三根 2	ハチガツニワ ケーッテクル テイヤー	
25	末吉	ハチガツ ニワ ケエテ クロ ガンダーガイ	
25	中之郷 1	ホチガツニワ キャーッテ クルッティヤー	
25	中之郷 2	ハチガツニャー キャーッテ クル ヨーダラヨー	*クロは不可
25	檜立 1	ハチガツニワ キャーッテ クルチーヤヨ	
25	檜立 2	ハチガツニワ キャンヌワヨー	
25	檜立 3	ナツヤスミニワ キャーッテ クルヨーダラ	
26	共通語	かあさんはあした東京へむすこに会いに行く。	備考
26	大賀郷 1	ホードノワ アシタ クニゲー ムスコニ アイニ イコワ	
26	大賀郷 2	カーチャンワ アシタ クニゲ (一) ムスコニ {アイニ イコ ダラ / アイニ イコワ}	
26	三根 1	カーチャンワ アス クニゲー ムスコニ アイニ イクテイヤ ー	
26	三根 2	カーチャンワ アシタ クニゲー コドモニ アイニイツテ ク ロワー	
26	末吉	ウラガ イェ ノ カーチャンワ アス クンイエ コドモニ アイ ニ イコ ワッテイッタラ	
26	中之郷 1	カーチャンワ (サ) アス クニー イツテ コドモニ アッテ ク ロンテ ヨイ	
26	中之郷 2	オッカチャンワ アス クニエ コドモニ イクッテイヤ	
26	檜立 1	オッカチャンワ アス クニエ コドモニ アイニ イコワ	
26	檜立 2	ホアワ アス コドモニ アイネ トーキョーニ イコワ	
27	共通語	大阪から東京までの汽車賃はいくらだろうか。	備考
27	大賀郷 1	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ イクラグレー スルダロー	
27	大賀郷 2	オーサカ カラ トーキョーマデノ キシャチンワ {イクラドー / イクラ スルドー}	
27	三根 1	オーサカカラ トウキョーマデノ キシャチンワ イクラダロー ノー	
27	三根 2	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ イクラ ダロ ーノー	
27	末吉	オーサカ カラ トキョーマデ ノ デンシャ チン ワ {イクラ ダロー / イクラダカノー}	
27	中之郷 1	オーサカ カラ トーキョー マデ キシャチンワ イクラ ダカ ンオアー	
27	中之郷 2	オーサカカラ クニマデノ キシャチンワ イクラダカ ノー	
27	檜立 1	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ イクラダロ ー	

27	檜立2	オーサカラ キシャチンワ {イクラドー / イクラダロー / イクラデオヂャロー (対目上)}	
28	共通語	四時まで駅でまっておれ。	備考
28	大賀郷1	ヨジマデ エキデ マチタアレ	
28	大賀郷2	ヨヂマデ エキデ {マツタレヨ / マットヨ}	
28	三根1	ヨジマデ エキデ マツタレ	
28	三根2	ヨヂマデ エキデ {マツテアレヨ / マチテアレヨ}	
28	末吉	ヨヂ マデ エキデ マツタレー	
28	中之郷1	ヨヂマデ ソコデ マツティアレ ヨー	
28	中之郷2	ヨヂマデ エキデ マツタレヨ	
28	檜立1	ヨジマデ イエキデ {マチロヨイ / マチ.テ アレヨイ}	
28	檜立2	ヨヂマデ {マチテ ワセ オヂャレー (より丁寧らしい) / マチテワセヨ}	
28	檜立3	ヨヂマデ エキデ マツタレ	
29	共通語	五時までには帰らなくてはならない。	備考
29	大賀郷1	ゴジマデニ モドリノート ナリンナカ	
29	大賀郷2	ゴヂマデニ {カエリンノート ダラ / カエリノート ダメ ダラ}	
29	三根1	ゴジマデン {ケーリンナーバダラー / ケーナーバダラー}	
29	三根2	ゴヂマデニ ケーリンナーバ ナリンナカヨ	
29	末吉	ゴヂ マデ ニ ケーリン ナート {ダメダーンテ / ダメドラヨ}	
29	中之郷1	ゴヂナデニ キャーラズニャ ドワガ	
29	中之郷2	ゴヂマデニ (ワ) キャー {ラナク.テワ / リンナクテワ} ナリンナカ (ヨ / ノー)	
29	檜立1	ゴジマデニ キャーリンノアト ドアダラ	
29	檜立2	ゴヂマデニャ キャーラナキャダラヨ	
30	共通語	次郎, この荷物を家までかついで行ってくれ。	備考
30	大賀郷1	ジロー コノ ニモツー イエマデ カツンデ モツテイケ	
30	大賀郷2	ヂロー コノ ニモツオイエマデ カツイデ {モツテイトヨ / モツテットヨ}	
30	三根1	ヂロウ コノ ニモツー エマデ カツンデイツテケロ	
30	三根2	ヂロー コノ ニモツオ エマデ カツイデ {イツテケー / イットヨ}	イトヨは優しい方。
30	末吉	ヂジロー コノ ノー ニモツー ^ニ エ マデ カツイデ イツテケロー	
30	中之郷1	ヂルウ コノ ニモツ ワガヤマデ カツイデ モツテッテ ケロ	
30	中之郷2	ヂロー コノ ニモツオ イエマデ カツイデ イツテケロ	

30	樫立1	ジロー コノ ニモツ イエマデ カツッデイトー	
30	樫立2	ヂロー コノ ニモツエ {カツイデ タベヨ./ カツイデ タ モーレ (対目上)} (「かついでくれ」のみか?)	補:「行ってくれ」のみでは, ワシ テ タベ (対同等) ワシテ ケロ (対目下, 希) ワシテタモーレ (対目上)
31	共通語	荷物が重かったので, 二人でもった。	備考
31	大賀郷1	ニモツガ オモカローデ フタリデ モタラ	
31	大賀郷2	ニモツガ オモケンテ フタリデ {モッタラ / モトー ダラ}	
31	三根1	ニモツガ オモカローテ フタイデ サゲタラ	
31	三根2	ニモツガ オモカローテ フタリデ {モッテイカラー / モタ ラー}	
31	末吉	コノ ノー ニモツガ {オモクテ / オモケデ} フタリ デ カ モターダ {レー / ガー}	
31	中之郷1	ニモツガ オモケデ フタリデ ヤットデ モテイコラ	
31	中之郷2	ニモツガ オモケンテ フタリデ サゲタラ	
31	樫立1	ニモツガ オモク.テ (重くて) フタリデ モタラ	
31	樫立2	ニモツガ オモカローヤニ フタリデ モタラ	
32	共通語	この上着はこのまえ沖縄で二千円を買った。	備考
32	大賀郷1	コノ ウワギワ コノメー オキナワデ ニセン エンデ カワラ	
32	大賀郷2	コノ ウワギワ コノマエ オキナワデ ニセネンデ カワラー	
32	三根1	コノ ウワギワ コノメー オキナワデ ニセン エンデ {カッ ジャ / カッター}	「買った」カオードージャ / カオ ージャ
32	三根2	コノ フクワ コノメー オキナワゲー {イコトキニ / ニセネン デ} {カッテキタラー / カワラー}	
32	末吉	コノ ノー ウワギ ワ コノメー オキナワ デ ニセネンデ カ ワラー チャ	
32	中之郷1	コノ ウワギ ワ サ コノ ミヤー オキナワデ ニセン/エンデ カッテ キトア チャ	
32	中之郷2	コノ ヘビラワ コノ ミヤー オキナワデ ニセネンデ {カッ タラ / カッテキタラ}	
32	樫立1	コノ ウワギワ コノミヤー オキナワデ ニセンエンデ {カッ タラ / カワラヨー}	
32	樫立2	コノ シャツワ コノミヤー オキナワデ ニセン イエンデ カ ワラ (ヨ)	
33	共通語	沖縄にはめずらしい菓子がある。	備考
33	大賀郷1	オキナーニャ メズラシケ カシガ アロワ	
33	大賀郷2	オキナワニワ メズラシケ カシガ {アロワ / アロワノー / アロヂャ}	
33	三根1	オキナワニャ メズラシケ カシガ アロワ	
33	三根2	オキナワニワ メズラシケ カシガ アロワヨー	

33	末吉	オキナワ ニワ ノー メヅラシケ カシ ガ アロワ	
33	中之郷1	オキナーニワ メヅラシケ カシガ {イッピヤ / シッカリ} アロ ワ ヨ	
33	中之郷2	オキナワニワ メヅラシケ カシガ アロ (ワ)(ノー)	
33	檜立1	オキナーニワ メヅラシケ カシガ アロジャ	
33	檜立2	オキナワニャー メヅラシケ カシガ アロワヨー	
33	檜立3	メヅラシケ カシガ アロワ	
34	共通語	孫はお菓子が好きだ。	備考
34	大賀郷1	マゴワ カシガ スキダラ	
34	大賀郷2	マゴワ オカシガ {スキダラ / スキドーダラ}	
34	三根1	マゴワ カシガ スキダラ	
34	三根2	マゴワ カシガ スキ {ダーヨー / ダラ}	
34	末吉	マゴメワ カシガ スキダー チャ	
34	中之郷1	マゴワ カシシガ ダイスキ ドワチャ	
34	中之郷2	マゴワ カシガ スキダラ	
34	檜立1	マゴワ カシヨ スキダラヨー	
34	檜立2	マゴワ カシガ スキダラヨー	
34	檜立3	マゴワ オカシガ スキ ダラ	
35	共通語	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。	備考
35	大賀郷1	ハコノ ナカン マンヂューガ イクツ アルト オモー	
35	大賀郷2	ハコノ ナカニワ マンヂューガ イクツ アロカ{シッタロカ / ショケカ}	
35	三根1	ハコノ ナカニ マンヂューガ イクツ アルト オモーロ	
35	三根2	ハコノナカニ マンヂューガ イクツ アルト オモウカ	
35	末吉	ハコノ ノー ナカニ マンヂューガ イクツ アルト オモー	
35	中之郷1	ハコノナカニヤ (サ) マンヂューガ イクツ アルト オモー	
35	中之郷2	ハコノ ナカニ イクツ マンヂューガ アルト オモー / イクツ ヒャーッタルト オモー (いくつ入っていると思うか。)	
35	檜立1	ハコノ ナカン マンヂューワ イクツ アルト オモー	
35	檜立2	ハコノナカニ マンヂューガ イクツ アロ (いくつある)(「と思うか」はNR)	
36	共通語	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。	備考
36	大賀郷1	マゴワ マンヂューヨ コーベダケ カムワ	
36	大賀郷2	マゴワ マンヂューオ カワダケシカ {カミンナカ / カミンノーダラ}	
36	三根1	マゴワ マンヂューヨ コーベダケ カモワ	
36	三根2	ワガイノ マゴワ マンヂューウオ カワダケ カモワ	
36	末吉	マゴ ワ マンヂューヨ カーベ ダケ カムワ	

36	中之郷1	マゴワ マンヂュウノ クワーベダキイイ ウマガッテ カモ ヂャー	
36	中之郷2	マゴワ マンヂュー{オ / ノ} コア ダケ カモ ワ	
36	檜立1	マゴワ マンジューヨ コアダケ カモワヨー	
36	檜立2	マゴワ マンヂューヨ コアベダケ カモワ	
37	共通語	じいさんは朝から海へ魚をとりにいった。	備考
37	大賀郷1	ヂーチャンワ トンメテカラ ウミゲー ヨー トリイ デタラ	
37	大賀郷2	ヂーチャンワ アサカラ ウミ {ニ / イエ} サカナオ トリニ {イカラ / イッタラヨー}	
37	三根1	ヂイサンワ トンメテイカラ ウミゲー ヨウトリ イカラ	
37	三根2	ワガイノ デーチャンワ トンメテカラ ウミゲー ヨートリニ イ カラ	
37	末吉	ヂーサンワ ノー トンメテカラ ウミゲー ヨー トリニ.イカラ	
37	中之郷1	ヂーチャンワ トンメテカラ ハミヤア サカンオア トリ ニ イ ク ワ チャ	
37	中之郷2	ヂーサン トンメテカラ ウミエ ヨー トリニ イ(カ)ラ	
37	檜立1	ジーチャンワ トンメテカラ ウミ サカナア トリー {オヂャ ッタラ / オヂャララ}	
37	檜立2	ヂーサンワ トンメテカラ ヨーツリ イカラ	
38	共通語	ここは海にちかいので魚がうまい。	備考
38	大賀郷1	ココワ ウミン チカケンテ ヨガ ンーマキヤ	
38	大賀郷2	ココワ {ウミニ / ウミゲー} チカケンテ サカナガ {ウマキ ヤ / ンマキヤ}ノー	
38	三根1	ココワ ウミゲー チカケンテ ヨガ ンーマキヤー	
38	三根2	ココワ ウミニ チカケンテ ヨガ ンマキヤノー	
38	末吉	ココワ ノー ウミニ チカケンテ ヨガ {ウマケダラ / ンマ ケダラ}	
38	中之郷1	ココワ (サ) ハマニ チカケデ ヨガ ウマキヤ ノー	
38	中之郷2	ココワ ウミニ チカケンテ ヨガ ンマキヤ	
38	檜立1	ココワ ウミニ チ.カカデ {ヨ / サカナ} ガ ウンマキヤ	
38	檜立2	ココワ ウミニ チカケイテ サカナガ ウンマキヤ	
39	共通語	魚より肉のほうが高い。	備考
39	大賀郷1	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ	
39	大賀郷2	サカナヨリ ニクノ ホーガ タカキヤヨー	
39	大賀郷3	{サカナ / ヨ (古)}ヨリ ニクノ ホーガ タカキヤノー	タカケヂャ (高い<独白>)タカキ ヤ (高い)
39	大賀郷4	{ヨ / サカナ} ヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ	
39	三根1	イヨヨリ ニクノホーガ タカキヤー	
39	三根3	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ (ノー)	ノーはやわらげ
39	三根4	ヨ ヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ ノー	

39	末吉	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ	
39	末吉	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ	
39	中之郷1	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ ヨー	
39	中之郷2	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤ	
39	中之郷3	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤノー	
39	中之郷4	{サカナ / ヨ} {ヨリ / ヨリワ / ヨリカ / ヨリカワ} {ニクガ / ニクノ ホウガ} タカキヤ	ヨリワをヨリヤと言うのは古い言い方。オウは弱い二重母音で[オー]にも (以下同じ)。
39	檜立1	ヨヨリ ニクノ ホーガ タカキヤノー	
39	檜立4	ヨヨリ ニクガホー タカキヤーヨー	
40	共通語	おれは蛸のさしみが食べたい。	備考
40	大賀郷1	ワリヤ タコメノ サシミヨ カミタキヤ	
40	大賀郷2	ワヤ タコノ サシミガ {カミタキヤ / タベタキヤ}ノー	
40	大賀郷3	ワヤー タコノ サシミガ クイタキヤ (ノー)	
40	大賀郷4	ワレワ タコノ サシミガ タベタキヤノー	
40	三根1	ワイワ タコノ サシミガ カミタキヤ	
40	三根3	ワラ タコノ サシミガ {カミタキヤー / タベタキヤー}	サは[ス]にも聞こえる。
40	三根	アラ タコノ サシミガ カミタキヤ ノー	
40	末吉	アラ ノー タコメノ サシミガ カミタキヤ	
40	末吉	アリヤ タコ (メ)ノ サシミヨ カミタキヤ	
40	中之郷1	ワラ タコメノ サシミヨ カミタキヤ	
40	中之郷2	アラ タコメノ サシミガ タベタキヤ	サシミオ も可
40	中之郷3	アラ (ー) タコノ サシミガ {カミタキヤノー / カミタキヤヨー}	
40	中之郷4	{ワラ / アラ} {タコノ / タコメノ} サシミヨ {タベタキヤ / カミタキヤ (古)}	タコメ は最近はやらない。「俺」はワレ / アレ
40	檜立1	ワラ タコメノ サシミヨ カミタキヤ	
40	檜立3	ワレワ タコノ サシミガ {タベタキヤ / カミタキヤ}	
40	檜立4	ワラ タコノ サシミヨ カミタキヤ	
41	共通語	おまえはこの魚の名まえを知っているか。	備考
41	大賀郷1	ナリヤ コノ ヨノ ナメーヨ ショケカ	
41	大賀郷2	オマエワ コノ サカナノ ナマエオ {ショケカ / シッタロカ}	
41	大賀郷3	オマエワ コノ サカナノ ナマエオ ショケカ	オメ (<目下に対して>)おまえ)ウ ンヌ (相手を軽んじたとき)
41	三根1	ウニヤ コノ ヨノ ナメーオ ショケカ	
41	三根3	オメワ コノ ヨノ ナメーオ シッタロカー	オメは今は目上目下どちらにも使う。昔は目上へはオンミー
41	三根4	オメワ コノ ヨノ ナマエオ {ショコーヂャロカー (対目上) / ショケカー (対同等)}	

41	末吉	ウニヤー コノ ヨノ ナメエ ヨ ショケカ。	
41	末吉	オマイワ コノ ヨノ ナメーヨ ショケカ	オメは年輩の人に使う。オミはさらに丁寧。
41	中之郷1	オミヤワ コノヨノ ナミヤーヨ ショケノア	
41	中之郷2	ウナ コノ ヨノ ナミヤ (一)オ ショケカ	
41	中之郷3	オミヤワ コノ ヨノ ナミヤーウオ ショケカ	
41	中之郷4	ウナ コノ ヨノ ナミヤーヨ ショケカ (イ)	「お前が」はウンガ。「お前を」はウヌー。
41	檜立1	オミヤワ コノ ヨノ ナミヤーヨ オビータ (ショケカとは言わない)	
41	檜立4	オミワ コノ サカナノ ナミヤーヨ オビートアカ	
42	共通語	これはかつおだろう。	備考
41	大賀郷4	オマエワ コノ{ヨ / サカナ}ノ {ナマエ / ナメー}オ ショケカ	
42	大賀郷1	コリヤ カツー ダンノージャ	
42	大賀郷2	コヤ {カツオ ダラ (ノー) / カツオデ ネーカ}	
42	大賀郷3	コレワ {カツオ / カツー (古)} ダロー	
42	大賀郷4	コレワ カツオ ダラ ヨー	
42	三根1	コラー カツウ ダロー	
42	三根3	コリヤ カツ ダロー	
42	三根4	コラ カツオ {ドーチャロア ノー (対目上) / ダーノー (対同等)}	
42	末吉	コリヤー カツー {ダン ノーチャ / ダロー}	
42	末吉	コリヤ カツーダロー	
42	中之郷1	コラ カツウ ドア チャ	
42	中之郷2	コラ カツオ ダロー	
42	中之郷3	コラ カツオ ダロ	
42	中之郷4	コラ {カツオ / カツー} {ダンノージャ / ダロウ}	カツーは漁師の言葉。
42	檜立1	コリヤー カ.ツ ダロー	
42	檜立4	コラ カツ {ダロー / ドアチャ (断定的ないい方)}	
43	共通語	酒はどうやってつくるかおまえは知っているだろう？	備考
43	大賀郷1	サケーワ アダンシテ ツクルカ ナレワ ショカンノージャ	
43	大賀郷2	サケワ ドガン{シテ / ヤッテ} ツクルカ オマエワ {シッタロカ / ショケカ}	
43	大賀郷3	サケワ アダンシ.テ ツクルカ オアメワ ショケカ	
43	大賀郷4	コノ サケワ ドゴン ヤッテ ツクツタルカ オマエワ {ショイダロー / ショケカ}	
43	三根1	サケイワ {ドゴン ヤッテ / アダンシテ} ツクルカ オメワ ショケカ	
43	三根3	サケーワ {ドガンヤッテ / ドガンシテ} ツクロカ オメワ シ	

		ツタ「ルー	
43	三根 4	サケワ アダン.ヤッテ ツクルダローノー オメワ {シット チャロカ / ショコーチャロカー}	
43	末吉	サキークワ アダンシ.テ ツクルカ オマイワ シーダロー	イは良く無声化するがウは無声化しにくい。
43	中之郷 1	サキークワ アダン シテ ツクルカ オミヤワ ショケカ	
43	中之郷 3	サケワ アダンシテ ツクルカ オミヤワ {ショケカ / シーダ ロー (誘導)}	シーダローの方が良い。
43	中之郷 4	サキークワ {ドガン / アダン}シ.テ {ツ.クロカ / ツ.クルカ (新?)} ウナ {ショカンノージャ (古) / シーダロー (新)}	
43	檜立 1	サ.ケワ アダンシ.テ ツ.クルカ オビータロー	
43	檜立 3	サケワ ドーヤッテ ツクルカ {オミワ / オミヤワ} オビート ーカ	
43	檜立 4	サ.キークワ アダンシテ ツ.クロカ オミワ オビータロー	
44	共通語	酒は米からつくる。	備考
44	大賀郷 1	サケワ コメカラ ツクロワ	
44	大賀郷 2	{サケワ / サケイワ} コメカラ {ツクル / ツクル ダンノー チャ}	
44	大賀郷 3	サケワ コメカラ {ツクロワ (つくるよ) / ツクロチャ (つくる< 断定>) / ツクロドーチャ (つくるんだよ)}	
44	大賀郷 4	サケワ コメカラ {ツクロ (一)チャ / ツクッタロワ (ツクッタ ロチャ 作っているだろう の意)}	
44	三根 1	サケワ コメカラ ツクローワ	
44	三根 3	サケークワ コメカラ ツクロワ	
44	三根 4	サケワ コメカラ ツ.クロワノー	
44	末吉	サキークワ コメカラ ツ.クル	
44	中之郷 1	サキークワ コメカラ ツクル ドア チャ	
44	中之郷 3	サケワ コメカラ ツクロチャー	
44	中之郷 4	サキークワ コメカラ {ツ.ロジャ / ツ.クロワ}	{ツクッタロジャ / ツクッタロワ} 「作っているよ」。
44	檜立 1	サケワ コメカラ ツ.クル ノー ジャ	
44	檜立 3	サケワ コメ カラ ツクロワ	
44	檜立 4	サキークワ コメカラ ツ.クロチャ	
45	共通語	酒さえあればなにもいらぬ。	備考
45	大賀郷 1	サケセー アレバ アンニモ イリンナツキヤ	
45	大賀郷 2	サケセー アレバ ア (一)ンニモ イリンナカ	
45	大賀郷 3	サケ{ガ / ガセー } アレバ アンニモ { イリンナカ (い らない) / イリンナツキヤ (強い表現)}	
45	大賀郷 4	サケガ アレバ (ノー) アンニモ ナクテ ヨケチャ.	
45	三根 1	サケセー アレバ アンニモ ヨツキヤ	

45	三根3	サケセー アレバ アンニモ イリンナカ (一)	
45	三根4	サケセー アレバ アンニモ イリンナカノー	
45	末吉	サケセー アレバ アンニモ イリンナカ	
45	中之郷1	サケ シャ アレバ アンニモ ヨッキヤ	
45	中之郷3	サケサエ アレバ アンニモ {ヨッキヤ / イリンナカ (誘導)}	イリンナカの方が良い。
45	中之郷4	サケダケ アレバ アンニモ {イリナコジャ / イリンナカ}	セーは使わない。
45	檜立1	サケ.シャー アレバ アンニモ ヨッキヤ	
45	檜立3	サケ サエ アレバ アンニモ イリンナカ	
45	檜立4	サケシャー アリヤー {アンニモ インナカ / ヨッキヤー}	
46	共通語	うちのじいさんは酒もたばこものまない。	備考
46	大賀郷1	ワガインノ デーチャンワ サケーモ タバコモ ノミンナカ	
46	大賀郷2	ワゲーノ デーチャンワ サケモ タバコモ アンニモ ノミンナカ	
46	大賀郷3	ワガ エノ デーサンワ サケモ タバコモ {ノミンナカ (飲まない) / アガリンナカ (召し上がらないー敬語)}	(古)オーサマ (じいさん)
46	大賀郷4	ワガエノ デーチャンワ サケモ タバコモ アンニモ {ノミナカ / ノミンノーヂャ}	
46	三根1	ワガエノ デーサンワ サケイモ タバコウモ ノミンナカー	
46	三根3	ワゲーノ デーサンワ サケーモ タバコモ ノミンナカ	
46	三根4	ワゲーノ デーチャンワ サケーモ タバコモ ノミンナカノー	
46	末吉	ワガインノ デーサンワ サキーモ タバコモ ノミンナカ.	
46	中之郷1	ワガエーノ デーサンワ サキーモ タバコモ ノミンナカ	
46	中之郷3	ワガインノ デーチャンワ サケモ タバコモ ノミンナカ	
46	中之郷4	ワガ イェ デーチャンワ サキーモ タバコウモ {ノミンナカ / ノミナコジャ}	「おじいさん」はトーとも言うか。「飲まない」の丁寧な言い方。ミヤーリンナカ。
46	檜立1	ワギーノ ジーチャンワ サキーモ タバコモ アガリンナカ (敬語)	
46	檜立3	ワガヤノ デーチャンワ サケモ タバコモ ノミナカ	
46	檜立4	ワギーノ オヂチャンワ サキーモ タバコモ ノミンナカ	
47	共通語	その水はこのむな。のむならこの水をのめ。	備考
47	大賀郷1	ソノミズワ ノムナ. ノモダーバ コノ ミズー ノメ	
47	大賀郷2	ソノ ミヅワ {ノメンナカ / ダメダラ} ノモダーバ コノ ミヅオ {ノメ / ノメバ ヨカヂャ}	
47	大賀郷3	ソノ ミズワ ノムナヨ. ノモラーバ コノ ミズオ ノメヨ (一)	
47	大賀郷4	ソノ ミズワ ノムナヨー {ノムトキヤー / ノムンダッタラ} コノ ミズオ ノメヨー	
47	三根1	ソノ ミズーワ ノムナ. ノムダーバ コノ ミズー ノメ	

47	三根 3	ソノ ミズーワ ノムナヨ. {ノモダラ (バ) / ノムンダラ / ノモ ダーバヨ} コッチノ ミズー {ノメ (目下へ) / ノミヤレ (目上 へ)}	
47	三根 4	ソノ ミズワ ノミンナカヨー. ノモダーバ {コノ / コッチノ} ミズー ノミヤレヨー	
47	末吉	ソノ ミズーワ ノムナ. ノモダラバ コノ ミズー ノメ	ダラバは[ダーバ]にも。
47	中之郷 1	ソノ ミズワ ノムナヨー ノモダラバ コッチノ ミズウ ノメ	
47	中之郷 3	ソノ ミヅワ ノムナ. {ノムナラ / ノモダラバ} コノ ミヅオ ノ メ	
47	中之郷 4	ソノ ミズーワ ノミナヨー. ノモダラバ コノ ミズー {ノメ / ノミヤレ / アガリヤレ}	{ノミヤレ / アガリヤレ}は丁寧な 言い方。
47	檜立 1	ソノ ミズーワ ノミナ. ノマバ コッチノ ミズー ノメ	
47	檜立 3	ソノ ミズワ ノムナヨ. ノムナラ コノ ミズオ ノメ	
47	檜立 4	ソノ ミヅワ ノムナ. ノミタカラバ コノ ミヅ ノメ	
48	共通語	なぜおまえはたべないのか。	備考
48	大賀郷 1	アンデ ナレワ {カミンノー / カミンノードー}	
48	大賀郷 2	アンデ オマエワ カミンノー	
48	大賀郷 3	アンデ オマエワ カミンノー	
48	大賀郷 4	アンデ オマエワ {タベンノーカ / カミンノー (カ)}	
48	三根 1	アンデ ウニャ カミンノードー	
48	三根 3	アンデ (×アッデ) オメワ {カミン「ノー / カミンノー「カ}	目上へはアガリンノーカー
48	三根 4	アンデ オメワ {アガリンノー / アガリヤラナイノー (丁 寧)}	
48	末吉	アンデ オマイワ {カミンナーニ / カミンナーダ / (目下に) カミンナー / (目上に) メーリンナーミ}.	
48	中之郷 1	アンデ オミヤワ カミンナコドワ	
48	中之郷 3	アンデ オミヤワ {カミナイ / カミナコカ}	
48	中之郷 4	{アンデ / アッデ (古)} ウナ {タベナコ (一)(イ) / カミナ コ (一)(イ)(古)}	「お前」はウス。「(自分が)食べな い」はカミナカ。
48	檜立 1	アッデ オミヤワ カミンノア	
48	檜立 4	アッデ {オミワ / オミヤワ (目上の人)} {カミンノアカー / アガンノーカー / アガン ノアカー}	
49	共通語	おれはさつまいもなんか食べないぞ。	備考
49	大賀郷 1	ワリヤ カンモンセー カミンナカ	
49	大賀郷 2	ワヤ サツマイモンセー {カミンナイゾォー / カミンナカヨ ー}	
49	大賀郷 3	ワヤ カンモンセーワ カミンナカ	
49	大賀郷 4	ワイワ ノー カンモ ワ(ア) カミンナカヨー	
49	三根 1	ワイワ カンモンセー カミンナカヨー	
49	三根 3	ワラ カンモンセーヨワ {タベンナカー / カミンナカー}	タベンナカー は新しい言い方

49	三根 4	アラ カモーワ {カミンナッカー / カミンナカ}	
49	末吉	アリヤ サツマンチェー (ヨ)ワ カミンネー (ノ)	
49	中之郷 1	ワラ サツマンシャーワ カミンナカヨ	
49	中之郷 3	アラ サツマンシャー カミナカヨ	
49	中之郷 4	{アラ / ワラ} {サツマンシャーヨワ / カンモンシャーヨワ} {タベナキヤ / カミナキヤ}	
49	檜立 1	ワラ サツモアワ {カミンナカ / カミナカ}	
49	檜立 3	ワレワ サツマ ナンカ カミナカ	
49	檜立 4	ワラー {カンモシャーワ / カンモワ} {カミナカ / クイン ナカ (ぞんざいな言い方)}	
50	共通語	もう食べられるものは全部食べた。	備考
50	大賀郷 1	ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラ	
50	大賀郷 2	ハヤ カメル モノワ ミンナ {カモーテ シマッタラー / カ マララ / カンデ シマララ}	
50	大賀郷 3	ハヤ カメロモノワ ゼンブ カマラヨ.	
50	大賀郷 4	モー カモ (一)モノワ ミンナ カンデ {シマッタラ / シマッ タ (ヨ一) / シモウラー}	
50	三根 1	ハー カメロモノウワ ゼンブ カンデ シモウララ	
50	三根 3	ハラ カメロ モノワ ミンナ カマラ	
50	三根 4	モー カメル モノワ ゼンブ カマラー	
50	末吉	ハリヤ {カメロ / カメル (新)} モノワ メンナ {カマラ / カンダ (新)}	
50	中之郷 1	{カメロ / カモ} モノワ ハラ ミンナ カモア チャー	
50	中之郷 3	ハラ カメル モノワ ゼンブ {カンダゾ / カモワーチャ / カマラ}	
50	中之郷 4	ハラ タベラレル モノウワ ミンナ タベタラ	タベラレルをタベラレロに近くも 発音。
50	檜立 1	ハラ カメロ モノワ ゼンブ カマラ	
50	檜立 4	ハラ カメロ モノワ ミンナ カマラ	
51	共通語	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。	備考
51	大賀郷 1	カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメオンナジドー ジャ	
51	大賀郷 2	カンデ ネルダケダーバ イヌネコトオンナジドーチャ	
51	大賀郷 3	カンデ ネロダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメオンナジド ーチャ	
51	大賀郷 4	カンドッテ {ネルダケナラ / ネテシマエバ} イヌメト ネッ コメト {イシ.ショ / オンナジ} ドーチャー	
51	三根 1	カンデ ネロダケダーバ イヌメヤ ネッコメオンナジダラ	
51	三根 3	カンデ (×カッデ)ネロダケ{ダーバ / ダラバ} イヌメヤ ネ ッコメオンナヂ {ダラー / ドーチャー}	

51	三根4	カーンデ ネロダケナラ イヌメヤ {ネッコメ / ネコメ} トオンナヂダラー	
51	末吉	{カンデ / カンドッチ} ネロダケダラバ イヌメヤ ネッコメ ト {オンナジダージャ / オンナジダラ}	カンドッチ「食べてから」。
51	中之郷1	カンデ ネロダケ ダラバ イヌメト ネッコメトオンナ ギドアヂャー	
51	中之郷3	カンデ ネルダケ ダーバ イヌメヤ ネッコメトオンナヂ ダラヨ	
51	中之郷4	タベテ ネロダケダラバ イヌメヤ ネッコメト {オンナジドアヂャ / オンナジダラ}	
51	檜立1	カッデ ネロダケダラバ イヌメヤ ネコメトオンナジダラ	
51	檜立4	カッデ ネロダケダラバ {イヌネコト / イヌメ ヤ ネッコメト} {オンナヂドアヂャー / オンナジドアヂャー}	
52	共通語	さとうはあまい。くすりはあまくない。	備考
52	大賀郷1	サトーフ アマケニ クスリワ アマクナツキヤ	
52	大賀郷2	サトーフ アマケガ クスリワ {アマク ナツキヤノー / ニガキヤノー}	
52	大賀郷3	サトーフ アマケヂャ. コノカシワ アマクナツケヂャ. (この菓子は あまくない。)	
52	大賀郷4	サトーフ {アマケガ ノー / アマケヂャー} クスリワ {アマクナツケヂャ / アマクナツケダラー / アマクナツキヤ}	
52	三根1	サトーフ アマケガ クスリワ アマクナツキヤ	
52	三根3	サトーフ アマキヤ クスリワ アマク ナツキヤノー	
52	三根4	サトーフ アマキヤノー クスリワ アマクナツキヤノー	
52	末吉	サトーフ アマキヤ. {クスリワ / クスリヤ (古)} アマクナツキヤ	ンマキヤ「おいしい」。
52	中之郷1	サトーフ アマケガ クスリワ アマクナツキヤ ノー	
52	中之郷3	サトーフ アマキヤヨ クスリワ アマクナツキヤ	
52	中之郷4	サトーフ アマキヤ クスリワ アマクナツキヤ	◇「薬はいらない。」クスリヨウ イリナカ ◇「ウまくない」ウンマクナツキヤ ◇「ウまいなあ。」ウンマキヤノ ◇「甘い菓子」アマケカシ ◇「この菓は苦い。」コノクスリワ ニガケダラ ◇「この菓子はおいしい。」コノ カシワ ウンマキヤノ ◇「この菓子は甘い。」コノ カシワ {アマキヤノ / アマケヂャ}
52	檜立1	サトーフ アマキヤ. クスリワ アマク ナツキヤ	
52	檜立3	サトーフ アマキヤ. クスリワ アマクワ ナツキヤ	

52	樫立4	サトーワ アマキャ クスリワ アマクナツキャ	
53	共通語	去年いところが中学の先生になった。	備考
53	大賀郷1	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	大賀郷2	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	大賀郷3	キョネン イトコガ チューガッコーノ センセーニ {ナロー ヂャ / ナララヨー}	
53	大賀郷4	キョネン (ノー) イトコガ ツーガッコーノ センセーニ (ノ ー){ナララ / ナララー}	
53	三根1	キョネン イトコガ ツーガッコーノ センセーニ ナラッテイヤ ー	「なった」ナットウジャ
53	三根3	キョネン イトコガ チューガコーノ センセーニ ナララー	
53	三根4	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララー	
53	末吉	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	中之郷1	キョネン イトコガ ツーガ コノ センシーニ ナロワ チャン オア	
53	中之郷3	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ {ナララー / ナ ロワーヂャ}	
53	中之郷4	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ {ナララ / ナロ アヂャ}	
53	樫立1	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナララ	
53	樫立3	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナッタラ	
53	樫立4	キョネン イトコガ ツーガクノ センセーニ ナッタ	
54	共通語	いとは英語の本が読める。	備考
54	大賀郷1	イトコワ エーゴノ {ホンヨ / ホンガ} ヨメロワ	
54	大賀郷2	イトコワ エイゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	大賀郷3	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロワヨー	
54	大賀郷4	イトコワノー エーゴノホンガ ヨメロヂャ	
54	三根1	イトコワ エイゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	三根3	イトコワ エーゴノ ホンニャ ヨメロワ	
54	三根4	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロヂャ (一)	
54	末吉	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	中之郷1	イトコワ イーゴノ ホンガ ヨメルッチイ ヤ	
54	中之郷3	イトコワ エイゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	中之郷4	イトコワ イーゴノ ホンガ {ヨメロワ / ヨメロヂャ}.	
54	樫立1	イトコワ イェーゴノ ホニョ ヨメロワヨ	
54	樫立3	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロワ	
54	樫立4	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメロア (ワ)	
55	共通語	あの人こそほんどうの金持ちだ。	備考
55	大賀郷1	{ウノ ヒトコソ / ウノ ヒト ガー} ホントーノ カネモチダラ	

55	大賀郷2	ウノ ヒトコソ カネモチダラ // ウノ ヒトガカ カネモチ デ カレガ	
55	大賀郷3	ウノ ヒト{ガ / ガカ (係り助詞あり)} ホントーノ カネモチ {ダラ / ダレ (結び)}	
55	大賀郷4	ウノ ヒトガノー ホントーノ カネモチ {ドーチャー / ドーダ ラー}	
55	三根1	ウノ ヒトワ ホントノ カネモチダーノー // ウノ ヒトガカ ホントノ カネモチダレ	
55	三根3	ウノ ヒトガ ヤッパリ カネモチ ダラー // ウノ ヒトガカ ヤ ッパリ カネモチ ダレー (係り結び)	
55	三根4	ウノ ヒトワ ホントーノ カネモチダーノー	
55	末吉	{ウノ / (B) アノ (?)} {ヒトコソ ホントーノ カネモチダラ // ヒトガカ (ヨ) ホントーノ カネモチダレ}	
55	中之郷1	ウヌヒトコソ ホントーノ カネモチ ダンニヤー	
55	中之郷3	ウノ ヒトコソ ホントーノ カネモチ ダンノーチャ	
55	中之郷4	ウノ {ヒトガ ホントーノ {カネモチダラ / カネモチドアヂ ャ} // ウノ ヒトガカ ホントーノ カネモチダレ	
55	檜立1	オノ ヒティワ ホントーノ カネモチダラ // オノヒ トガカ ホントーノ カネモチダレ	
55	檜立3	アノ ヒトコソ ホントーノ カネモチ ダラ	
55	檜立4	オノ ヒトガカ ホントーノ カネモチ ダレ	
56	共通語	その話は妻にだけ聞かせた。	備考
56	大賀郷1	ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ	
56	大賀郷2	ソノ ハナシワ {ワガイノ ヤツ / ワゲーノ / ワガイノ ヨメ (新)}ニダケ キカセタラ	
56	大賀郷3	ソノ ハナシワ ヨメニダケワ キカセテオカラヨ	
56	大賀郷4	コノ ハナシワ ワガエノ ニョーボーニダケ {ユオーチャ / ハナシトーダラー / ハナシタラー}	
56	三根1	ソノ ハナショワ ヨメニダケ キカセタラ	
56	三根3	{ソガンドー / ソノ} ハナシワヨー {①ヨメニダケ / ②ヨメ ニダケカ} {①キカセタラー / ②ハナシタレー (係り結び)}	
56	三根4	ソノ ハナショワ ツマニダケ キカセタラー	
56	末吉	ソノ {ハナショワ / (新)ハナシワ} ヨメニダケ キカセタラ	キカセタラ の イ は無声化せ ず。
56	中之郷1	ソノ ハナシワ (サ) ヨメニ ダケカ キカセ タレガ	
56	中之郷3	ソノ ハナシワヨー ヨメニダケ キカセタラ	
56	中之郷4	ソノ {ハナシワンオア / ハナショワノア} ヨメニダケ キカセ {トアヂャ / タラ}	
56	檜立1	ソノ ハナショワ ヨメダケンカ キカセタレ	
56	檜立4	ソノ ハナシヨ (一)ワ ヨメニダケ キカセトアヂャー	

57	共通語	妻に夕飯を作らせる。	備考
57	大賀郷1	ヨメニ ヨーメシヨ ツクラセタラ	
57	大賀郷2	{ワゲーノ / ワガイノ} ニ ヨーメシオ {コセーサセロワ (古) / ツクラセル (新)}	
57	大賀郷3	ワガエノニ ユーメシオ ツクラセロワ.	
57	大賀郷4	ワガエノ ニョーボニ ヨーメシ ツクラセロダラ.	
57	三根1	ヨメニ ヨウメシヨ ツクラセロワ	
57	三根3	ヨメニ {ヨウメシヨ / ヨウケー (古)} {ツクラセロワ (ノー) (新) / シマツサセロワ (ノー)}	
57	三根4	ヨメニ ヨーメシ.イ (オ) ツクラセロワ	
57	末吉	ヨメニ ヨーメシヨ ツクラセロワ	
57	中之郷1	カーチャンニ ユメシヨワ ツクラセタロ{ チャー / ワー}	
57	中之郷3	ヨメニ ヨーケオ コシャーサセル	
57	中之郷4	ヨメニ ユーメシヨ {ツクラ / シマツサ}セ{ロヂャ / ロワ}	
57	檜立1	(名前)ニ イョーメシヨ ツクラセロジャ	
57	檜立4	ヨメニ ヨーメシヨ トウクラセトアヂャー	
58	共通語	夫は竹でかごをつくった。	備考
58	大賀郷1	ワゲーノ ヒトワ タケデ カゴー ツクララ	
58	大賀郷2	ワゲーノワ タケデ カゴー コセーララ (古)	
58	大賀郷3	ワガエノ ヒトワ タケデ カゴー {ツクララ. / ツクロ (一)ヂャ}	
58	大賀郷4	ワガエノ ダンナワ (ノー) タケデノー カゴ6 {ツクララ / ツクッタロダラ (作っている) / ツクッタラ (作った) / ツクッタロワ (作っている)}	
58	三根1	ダンナワ タケデ コゴウ ツクララ	
58	三根3	ワゲーノ ダンナワ タケデ カゴー {ツクララ / ツクローヂャ}	
58	三根4	{ワゲーノ ヒト / オット}ワ タケデ カゴオ {ツクラー / ツクララ}ヨ	
58	末吉	ワガ (イ)エノ {ヒトワ / ダンナワ} タケデ カゴー ツクララ	
58	中之郷1	ワギーノ ヒトワ タケデ カゴウオ ツクロワ チャ	
58	中之郷3	オトチャン ワ タケデ カゴー {コシャータヨ / コシャータラ}	
58	中之郷4	ワガエノ ヒトワ タケデ カゴウ{ツ.クララ / ツ.クロアヂャ}.	
58	檜立1	ワギーノ シトワ タ.ケデ カゴー ツ.クロジャ	
58	檜立3	ウチノ ヒトワ タケデ カゴー{ ツクララ / ツクッタラ}	
58	檜立4	ワギーノヒトワ タケデ カゴー コシャータ (ラ)	
59	共通語	次郎はおとうとの三郎とけんかした。	備考
59	大賀郷1	ヂョーワ オトノ サボート ケンコシ.タラ	
59	大賀郷2	ヂローワ オトノ サブロー ト ケンカ シタラ	

59	大賀郷3	ヂローワ オトノ サブロート ケンコ (一) {シタラ / シトー ヂャ}	
59	大賀郷4	ヂローワ ノー オトノ サブロート ケンコ {シトーダラー / シトーヂャー / シタッテヂャー}	
59	三根1	ヂロウワ キョーデーノ サブロウト ケンコ シタ	
59	三根3	ヂローワ オトノ サブロート {ケンコ (ケンカを) / ケンカ} シタラー	
59	三根4	ヂローワ オトノ サブロート ケンカシタ	
59	末吉	{ヂローワ / ジョーワ} オトノ {サブロート / サボート} ケンカ シタラ	ジョー「次男」、サボー「三男」。
59	中之郷1	ヂルース オトノ サブロート ケンコア シトア チャ	
59	中之郷3	ヂローワ オトノ サブロート {ケンカシタ / ケンカシタラ ヨー}	
59	中之郷4	ヂロウワ サブロウト ケンコア {シトアヂャ / シタラ / シ. タララ / シタラヨ / シタララヨー}	「弟の」があると不自然とのことで 訳にナシ。
59	檜立1	ジローワ キョージャーノ サブロート ケンコア シタラ	
59	檜立4	ヂローワ キョーヂャーノ サブロート ケンコア シタ (ラ)	
60	共通語	三郎は次郎に棒でなぐられた。	備考
60	大賀郷1	サボーワ ジョーニ ボーデ ブンナグラレタラ	
60	大賀郷2	サブローワ チローニ ボーデ {ブンナグラレタラ / ブン ナグラレララ}	
60	大賀郷3	サブローワ チローニ ボーデ ブンナグラレ {タラ / トー ヂャ}	
60	大賀郷4	サブローワ チローニ ボーデ ブンナグラレタラ	
60	三根1	サブロウワ チロウニ ボウデ ブンナグラレタ	「なぐられた」ブタレタラ
60	三根3	サブローワ チローニ ボーデ ブンナグラレタラー	
60	三根4	サブローワ チローニ ボーデ ブンナグラレター ヨ	
60	末吉	サボーワ ジョーニ ボーデ {ブタレタラ / ブンナグラレタ ラ}	
60	中之郷1	サブロ (狭)ーワヂルウニ ボオーデ ブタレタラ	
60	中之郷3	サブローワ チローニ ボーデ {ブタレタ / ブタレタラ (誘 導)}	
60	中之郷4	サブロウワ チロウニ ボウデ {ブタレタラ (ヨー) / ブタレト アヂャ}	
60	檜立1	サブローワ アンチャンニ ボーデ ブンナグラレタラ.	
60	檜立4	サブローワ チローニ ボーデ {ブンナグラレタラ / ブタレ タラ}	人に話す時はタラを使う
61	共通語	次郎はじいさんにしかられた。	備考
61	大賀郷1	ジョーワ ジーサマニ ソーガレタラ	
61	大賀郷2	ヂローワ デーチャンニ {ソーガレタラ / ソーガレララ}	

61	大賀郷3	ヂローワ デーサンニ {イヂメラレタラ / ソーガレタラ}	
61	大賀郷4	ヂローワ デーチャンニ {オコラレタッテワ / ソーガレタラ}	
61	三根1	ヂロウワ ダイサンニ {ワイキューラレタ / ワイキューレタラ}	
61	三根3	ヂローワ デーチャンニ {シカラレタラー (新しい言い方) / ヨミンナッタ}	
61	三根4	ヂローワ デーチャンニ ワイキューラレターヨ	
61	末吉	ヂョーワ デーサンニ イヂメラレタラ	
61	中之郷1	ヂルローワデーサンニ イヂメラレタラヨ	
61	中之郷3	ヂローワ デーチャンニ {イヂメラレタ / イヂメラレタラ (誘導)}	
61	中之郷4	ヂロウワ {トウニ / オデーサンニ} {イヂメラレタラ (ヨー) / イヂメラレトアヂャ}	
61	檜立1	ジローワ ジーチャンニ イジメラレタラ	
61	檜立4	ヂローワ デーサンニ {ソアガレタ / ソアガレツチャ (伝聞「～ってよ」)}	人に話す時はタラを使う
62	共通語	おれはきのうは新聞をよまなかった。	備考
62	大賀郷1	ワリャ キネーワ シンブンヨ ヨミンジャララ	
62	大賀郷2	ワヤ キノーワ シンブンウォ ヨミンナカラ	
62	大賀郷3	ワヤ キノーワ シンブンノ ヨミン ナカララ	
62	大賀郷4	ワレワ キノー シンブン オ {ヨミンナ(ッ)キャ / ヨミンナケダラ / ヨミンナカララ}	
62	三根1	アラ キネイワ シンブンワ ヨミンナララ	
62	三根3	ワラ キネーワ シンブンヨ {ホミンナララー / ヨミンナッタ}	
62	三根4	アラ キネー (キネイ) ワ シンブン オ ヨミンナラーヨ	
62	末吉	アリャ キニーワ シンブンニョ ヨミンヂャララ	
62	中之郷1	ワラ キニーワ シンブンヨ {ヨミンヂャララ / ヨミンナカララ}	
62	中之郷3	アラ キニーワ シンブンワ ヨミナカララヨ	
62	中之郷4	アラ キニーワ シンブンニョ {ヨミナカララ / ヨミナカロアヂャ}.	
62	檜立1	ワラ キニーワ シンブンニョ {ヨミンナカッタラ / ヨミンジャララ}	
62	檜立3	ワレワ キノー シンブン {ヨミンヂャララ / ヨミンナカララ / ヨマナキャ}	
62	檜立4	ワラー キニーワ シンブンオ {ヨミンナカララ / ヨミナカッタ}	
63	共通語	その新聞はきょうのだ。きのうのはこれだ。	備考
63	大賀郷1	ソノ シンブンワ ケーノダラ. キネーノガワ コレダラ	

63	大賀郷2	ソノ シンブンワ キョーノダラ キノーノワ コレダラ	
63	大賀郷3	ソノ シンブンワ キョーノ ダラヨー. キネーノワ コレダラ	
63	大賀郷4	ソノ シンブンワ キョーノ {ダラ / ダイ} キノー ノワ コレ ダラー	
63	三根 1	ソノ シンブンワ ケイノダラ. キネイノワ コイドーヂャ	
63	三根 3	{ソノ / コノ} シンブンワ ケーノダラ. キネーノワ コイダラ	
63	三根 4	ソノ シンブンワ ケイノガダーヨ. キネイノガワ コレ ダーヨー	
63	末吉	ソノ シンブンワ キーノガダラ. キニーノガワ {コレダラ (ラ) / コレダーヂャ}.	
63	中之郷 1	ソノ シンブンワヨ キーノ デカレ キニイノワ コレデカレ ガヨ	
63	中之郷 3	ソノ シンブンワ キーヌダ キニーノワ コレドアー チャ	
63	中之郷 4	ソノ シンブンワ キーノガダラ. キニーノガワ {コレダララ / コレドアヂャ / コレデカレ}	
63	檜立 1	ソノ シンブンワ キーノダラ. キニーノワ コレダラ	
63	檜立 3	コノ シンブンワ キョーノダラー. キノーノワ コレ ダラ	
63	檜立 4	ソノ シンブンワ キーノダラ キニーノワ コイダラ	
64	共通語	雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり見ている。	備考
64	大賀郷 1	アメノ フ.ロヒニャ バーチャンワ イエデ テレビバツカリ ミタアロワ	
64	大賀郷 2	{アメガ フル トキワ / アメノ ヒニャ} バーサンワ イエデ テレビ バツカリ ミタロワ	
64	大賀郷 3	アメノ フ.ロヒニワ バーサンワ イエデ テレビ バツカリ {ミタロワ / ミテアロワ}	
64	大賀郷 4	アメノ ヒワ バーチャンワ ウチデ テレビバツカリ {ミテアロワ / ミターロワ}	
64	三根 1	アメノ フロヒニャ バンマワ エデ テレビバツカリヨ ミタアロワ	
64	三根 3	アメガ フロ ヒワ バーチャンワ イエデ テレビバツカリ ミターロー	
64	三根 4	アメノ フル ヒニワ バーチャンワ イエデ テレビバツカリ {ミターロワヨ / ミターロー}	
64	末吉	アメガ フロ ヒニャ バーサンワ イエデ {テレビバツカリ / テレビバツカリ (新)} {(A)ミターロワ / (B)ミタロワ}	(A), (B)は個人の差。
64	中之郷 1	アメノ フロヒニャ テレビ バツカシ ミチャロワ	
64	中之郷 3	アメノ フルヒ ワ バーチャンワ エデ テレビバツカリ {ミタロワヨ / ミテアロワ}	
64	中之郷 4	アメガ フロ {ヒニワ / ヒニャ} バーチャンワ イエデ テレビバツカリ {ミタロワ / ミタロヂャ / ミテ オヂャロワ}	

64	檜立1	アメノ フロ ヒニャ バーチャンワ イエデ テレビバツカリ ミ テ オヂャロワ (敬語)	
64	檜立4	アメノ フルヒニャ バーサンワ イエデ テレビバツカリ {ミ タロア / ゴーヂャロワ / ゴーヂャッテ オヂャロワ}	ゴーヂャ〜は目上の人に対する 言葉
65	共通語	お祝いのときにはばあさんまでおどった。	備考
65	大賀郷1	ユウエーノ トキニワ バーチャンマデ オドララ	
65	大賀郷2	イワイニャ バーサンマデ オドララ	
65	大賀郷3	ユウエーノ トキニャ バーサンマデガ {オドララ / オドロ ーヂャ}	
65	大賀郷4	ユワイノ {トキワノ / トキー} バーチャンマデ {オドララ / オドッタ (一)ロワ}	
65	三根1	ユウエーノ トキニャ バシママデ {オドッタラ / オドララ}	
65	三根3	ユウエーノ トキヤ バーチャンマデ (ガ) オドララー	
65	三根4	{イウエー / ユウエー} ノ トキニワ バーチャンマデ {オド ラーヨ / オドララ}	
65	末吉	{イウエー / ユウエー}ノ {トキニワ / トキニャ} バーサン マデ オドララ	
65	中之郷1	ユウイアーノ トキニャ バーチャン マデガ オドラルワ ギ ャ	
65	中之郷3	イワイノ トキワ バーチャンマデ オドララヨ	
65	中之郷4	{イウイアー / ユウイアー}ノ トキニャ (ノア) {オバーチャ ンマデ / オバーチャンモ} {オドララ / オドロアヂャ / オ ドッテ ケタラ // オドッテ {ケタレヨ / タモーララ / タモ ーロアヂャ}}	
65	檜立1	ユヤーノ トキワ バーチャンマデ オドララ.	
65	檜立4	ユヤーノ トキニャー オバーチャンマデ {オドララ / オド ッタ}	
66	共通語	花子はきのうから病気でねている。	備考
66	大賀郷1	ハナコワ キネーカラ ヤンデ ネタアロワ	
66	大賀郷2	ハナコワ キノーカラ ビョーキデ ネタロワ	
66	大賀郷3	ハナコワ キネーカラ {ヤンデ / ビョーキデ} ネタロワ	
66	大賀郷4	ハナコワ キノーカラ (ノー) ビョーキデ ネターロワ.	
66	三根1	ハナコワ キネイカラ ヤンデ ネテアロワ	
66	三根3	ハナコワ キネーカラ ヤンデ (xヤッデ) ネターロワ	
66	三根4	ハナコワ キネイカラ ツラクテ ネターロワヨ	
66	末吉	ハナコワ キネーカラ {ヤンデ / ヤッデ (古)} {(A)ネター ロワ / (B)ネタロワ}	(A), (B) は個人の差。
66	中之郷1	ハナチャンワ キニイカラ {ビョーキデ / ヤンデ} ネテア ロ (ディー) ギャ	
66	中之郷3	ハナコワ キネーカラ ヤンデ{ ネターロワ / ネタロワヨ}	

66	中之郷4	ハナコワ キニーカラ {ヤンデ / ヤッデ (古)} ネタロワ	
66	檜立1	ハナコワ キニーカラ ヤッデ ネテアロワ	
66	檜立4	ハナコワ キニーカラ ヤンデ ネタアロワ	
67	共通語	花子のかあさんにごはんをたべさせてもらった。	備考
67	大賀郷1	ハナコワ ホードノニ メシヨ カマセテ ムローララ	
67	大賀郷2	ハナコワ カーチャンニ メシオ カマセテ {モラーラ / モラッタ}	
67	大賀郷3	ハナコワ カーチャンニ メシヨ カワセテ モラワラ.	
67	大賀郷4	ハナコワ カーチャンニ ゴハン オ {カマセテ / タベサシテ} モラッタロワ	
67	三根1	ハナコワ カーチャンニ メシヨ カマセテ ムローララ	
67	三根3	ハナコワ カーチャンニ メシヨ カマセテ モローララー	
67	三根4	ハナコワ カーチャンニ {メシオ / メシヨ} カマセテ {モラワーヨ / モラワラ}	
67	末吉	ハナコワ {カカーニ / カーチャンニ (新)} メシヨ カマセテ {モラーラ / ムラーラ}	
67	中之郷1	ハナコワ カーチャンニ メシヨ カマセテ {ムラッティアロ (三人称) / ムロワララ / ムロワロワ チャ}	
67	中之郷3	ハナコワ カーチャンニ メシヨ カマセテ モラッタロワ	
67	中之郷4	ハナコワ カーチャンニ メシヨ ホウメテ {モロアラ / モロアチャ / モラッタララ (新?) / モラッタロワ (新?)}	順に, 完成非過去, 継続過去, 継続非過去か。
67	檜立1	ハナコワ カーチャンニ メシヨ カマセテ {ムロアラ / ムロアララ}	
67	檜立4	ハナコワ オカチャンニ メシヨ {カマセテ / ホーメテ} モラッタ	ホーメテ〜は手で食べさせてもらうような感じ
68	共通語	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。	備考
68	大賀郷1	イシャガ ケトー クスリヨ ノメバ ナオルノーワ	
68	大賀郷2	イシャガ ケトー クスリオ ノメバ ナオル ノーワ	
68	大賀郷3	イシャガ ケタ クスリー ノメバ {ナオルダロー / ナオロチャ}	
68	大賀郷4	イシャガ ケトー クスリ オ ノメバ {ナオルドーチャー / ナオルノーワ}	
68	三根1	イシャガ ケトー クスリヨ ノメバ ナオルノーワ	
68	三根3	イシャガ ケトー クスリヨ ノメバ ナオロダラー	
68	三根4	イシャガ ケトー クスリオ ノメバ ナオルダロー	
68	末吉	イシャガ ケター クスリヨ ノメバ ナオルダロー.	
68	中之郷1	ビョーインデ ムロワル クスリヨ ノメバ ナオロダ チャ	
68	中之郷3	イシャガ ケタ クスリオ ノメバ ナオルンノーワ	
68	中之郷4	オイシャサンガ {ケタ / ケトア} クスリヨ ノメバ {ナオルダロー / ナオロアンオア / ナオロダチャ / ナオリータソ}	

		ワ}	
68	檜立1	イシヤカラ ムロア クスリヨ {ノメバ / ノマバ} ナオルヌー ワ	
68	檜立4	イシヤガ {ケタ / ケトア} クスリオ ノメバ ナオルヌーヂャ	
69	共通語	かあさんは市場へ買物に行った。	備考
69	大賀郷1	ホードノワ ミセゲ カイモン イカラ	
69	大賀郷2	カーチャンワ {イチバニ / イチバエ} {カイモノニ / カイ モノゲー} イカララ	
69	大賀郷3	カーチャンワ ミセ{ゲ / エ} カイモンニ {イカラ / イカラ ラ}	
69	大賀郷4	カーチャン ワ ミセゲー カイモノニ {イットヂャー / イッタ ラー / イカラー / イッタヂャー}	
69	三根1	カーチャンワ ミセゲー カイモノニ イカラ	
69	三根3	カーチャンワ {ミセゲー / ミセエ (新しい表現)} カイモ ノニ イカラー	
69	三根4	カーチャンワ イチバゲー {カイモノニ / オツカニ} イカ ラー	
69	末吉	カーチャンワ ミシェー カイモノニ イカラ.	
69	中之郷1	カーチャンワ ミセエ (狭) カイモノニ イカラ	
69	中之郷3	カーチャンワ イチバエ カイモノニ {デタンノーワヨ / デ タラ}	
69	中之郷4	カーチャンワ イチビャー カイモノニ {イコアヂャ / イカラ ラ}	イコドアヂャ「(これから)行くよ」
69	檜立1	カーチャンワ {ミシー / ミセー} カイモノニ イカラ.	
69	檜立3	オッカチャンワ ミセニ カイモノニ {イカラ / イッタラ}	
69	檜立4	オカチャンワ イチビャ (一) カイモノニ イカラー	
70	共通語	道で学校の先生に会った。	備考
70	大賀郷1	ミチデ ガッコノ センセーニ アワラ	
70	大賀郷2	ミチデ ガッコノ センセーニ アワララ	
70	大賀郷3	ミッチデ ガッコノ センセーニ アワラヨ	
70	大賀郷4	ミチデ (ノ一) ガッコノ センセーニ {アッタラー / アワ ラー / アオーヂャ}	
70	三根1	ミチデ ガッコノ センセーニ イキオーララ	
70	三根3	トーリデ ガッコノ センセーニ {アワララ (何日か前に) / アワラ (ついさっき)}	
70	三根4	ミチデ ガッコノ センセーニ アワラー	
70	末吉	ミチデ ガッコノ センセーニ アワラ.	
70	中之郷1	ミチデ ガッコノ センシイニ アオワ デャ	
70	中之郷3	ミチデ ガッコノ センセーニ {イキアラ / イキアララ / イキ	

		ヤーララ}	
70	中之郷4	ミチデ ガッコウノ {センセーニ / センシーニ (古)} {アウ ォアヂャ / アワラ / アワララ / アイータシ.タラ}	(古)センシーを[センシー]とも。 アワララの方がアワラより前を指 す？
70	檜立1	ミチデ ガッコノ {センセー / センシー} ニ アワラ	
70	檜立3	ミチデ ガッコノ センセーニ {アワラ / アッタラ}	
70	檜立4	ミチデ ガッコノ センセーニ {ブツクワッテ / ブツクワッタ ラ}	
71	共通語	なにを買おうか。	備考
71	大賀郷1	アニョ カウダローカ	
71	大賀郷2	アニ カウダロー	
71	大賀郷3	アニョ カオーカノー./ アニョカ カオーカ (ノー)	
71	大賀郷4	アニョ カオーカノー // アニ カオーカノー	
71	三根1	アニョ カオウカノー	
71	三根3	アニョ カオーカノー	
71	三根4	アニョ カオーカノー / アニョ カオー	
71	末吉	アニョ カオーカナ	
71	中之郷1	キーワ アニョ カウオッカ ノアア	
71	中之郷3	アニョー カオーカノー	
71	中之郷4	アニョ カオーカンオア	
71	檜立1	アニョ カオーカ	
71	檜立3	アニョー カオ (一)カ	
71	檜立4	アニョ カオーカノー	
72	共通語	和子のとおなじげたを花子にもかってやろう。	備考
72	大賀郷1	カズコノオンナジ ゲトー ハナコニモ カッテケロゴン	
72	大賀郷2	カヅコノオンナヂ ゲター ハナコニモ カッテケルカノー	
72	大賀郷3	カズコ{ガ / ノ}トオンナジ ゲトー ハナコニモ {カッテヤ ロー / カッテケローカノー / カッテヤロドーヂャ}	備考ーカズコガトとカズコノでニ ュアンスに差があるようである。ガ を用いると「差をつけていない」と いうことが強調されるようである。
72	大賀郷4	カズコノオンナヂ ゲタオ ハナコニモ カッテヤロゴン.	
72	三根1	カズコノガトオンナジ ゲトー ハナコンモ カッテケロー	
72	三根3	カズコガトオンナヂ ゲトー ハナコンモ カッテ ケロヂャー	
72	三根4	カズコノオンナヂ{ゲタオ / ゲター}ハナコニモ カオゴン ノー	ゲター は末吉的な感じ
72	末吉	カズコガトオンナジ ゲター ハナコニモ カッテケロー	
72	中之郷1	カヅコトオンナヂ ゲトア ハナコニモ カッテヤロダラ	
72	中之郷3	カヅコトオンナヂ ゲタオ ハナコニモ カッテ ケロガン	
72	中之郷4	カズコガトオンナジ ゲトア ハナコニモ カッテケロガン	

72	檜立1	カズコガトオンナジ ゲトア ハナコニモ カッテ ヤロワ	
72	檜立4	カズコトオンナヂ ゲトア ハナコンモ カッテ ケロヂャ	
73	共通語	和子と花子は友だちだ。	備考
73	大賀郷1	カズコト ハナコワ ホーベータラ	
73	大賀郷2	カヅコト ハナコワ トモダチ ダーノ	
73	大賀郷3	カズコト ハナコワ トモダチ ダラ	
73	大賀郷4	カズコト ハナコワ {トモダチダラー / トモダチダッテワ}	
73	三根1	カズコト ハナコワ ホウベータラ	
73	三根3	カズコト ハナコワ ホーベアー {ダラ (ヨー) / ドーチャアー}	
73	三根4	カズコト ハナコワ ホーベータラー	
73	末吉	カズコト ハナコワ ホーベータラ	
73	中之郷1	カズコト ハナコワ ホービヤアー {ドア チャ / ダッティアー ヂャ}	
73	中之郷3	カヅコト ハナコワ ホービヤアー {ドアヂャ / ドーヂャ}	
73	中之郷4	カズコト ハナコワ ホービヤータラ	ホービヤアーを数回[ホービョア]とも も言っているが言い間違いと判 断。あるいは[アー]が[オア]となる ことの類推か。
73	檜立1	カズコト ハナコワ ホーベィア ダラヨ	
73	檜立3	カズコト ハナコワ ホーバイ ダラ	
73	檜立4	カヅコト ハナコワ ホービヤードアヂャ	
74	共通語	花子は顔がかあさんによく似ている。	備考
74	大賀郷1	ハナコワ カオガ ホードノニ ヨク ニタアロワ	
74	大賀郷2	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニタロワノー (似て いるね) / ニタロワ}	
74	大賀郷3	ハナコワ カオダチガ カーサンニ ヨク {ニトーチャ / ニ テイロヂャ / ニテアロワ}	
74	大賀郷4	ハナコワ (ノー) カオガ カーチャンニ ソックリダラー	
74	三根1	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニタアロワ	
74	三根3	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー	
74	三根4	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニターロワノー	
74	末吉	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニターロワ(A) / / ニタロワ (B)}. ソックリダラ	(A), (B) は個人の差。
74	中之郷1	ハナチャン オミヤアワ カオーガ カーチャンニ {ニタ.ア ロ チャ / ソックリドア チャ}	
74	中之郷3	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク {ニタロアノー / ニタ ーロヂャ}	
74	中之郷4	ハナコワ {ツラガ / カオガ} カーチャンニ ヨク {ニタロヂ ャ / ニタロワ / ソックリドアヂャ}	
74	檜立1	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨク ニテアロワノ	

74	檜立4	ハナコワ カオガ カーチャンニ {ヨクニタラー / ニタロア ヂャ (意外性や驚きが強い) / ニタロアノ}	
75	共通語	◆たぶんあの人は「飲まないだろうな～飲まないと思う よ。」といった意味で、「ノミンジャンノウワ (中之郷ーノミン ジャンノーワ)」といますか。	備考
75	大賀郷1	いまでも使う。	「来ないだろう」キンジャンノウワ
75	大賀郷2	今でも使う。ノミンナカンノーワを使う。	
75	大賀郷3	いまでも使う？ ノミンナカンノーワ	
75	大賀郷4	今でも使う。ノミンナカー / イキンジャンノーワ / イキンナ ンノーワ	
75	三根1	いまでも使う。	
75	三根3	いまでも使う。	ノミンナン ノーワ
75	三根4	知らない。	
75	末吉1	知らない。	
75	末吉2	いまでも使う。	ノミンナンノーワとも言う。
75	中之郷1	知らない。	
75	中之郷2	聞いたことはある。	
75	中之郷3	知らない。(※これは大賀郷の言葉)	
75	中之郷4	聞いたことはある。	
75	檜立1	今でも使う。	
75	檜立3	いまでも使う。	
75	檜立4	知らない。檜立では ノミンナカヌーワ / ノミンヂャララ	
76	共通語	◆きのウはだれも「飲まなかったよ。」といった意味で、「ノミ ンジャララ」といますか。	備考
76	大賀郷1	いまでも使う。	「しないだろう」シンナカンノウワ
76	大賀郷2	今でも使う。 / 聞いたことはある。(人によっては使う) ノミ ンナカララ	
76	大賀郷3	いまでも使う。ノミンナララ。	
76	大賀郷4	今でも使う。ノミンヂャララ / ノミンナツキャ	
76	三根1	いまでも使う。	
76	三根3	いまでも使う。	ノミンナララ
76	三根4	聞いたことはある。(上の世代が使用)	
76	末吉1	知らない。	
76	末吉2	いまでも使う。	ノミンナララとも言う。
76	中之郷1	知らない。	
76	中之郷2	聞いたことはある。	
76	中之郷3	知らない (※これは大賀郷の言葉)	中之郷では ノミンナカララ
76	中之郷4	聞いたことはある。	ノミンナカララ。
76	檜立1	今でも使う。	

76	樫立3	いまでも使う。	
76	樫立4	今でも使う。ノミンヂャララも	
77	共通語	◆(上記76の質問で「知らない」と答えた人以外に対する質問。) 「来なかった、見なかった」は、キンジャララ、ミンジャララですか。	備考
77	大賀郷1	キンジャララ、ミンジャララ	「見ないだろう」ミンナカンノウワ / ミンジャンノーワ (言うかもしれないが使わない)
77	大賀郷2	キンナカララ	
77	大賀郷4	キンジャララ、ミンジャララ	
77	三根1	キンジャララ、ミンジャララですか。Yes (キンナカララも)	
77	三根3	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	三根4	キンジャララ・ミンジャララ。上の世代(祖母一当時100才、現在なら130才)が使用。	
77	末吉1	キンジャララ、ミンジャララですか。	
77	中之郷2	キンジャララ、ミンジャララですか。OK, OK	
77	中之郷3	キンナカッタ / キンナカラレ / ミンナカララ	
77	樫立1	キンジャララ、ミンジャララ	
77	樫立3	キンジャララ、ミンジャララ	
78	共通語	◆むかしよくあの人と「飲んだっけなあ。」といった意味で、 「ノンジガー (あるいはノマツチガー、ノマラツチガー)」とい いますか。	備考
78	大賀郷1	知らない。	
78	大賀郷2	知らない。ノマローガノー	
78	大賀郷3	知らない。ノマララヨーを使う。	
78	大賀郷4	知らない。ノマローガノー	
78	三根1	知らない。	
78	三根3	いまでも使う。	(ノンデローガノー) ノマラツテガー
78	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
78	末吉1	知らない。	
78	末吉2	(A)いまでも使う。 / (B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
78	中之郷1	知らない。	
78	中之郷2	聞いたことはある。	
78	中之郷3	ノマツチガー:聞いた事はある。以前使っていた。	
78	中之郷4	知らない。	ノマカラツケガー。
78	樫立1	以前は使っていた。	
78	樫立3	いまでも使う。	
78	樫立4	知らない。	

79	共通語	◆むかしあの人と「飲んだとき」といった意味で、「ノンジ トキ（あるいは、ノマツチ トキ、ノマラツチ トキ）」といひますか。	備考
79	大賀郷1	知らない。	
79	大賀郷2	知らない。ノモートキ	
79	大賀郷3	知らない。ノモートキを使う。	
79	大賀郷4	知らない。ノモートキ	
79	三根1	知らない。	
79	三根3	知らない	(ノモートキ)
79	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
79	末吉1	知らない。	
79	末吉2	知らない。	ノマラ トキ と言う。(ノマロ または ノモー が予測されるが、終止形の連体用法？)
79	中之郷1	知らない。	
79	中之郷2	NR	
79	中之郷3	知らない。	
79	中之郷4	知らない。	
79	檜立1	知らない。	
79	檜立3	？	
79	檜立4	知らない。	
80	共通語	◆あの人にはむかし足が「はやかったなあ。」といった意味で、「ハヤカッチガー（あるいは、ハヤカラッチガー）」といひますか。	備考
80	大賀郷1	知らない。	
80	大賀郷2	知らない。ハヤカラーノ / ハヤカローヂャノー	
80	大賀郷3	知らない。ハヤカララを使う。	
80	大賀郷4	知らない。ハヤカッガ / ハヤカローガノー	
80	三根1	知らない。	
80	三根3	知らない。	(ナヤカラーノー)
80	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
80	末吉1	知らない。	
80	末吉2	(A)いまでも使う。/(B)以前は使っていた。	(A), (B) は個人の差。
80	中之郷1	知らない。	
80	中之郷2	聞いたことはある。	
80	中之郷3	聞いた事はある (※昔のことば)	
80	中之郷4	聞いたことはある。	
80	檜立1	聞いたことはある。	
80	檜立3	いまでも使う。	

80	檜立4	知らない。檜立ではハヤカローガ / ハヤカララ (早かった)	
81	共通語	◆「あっちとき」というのはどんな意味ですか。	備考
81	大賀郷1	知らない。	
81	大賀郷2	知らない。ウノコロワ / ウノキ	
81	大賀郷3	知らない。	
81	大賀郷4	知らない。ウントキ (あの時の意味)	
81	三根1	知らない。	
81	三根3	知らない。	
81	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
81	末吉1	知らない。	
81	末吉2	(A)知らない。 / (B)昔, 以前	
81	中之郷1	聞いたことはあるがわからない。	
81	中之郷2	知っている。「あの時」	
81	中之郷3	昔, 以前のこと。	意味は分かるが, 90代とかでない と使わない
81	中之郷4	過ぎた時, 昔。	
81	檜立1	以前。	
81	檜立3	あの時	
81	檜立4	知らない。	
82	共通語	◆あの人, さっきまでここで「飲んでいたけど」どこに行った かな, といった意味で, 「ノンドログ (あるいは, ノマツログ, ノマラットログ)」といいますか。	備考
82	大賀郷1	知らない。	
82	大賀郷2	知らない。サッキマデ ノンデ アログ ドコゲー イツテシマ ット	
82	大賀郷3	知らない。ノンデアログを使う。	
82	大賀郷4	知らない。ノマローガノー / ノンダローガノー	
82	三根1	以前は使っていた。	母の時代
82	三根3	知らない。	cf. ノンダーローガ マチケターノ ー どっか行っちゃった
82	三根4	知らない。三根以外の地域ではないか。	
82	末吉1	知らない。	
82	末吉2	知らない。	ノンダラーガ と言う。
82	中之郷1	知らない。	
82	中之郷2	知らない。	
82	中之郷3	ノマツロー今でも使う。ノマツログ ドキ イコアー (飲ん でたけどどこに行ったのか)	
82	中之郷4	知らない。	

82	檜立 1	知らない。	
82	檜立 3	いまでも使う。	
82	檜立 4	知らない。檜立ではノンダ アロワガ	

八丈方言基礎語彙 共通語索引

あ					
あおさ	植物	123	石 (いし)	天地	227
垢 (あか)	人体	66	板 (いた)	住	348
明かり	天地	211	莓 (いちご)	植物	110
あくび	人体	58	いつ	不定詞	513
顎 (あご)	人体	17	五つ	数詞	496
朝 (あさ)	時間	271	一昨日 (いっさくじつ)	時間	258
浅瀬 (あさせ)	天地	215	一昨年 (いっさくねん)	時間	264
朝食 (あさめし)	食	333	糸 (いと)	道具	407
足 (あし)	人体	40	井戸 (いど)	住	357
味 (あじ)	食	329	従兄弟 (いとこ)	人間	466
汗 (あせ)	人体	65	稲光 (いなびかり)	天地	208
畦道 (あぜ)	天地	230	犬 (いぬ)	動物	151
あそこ	指示	525	稲 (いね)	植物	84
暖かい	形容詞	548	命 (いのち)	人体	73
頭 (あたま)	人体	1	今 (いま)	時間	267
跡 (あと)	空間	245	芋 (いも)	植物	94
穴 (あな)	住	350	妹 (いもうと)	人間	455
あなた	人間	480	イルカ	動物	141
あなたたち	人間	481	刺青 (いれずみ)	もの	539
兄, おにいさん	人間	452	色 (いろ)	もの	281
姉, おねえさん	人間	453	いろり	住	346
油 (あぶら)	食	325			
甘い	食	312	う		
網 (あみ) (魚を獲るあみ)	道具	414	上 (うえ)	空間	247
雨 (あめ)	天地	205	魚 (さかな)	動物	135
綾, 模様 (あや)	衣	298	ウサギ	動物	153
アリ	虫	156	牛 (うし)	動物	145
あれ	指示	522	蛆 (うじ)	虫	165
栗 (あわ)	植物	92	後ろ (うしろ)	空間	244
泡 (あわ)	天地	222	臼 (うす)	道具	386
			ウズラ	鳥	180
い			嘘 (うそ)	もの	541
家 (いえ)	食	339	歌 (うた)	もの	531
イカ	動物	126	内 (うち)	空間	251
息 (いき)	人体	55	腕 (うで)	人体	33
いくつ	不定詞	519	ウナギ	動物	137
いくら	数詞	512	ウニ	動物	129
			ウニの身	動物	130
			馬 (うま)	動物	146
			海 (うみ)	天地	218
			梅 (うめ)	植物	115

裏 (うら)	衣	297	櫂 (舟のカイ)	道具	413
瓜 (うり)	植物	103	蚕 (かいこ)	虫	170
漆 (うるし)	道具	397	カエル	虫	162
うろこ	動物	136	顔 (かお)	人体	20
<hr/>					
え					
<hr/>					
柄 (え)	道具	377	踵 (かかと)	人体	47
枝 (えだ)	植物	76	鏡 (かがみ)	道具	398
エビ	動物	128	垣 (かき)	住	355
襟 (えり)	衣	285	蔭 (かげ)	天地	190
<hr/>					
お					
<hr/>					
緒 (お)	衣	294	崖 (がけ)	天地	234
甥 (おい)	人間	464	籠 (かご)	道具	423
お祝い	人間	486	笠・傘 (かさ)	道具	405
大きい	形容詞	543	粕 (かす)	食	314
丘 (おか)	天地	197	風 (かぜ)	天地	206
奥 (おく)	空間	253	家族 (かぞく)	人間	468
桶 (おけ)	道具	373	肩 (かた)	人体	22
水桶 (みずおけ)	道具	374	型 (かた)	もの	535
叔父 (おじ)	人間	462	形 (かたち)	もの	536
夫 (おっと)	人間	459	カタツムリ	虫	161
おでき	人体	63	刀 (かたな)	道具	383
音 (おと)	もの	282	カツオ	動物	139
弟 (おとうと)	人間	454	角 (かど)	空間	254
男 (おとこ)	人間	470	カニ	動物	133
踊り (おどり)	もの	532	金 (かね) (金属・お金)	道具	409
同じ	形容詞	545	黴 (かび)	植物	111
鬼 (おに)	もの	527	かぼちゃ	植物	102
斧 (おの)	道具	388	釜 (かま)	道具	378
叔母 (おば)	人間	463	鎌 (かま)	道具	419
帯 (おび)	衣	288	カマキリ	虫	171
お前	人間	482	竈 (かまど)	住	345
お前たち	人間	483	紙 (かみ)	道具	394
表 (おもて)	衣	296	雷 (かみなり)	天地	212
母屋 (おもや)	住	340	髪の毛	人体	2
親 (おや)	人間	429	カメ	動物	132
親子 (おやこ)	人間	448	瓶 (かめ)	道具	371
女 (おんな)	人間	471	水瓶 (みずがめ)	道具	372
<hr/>					
か					
<hr/>					
蚊 (か)	虫	157	茅 (かや)	植物	91
貝 (かい)	動物	131	粥 (かゆ)	食	304
			カラス	鳥	179
			体 (からだ)	人体	48
			皮 (かわ)	人体	51
			川 (かわ)	天地	195
			瓦 (かわら)	住	353

き			
木 (き)	植物	74	
きくらげ	植物	106	
傷 (きず)	人体	70	
煙管 (きせる)	道具	408	
北 (きた)	天地	238	
杵 (きね)	道具	387	
茸 (きのこ)	植物	105	
肝 (きも)	人体	27	
着物 (きもの)	もの	284	
灸 (きゅう)	人体	72	
急須・鉄瓶 (きゅうず)	道具	380	
休息	もの	537	
九男	人間	439	
きゅうり	植物	97	
今日 (きょう)	空間	256	
兄弟 (きょうだい, しまい)	人間	456	
霧 (きり)	天地	203	
錐 (きり)	道具	391	
く			
茎 (くき)	植物	122	
釘 (くぎ)	住	352	
草 (くさ)	植物	80	
鎖 (くさり)	道具	362	
櫛 (くし)	道具	399	
クジラ	動物	138	
薬 (くすり)	人体	71	
糞 (くそ)	人体	61	
果物 (くだもの)	食	324	
口 (くち)	人体	12	
唇 (くちびる)	人体	13	
九人	数詞	510	
首 (くび)	人体	21	
蜘蛛 (くも)	虫	158	
雲 (くも)	天地	202	
クモの巣	虫	159	
くるぶし	人体	44	
桑 (くわ)	植物	117	
鍬 (くわ)	道具	416	
クワズイモ	食	322	
け			

毛 (け)	人体	19
怪我 (けが)	人体	67
結婚 (けっこん)	行事	487
煙 (けむり)	天地	214
喧嘩 (けんか)	行事	489
げ		
下駄 (げた)	衣	292
こ		
粉 (こ・こな)	食	319
子 (こ)	人間	430
麴 (こうじ)	植物	111
麴 (こうじ)	食	316
肛門 (こうもん)	人体	31
声 (こえ)	人体	54
小刀 (こがたな)	道具	384
ここ	指示	523
九つ	数詞	500
心 (こころ)	もの	528
腰 (こし)	人体	29
梢 (こずえ)	植物	77
今年 (ことし)	時間	262
言葉 (ことば)	もの	530
ご飯	食	331
拳 (こぶし)	人体	36
米 (こめ)	植物	86
暦 (こよみ)	時間	279
これ	不定詞	520
ご		
脱穀用ゴザ	道具	418
五女	人間	445
五男	人間	435
五人	数詞	506
胡麻 (ごま)	植物	109
さ		
竿 (さお)	道具	403
坂 (さか)	天地	235
昨日 (さくじつ)	時間	257
昨年 (さくねん)	時間	263

酒 (さけ)	食	315
甘藷 (さつまいも)	植物	95
砂糖 (さとう)	食	311
砂糖黍 (さとうきび)	食	313
寒い	形容詞	549
皿 (さら)	道具	366
再来年 (さらいねん)	時間	266
珊瑚礁	天地	225
三女	人間	443
三男	人間	433
三人	数詞	504

ざ

笹 (ざる)	道具	422
--------	----	-----

し

潮 (しお)	天地	213
塩 (しお)	食	309
塩辛い	食	310
舌 (した)	人体	14
下 (した)	空間	248
七男	人間	437
七人	数詞	508
二男	人間	432
島 (しま)	天地	223
三味線 (しゃみせん)	道具	410
しゃもじ	道具	379
食事 (しょくじ)	食	332
白髪 (しらが)	人体	5
シラミ	虫	168
尻 (しり)	人体	30
汁 (しる)	食	308
印 (しるし)	道具	396
親戚 (しんせき)	人間	469

じ

地震 (じしん)	天地	209
二女	人間	442
十男	人間	440
十人	数詞	511

す

巣 (す)	鳥	183
末っ子	人間	447
鋤 (牛にひかすすき)	道具	417
鋤 (すき)	道具	420
筋 (すじ)	人体	37
煤 (すす)	住	359
すすき	植物	119
雀 (すずめ)	鳥	177
裾 (すそ)	衣	287
砂 (すな)	天地	226
脛 (すね)	人体	45
相撲 (すもう)	行事	491

せ

青年 (せいねん)	人間	474
咳 (せき)	人体	56
背丈 (せたけ)	人体	49
背中 (せなか)	人体	26

ぜ

膳 (ぜん)	食	336
--------	---	-----

そ

相互扶助 (農作業など)	行事	490
底 (そこ)	空間	250
そこ	指示	524
袖 (そで)	衣	286
ソテツ	植物	112
外 (そと)	空間	252
傍 (そば)	空間	255
祖父 (そふ)	人間	457
祖母 (そぼ)	人間	458
空 (そら)	天地	186
それ	指示	521

ぞ

雑炊 (ぞうすい)	食	306
草履 (ぞうり)	衣	293

た

田 (た)	天地	229
-------	----	-----

太陽(たいよう)	天地	188	綱(つな)	道具	363
鷹(たか)	鳥	181	角(つの)	動物	149
宝(たから)	もの	534	唾(つば)	人体	57
薪(たきぎ)	道具	427	粒(つぶ)	食	317
竹(たけ)	植物	114	壺(つぼ)	道具	369
タコ	動物	127	妻(つま)	人間	460
竜巻(たつまき)	天地	207	つむじ	人体	3
棚(たな)	住	344	爪(つめ)	人体	39
種(たね)	植物	82	冷たい	形容詞	550
足袋(たび)	衣	290	露(つゆ)	天地	204
食べ物	食	338			
食べる	食	337			
卵(たまご)	鳥	182			
魂(たましい)	もの	538			
盥(たらい)	道具	375			
俵(たわら)	道具	425			
たんこぶ	人体	64			
だ			て		
大工(だいく)	人間	475	手(て)	人体	32
大根(だいこん)	植物	100	手ぬぐい、タオル	衣	299
台所(だいどころ)	住	341	天井(てんじょう)	住	342
だれ	不定詞	514	天ぷら	食	326
ち			と		
血(ち)	人体	69	戸(と)	住	347
小さい	もの	542	とうがらし	植物	107
力(ちから)	人体	35	冬瓜(とうがん)	植物	101
乳(ちち)	人体	24	動物	動物	185
父(ちち), おとうさん	人間	450	十(とお)	数詞	501
茶(ちゃ)	食	302	遠浅(とおあさ)	天地	216
茶碗(ちやわん)	道具	368	時(とき)	時間	277
頂上(ちようじょう)	天地	236	とさか	動物	150
長女	人間	441	とさか	鳥	176
蝶々(ちようちょ)	虫	160	年(とし)	時間	278
長男	人間	431	トビウオ	動物	140
			友だち	人間	476
			鳥(とり)	鳥	174
			トンボ	虫	172
つ			ど		
杖(つえ)	道具	404	洞窟(どうくつ)	天地	217
月(つき)	天地	201	どこ	不定詞	515
土・地面	天地	199	どれ	不定詞	516
鼓(つづみ)	もの	533			
			な		
			菜(な)	植物	99
			名(な)	人間	485

苗 (なえ)	植物	83	歯 (は)	人体	15
中 (なか)	空間	249	葉 (は)	植物	75
情け (なさけ)	もの	529	灰 (はい)	食	327
なぜ	不定詞	517	蠅 (はえ)	虫	164
夏 (なつ)	時間	269	墓 (はか)	住	358
七つ	数詞	498	袴 (はかま)	衣	291
なに	不定詞	518	歯茎 (はぐき)	人体	16
ナマコ	動物	142	箱 (はこ)	道具	392
波 (なみ)	天地	221	鋏 (はさみ)	道具	395
涙 (なみだ)	人体	53	橋 (はし)	天地	196
縄 (なわ)	住	361	箸 (はし)	道具	381
<hr/> に <hr/>			柱 (はしら)	住	351
荷 (に)	道具	365	畑 (はたけ)	天地	231
匂い (におい)	食	328	蜂 (はち)	虫	163
にがうり	植物	108	鉢 (はち)	道具	370
肉 (にく)	食	323	八男	人間	438
西 (にし)	天地	239	八人	数詞	509
虹 (にじ)	天地	210	鳩 (はと)	鳥	178
尿 (にょう)	人体	62	鼻 (はな)	人体	9
萰 (にら)	植物	104	花 (はな)	植物	81
庭 (にわ)	住	356	鼻血 (はなぢ)	人体	10
ニワトリ	鳥	175	羽 (はね)	鳥	184
にんにく	食	320	母, おかあさん	人間	451
<hr/> ぬ <hr/>			浜 (はま)	天地	224
糠 (ぬか)	食	318	腹 (はら)	人体	25
布 (ぬの)	衣	295	針 (はり)	道具	406
<hr/> ね <hr/>			<hr/> ば <hr/>		
根 (ね)	植物	79	バッタ	虫	173
猫 (ねこ)	動物	152	<hr/> ひ <hr/>		
ネズミ	動物	154	日 (ひ)	天地	187
<hr/> の <hr/>			火 (ひ)	天地	192
野 (の)	天地	232	稗 (ひえ)	植物	93
鋸 (のこ)	道具	389	東 (ひがし)	天地	237
蚤 (のみ)	虫	166	光 (ひかり)	天地	189
鑿 (のみ)	道具	390	低い	形容詞	544
<hr/> は <hr/>			髭 (ひげ)	人体	18
			膝 (ひざ)	人体	43
			肘 (ひじ)	人体	34
			ひしゃく	道具	376
			額 (ひたい)	人体	8
			左 (ひだり)	空間	242

人（ひと）	道具	428	簪（ほうき）	道具	402
一つ	行事	492	包丁（ほうちょう）	道具	382
ヒトデ	動物	143	ほくろ	人体	52
一人	数詞	502	埃（ほこり）	住	360
暇（ひま）	時間	276	星（ほし）	天地	200
紐（ひも）	衣	289	骨（ほね）	人体	50
病気	人体	68			
昼（ひる）	時間	272			
昼食（ひるめし）	食	334			
び			ま		
びろう樹	植物	120	前（まえ）	空間	243
			巻き貝（まきがいの）	動物	134
			枕（まくら）	道具	401
			孫（まご）	人間	449
			股（また）	人体	42
			松（まつ）	植物	113
			まな板	道具	385
			真似（まね）	もの	540
			まぶしい	天地	191
			豆（まめ）	植物	96
			眉（まゆ）	人体	7
			丸い	形容詞	547
ふ			み		
夫婦（ふうふ）	人間	461	実（み）	植物	78
ふくら脛	人体	46	ミカン	植物	121
袋（ふくろ）	道具	364	右（みぎ）	分類	241
ふけ	人体	4	短い	形容詞	546
節（ふし）	住	349	水（みず）	天地	193
二つ	数詞	493	水溜り、池	天地	219
二人	数詞	503	味噌（みそ）	食	307
筆（ふで）	道具	393	溝（みぞ）	天地	228
布団（ふとん）	道具	400	道（みち）	天地	233
船（ふね）	道具	411	三つ	数詞	494
冬（ふゆ）	時間	270	皆（みな）	人間	484
篩（ふるい）	道具	424	港（みなと）	天地	220
			南（みなみ）	天地	240
			蓑（みの）	衣	300
			耳（みみ）	人体	11
			ミミズ	虫	167
			明後日（みょうごにち）	時間	260
			明日（みょうにち）	時間	259
			明明後日（みょうみょうごにち）	時間	261
ぶ					
豚（ぶた）	動物	148			
へ					
屁（へ）	人体	60			
臍（へそ）	人体	28			
篋（へら）	道具	421			
べ					
便所（べんじょ）	住	354			
ほ					
穂（ほ）	植物	85			
帆（ほ）	道具	412			

む			指 (ゆび)	人体	38
昔 (むかし)	時間	268	夢 (ゆめ)	もの	283
ムカデ	虫	169			
麦 (むぎ)	植物	88	よ		
麦わら	道具	90	横 (よこ)	空間	246
婿 (むこ)	人間	467	涎 (よだれ)	人体	59
虫 (むし)	虫	155	四つ	数詞	495
筵 (むしろ)	道具	426	夜中	時間	275
若い娘	人間	477	四人	数詞	505
六つ	数詞	497	蓬 (よもぎ)	植物	98
胸 (むね)	人体	23	夜 (よる)	時間	274
			四女	人間	444
			四男	人間	434
め					
目 (め)	人体	6	ら		
芽 (め)	食	321			
姪 (めい)	人間	465	来年(らいねん)	時間	265
目上 (の男)	人間	472			
飯 (めし)	食	303	り		
目下 (弟、妹)	人間	473	陸地 (りくち)	天地	198
			料理 (りょうり)	食	330
も					
藻 (も)	植物	125	ろ		
モズク	植物	124			
餅 (もち)	食	305	六女	人間	446
物 (もの)	時間	280	六男	人間	436
粬 (もみ)	植物	87	六人	数詞	507
腿 (もも)	人体	41			
桃 (もも)	植物	116	わ		
			技・仕事	指示	526
			私 (わたし)	人間	478
			私たち	人間	479
			藁 (わら)	植物	89
			椀 (わん)	道具	367
や					
ヤギ	動物	147			
八つ	数詞	499			
ヤドカリ	動物	144			
山 (やま)	天地	194			
槍 (やり)	道具	415			
ゆ					
湯 (ゆ)	衣	301			
結納 (ゆいのう)	行事	488			
夕方 (ゆうがた)	時間	273			
夕食 (ゆうめし)	食	335			
床 (ゆか)	住	343			

八丈方言文法項目 一覧

1	おれはきょうはいそがしい	27	大阪から東京までの汽車賃はいくらだろう
2	おまえが畑へ行け。		か。
3	うん、畑へはおれがいく。	28	四時まで駅でまっておれ。
4	おれの鍬はどこにある。	29	五時までに帰らなくてはならない。
5	この鎌は太郎のか。	30	次郎、この荷物を家までかついで行ってく
6	どれがおまえの笠だ		れ。
7	その笠がおれのだ。	31	荷物が重かったので、二人でもった。
8	このふろしきはおまえのか。	32	この上着はこのまえ沖縄で二千元で買った。
9	それはおとうのかかもしれない。	33	沖縄にはめずらしい菓子がある。
10	沖縄には船で行くより飛行機で行ったほうが	34	孫はお菓子が好きだ。
	いい。	35	箱の中にまんじゅうがいくつあるとおもうか。
11	飛行機は一日に一回しかない。	36	孫はまんじゅうを皮だけ食べる。
12	空港ならこっちの道を行きなさい。	37	じいさんは朝から海へ魚をとりにいった。
13	道のまんなかをあるいてはいけない。	38	ここは海にちかいので魚がうまい。
14	道が広いなあ。	39	魚より肉のほうが高い。
15	あ、雨がふってきた。	40	おれは蛸のさしみが食べたい。
16	いとこの布団がやねの上にほしてある。	41	おまえはこの魚の名まえを知っているか。
17	きのうは今日より風が強かった。	42	これはかつおだろう。
18	真っ白な鳥が空を飛んでいる。	43	酒はどうやってつくるかおまえは知っている
19	あの山にはいのししがいるそうだ。		だろう？
20	あれは学校だ。役場ではない。	44	酒は米からつくる。
21	あれが役場だ。	45	酒さえあればなにもいらぬ。
22	あの目のおおきい、色の白い男はだれだろ	46	うちのじいさんは酒もたばこものまない。
	う。	47	その水はのむな。のむならこの水をのめ。
23	孫が去年から東京にいる。	48	なぜおまえはたべないのか。
24	孫はいつ東京から帰るか。	49	おれはさつまいもなんか食べないぞ。
25	八月には帰ってくるようだ。	50	もう食べられるものは全部食べた。
26	かあさんはあした東京へむすこに会いにい	51	食べてねるだけならいぬやねことおなじだ。
	く。	52	さとうはあまい。くすりはあまくない。

53	去年いとこが中学の先生になった。		外に対する質問。)「来なかった, 見なかった」
54	いとは英語の本が読める。		は, キンジャララ, ミンジャララですか。
55	あの人こそほんとうの金持ちだ。	78	◆むかしよくあの人と「飲んだっけなあ。」とい
56	その話は妻にだけ聞かせた。		った意味で, 「ノンジガー(あるいはノマッチガ
57	妻に夕飯を作らせる。		ー, ノマラッチガー)」といえますか。
58	夫は竹でかごをつくった。	79	◆むかしあの人と「飲んだとき」といった意味
59	次郎はおとうとの三郎とけんかした。		で, 「ノンジ トキ(あるいは, ノマッチ トキ, ノ
60	三郎は次郎に棒でなぐられた。		マラッチ トキ)」といえますか。
61	次郎はじいさんにしかられた。	80	◆あの人はむかし足が「はやかったなあ。」と
62	おれはきのうは新聞をよまなかった。		いった意味で, 「ハヤカッチガー(あるいは,
63	その新聞はきょうのだ。きのうのはこれだ。		ハヤカラッチガー)」といえますか。
64	雨のふる日にはばあさんは家でテレビばかり	81	◆「あっちとき」というのはどんな意味ですか。
	見ている。	82	◆あの人, さっきまでここで「飲んでいたけど」
65	お祝いのときにはばあさんまでおどった。		どこに行ったかな, といった意味で, 「ノンドロ
66	花子はきのうから病気でねている。		ガ(あるいは, ノマットログ, ノマラットログ)」と
67	花子はかあさんにごはんをたべさせてもらっ		いいますか。
	た。		
68	医者がくれたくすりをのめばなおるだろう。		
69	かあさんは市場へ買物に行った。		
70	道で学校の先生に会った。		
71	なにを買おうか。		
72	和子のとおなじげたを花子にもかってやろ		
	う。		
73	和子と花子は友だちだ。		
74	花子は顔がかあさんによく似ている。		
75	◆たぶんあの人は「飲まないだろうな～飲ま		
	ないと思うよ。」といった意味で, 「ノミンジャン		
	ノウワ(中之郷: ノミンジャンノーワ)」といいま		
	すか。		
76	◆きのうはだれも「飲まなかったよ。」といった		
	意味で, 「ノミンジャララ」といいますか。		
77	◆(上記76の質問で「知らない」と答えた人以		

「八丈・島ことば調査のつどい」講演記録

調査の最終日に島の方々へ向けて「八丈・島ことば調査のつどい」を開催した。そのときのポスターを次にあげる。



国立国語研究所セミナー(第6回八丈方言講座)

八丈・島ことば調査のつどい

<プログラム>

1. 開会のことば
2. 教育長あいさつ
3. 国語研究所あいさつ
4. 八丈語の紹介(島ことばカルタ)
-休憩.....
5. 八丈方言調査の報告「八丈のことば」

講演「八丈方言の文法」

金田章宏(千葉大学教授)

「八丈方言の発音」

トマ・ペラール(フランス国立科学研究所常勤研究員)

「八丈方言と古代日本語」

平子達也(京都大学大学院博士後期課程/学振研究員)

パネルディスカッション

司会 木部暢子(国立国語研究所)

6. 閉会のことば

日時:平成24年9月9日(日)

13:30~16:00

場所:八丈町保健福祉センター



主催:国立国語研究所・八丈町教育委員会

プログラムの前半は「島ことばかるた」を使った5集落のことばの紹介、後半は八丈語に関する講演とパネルディスカッションである。後半の講演とディスカッションの記録を以下にあげておく。

~~~~~

(木部) それでは、第2部を始めたいと思います。第2部では、私たちが勉強したことを、ここで発表したいと思います。最初に千葉大学の金田先生、よろしくお願いします。(拍手)

(金田) 千葉大学の金田です。よろしくお願いします。私の方でご用意したのは、ホチキスで留めてある両面2枚のものです。私は以前から南海タイムスに書かせていただいたり、こちらに来ていろいろ話をさせていただいたりする中で、この八丈の方言というのは非常に古いんだと。あ、今日はですね、八丈方言ではなくて八丈語というのを使わせていただきます。今、危機「言語」の調査ということでやっていますので、八丈の言葉も八丈語というふうに呼びたいと思います。今までいろいろ、古いんだ、古いんだということを申し上げてきましたが、万葉集との関係でどういうところが八丈の言葉と共通しているかというのを、覚えていらっしゃる人はいますか。今日また新鮮な気持ちで聞いていただけますか。ということで、最初に少しおさらいをしたいと思います。

万葉集には奈良時代に詠まれた歌が4,500ぐらい入っていて、全部で20巻ありますけれども、14巻目と20巻目に、当時の関東周辺に住んでいた人たちが詠んだ歌がたくさん集められていて、第14巻が東歌、第20巻が防人歌という名前と呼ばれています。その東歌、防人歌と八丈語とで共通するところが、主につぎの4点です。

まず、動詞の「～する～」というときの形を連体形と言いますが、八丈だったら、「降る雨」と言わずに、「フロ雨」、あるいは「行くとき」と言わずに「イコとき」、あるいは「飲む酒」と言わずに「ノモ酒」、これは旧5カ村共通ですよ。その言い方は、この万葉集の14巻と20巻の中にそのままたくさん出てきます。2つだけ例を挙げておきました。

原文はもちろん、万葉集ですから漢字でぜんぶ書かれています。ふつうは意味が分かりやすいように、漢字と仮名を混ぜて書いて読んでいますけれども、今日は文庫本になっている万葉集の原文、これを白文といいますけれども、漢字だけのものを持ってきましたので、もしご覧になりたいかたがいらっしゃいましたら、あとでご覧になってください。

それを見ると、最初の歌ですけれども、「降ろ(布路)雪」というふうにあります。布と道路の路を書いて、フロというふうに読ませています。ふろ雪(よき)。この「雪(よき)」というのも、この当時の関東周辺の人たちの方言的な、簡単に言うとなまりですね。方言的な音の違いです。

かみつけの

上野伊香保の嶺ろに降ろ(布路)雪の 行き過ぎかてぬ妹が家のあたり(14:3423)

次の「行く先」というのも、「行こ(由古)先」というふうには、ちゃんと音が分かるように漢字で書かれています。万葉集の場合は、こういうふうには1音1文字で書かれている歌がたくさん



んありますが、そうではない、漢字の意味を使って短く書いた歌というのたくさんあります。ですけれども、とくに東歌、防人歌というのは、中央の発音と違うものですから、1文字1音という、元の音が分かりやすい書き方で書かれています。

行こ（由古）先に波なとゑらひ<sup>しるへ</sup> 後方には子をと妻をと置きてとも来ぬ（20：4385）

1つ目がこの動詞の連体形ですね。「フロ雨」，「イコ時」，「ノモ酒」。もう1つが形容詞の連体形です。八丈語だったら「アカケ花」，「タカケ山」。これが万葉集だと，「悩ましけ人妻」，これは浮気の歌らしいんですけどね。あるいは2つ目の歌，「かなしけ（可奈師家）児ら」。島で今でも，「カナシイ」というのを「かわいい」という意味で使いますね。「カナシゴ」というので「かわいい子ども」というのをむかしは使っていたようなんですね。今の標準語の「悲しい」と違うんですね。で，万葉の時代の「かなしけ」というのも，もちろんその古い意味で使われているわけです。形も中央だったら「かなしき」になるところが，「かなしけ」というふうに八丈と同じ形で出てきます。

悩ましけ（奈夜麻思家）人妻かもよ 漕ぐ舟の忘れはせなな いや思ひ増すに（14：3557）

かみつけのくろほ<sup>ざか</sup>  
上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた かなしけ（可奈師家）児らにいや離り来も（14：3412）

もう1つ，八丈語だと「飲んだ」というときに「ノマラ」，「行った」というときに「イカラ」，字を「書いた」というのは「カカラ」という言い方がありますがけれども，これが非常に古い形でして，中学とか高校で，「つ・ぬ・たり・り」なんていうのをやったのを覚えていらっしゃる？ 「つ・ぬ・たり・り」，意味は忘れていても，その音の連続だけは覚えていらっしゃるかもしれません。問題は「たり・り」の「り」の形です。その「たり・り」の「たり」の形の「飲みたり」というのが現代語の「飲んだ」に変わるんですが，この「たり・り」の「り」のほう，「飲む」だと「飲めり」というのが奈良時代まではあったんですが，平安時代以降になるとなくなるんです。それが，八丈ではいまでもそのまま使われています。

で，万葉集の例だと，「夕占にも今夜と告らろ（乃良路）」，この「のる」は占いをするという意味で，占いの結果が出るんですね。思っている人が今夜来ると占いに出了のに，なぜか来ないのかという，この「告らろ」というところがその形です。この「告らろ」のうしろに「ノモワ」の「ワ」をくっつけると，「飲む」だと「ノマロ」に「ワ」をくっつけると融合して「飲んだ」の意味の「ノマラ」になる，これと同じ形ですね。これがそのまま残っています。

ゆふけ<sup>こよひ</sup>の<sup>せ</sup>  
夕占にも今夜と告らろ（乃良路） 我が背なは あぜそも今夜よろ来まさぬ（14：3469）

次のが「青柳のはらろ（波良路）川門」。これは柳の芽が膨らんでいるという「張る」，「膨らむ」。これも「膨らんでいる」という意味で，この「はらろ」という形が出てきています。こういう，「つ・ぬ・たり・り」の「り」の系列が残っているというのは，本当に非常に古い文法現

象なんですね。

青柳のはらろ（波良路）川門に汝を待つと 清水は汲まず 立ち処平すも（14： 3546）  
せみど どなら

最後が、「何々だろう」に当たる推量の言い方で、これは三根の発音だと「飲むノウワ」。さつき、音を伸ばすとか伸ばさないとか、ありましたけれども、これが大賀郷だと「飲むノーフ」になります。樫立、中之郷だと「飲むヌーフ」になりますかね、「ヌ」に近いような。新しい発音だと「飲むノーフ」になるんですけれども、かなり古い発音だと「飲むヌーフ」のような発音がありました。

この「ノウ」のところ、「ノウ」だけ見るとよく分からないんですが、これをさかのぼっていくと、万葉集の最初の例だと「我をか待つなも」、「私を持っているんだろうか」という、この「なも」のところなんですね。この「だろう」に当たる「なも」の音が変化して、八丈語では「ノウワ」とか「ノウジャ」とかいう形で出てきているということです。最後の例もおなじように、「児らは逢はなも」が「逢うだろう」。

比多潟の磯のわかめの立ち乱え 我をか待つなも（麻都那毛） 昨夜も今夜も（14： 3563）  
きそ

上毛野乎度の多杼里が川路にも 児らは逢はなも（安波奈毛）ひとりのみして（14： 3405）  
かみつけのおど たどり

奈良時代の奈良というのは当時の中央なわけですが、当時の関東周辺というのは、いわゆる田舎。今でもそうですけれども、中央よりは周辺のほうに古い言葉が残っています。当時もやはり奈良中央よりも周辺のほうに古い言葉が残っている。奈良時代の言葉の使い方がちゃんと分かっているのは、中央以外では関東周辺の言葉だけなんですね。つまり万葉集の東歌とか防人歌というふうな形で残されていたから、それがわかるわけです。まさに今、八丈語を使える皆さんというのは、その奈良時代の関東周辺の人たちの言葉をかなりの程度に受け継いでいる、非常に文化財的な方がたなわけですね。

以上が八丈語の非常に重要な文法的な特徴なんですけど、こういうことというのは、別に私が1人で勝手に言っているわけではなくて、かなり以前から、八丈語の特徴というのは非常に注目されてきています。今日は、これまでどういうふうに注目されてきたか、いつごろから注目されてきたかというのを、簡単に見ていただきたいと思います。

最初にご紹介するのが、120 年以上前の外国人なんですね。アーネスト・サトウ、この人は非常に有名な人ですが、この人とディケンズという人が八丈に来ました。言葉についても記録していますが、植物とか自然関係のものについても英語で論文を書いています。（1878：Dikins and Satow：“NOTES OF A VISIT TO HACHIJO IN 1878.”）

で、言葉のところの、とくにその形容詞の「～け」という、その部分だけ原文を用意しました（省略）。このころから、八丈語と万葉集との関係というのがいろいろ指摘をされてきた。面白いのが、近藤富蔵の『八丈実記』なんなんですけれども、2 ページ目の上のところですね。『やた



けの寝覚め草』の中に「ういでいわい」というのがあったんですね。ですが、今出版されている、簡単に見られる形になっている『やたけの寝覚め草』には「ういでいわい」はありません。近藤富蔵の『八丈実記』の中に載っているんですけども、このあたり、どういうことなのかというのはちょっと分からないんですが。

近藤富蔵とアーネスト・サトウたちというのは、一度島で会っています。おそらくそのときに、この「ういでいわい」というのを近藤富蔵が自分でどうも、読んできかせたか、話してきかせたかしているんじゃないかと思うんですね。それは、近藤富蔵の実記に入っている仮名漢字で書かれた「ういでいわい」の話よりも、アーネスト・サトウたちが書いたものの方が、発音が自然なんです。耳で聞いたものをたぶん書いたんじゃないかなと。それで、より方言的な表記で残されているんじゃないかと思います。

下の補足（省略）のところは、誤訳のせいで、サトウと富蔵が会ったのが1年ずれているというのをちょっと書いておきました。1977年ではなくて1978年に2人は会っています。

この時代、120年以上前ですけども、明治の初めのころというのは、ヨーロッパのほうからたくさん外国人の方が来まして、沖縄の方言を記録したチェンバレンはあれ何年ぐらいですか。チェンバレンという方も、琉球の方言を記録しているんですね。本格的な記録というのはその人が最初。で、私、高校が米沢なんですけれども、米沢にも外国人教師のダラスという人が行ってまして、米沢の方言を記録しています。このころは日本の各地で、そういう形で外国人が日本のいろいろな方言に注目していた、そういう時代だったと思います。

次にあらわれる重要な論文（「八丈島方言」『言語学雑誌』）というのが1900年ちょうど、保科孝一という人ですが、実際に八丈に来まして、2〜3週間ぐらいですかね、八丈に来て論文を書いています。実はこの保科孝一という人は米沢の私の高校の大先輩だった、というのを後で知りました。

で、いろいろ細かいことを書いているんですけども、非常に大事なのが、当時の大衆小説、クニの方で出た本だと思うんですけども、それを八丈語に訳しているんです。小説ですから当然会話もたくさん出てきます。非常に面白いです。明治のころの、当時の八丈の言葉使いというのがよく分かります。非常に興味深いです。

このあと論文が何件かありまして、そのあと非常に大事なのが1948年の北条忠雄さんという方の論文（「八丈島方言の研究―特に上代性の遺存について―」『日本の言葉』、ほか）。この方は八丈には来ていないんですけども、いろいろな文献を調べて、万葉集との関係とか、今言われている八丈語の特徴というものをだいたい指摘しています。このころにはだいたい様子が見えてきたかなという感じです。

で、次が1950年の国語研究所の、先ほど紹介のありました、『八丈島の言語調査』ですね。ただこれは、単語とか音声、音韻というのが中心ですので、文法については、なくはないんですけども、ほとんどありません。ただデータの量は非常に豊富ですので、そういう点では参考になると思います。

次の2つ、星印を付けてありますけれども、これは八丈語の評価という点で非常に大事な論文ですので、後でコメントします。次の1959年の飯豊毅一さんの「八丈島方言の語法」（『国立国語研究所論集 1 ことばの研究』）、これは1950年に出版された国語研究所の報告書が、主に音声、音韻中心だとすると、こちらは、その調査をしたときの同じデータをもとにした、文法、語法についての論文なんです。これは八丈語の基本的な語形とか、その意味とかを非常にた

くさん載せています。もうこの段階で八丈語の文法に関する限り、基本的なところはかなり分かっている、そういう段階です。ですから、1949年の国語研究所の調査というのは、そういう点でも非常に大事だったということが言えると思います。

次にまた星印2つありますけれども、これも非常に大事な論文でして、前の2つと一緒に後でお話します。

最後のページ、このあたりになってやっと私が八丈に来始めて、1990年のこれは一番最初に雑誌に載せた論文（「八丈島三根方言 動詞の形態論 アспектをめぐって」『国文学解釈と鑑賞』）です。このあといろいろあるんですけれども、これはいちばん最初なので、これだけ挙げておきました。奥山熊雄さん、昨日ホームに行ってお会いしてきましたけれども、お元気でした。ちょうど夕飯の直前で食堂にいらっしゃって、前よりも何だかお元気そうで安心しました。

これのあとは2000年の工藤真由美先生の論文（「八丈方言のアспект・テンス・ムード」『阪大日本語研究』12）とかですね。

で、熊雄さんから聞いた話をいろいろと整理して出したのが2001年の私の本（『八丈方言動詞の基礎研究』）で、この本は自力で立てるぐらいの厚さにやっとなりました。値段が高いので、お買いになる必要はまったくありません。

最後に、八丈語の評価ということですが、非常に大事だということが、今までどんな形で言われてきたか。まず1955年の金田一春彦さん（『日本語』『世界言語概説』下巻）、もう亡くなられたかたですが、八丈島の方言は、語法に著しい特色を有し、特色の幾つかは、全国の他のすべての方言に対して対立する、ということをおっしゃっています。

その3年後の平山輝男さん（『青ヶ島方言の所属』『国学院雑誌』）。この方は音のほうがかたですが、八丈語を、東部、西部、九州とならぶ、4本柱の1区画として位置付けた。現地調査を行った研究者による区画であることに大きな意味があります。

で、この10年後ですね、服部四郎さん（『八丈島方言について』『ことばの宇宙』11）。このかたが非常に興味深いことを言っているらしいです。東歌とか防人歌のことをさす東国方言、万葉集に出てくるものですね。東国方言が非日本祖語的な特徴を保存しているという可能性です。非日本祖語的な特徴ということは、日本語の古いものと別の系統です。このあたりを私は、もしかしたら縄文系では、というふうに言っているんですが、まあ、それはちょっと言い過ぎかもしれませんけれども。そういう可能性に以前から注目していて、「残存的特徴を含む非日本祖語的特徴を、少なくとも現代の東日本の諸方言に見出すことが、長い間私の関心事の1つであった」といいます。その土台にあるのは、「東歌・防人歌の東国方言と日本祖語との分岐の年代は、現在の近畿方言と琉球方言の分岐年代よりも古い、という仮説」です。まあ、一般に琉球方言が一番古いといわれているんですけれども、それよりも前に分かれたんじゃないか、という仮説なんですね。

服部さんはこの年に八丈島にいらっしゃって、「予想通り八丈島方言は東歌東国方言の系統をひく非日本祖語的方言が現在の（日本祖語系の）本州東部方言の同化的影響を著しく受けつつ成立したもので、まだいくたの非日本語的特徴を保存している」という仮説を支持すると見做し得る資料が得られた」と書いています。形容詞の「け」とか、動詞の「お」とかですね、これは非常に古いんだということを言っているわけです。この「非日本祖語的特徴」、非常に興味深い表現だと思います。

その後1971年になって、上村幸雄先生（「なぜ方言を研究するか」『教育国語』26）、私もお世話になっている先生なのですが、八丈語の重要性を強調しています。「八丈島の方言は、奈良時代の奈良の日本語よりもさらにふるいかもしれない要素をもちつづけてきた可能性があって、方言学的にみてたいへんに貴重な方言だといえるのである」と。この上村先生は、この時期にも国語研究所の調査があったんですね、前のよりは規模が小さいんですが。で、この調査を元にして、会話を文字にしたものを論文に発表していらっしゃいます。このときの国語研究所の調査に刺激されて、のちに方言集を出された大賀郷の浅沼良次先生が、あちこちの人の録音をたくさん取りました。それを私が全部いただいているんですけれども、非常に貴重な記録になっています。そういうものの分析が進めば、今の皆さん方の八丈語と、何十年か前のとの比較ができるわけですね。ですから、これからどんどんいろいろなことがもっと分かってくると思います。

ということで、八丈語というのが、中の人から見るとなかなか、何がそんなに大事なんだみたいな、あまりにも普通すぎて、見えてないというのがあるのかもしれないんですけれども、我々のようなよそから来たものにとっては、たいへん魅力的で興味深い、で、重要なものである、それが八丈語であるということが言えます。これからも、私なんかにはできることというのは大してないんですけれども、できる限り、精いっぱい、あんまり言っちゃうとだめなんですけど、頑張りたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。（拍手）

（木部） どうもありがとうございました。では、2番目のお話。今回一番遠くから参加しています、フランス国立科学研究所のトマ・ペラル先生です。よろしくお願いします。（拍手）

（ペラル） はい、皆さんこんにちは。今回の調査に協力していただいて、また、今日はお忙しい中、ここに来てくださって本当にありがとうございます。僕は、金田先生から先ほど話がいったように、八丈島だけではなく、いろいろな方言、日本語の古い特徴、八丈島の言葉がどれくらい古いのかとか、そういう問題に興味があって、言葉の歴史を専門として研究しています。日本語がいつごろ日本列島に入ってきて、どういうふうに列島全体、本土、八丈、あと琉球列島に広まっていったかが僕の関心の、興味のあるところです。

今までは主に、琉球列島の言葉の研究をやってきました。なぜかという、先ほど金田先生がおっしゃったように、琉球の言葉には大変古い特徴が残されているからです。八丈島の言葉にもそういう古い特徴があるというのが以前から知られていて、それで、八丈島の方言にも大変興味があって、今回まいりました。

僕は、先生の資料にあったような万葉集の東歌とか防人歌の研究も少しやっています。そのときに八丈島の言葉にも同じようなものが残っていることを知りました。調査をしていてよく聞かれることは、——琉球でも、また今回八丈島でも、時々聞かれたんですけれども——何でこの言葉はこんなに違うのか。明らかに共通語と違いますよね。単語の面でも発音の面でも文法の面でも、いろいろ違うんですけれども、なぜ、そんなに違うのかという問題があって。で、まあ、やっぱり島というのが大きいですね。昔は飛行機もなかったし、船も遅くて頻繁に人が来ることもなかったの、島で、何か言葉が新しい言葉がはやると、それが島の外に広がることはありません。あとは人口も少ないので、だいたいみんな身内で、知り合いなので、新しい言葉が使われ始めると、それが全員に広がっていくんです。

逆に本土で起こった変化は、島にはなかなか届かないですね。あまり交流がないので。本土の人との交流も少なく、そういう新しいものがなかなか入ってこない時代がずっと、まあ、現代今まで続いてきたと思います。

島の言葉もちろん、昔から少しずつ変わってきています。それと同時に本土でもいろいろ変化が起こっていますが、交流がないので、それぞれ別の変化が起こったりして、だんだん分岐して姿が変わってきます。そういうことがあって、八丈島、琉球もそうですが、非常に本土の言葉とは異なる状態になってきたかと思います。

今回の調査で、いくつか面白いことに気が付きました。先ほど言ったように、ぼくはずっと琉球の言葉の研究をやってきましたが、八丈のことばには琉球の言葉と似ているところがたくさんあります。まずは、やはり島という環境が、同じ「黒潮文化圏」といわれて、環境が非常に似ているんですけれども、言葉も共通点がいくつかあって、それが非常に面白かったんです。

じゃあ、なぜ八丈島の言葉と琉球の言葉に共通点があるのか、何で似ているのかというのを考えると、理由は場合によって、3つの説明が考えられると思います。

まず、1つ目は、後で実際の例をいくつか見ていきますが、偶然、ただの偶然、たまたま似ているだけ、そういう例も、少しはあります。2番目は、借用。どっちかがもう片方の言葉を借りたというような場合。それはしかし、八丈島と琉球の島の間には交流があんまりなかったんじゃないかなと思いますので、その可能性は低いかなと思います。3つ目は、それが古い形だという説明です。本土ではなくなったが、八丈と琉球には残っているということです。

まず、ただの偶然の類似を紹介していきます。今回の調査では「庭」のことを八丈島のことばで「にゃー」と言うことがわかりました。この「にゃー」という語形は、琉球でもあちこちの島に見られます。でもよく考えてみたら、「にわ」から「にゃー」に変わるのとはそんなに難しいことじゃなくて、わりと自然な変化だと思います。言語の変化には、変わりやすいもの、自然な変化というものがあって、あちこちで同じ変化が起こったりします。この場合も「にわ」が「にゃー」になるのは、非常に自然な変化ですから、ただの偶然だと思います。

同じように、「皮」のことを「縄」のことを「かわ」とか「なわ」じゃなくて「こう」とか「のう」とか言います。母音[a]のところ[o]になっている単語がいくつかあったんですけれども、例えば、奄美の言葉にも同じような語形があります。「皮」を「こう」とか、「縄」を「のう」とかいうのが。[awa]という連続が[oo]になることはごく自然な変化で、たまたま、奄美でも八丈でも同じ変化が起こっただけだと考えています。

次は、「きょう（今日）」のことを、集落によって違うそうですが、「きい」というところもあるそうです。僕が長い間、研究してきた宮古の大神島（おおがみじま）という方言でも、まったく同じく、「今日」のことを「きい」と言います。発音がまったく同じなんですけれども、両方ともやはり「きょう」という発音が元で、たまたま同じ発音に変わっただけかだと思います。

偶然の例の最後に、「涙」のことをこちらでは「めなだ」と言うそうですが、沖縄、奄美でも「涙」のことを「なだ」、または「みいなだ」といいます。「めのなみだ（目の涙）」というのが語源だと思うんですけれども、「なみだ」から「なだ」になるのは母音が落ちて、涙が「なんだ」になって、それが「なだ」に短くなっただけかだと思います。これもそんなに起こりにくい変化ではないので、たまたま2つの遠く離れている地域で変化が起こっただけだと思います。

次に、本土ではなくなったが、八丈と琉球には残っている例、現代の共通語などにはないが、非常に古い文献、さっきの話の万葉集とか古事記とか、そういう古い文献には出ているものの



例をいくつか紹介していきます。

まずは、「地面」のことをこちらでは「みじゃ」と言います。琉球でも似たような言葉があつて、「にちゃ」とか「んちゃ」とか「んた」とか言います。島によって発音が異なるんですけども、もともと同じ言葉だと思います。これはおそらく、文献にもたぶん出ていません。奈良時代の文献にも出ていないし、現代の本土のどの方言にも、どうもなさそうです。じゃあ、なぜ八丈島と琉球にあるのか、考えてみましょう。

この場合、たまたま「にちゃ」という言葉が生まれて、たまたまそれが土を指す言葉になったというのは、なかなか考えにくいですね。やっぱり、もともと非常に古い言葉だったのです。が、本土からなくなり、八丈と琉球には残ったというふうに考えられるかと思います。

それから、本土の言葉で「この・その・あの」というのがありますが、こちらでは、「この・その・うぬ」ですよ。え。「う」で始まる単語が出てきて、彼のことも「うれ」と言ったりしますよね。これはもちろん、本土にはないんですけども、琉球にはあります。意味が若干ずれていて、遠くにあるものを指すんじゃなくて、だいたい、相手の方を指すんですけども、「うり」とか「うぬ」とかと言います。古代語にも現代語にもないですが、非常に古いと思います。

それから、「頭」のことを八丈島では「つぶり」と言いますが、琉球でもあちこちで、「つぶり」といいます。現代語の「あたま」というのは、実は新しい言葉で、もっと古い平安時代の文献には、頭のことを「つむり」という人がいるというふうに書いてあります。共通語でも、普段は「あたま」と言うんですけども、例えば「おつむ」と言ったりして、それは同じ言葉で、やっぱり頭を指す非常に古い言葉でしょう。

さらに、自分のことを「あれ」とか「あい」、「あが」と言いますよね、八丈島では。琉球でも自分のことを「ああ」、「あぬ」とか「あが」と言います。これは現代語では使いませんけれども、古代語では自分のことを「あれ」とか「あ」と言っていました。やはりこれも、現代語、本土の方言ではなくなった言い方ですが、八丈と琉球には残っています。

さらにいくつか例を取り上げてみますと、そうですね、物を数えるときは、現代語では、例えば「ひとつ」で、人を数えるときは「ひとり」、どちらの場合でも、「ひとつ」、「ひとり」で、最初のところが同じ「ひと」ですが、八丈島では、1人は「とり」、なのに1つの場合は「とつ」じゃなくて、「てつ」ですよ。母音が違っているのが非常に興味深いです。琉球でも、いろいろ変化しているんですけども、もともとは、なぜか「つ」の前だけ「ひと」じゃなくて「ひて」に当たる発音だったというふうに考えられています。実は、平安時代の文献にも、そうですね、地方だったかな、俗に「ひとつ」じゃなくて「ひてつ」という人もいたというふうに書いてあります。これもやはり、もともとそういう、ちょっと変わった言い方、なぜか「つ」の前だけでは「ひと」じゃなくて「ひて」だった、というのが非常に古い特徴だというふうに考えています。

そのほかに、「ミミズ」のことを「メメズ」または「メメズメ」と言いますが、琉球でも「メメズ」。「ミミ」じゃなくて。母音が[e]になっています。これは、八丈島や琉球で「ミミズ」が「メメズ」に変わったのではなくて、もともと「メメズ」だったのが、本土で「ミミズ」になったというのが適切かと思います。要するに、八丈島の言葉がなまったのではなくて、共通語の方がなまっています。

同じく、「魚」のことを「よ」と言いますが、琉球でもだいたい「ゆー」とか「いゆ」とか、そういう発音です。これも、日本語の「うお」、「飛び魚」「太刀魚」の「うお」に対応する言葉

ですが、現代では「うお」ですが、もともとは「いよ」、古代語では「いを」という発音です。それが、八丈島ではちょっと短くなって「よ」になったんです。これも本土の方が大きく変わって「いを」から「うお」になった。これも、本土の方がなまっています。

八丈島の言葉と琉球の言葉に共通する部分には、奈良時代よりも古い日本語の特徴を保っているところがたくさんあります。ただ、八丈島の言葉の全部が古いというわけではなく、やはり、八丈の言葉もいろいろ変化していて、おそらく、江戸時代からいろいろな言葉が入ってきたかと思います。例えば、「だれ」という言い方、「誰ですか」の「誰」ですけれども、この「誰」というのは、古代語では「たれ」と濁ってなかったんですけれども、濁るようになったのが平安時代以降で、それは新しい特徴です。または、「どこ」という、場所を聞く言葉もわりと新しい言い方です。相手のことを「お前」とか「おみ」という言葉も、それは新しい言い方なのではないかと思います。そういうふうに考えてみますと、非常に古い特徴があると同時に、古代語にはなく、後の時代に発達してきた特徴も重なっているというのが非常に面白くて……。

僕が考えている仮説としては、もともと古い、非常に古い言葉、まさに金田先生が話したような、奈良時代以前の古い言葉が八丈島に入ってきて、それで非常に古い特徴が今でも残っているんですけれども、その後、江戸時代になって、たくさんの人が流されてきて、その人たちが自分の言葉を持ってきた。その中にやはり身分の高い人もいたので、八丈島の人、身分の高い人の言葉をまねて、自分たちの言葉に江戸の人の言葉を取り入れた。さらに、現代では本土の共通語も入ってきて、それがさらに上に重なって、今の八丈島の言葉ができたのではないかというふうに思っております。以上、ありがとうございました。(拍手)

(木部) どうもありがとうございました。はい、では3人目です。我々のグループでは若きホープ、京都大学大学院博士後期課程の平子さん、お願いします。

(平子) あんまりはじっこでしゃべっても何なので、ここで話させていただきます。京都から来ました平子といいます。皆さんこんにちは。どうぞよろしくお願いします。(拍手)

じゃあ、ちょっと座らせていただきます。僕は、もともと、大学院に進んだときには京都の方言をうつしたと思われる、平安時代とか奈良時代の文献資料を使って、古い日本語の姿を研究していました。その後、研究を進めていく中で、いろいろな方言の中に古代の日本語と共通しているところが少し見られる。特に前々から、八丈の言葉には興味を持っていました。金田先生の話にもありましたように、八丈とか琉球には、万葉集との共通点、万葉集の東歌との共通点とか、トマさんからありましたけれども、平安時代の文献に載っていて、本土、いわゆる共通語では使われてない言葉とかがいろいろあるわけです。

僕は文献をやっていたときから、アクセントというものに興味を持ってやっていました。八丈にはいろいろな報告があるんですけれども、アクセントで単語を区別することがない、例えば、「お箸」の「はし」と、川にかかっている「はし」と、「端っこ」の「はし」とをアクセントによってあんまり区別をしないというふうにいわれています。

けれども、先ほどカルタを読んでいるのを聞いていたりですとか、今回の調査で聞いてみたりして、集落によってイントネーションというんですか、何かこう、抑揚というのはだいぶ違うんだなというふうに感じました。で、どういうふうに違うのかというのは、これからの僕たちにとっての課題なのだと思います。

その話は今回はできませんが、古代日本語と八丈語ということでお題をいただいたので、それでお話をさせていただきたいと思います。今回のカルタの中に、もう何個かそういう単語が出てきました。例えば、今日いただいたA3の紙の「え」のところに、「エビズルは 昔は よく食べたもんだよ」という共通語があります。その最初に出てきます「えべず」という形です。おそらく「エビズル」とかそういう形から変化をしてきたんだと思います。古代の辞書とか、そういう文献を見てみますと、「エビ」という形で「ブドウ」を指すというふうに書かれています。

この「エビズル」とか、植物に対して「エビ」のような単語を使うというのは、それなりに古い言葉が残っているんだろなというふうに思いました。例えば、三根では「えべずは むかしは よく かもうもんだら」というふうに、「食べる」というのを「かむ」と言いますね。本土の方で「かむ」というのを使って「食べる」ということを意味することはありません。これも古代の、例えば『源氏物語』とか、そういう文献には、「かむ」というので食べるというのを意味します。これも、八丈語に残っている古代の言葉の一つだと思います。

その次に、お茶碗のことを「ごき（御器）」ということがあると思います。現代の言葉に「ごき」、共通語に「ごき」そのものが残っているわけではありませんけれども、このカルタにあります「ごきぶり」の「ごき」というのは、お茶碗のことを指しています。「ごきぶり」の語源は「ごきかぶり」、「お茶碗をかぶる」に当たります。昔、百科事典を書いた人が、「ごきかぶり」と書くべきところを、「ごきぶり」と間違えて書いてしまって、それが今、共通語で広まって「ごきぶり」と呼ばれているわけです。

今の八丈の方言では、「ごきぶり」のことを「かきじゃるめ」とか「かきじゃりめ」というふうに言うんですね。「ごき」という言葉は、ものすごく古い文献ですと出てきますけれども、今では「ごきぶり」という単語の中に、痕跡的に残っているに過ぎません。例えば「ごき」は、平安時代の文献に、『讃岐典侍日記』という日記の中に「ごきなくて」というふうにあります。

平安時代よりも少し古い文献と八丈の言葉で共通するなと思って報告を聞いてみますと、まあ、ちょっと汚い話になるかもしれませんが、「にっとうまる」という言い方、「まる」とかいう言い方があります。これはあの、大便とか便をすることですね。これは、実は『古事記』の中に「くそまりちらしき」というふうな形、「まり」という形で出てきます。もしかしたら、琉球とか、そっちの方にも出てきたりするのかもしれませんが。ものすごく古い言葉ですよ。ちょっととりとめのない話になってきましたけれども……。

また、カルタの、「朝早く畑に行ったんだけど」という中で「とんめて」とか「とんめてい」とかいう単語が出てきました。これは、皆さんよくご存じの『枕草子』の中に出てきます。「春はあけぼの」という中で、その同じ段のところで「冬はつとめて」。「冬は早朝がいい」というふうな言い方で出てきます。この「つとめて」という単語が変化したのがカルタの中に出てくる「とんめて」とか「とんめてい」という形になります。琉球の方にもあるんですかね。ちょっと僕は琉球の方は分かりませんので、トマさんに……。

(ペラール) ありまーす。

(平子) はい、あるそうです。こんなふうに、古代の文献、八丈、そして琉球と、共通している単語というのがまあ見られます。

ほかにも、「めならべ」という言葉、一般に女の人のことですかね、女の子ですかね、若い人ですかね、僕が調査したときには、25歳までぐらいしか言わないというふうに、言われたんですけれども、これも『源氏物語』の中で、「めのわらわべ」とか、「めのわらべ」というふうな形で出てきます。琉球の方に同じような単語があります。「めら」とかいう単語、「めえらび」というような言葉で出てきます。非常に古い言葉の1つだと思います。

僕が1つ非常に気になったのは、「しょけ」という単語です。「何か知っているか」というときに、「しょけか」というふうに聞きますよね。これは、古代の「しろし」とか「しるし」という単語にさかのぼるんだと思います。「し」に「ら、り、る、れ、ろ」が続いたときに、「しょ」とか「しゃ」というように音が変わります。例えば、「シラミ」のことを「しゃんめ」と言いますよね。「し」の後に「ら」が続いて「しゃ」になる。他に、「白髪」のことを「しゃが」と言います。これも「し」の後に「ら」が続いていて、それが「しゃ」になった。「しろし」の場合は「しょ」になる。これは同じ音の変化の仕方をしていて、もともと「しろし」だったんだなということが分かる単語です。「しろし」は万葉集にも出てくる単語です。

今日、僕の前にお話をしてくださった金田先生とトマさんと一緒に調査したときに、この「しょけか」という形が出てきました。ちょっと複雑な話になるかもしれませんが、「しょけ」というのは形容詞で、動詞ではないんです。「赤い」とかいう語と同じ系列になります。標準語では「知っている」というのは動詞ですが、八丈では形容詞です。それなのに、「うにゃ このよのなめよ しょけか（お前はこの魚の名前を知ってるか）」の「なめよ（名前を）」のように、その前に標準語の「を」に当たる形が出てきます。「赤い」「赤きゃ」とかの前に「よ」というのはあんまり来ないですよね。「このリンゴよ赤きゃ」とかいうふうな言い方をしないと思うんです。ですから、「しょけか」という単語は八丈特有の使い方をしているのかなというふうに思いました。

あともう1つ、古代語の特徴をしっかりと残しているんだなと思ったのは、「人がいる」ということを「人がある」と言うことです。「孫が去年から国にあるじゃ」という文が調査の中に出てきて、「孫がある」という言い方をします。共通語では、生きているものに対しては「いる」ではなくて「ある」を使います。生きているものに対して「いる」を使うようになるのは、非常に新しく、文献で調べる限りでは18世紀、19世紀ぐらいのことです。八丈はそれ以前の形を残して使っているわけです。

こんなふうに、古い言葉が残っていて、僕ら、古代の文献を使って日本語の歴史を勉強している人間にとって、こういう経験はとても大事です。例えば、僕がこの調査に参加せずに、今回調査されたものを読んで、「ああ、こういう言葉が八丈にもあるのか」と単に感じているだけではだめです。文献をやっている人間も、生で方言に接しますと、本当に「ああ、生きた言葉として昔もたぶん使われていたんだろうな」というのが非常に実感できます。

例えば、先ほどの金田先生の話にあった、形容詞の連体形の形ですとかも、報告書では知っていたけれども、今回ここに来て初めて、本当に話しているのに接して、文献で書かれていた言葉も本当にこうやって使われていたんだなと、ひしひしと感ずることができました。

単に、古い言葉が残っていて、珍しいとかそういうことで終わらせるのは本当にもったいないことだと思います。それを記録して、研究をして、例えば今、トマさんが話されたみたいに、八丈語というのがどういうふうな成立のしかたをしてきたのか、それがひいては日本語、日本全体の言葉の成り立ちとか関係の研究につながっていくと思いますし、できれば、いろいろな



方にそういうことを少しでもいいので、興味を持っていただきたいというふうな考えでいます。

僕は八丈の言葉を今回初めて聞いて、非常に興味深く聞きました。いろいろなところに方言調査に行っていますけれども、またここにもやってきたいなというふうに思います。ちょっと早いですけれども、これで終わりたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

(木部) ありがとうございます。あと少し時間が少しありますので、何かご質問があれば、この機会ですから、ぜひお聞きください。はい、じゃあ、そこの方。

(Q1) 八丈島に来てからですね、地名の読み方なんですけれども、普通は、今こっちでは大賀郷(おおかごう)というところを、本土の人の読み方だったら「おおがごう」って言います。また、檜立のことを「かしだて」って、つい読んでしまいます。八丈島は内地で濁音で言うような地名が濁音になってない読み方をするとところが多いんですけれども、それは何か理由があるんでしょうか。

(木部) 私も金田先生に叱られました。「かしだて」と言ったら、違うと。濁音と正音は、非常に難しく、地域によっても違います。例えば、八丈の地名に護神(ごしん)というのがありますね。「ごじん」じゃなくて「ごしん」。私は九州の出身ですが、「神社」を「じんしゃ」という地域が九州には広く広がっています。「じんじゃ」と濁らないんですね。それから、食べ物のオクラ。八丈のオクラは非常に立派ですね。八丈語でオクラは何て言うんでしたっけ。

(会場から) ネリ。

(木部) ネリ。あの、ネリのことを九州ではオグラと言うんです、鹿児島では。あっ、これは濁りますから逆ですね。濁ると澄むは、なかなか難しいところがあるんです。八丈は、澄むのが多い。まあ、それがなぜかはちょっと今後の課題にさせていただきたいと思います。じゃあ、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

(Q2) ここ最近なんですけど、韓国の時代劇とかに興味がありまして、古代朝鮮時代に七支刀というのがあって、おそらく奈良、平安の時代かと思うんですが、一時期、日本と仲の良い時代があったようです。そのとき交流があったとすると、まあ、韓国というか日本から見たら外国の言葉の影響もあったかと思うんですけれども。自分のおふくろが檜立出身で、自分は今、大賀郷で三根出身になるんですけれども、その檜立の言葉を聞いたときに、韓国のその、意思表示というか、感嘆符というか、それに似ていると感じました。島ことばで言うと「あいこいがの まったく」といったようなときの表現が大変似ているように感じるんですが。そういったほかの国からの影響とか、その、言葉とか言語とか、そういうものは何かあるんでしょうか。それとも、その、今日のお話にあったような、八丈語のルーツというか、そういったものがあるって、それによって今の八丈のことばができているととらえられるでしょうか。その点、いかがでしょうか。

(金田) えー、非常に難しい問題でして、実際にはそういうふうな、日本の古い方言と、ほ

かの近いところの言語との関係がどうだったかというのは、まさにこれから研究されていくんだと思います。今までは、八丈語がどういうものだったかというのも、よく分からなかったわけですね。何十年か前までは所属不明の方言だというふうにも言われていたわけです。当時は研究者がそういうふうにもうお手上げの状態だったわけです。

ですから、日本語の中のいろいろな言語、マイナー言語がだんだん分かってくれば、かつ近隣の、例えば韓国だったら韓国のいろいろ方言ですね、特に南の方。そういうところの方言の実態が分かってくれば、比べることができるようになる。同じ程度に詳しく分かっているならば、同じ程度の比較ができる。日本の中だけでなく、韓国など近いところと比較するというのはこれからの大きな課題だと思います。

(木部) はい、ありがとうございます。もうお一方ぐらい時間がありそうですが、いかがでしょう。あっ、はい。

(Q3) すみません。あの、方言と言いますけれども、要するに男女とありますよね。住む場所も違っている男と女が結婚して、その中でまあ、お互いにしゃべることばも違うことがありますよね。そうすると、方言がどんどん途絶えていくということが考えられるんですが。要するに混じり、混じり合ってしまうわけですね。その辺は、これから先の研究では、どういうふうと考えられるんでしょう。

(金田) 混ざるのはしょうがないですね。三根の人と檜立の人が結婚して、話をするなどいうわけにいかないですから。それはそういうふうには、混ざったものとして、客観的にとらえるしかないと思います。しょうがないです。

(木部) 昔と違って、人の交流が非常に盛んになりましたから。また、遠くの人とも交流したり、お嫁さんが遠くから来たり、こちらからもお嫁に行ったり。時代の流れでこれは仕方のないことですね。ですから、方言も今までの話であったように、古いまま化石的にずっと変わらないわけではなくて、時代の流れの中で変わりながら、外からの影響も受けながら、今の方言がある、今の八丈語があるわけです。琉球の言葉もそうですし、どこも同じです。だから、方言が変わるというのは当たり前のことだと思います。でも、その中で古いものも残っていくことがある。それはとっても大事なことでお考えいただければいいんじゃないかと思います。それでは、どうも長い時間ありがとうございました。(拍手)



## 執筆者紹介

松浦 年男（まつうら としお，北星学園大学）

金田 章宏（かねだ あきひろ，千葉大学）

木部 暢子（きべ のぶこ，国立国語研究所）

平子 達也（ひらこ たつや，京都大学大学院生）

Thomas Pellard （トマ・ペラルール，フランス国立科学研究所）

Wayne Lawrence （ウェイイン・ローレンス，オークランド大学）

茂手木 清（もてぎ きよし，八丈町教育委員会）

林 薫（はやし かおる，八丈町教育委員会）

---

国立国語研究所共同研究

消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究

八丈方言調査報告書

2013年10月30日発行

編集 木部暢子（国立国語研究所時空間変異研究系）

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

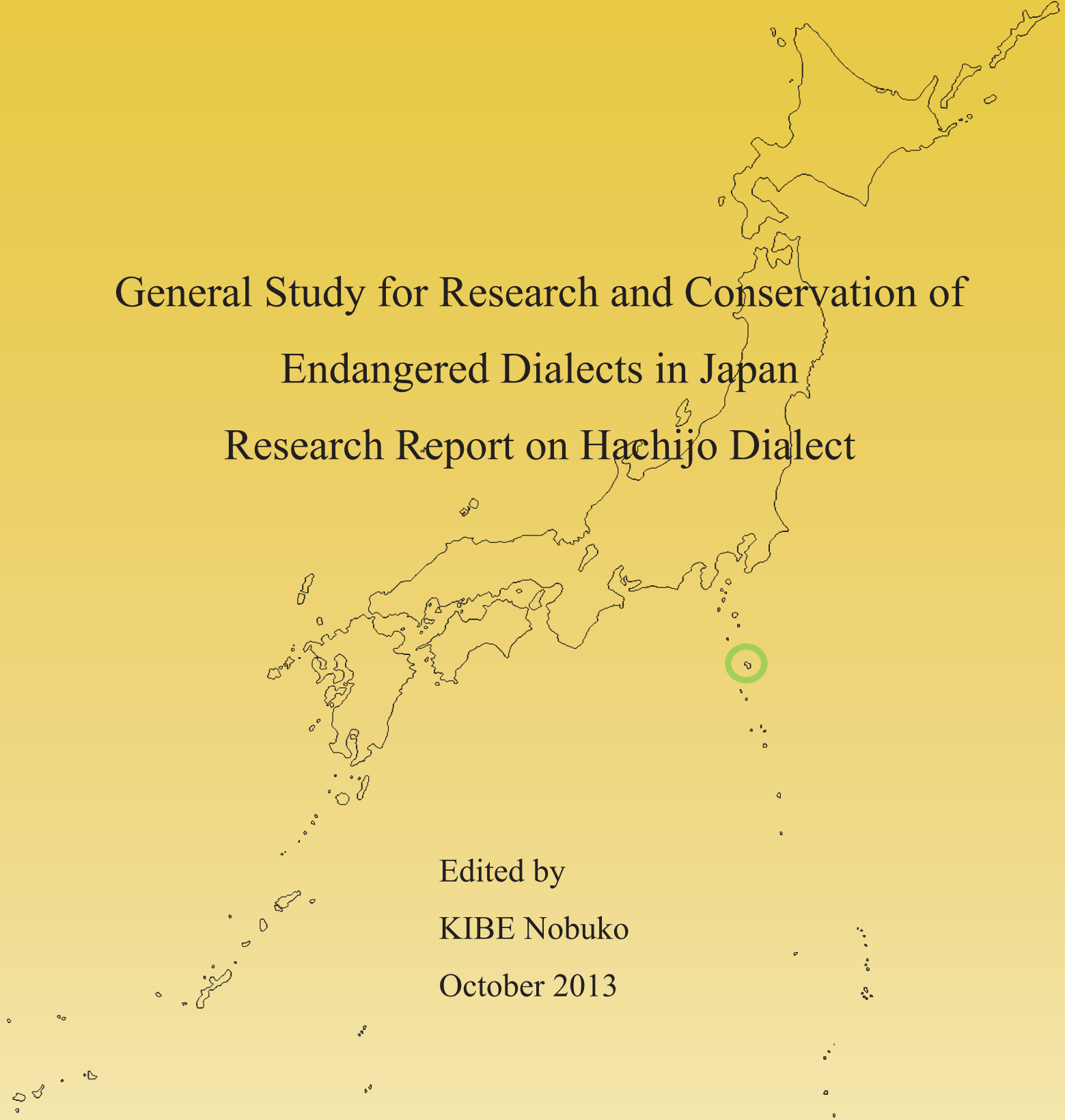
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4538（木部研究室）

<http://www.ninjal.ac.jp/>

©国立国語研究所

---

An outline map of Japan is positioned in the background. The islands of Hokkaido, Honshu, Shikoku, and Kyushu are visible. In the southern part of Honshu, the Ryukyu Islands are shown. One island in the Ryukyu chain, Hachijo Island, is highlighted with a green circle.

# General Study for Research and Conservation of Endangered Dialects in Japan Research Report on Hachijo Dialect

Edited by  
KIBE Nobuko  
October 2013